

【科目名】基礎ゼミⅠ		【担当教員】星野 浩通
【授業区分】教養分野(導入教育)	【授業コード】1-00-0000-1	(メールアドレス)
【開講時期】通年(前期)	【選択必修】必修	hoshino@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】30	(オフィスアワー) 月～木曜日の8:30～9:20
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) この科目は社会人としての協調性やコミュニケーション能力、学習の方法を養う科目です。本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による科目です。病院、施設など社会環境の中で体験したことから、学習方法、協調性の大切やコミュニケーションの取り方について学んでいきます。また、各専攻のホームルームを通して、大学での教育、職業理解についてを理解します。講義形態はアクティブラーニングと講義・演習で構成されます。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) この講義は全専攻で行う全体講義と、各専攻で行うホームルームがあります。学外から講師に来ていただくこともあります。その為、シラバスの講義順が変更になることがあります。生成AIの利用は禁止しています。授業内での利用は厳禁となっており、このルールに違反した場合は、学内の規程に則って、適切な措置を取ります。 ＊障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員と事前に相談してください。 作成したレポート・課題については大学にて保管し、返却はしません。担当する教員で共有いたします。		
【講義概要】 (目的) 大学教育のはじめにあたり、これからの生活や学習への心構え、学習環境の理解や利用方法、健康的な生活のための知識を学習する。また、臨床実習や就職後の職場環境に柔軟に対応・適応すべく、社会人・職業人としての心構えや行動様式を理解し、実践、習慣化できるようにする。また地域社会への参加などを通じて社会人としての基礎を養う。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,P-1,0-1,S-3,R-1 (方法) この科目は、アクティブラーニングを中心としてグループワークやディスカッションを行います。 また、「大学生・医療人としての心構え」、「大学生としてのマナーの基本」、「図書館の利用と文献検索の仕方」などを講義します。		
【一般教育目標(GI0)】 ・大学生や医療人に必要とされる協調性、コミュニケーション能力などの資質を修得する。 ・大学生活に必要な知識を修得する。 ・目標を達成させるための手段を身につける。 【行動目標(SB0)】 ・大学生として必要な行動ができるようになる ・集団活動の中で協調した行動が実施できる。		
【教科書・リザーブドブック】 必要に応じて、資料を配布		
【参考書】 特になし		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。 出席点は評価に含みません。 レポート、ポートフォリオの内容にて評価を行います。 レポートの返却は行いません。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				40			40	20	100
評価指標	取り込む力・知識			10			10	10	30
	思考・推論・創造の力			10			10		20
	コラボレーションとリーダーシップ			10			10		20
	発表力			5			5		10
	学修に取り組む姿勢			5			5	10	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習・教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション 自己紹介 動機付け	講義・アクティブラーニング 星野浩通 PT1年生教室	配布資料	15分
2	学生生活について 大学で学ぶ準備	講義・アクティブラーニング 星野浩通 PT1年生教室	配布資料	15分
3・4	大学生活について インターネットセキュリティーについて セキュリティ登録の方法	講義・アクティブラーニング 木村和樹(星野浩通) PT1年生教室	配布資料	15分
5・6	自己理解(マイナビ)	講義・アクティブラーニング 外部講師(星野浩通) PT1年生教室	配布資料	15分
7・8	租税教室	講義 外部講師(星野浩通) PT1年生教室	配布資料	15分
9・10	明るい選挙	講義 外部講師(星野浩通) PT1年生教室	配布資料	15分
11.12	交通安全・薬物	講義 外部講師(星野浩通) PT1年生教室	配布資料	15分
13・14	図書館の利用方法。文献検索	講義 図書館職員(星野浩通) PT1年生教室	配布資料	15分

[illegible]

【科目名】基礎ゼミⅠ		【担当教員】星野 浩通
【授業区分】教養分野(導入教育)	【授業コード】1-00-0000-1	(メールアドレス)
【開講時期】通年(後期)	【選択必修】必修	hoshino@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】30	(オフィスアワー) 月～木曜日の8:30～9:20
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) この科目は社会人としての協調性やコミュニケーション能力、学習の方法を養う科目です。本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による科目です。病院、施設など社会環境の中で体験したことから、学習方法、協調性の大切やコミュニケーションの取り方について学んでいきます。また、各専攻のホームルームを通して、大学での教育、職業理解についてを理解します。講義形態はアクティブラーニングと講義・演習で構成されます。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) この講義は全専攻で行う全体講義と、各専攻で行うホームルームがあります。学外から講師に来ていただくこともあります。その為、シラバスの講義順が変更になることがあります。生成AIの利用は禁止しています。授業内での利用は厳禁となっており、このルールに違反した場合は、学内の規程に則って、適切な措置を取ります。 ＊障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員と事前に相談してください。 作成したレポート・課題については大学にて保管し、返却はしません。担当する教員で共有いたします。		
【講義概要】 (目的) 大学教育のはじめにあたり、これからの生活や学習への心構え、学習環境の理解や利用方法、健康的な生活のための知識を学習する。また、臨床実習や就職後の職場環境に柔軟に対応・適応すべく、社会人・職業人としての心構えや行動様式を理解し、実践、習慣化できるようにする。また地域社会への参加などを通じて社会人としての基礎を養う。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,P-1,0-1,S-3,R-1 (方法) この科目は、アクティブラーニングを中心としてグループワークやディスカッションを行います。 また、「大学生・医療人としての心構え」、「大学生としてのマナーの基本」、「図書館の利用と文献検索の仕方」などを講義します。		
【一般教育目標(GI0)】 ・大学生や医療人に必要とされる協調性、コミュニケーション能力などの資質を修得する。 ・大学生活に必要な知識を修得する。 ・目標を達成させるための手段を身につける。 【行動目標(SB0)】 ・大学生として必要な行動ができるようになる ・集団活動の中で協調した行動が実施できる。		
【教科書・リザーブドブック】 必要に応じて、資料を配布		
【参考書】 特になし		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。 出席点は評価に含みません。 レポート、ポートフォリオの内容にて評価を行います。 レポートの返却は行いません。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				40			40	20	100
評価指標	取り込む力・知識			10			10	10	30
	思考・推論・創造の力			10			10		20
	コラボレーションとリーダーシップ			10			10		20
	発表力			5			5		10
	学修に取り組む姿勢			5			5	10	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習・教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション 自己紹介 動機付け	講義・アクティブラーニング 星野浩通 PT1年生教室	配布資料	15分
2	学生生活について 大学で学ぶ準備	講義・アクティブラーニング 星野浩通 PT1年生教室	配布資料	15分
3・4	大学生活について インターネットセキュリティーについて セキュリティ登録の方法	講義・アクティブラーニング 木村和樹(星野浩通) PT1年生教室	配布資料	15分
5・6	自己理解(マイナビ)	講義・アクティブラーニング 外部講師(星野浩通) PT1年生教室	配布資料	15分
7・8	租税教室	講義 外部講師(星野浩通) PT1年生教室	配布資料	15分
9・10	明るい選挙	講義 外部講師(星野浩通) PT1年生教室	配布資料	15分
11.12	交通安全・薬物	講義 外部講師(星野浩通) PT1年生教室	配布資料	15分
13・14	図書館の利用方法。文献検索	講義 図書館職員(星野浩通) PT1年生教室	配布資料	15分

[illegible]

【科目名】基礎ゼミⅡ		【担当教員】若菜 翔哉
【授業区分】教養分野(導入教育)	【授業コード】1-00-0005-1	(メールアドレス)
【開講時期】通年(前期)	【選択必修】必修	wakana@nur.ac.jp
【単位数】1	【コマ数】30	(オフィスアワー) 火：12時50分～13時20分
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・基礎ゼミⅠを履修していることが条件。 ・地域を理解し、イベントに関するルールを遵守すること。 ・秩序を乱し、イベントやボランティア活動に参加しない場合は、履修を認めない場合があるため注意すること。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・生成系 AI の利用を全面的に許可します。授業内、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してください。使用した場合にその旨をレポート等に記載してください。		
【講義概要】 (目的) 大学教育のはじめにあたり、これからの生活や学習への心構え、学習環境の理解や利用方法、健康的な生活のための知識を学習する。また、臨床実習や就職後の職場環境に柔軟に対応・適応すべく、社会人・職業人としての心構えや行動様式を理解し、実践、習慣化できるようにする。また地域社会への参加などを通じて社会人としての基礎を養う。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,2 (方法) ・ゼミ単位で「地域に関わる演習」を実施する。内容は地域イベント・ボランティアなどへの参加を体験しする。 ・この授業はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GI0)】 ・今後の地域課題を理解する。 ・地域でのイベントやボランティアを通して、社会人・職業人としての心構えを理解することができる。 【行動目標(SB0)】 ・地域課題に対して、自ら考えることができるようにする。 ・社会人・職業人として必要な行動を実践・習慣化できるようにする。		
【教科書・リザーブドブック】 なし		
【参考書】 なし		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。 ・成績評価は、出席点とレポート課題の点数で評価する。 ・出席点：出席状況に応じて、出席点を付与する（60点満点）。 ・レポート点：提示されたレポート課題を提出し、レポート内容に応じて点数を付与する（40点満点） ・レポートの解答の返却はおこないません。フィードバックは必要に応じ補講等にておこないます。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		0	0	40	0	0	0	60	100
評価指標	取り込む力・知識			20					20
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							60	60

[illegible]

【科目名】基礎ゼミⅡ		【担当教員】若菜 翔哉
【授業区分】教養分野(導入教育)	【授業コード】1-00-0005-1	(メールアドレス)
【開講時期】通年(後期)	【選択必修】必修	wakana@nur.ac.jp
【単位数】1	【コマ数】30	(オフィスアワー) 火：12時50分～13時20分
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・基礎ゼミⅠを履修していることが条件。 ・地域を理解し、イベントに関するルールを遵守すること。 ・秩序を乱し、イベントやボランティア活動に参加しない場合は、履修を認めない場合があるため注意すること。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・生成系 AI の利用を全面的に許可します。授業内、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してください。使用した場合にその旨をレポート等に記載してください。		
【講義概要】 (目的) 大学教育のはじめにあたり、これからの生活や学習への心構え、学習環境の理解や利用方法、健康的な生活のための知識を学習する。また、臨床実習や就職後の職場環境に柔軟に対応・適応すべく、社会人・職業人としての心構えや行動様式を理解し、実践、習慣化できるようにする。また地域社会への参加などを通じて社会人としての基礎を養う。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,2 (方法) ・ゼミ単位で「地域に関わる演習」を実施する。内容は地域イベント・ボランティアなどへの参加を体験しする。 ・この授業はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GI0)】 ・今後の地域課題を理解する。 ・地域でのイベントやボランティアを通して、社会人・職業人としての心構えを理解することができる。 【行動目標(SB0)】 ・地域課題に対して、自ら考えることができるようにする。 ・社会人・職業人として必要な行動を実践・習慣化できるようにする。		
【教科書・リザーブドブック】 なし		
【参考書】 なし		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。 ・成績評価は、出席点とレポート課題の点数で評価する。 ・出席点：出席状況に応じて、出席点を付与する（60点満点）。 ・レポート点：提示されたレポート課題を提出し、レポート内容に応じて点数を付与する（40点満点） ・レポートの解答の返却はおこないません。フィードバックは必要に応じ補講等にておこないます。		

【科目名】		臨床倫理学	【担当教員】	村井 絹子、山村 千絵
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1- 01- 0000- 2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	murai@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 月・水8:30～17:30 (保健室)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目は、看護の実務経験がある教員による授業科目です。倫理学の基本的な知識・考え方を学び、医療現場の倫理的課題を取り上げ、どのようなことが倫理的視点から問題となるのか提示し考えていきます。看護に従事した経験から、実際に臨床現場で起きている身近な倫理問題を通して、一人ひとり異なる価値観を理解し、自分の考えを広め、思索することができるように講じていきます。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識) オンデマンド配信でテキストにそって講義を行います。 講義を聞き、知識・考えを広め、自分の考えを自由記述でまとめる過程で学びを深めていきます。 課題は期限内に提出してください。試験・課題については、必要に応じて解説を行います。 生成AIの利用を全面的に許可します。授業内、および、予復習、課題等の作成において自由に利用してください。 使用した場合にその旨を課題等に記載してください。				
【講義概要】 (目的) 医療従事者には、一般の人より多くの「医の倫理」として守らなければならない約束事があります。臨床現場の倫理的問題を思索し、実践するための知識を深め、自己啓発に向けて修養することを目的としています。加えて、将来臨床現場に従事する学生として、生命倫理を中心に、現代医療をめぐる倫理的諸問題の題材を多角的に捉え、視野を広げる機会となることを目指します。 当該科目と学位授与方針との関連性：A-1 (方法) 主として教科書を中心に、パワーポイントを使用して講義を行います。 内容については、指定教科書に準じます。 関連資料がある場合は配布します。				
【一般教育目標(GI0)】 ・将来、医療に関わる専門職としての倫理観を深め、「なぜ今、医療において倫理が問われるのか」「患者の人権や自律の尊重がなぜ必要なのか」について理解する。 ・一人ひとりが異なる価値観を有する他者の気持ちを理解し、柔軟な思考と態度を養い「医の倫理」の知識を修得する。				
【行動目標(SB0)】 ・医療における原理・原則について説明できる ・「倫理とはなにか」自分の言葉で述べるができる ・現代医療における具体的な倫理の諸問題について、自分の考えを述べるができる				
【教科書・リザーブドブック】 教科書：伏木信次、生命倫理と医療倫理第4版、金芳堂出版、2020年、¥2,700（税別）				
【参考書】 雨宮処凛著、14歳からわかる生命倫理 河出書房新社 伊勢田哲治著、動物からの倫理学入門 名古屋大学出版会 塩野寛他著、生命倫理への招待改訂6版 南山堂				
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・出席点は評価に含みません。 ・成績評価基準は本学学則規定GAP制度に従う。 ・成績評価は、期末試験及び課題レポート点により総合的に評価する。 ※障害への配慮が必要な学生は教員と事前に相談することを推奨します。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60		40					100
評価指標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1.2	オリエンテーション 医療の歴史と倫理問題の提起 倫理的問題の具体的現状	講義	予習：教科書P.7～P.13 読んでおく 復習：課題レポート	30分 30分
3.4	医療者と患者の関係 臨床現場でみられる医療者-患者関係 パターナリズムとインフォームドコンセント 守秘義務について	講義	予習：教科書P.23～P.35 読んでおく 復習：課題レポート	30分 30分
5.6	医学研究、医療情報 研究と倫理 動物を対象とした医学研究 人を対象とした医学研究 個人情報の保護と倫理	講義	予習：教科書P.202～P.229 読んでおく 復習：課題レポート	30分 30分
7.8	生命誕生のあらまし 着床前診断と胚選別 人工妊娠中絶と出生前診断 生殖補助医療技術 小児医療における生命倫理	講義	予習：教科書P.62～101 読んでおく 復習：課題レポート	30分 30分
9.10	臓器移植 脳死の定義 臓器移植法	講義	予習：教科書P.131～P.143 読んでおく 復習：課題レポート	30分 30分
11.12	高齢者の医療と福祉 エンドオブライフ・ケア（終末期医療） 安楽死と尊厳死	講義	予習：教科書P.104～P.115 教科書P.116～P.130 教科書P.144～P.145 読んでおく 復習：課題レポート	30分 30分
13.14	救急医療、災害医療 公衆衛生の倫理	講義	予習：教科書P.154～P.165 教科書P.230～P.240 読んでおく 復習：課題レポート	30分 30分
15	まとめ 1～7回目を通して、倫理的問題の現状について 自分の考えをまとめる	講義	予習：身近な臨床倫理問題を調べる 復習：課題レポート（まとめ）	30分

【科目名】		地域文化論		【担当教員】	桑原 猛
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1-01-0005-2	(メールアドレス) edu@nur.ac.jp (オフィスアワー) 学務課で対応(9:00～17:00)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択		
【単位数】	1	【コマ数】	15		
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 特に無し (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。					
【講義概要】 (目的) 本講義では、地域の様々な社会的事象が歴史の中で変容し、伝統と呼ばれる「文化」を形成してきたことを確認すると同時に 伝統文化がもつ諸問題点を考えてみる。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2 (方法) 本学の所在地である新潟県村上市の歴史と文化を主として取り上げ、さらに日本の文化や社会の知識や理解をより深めていく。 。					
【一般教育目標(GI0)】 身近な社会的事象についての意味を考え、判断する力を身に付ける。 【行動目標(SB0)】 毎回、受講記録としてのレポートを作成させ、身近な関連事象を探らせたり、知識を深めたりする。					
【教科書・リザーブドブック】 教科書 桑原猛 地域文化論ノート『地域文化』 自費出版 2021 \1,500(税込)					
【参考書】					
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 毎時間、講義内容に関するレポートを提出させる。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50		50					100
評価指標	取り込む力・知識	15		15					30
	思考・推論・創造の力	30		30					60
	コラボレーションとリーダーシップ	0		0					0
	発表力	0		0					0
	学修に取り組む姿勢	5		5					10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	講義概要のガイダンス 城下町として発展してきた町。そこで培われて地域の歴史と文化は現在も生き続けている。ここでは村上城下の近世から現代までの変遷の中で城下町の機能、果たしてきた役割について考えていく。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	(復習) 村上市内を歩き城下町の構成を探索する。 「地域文化論ノート」による学習	90
3-4	城下町には、武家町と町人町があり、それぞれ特性を有していた。ここでは武家の住宅(屋敷)と町人地の住宅(町家)の比較から、町家の構造・特徴について考える。また、村上城下の通り名などから昔と現在の比較を行う。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	(復習) 村上・岩船・瀬波の町やを訪ねて、事例を探索する。 「地域文化論ノート」による学習	90
5-6	村上城下の祭 羽黒神社例大祭(村上大祭)と七夕祭・獅子舞などの歴史と、村上の伝統行事・地域文化を通して連綿と受け継がれてきた人々の思いや心について考えていく。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	(復習) おしゃぎり会館にて実際に屋台を見学して構造を探索する。 「地域文化論ノート」による学習	90
7-8	村上のお茶・村上漆器 村上の伝統産業としての村上茶と村上木彫堆朱の歴史と地域に及ぼしてきた物心両面から、地域文化として形成され根付いてきた背景をたどり、人々の思いや心について考えていく。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	(復習) 村上市内のお茶屋や堆朱販売店などを訪ねる。 「地域文化論ノート」による学習	90
9-10	村上の鮭 村上は古代から鮭とのつながりの深い町であり、村上独自の鮭文化を形成してきた。その鮭文化の原点ともいえる「種川の制」などを考証することによって、村上の人々の鮭への思いやこだわりについて考えていく。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	(復習) いよぼや会館を訪ね実際の鮭の静態を監察する。 「地域文化論ノート」による学習	90
11-12	村上に残る「九品仏」の由来などを通して、九品仏とその配置から鬼門鎮護の思想、及び「お地藏様」と民衆信仰について考える。 村上に残る地藏様と地藏様祭りを通して、庶民の身近な進行としての地藏様を考える。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	(復習) 「地域文化論ノート」による学習	90
13-14	地域の記憶と地域文化 地域文化は地域の記憶として過去から現在へそして未来へ受け継がれていくことが大切である。そのためには、地域文化の持つホスピタリティ性が理解されなければならないという点から考えていく。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	(復習) 「地域文化論ノート」による学習	90
15	地域文化と介護 地域文化の持つホスピタリティと介護との関係を、地域の人とのコミュニケーション形成のという面から考えていく。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	(復習) 「地域文化論ノート」による学習	90

【科目名】日本語表現法		【担当教員】上松 恵理子
【授業区分】教養分野(人文科学)	【授業コード】1-01-0010-2	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	uematsu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15コマ	(オフィスアワー) 随時メールにて対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 正しい日本語を話したい、書きたいと思っている人なら誰でも習得可能。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) この科目では毎回の積み重ねで授業を行いますので順番に授業を受けてください。		
【講義概要】 (目的) 正しい日本語の使い方やその背景等を学習するとともに、情報社会の言語のリテラシー能力を理解する。この授業を受講することで、様々な医学療法におけるデジタルカルテや報告レポートや小論文などの大学生に必要な、基本的な日本語に関するデジタルを使った表現法を理解できるようになる。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, A-2 (方法) 基本的な日本語のルールや使い方を学習し、単文やレポート、学術論文、インターネットの上のニュース記事、海外の母国語教育を題材にして、より正しい言葉を使った時代にあった表現方法を学習する。		
【一般教育目標(GIO)】 ・大学生として必要な言語スキルを身につけるために様々なオンライン上の日本語表現を理解する ・講義を理解するために必要なノートテイクができるようになる ・医学療法の実験などのレポートや論文を書く際の方法について理解する 【行動目標(SB0)】 ・デジタルツールを使って日本語の正しい読み方、使い方を理解することができる ・様々なメディアに応じた言語をインターネットを用いて使いこなすことができる ・様々な文章を目的に応じて書いたり話たりすることができる		
【教科書・リザーブドブック】 上松恵理子「小学校にオンライン教育がやってきた！超入門編」三省堂、2016年、1200円（税別）		
【参考書】 講義内で適宜資料を指示する		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う、 出席、レポート提出状況、レポート提出内容、試験を総合的に判断、評価する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		30	30	40					100
評価指標	取り込む力・知識	10		10					20
	思考・推論・創造の力	10	10	10					30
	コラボレーションとリーダーシップ	10	10						20
	発表力		10	10					20
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オンラインで医療を学ぶメリットデメリット	講義と実践	講義内で適宜指示	40
2	医療情報などのメディアの真偽を読み解く方法	講義と実践	講義内で適宜指示 授業外の学習も適宜指示	40
3	オンラインを使った日本語表現	講義と実践	講義内で適宜指示	40
4	ネットを使った図書館資料収集 インターネット検索について	講義と実践	講義内で適宜指示 授業外の学習も適宜指示	40
5	リハビリテーションの分野における今後のオンラインの可能性と課題	講義と実践	講義内で適宜指示	40
6	諸外国と日本語表現の違い	講義と実践	講義内で適宜指示 授業外の学習も適宜指示	40
7	小論文を書くための資料の調べ方と調査の方法	講義と実践	講義内で適宜指示	40
8	小論文を書くためのアンケートの取り方	講義と実践	講義内で適宜指示	40

9	アンケートの収集方法についてーどのような方法でまとめ、どう考察するのかー	講義と実践	講義内で適宜指示	
10	レポートの書き方 1 表現の方法と引用	講義と実践	講義内で適宜指示	
11	レポートの書き方 2 論理的な文章の書き方	講義と実践	講義内で適宜指示	
12	レポートの書き方 3 正しい日本語を使った発表の方法	講義と実践	講義内で適宜指示	
13	インターネットにおける日本語表現とスキル	講義と実践	講義内で適宜指示	
14	日本語のリテラシーとは何か	講義と実践	講義内で適宜指示	
15	論文提出の方法とまとめ	講義と実践	講義内で適宜指示	

【科目名】心理学概論Ⅰ		【担当教員】宮岡 里美
【授業区分】教養分野(人文科学)	【授業コード】1-01-0015-3	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15 コマ	(オフィスアワー) 来学時の授業終了後※随時メールにて
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ※本科目は、心理学専攻の必修科目であり、公認心理師国家試験の受験資格を得るための指定科目です。 ※本科目は実務経験を有する教員による授業です。大学での心理学教育に関する実務経験、及び保健・医療・福祉機関での臨床経験（言語・高次脳機能障害及び摂食嚥下障害へのリハビリテーション）から、人の心の基本的な仕組みと心のケアについて講義・演習を行っていきます。心理学の基礎知識は、多種多様な専門職すべての人に必要なものです。特に、将来、保健・医療・福祉・教育等の分野で活躍することを希望する学生には受講していただきたいと思います。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。 欠席した場合には、後日担当教員に申し出て、資料を受け取り、必ず参照して下さい。 授業中に実施した心理テスト等のデータは、原則提出を求めません。 生成系 AI の利用を全面的に許可します。授業内、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用して下さい。 。使用した場合には、生成AI の出力を引用した箇所や生成 AIサービスの名称、バージョンを明記して下さい。		
【講義概要】 (目的) ①心理学における代表的分野について、歴史的経緯と基礎知識を学ぶ。 ②人間の心や行動の基本的な原理を学び、心のはたらきを理解する。 ③人間の行動特性、性格、感情、認知機能等を理解し、適切な対応ができる。 ④保健・医療・福祉・教育等の領域で、対象者の“こころ”を推察して適切な配慮ができるよう、臨床応用できる。 【当該科目と学位授与方針との関連性】 A-1, A-2, R-2 (方法) Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。内容は、原則、指定教科書に準じます。 毎回、講義用スライド資料及び関連する資料も配布します。 理解度確認テストを実施した場合は、回収後に解答の解説を行います。 心理テストの実施については、その目的や結果の解説は行いますが、データは回収しません（各自で適宜保管する）。		
【一般教育目標(GI0)】 人の心の基本的な仕組み及びはたらきについて理解する。 人の心のはたらきはどのようにして客観的に観察・測定されるのかを知る。 心理学がどのような領域で社会貢献しているのかを理解する。 社会人として良好な人間関係が構築できるよう場面に相応しい態度やコミュニケーション能力を培う。		
【行動目標(SB0)】 科学としての心理学の成立までの経緯とその後の展開を概説できる。 対象者の“こころ”を推察/理解するために、どのような観点で他者の言動を観察すればよいのかを学ぶ。 心の“問題”や“障害”を理解し、適切に対処・配慮することができる。 「自己覚知」の重要性を認識し、自身の“こころ”（感情や態度）を自己コントロールできる。 保健・医療・福祉・教育等に携わる多職種連携チームにおいて、適切なコミュニケーションをとることができる。		
【教科書・リザーブドブック】 二宮克美編著「ベーシック心理学」第2版、医歯薬出版、2016/9/2、2,900円＋税、ISBN978-4-263-42223-6		
【参考書】 フレデリックセン他(著) 内田一成(監訳)「ヒルガードの心理学 第16版」金剛出版、2015/9/25、24,200円(税込) 「ゼロからわかる心理学」増補第2版 (Newtonムック別冊)、2021/1/18、(株)ニュートンプレス、1,500円＋税 繁枘算男(編集)「心理学概論 (公認心理師の基礎と実践 第2巻)」遠見書房、2018/4/3、2,592円＋税		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。 ・定期試験を実施する。 ・出席点は評価に含まれない。 ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ※障害への配慮が必要な学生は教員と事前に相談することを推奨します。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70		10		20			100
評価指標	取り込む力・知識	50							50
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢					20			20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	第1章「知覚」 知覚成立の基礎 ・感覚器官と適刺激 ・刺激の閾値 ・物理的環境と心理的環境	講義	【予習】指定教科書p.2-5を読む 【復習】知覚はどのように成り立っているのかを理解する	15 30
2	第1章「知覚」 知覚の体制化 ・図と地 ・恒常現象	講義 一部演習	【予習】指定教科書p.5-9 【復習】知覚成立の特徴を説明できる。	15 30
3	第1章「知覚」 知覚の諸相 ・錯視 ・時間・空間・運動の知覚	講義	【予習】指定教科書p.10-12を読む 【復習】自己や環境を知覚する際の多感覚相互作用を理解する。	15 30
4	第1章「知覚」 社会的知覚 ・欲求と価値 ・知覚的防衛 ・臨床応用	講義 一部演習	【予習】指定教科書p.12-14を読む 【復習】注意や欲求が知覚に及ぼす影響を理解する。	15 30
5	第2章「学習・記憶」 ・古典的条件づけ ・オペラント条件づけ ・条件づけの臨床応用	講義	【予習】指定教科書p.15-19 【復習】学習の定義を説明できる。 学習成立の主なメカニズムを理解する。	15 30
6	第2章「学習・記憶」 ・観察学習 ・自己効力感	講義 一部演習	【予習】指定教科書p.19-20を読む 【復習】社会的行動における観察学習の重要性を理解する。	15 30
7	第2章「記憶・記憶」 ・記憶のメカニズム	講義	【予習】指定教科書p.20-23を読む 【復習】記憶のモデル構造やその過程を理解する。記憶の測定法を説明できる。	15 30
8	第2章「記憶・記憶」 ・忘却のメカニズム ・記憶の歪み ・記憶障害の病理	講義 一部演習	【予習】指定教科書p.24-26を読む 【復習】日常場面における記憶現象を知る。忘却の要因を説明できる。 記憶の歪みや病理を理解する。	15 30

9	第3章「動機づけ」 ・動機づけの定義 ・動機づけの分類と機能	講義	【予習】教科書p.27-34を読む 【復習】動機づけの分類とメカニズムを理解する。動機づけの適応的機能が理解できる。	15 30
10	第3章「動機づけ」 ・欲求 ・自己効力感/学習性無気力 ・セルフエフィカシーの測定	講義 一部演習	【予習】教科書p34-38を読む 【復習】やる気の生起または消失の要因を理解する。セルフエフィカシーの概念を説明できる。	15 30
11	第4章「感情」 ・感情の分類 ・感情発生のメカニズムと機能	講義	【予習】教科書p.39-45を読む 【復習】感情発生の機序を知る。感情の種類を知る。感情の適応的機能を理解する	15 30
12	第4章「感情」 ・フラストレーションとその耐性 ・ストレス ・ストレス・コーピング	講義 一部演習	【予習】教科書p.45-52を読む 【復習】欲求とコンフリクト場面の関係を説明できる。ストレスとその対処法を理解できる。	15 30
13	第12章「精神的健康」 ・WHO「健康」の定義 ・心の健康を測定する ・抑うつ/不安/ストレス尺度	講義 一部演習	【予習】教科書p.150-153を読む 【復習】心が健康な状態を理解する。心の健康が損なわれているサイン（兆候）を把握することができる	15 30
14	第14章_4「健康心理学」 ・タイプA行動と特定疾患/寿命への影響 ・行動特性の修正（認知行動療法等）	講義 一部演習	【予習】指定教科書p.188, p.202を読む 【復習】「タイプA」行動の特性を理解し、認知行動療法の実際を学ぶ。	15 30
15	まとめ ・1～14コマ目までの重要事項の確認 ・傾聴と共感	講義	【予習】人の心の基本的な仕組みと働き、及び心の不適応状態を確認しておく 【復習】「優しい目、大きな耳、小さい口、広いところ」を身につける	30 15

【科目名】		心理学概論Ⅱ	【担当教員】	宮岡 里美
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1-01-0020-3	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 来学時の授業終了後※随時メールにて
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ※本科目は、心理学専攻の必修科目であり、公認心理師国家試験の受験資格を得るための指定科目です。 ※本科目は実務経験を有する教員による授業です。大学での心理学教育に関する実務経験、及び保健・医療・福祉機関での臨床経験（言語・高次脳機能障害及び摂食嚥下障害へのリハビリテーション）から、人の心の基本的な仕組みと心のケアについて講義・演習を行っていきます。心理学の基礎知識は、多種多様な専門職すべての人に必要なものです。特に、将来、保健・医療・福祉・教育等の分野で活躍することを希望する学生には受講していただきたいと思います。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識) この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。 欠席した場合には、後日担当教員に申し出て、資料を受け取り、必ず参照して下さい。 授業中に実施した心理テスト等のデータは、原則提出を求めません。 生成系 AI の利用を全面的に許可します。授業内、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用して下さい。 。使用した場合には、生成AI の出力を引用した箇所や生成 AIサービスの名称、バージョンを明記して下さい。				
【講義概要】 (目的) ①心理学における代表的分野について、歴史的経緯と基礎知識を学ぶ。 ②人間の心や行動の基本的な原理を学び、心のはたらきを理解する。 ③人間の行動特性、性格、感情、認知機能等を理解し、適切な対応ができる。 ④保健・医療・福祉・教育等の領域で、対象者の“こころ”を推察して適切な配慮ができるよう、臨床応用できる。 【当該科目と学位授与方針との関連性】 A-2, P-1, O-1, R-2 (方法) Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。内容は、原則、指定教科書に準じます。 毎回、講義用スライド資料及び関連する資料も配布します。 理解度確認テストを実施した場合は、回収後に解答の解説を行います。 心理テストの実施については、その目的や結果の解説は行いますが、データは回収しません（各自で適宜保管する）。				
【一般教育目標(GI0)】 人の心の基本的な仕組み及びはたらきについて理解する。 人の心のはたらきはどのようにして客観的に観察・測定されるのかを知る。 心理学がどのような領域で社会貢献しているのかを理解する。 社会人として良好な人間関係が構築できるよう場面に相応しい態度やコミュニケーション能力を培う。				
【行動目標(SB0)】 科学としての心理学の成立までの経緯とその後の展開を概説できる。 対象者の“こころ”を推察/理解するために、どのような観点で他者の言動を観察すればよいのかを学ぶ。 心の“問題”や“障害”を理解し、適切に対処・配慮することができる。 「自己覚知」の重要性を認識し、自身の“こころ”（感情や態度）を自己コントロールできる。 保健・医療・福祉・教育等に携わる多職種連携チームにおいて、適切なコミュニケーションをとることができる。				
【教科書・リザーブドブック】 二宮克美編著「ベーシック心理学」第2版、医歯薬出版、2016/9/2、2,900円＋税、ISBN978-4-263-42223-6				
【参考書】 フレデリックセン他(著) 内田一成(監訳)「ヒルガードの心理学 第16版」金剛出版、2015/9/25、24,200円(税込) 「ゼロからわかる心理学」増補第2版 (Newtonムック別冊)、2021/1/18、(株)ニュートンプレス、1,500円＋税 「知能と心の科学」(Newtonムック別冊)、2012/11/01、(株)ニュートンプレス、2,300円＋税				
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。 ・定期試験を実施する。 ・出席点は評価に含まれない。 ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ※障害への配慮が必要な学生は教員と事前に相談することを推奨します。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70		10		20			100
評価指標	取り込む力・知識	50							50
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢					20			20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	第5章「パーソナリティ」(1) ・ パーソナリティの記述	講義	【予習】教科書p.54-59を読む。 【復習】 パーソナリティの主な分類法を学び、パーソナリティの特徴とその記述法を理解する。	15 30
2	第5章「パーソナリティ」(2) ・ パーソナリティの測定法	講義	【予習】教科書p.60-63を読む。 【復習】 パーソナリティはどのように測定されるのかを理解する。	15 30
3	第5章「パーソナリティ」(3) ・ 演習：性格検査	講義 一部演習	【予習】指定教科書p.60-61を読む 【レポート課題】自身のパーソナリティを客観的に測定し、評価する。	30 60
4	第5章「パーソナリティ」(4) ・ パーソナリティの異常と障害	講義 一部演習	【予習】指定教科書p.63-65を読む 【復習】 パーソナリティの障害を理解し、適切に配慮できる。	15 30
5	第6章「知能」(1) ・ 知能の定義 ・ 知能の構造	講義	【予習】指定教科書p.68-71を読む 【復習】 知能検査開発の歴史的経緯を知り、知能の定義及び知能の構成要因を説明できる。	15 30
6	第6章「知能」(2) ・ 知能の測定 ・ 知的能力障害（知的発達症）	講義	【予習】指定教科書p.71-79を読む 【復習】 知能はどのように測定されるのかを学ぶ。知的発達症の定義（基準）を理解し、適切に配慮できる。	15 30
7	第7章「思考」(1) ・ 思考とは？ ・ 概念 ・ 問題解決	講義	【予習】指定教科書p.82-86を読む 【復習】 考える機能を説明でき、ヒトの思考と言語の関係を理解する。問題を解決する方略（思考）を学ぶ。	15 30
8	第7章「思考」(2) ・ 推論 ・ 創造性 ・ 創造的思考力の開発	講義 一部演習	【予習】指定教科書p.86-92を読む 【復習】 推論とその誤りを知る。新たなものを創り出すプロセスを学び、創造性を開発する手法を理解する。	15 30

9	第10章「人間関係」(1) ・対人認知 ・帰属理論	講義	【予習】教科書p.126-131を読む。 【復習】他者の印象形成について学び、その誤りについて理解する。	15 30
10	第10章「人間関係」(2) ・対人魅力	講義 一部演習	【予習】教科書p.131-134を読む。 【復習】人を好きになる、あるいは嫌いになる要因は何かを学び、理解する。	15 30
11	第11章「集団」(1) ・集団の心理 ・社会的影響	講義	【予習】教科書p.136-143を読む。 【復習】集団の特徴と分類を学ぶ。また、他者の存在が個人に及ぼす影響を説明できる。	15 30
12	第11章「集団」(2) ・態度 ・流行と流言	講義	【予習】教科書p.143-148を読む。 【復習】態度の適応的機能を知り、相手の態度の変容を促す手法を学ぶ。個々人の欲求と社会現象との相互関係について理解する。	15 30
13	第14章「心理学の応用分野」(1) 「災害心理学」より ・被災者の心理状態 ・ASD/PTSDへの対応	講義 一部演習	【予習】教科書p.194-196を読む。 【復習】被災者への適切な対応、心のケアを理解する。	15 30
14	第14章「心理学の応用分野」(2) 「産業・組織心理学」より ・ライフ・キャリア・レインボー ・「働き方改革」ワーク・ライフ・バランス	講義 一部演習	【予習】教科書p.196-197を読む。 【演習】自身のキャリア・レインボーを描く。その過程を通して、自身の職業アイデンティティを考察する。	15 60
15	まとめ ・1～14コマ目までの重要事項の確認 ・質疑応答	講義	【予習】アイデンティティの定義を確認する。 【復習】心理学の知識をいろいろな場面で応用できる。	15 30

【科目名】医療行動科学Ⅰ		【担当教員】加藤 真由美
【授業区分】教養分野(人文科学)	【授業コード】1-01-0030-2	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	ma.kato@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15コマ	(オフィスアワー) 11:00～13:30(水～金)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ＊1年生にとっては、入学後、日の浅い時期の講義です。 大学の講義は自分自身の手で情報(学び)をつかむ場所であることを踏まえて受講してください。 この授業はアクティブラーニングを用います。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 受講者は、医療行動科学Ⅰと医療行動科学Ⅱを併せて履修登録すること。		
【講義概要】 (目的) 人間の行動の背景にあるさまざまな法則を科学的に理解する「行動科学」の基礎を身につける。 特に、健康の増進や疾病の改善を目的とする医療場面での患者・家族・医療従事者の行動特性を多角的に考察し、医療行動の促進を目指す。 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-3 当該科目と学位授与方針等との関連性；0-2 (方法) 主として配布資料を使用して講義を行います。		
【一般教育目標(GI0)】 行動科学は学際性の高い学問であることを知る。 心理学、精神医学、社会学などの多領域で科学的に示される個人・集団の行動の原理を理解し、医療人としての態度を備える。		
【行動目標(SB0)】 各講義のテーマについて、主体的に問題意識を持っていることを示せる。 各講義で説明したトピックを説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 資料を配布する。		
【参考書】 山田富美雄（編）、シリーズ医療の行動科学Ⅰ、北大路書房、2015年、¥1,900（税別） 津田彰（編）、シリーズ医療の行動科学Ⅱ、北大路書房、2002年、¥2,400（税別）		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 試験、小テストやレポート作成において、生成AIの使用は許可しません。 試験・レポートのフィードバック方法：必要に応じ補講等にておこないます。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70	20					10	100
評価指標	取り込む力・知識	40	10						50
	思考・推論・創造の力	30	10						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	●イントロダクション-1 行動科学とはどのような学問領域か？	講義	講義ノートの完成	90
3-4	●行動科学と医療：目的・課題・方法 行動科学を医療と結びつけることの意義	講義	講義ノートの完成	90
5-6	●動機 人間の行動は何に支えられているのか	講義	講義ノートの完成	90
7-8	●自己と他者の理解・役割 相手を理解するとは何か？医療のなかで相手を理解することについて	講義	講義ノートの完成	90
9-10	●心の発達と課題 人間の成長に必要なさまざまな条件について	講義	講義ノートの完成	90
11-12	●パーソナリティ 人柄はどのようにして生まれるのか？	講義	講義ノートの完成	90
13-14	●医療者としての適性 対人援助を役割とするために必要なこと	講義	講義ノートの完成	90
15	「医療行動科学Ⅰ」まとめ	講義	講義ノートの完成	90

【科目名】医療行動科学Ⅱ		【担当教員】加藤 真由美
【授業区分】教養分野(人文科学)	【授業コード】1-01-0035-2	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	ma.kato@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15コマ	(オフィスアワー) 11:00～13:30(水～金)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ＊1年生にとっては、入学後、日の浅い時期の講義です。 大学の講義は自分自身の手で情報(学び)をつかむ場所であることを知ってください。 この授業はアクティブラーニングを用います。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 受講者は、医療行動科学Ⅰと医療行動科学Ⅱを併せて履修登録すること。		
【講義概要】 (目的) 人間の行動の背景にあるさまざまな法則を科学的に理解する「行動科学」の基礎を身につける。 特に、健康の増進や疾病の改善を目的とする医療場面での患者・家族・医療従事者の行動特性を多角的に考察し、医療行動の促進を目指す。 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-3 当該科目と学位授与方針等との関連性；0-2 (方法) 配布資料を使用して講義を行います。		
【一般教育目標(GI0)】 行動科学は学際性の高い学問であることを知る。 心理学、精神医学、社会学などの多領域で科学的に示される個人・集団の行動の原理を理解し、医療人としての態度を備える。		
【行動目標(SB0)】 各講義のテーマについて、主体的に問題意識を持っていることを示せる。 各講義で説明したトピックを説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 資料を配布する。		
【参考書】 山田富美雄（編）、シリーズ医療の行動科学Ⅰ、北大路書房、2015年、¥1,900（税別） 津田彰（編）、シリーズ医療の行動科学Ⅱ、北大路書房、2002年、¥2,400（税別）		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 試験、小テストやレポート作成において、生成AIの使用は許可しません。 試験・レポートのフィードバック方法：必要に応じ補講等にておこないます。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70	20					10	100
評価指標	取り込む力・知識	40	10						50
	思考・推論・創造の力	30	10						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	●医療者のストレス 援助者自身の健康管理について	講義	講義ノートの完成	90
3-4	●医療場面での性別役割化 対人援助にみられやすい性別役割について	講義	講義ノートの完成	90
5-6	●心理学的アプローチによる医療事故防止 人間は誤りをおこす存在であることを知る	講義	講義ノートの完成	90
7-8	●医療者の教育 対人援助の職業人育成に必要なこと	講義	講義ノートの完成	90
9-10	●医療場面における研究と倫理的配慮 研究を進める上で必要な約束事について	講義	講義ノートの完成	90
11-12	●社会と家族の変容 その時代の影響を受ける集団について	講義	講義ノートの完成	90
13-14	●患者とのコミュニケーション 訴えを正確に引き出し円滑な関係を築くために	講義	講義ノートの完成	90
15	「医療行動科学Ⅱ」まとめ	講義		90

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60		40					100
評価指標	取り込む力・知識	40		20					60
	思考・推論・創造の力	20		20					40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	オリエンテーション ストレスマネジメント	講義	講義プリントの復習 ストレスに曝された時のセルフコントロールについて理解する	120
3-4	燃え尽き症候群（バーンアウト）	講義	講義プリントの復習 対人援助職によく起こり得る精神衛生上の問題とそれに対する対処について理解する	120
5-6	メンタルヘルスの問題（1）うつ病、不安障害	講義	講義プリントの復習 うつ病、不安障害の症状と治療・介入方法について理解する	120
7-8	メンタルヘルスの問題（2）精神病、物質使用障害	講義	講義プリントの復習 精神病、物質使用障害の症状と治療・介入方法について理解する	120
9-10	メンタルヘルスの問題（3）ギャンブル依存、摂食障害	講義	講義プリントの復習 ギャンブル依存、摂食障害の症状と治療・介入方法について理解する	120
11-12	自殺念慮と自殺企図	講義	講義プリントの復習 自殺の現状と支援・介入方法について理解する	120
13-14	復職支援と自己分析	講義	講義プリントの復習 休職に至る経過や復職支援の方法と自己分析のためのツールについて理解する	120
15	まとめ	講義	講義の振り返り	120

【科目名】社会と健康Ⅱ		【担当教員】藤本 聡、長谷川 裕
【授業区分】教養分野(社会科学)	【授業コード】1-02-0005-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	fujimoto.s@nur05.onmicrosoft.com (藤本)、hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com (長谷川)
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 月曜日～木曜日 13:00～13:20
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 医療者として、健康に対する意識を高める科目です。 社会と健康Ⅰを受講していること。 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です、医療及び地域保健福祉機関で作業療法等のリハビリテーションに従事してきた経験から、社会と健康について講じていきます。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・この科目は、実務経験者対応科目である。・講義は、対面授業と映像視聴、課題による方法で行う。・映像視聴と課題については、課題を提出することにより出席となります。・課題の提出期限は守ってください。・生成系AIの利用は禁止しています。授業内での利用は厳禁となっており、このルールに違反した場合は、学内の規程に則って、適切な措置を取ります。 ＊当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,2 ＊当該科目と学位授与方針等との関連性：P-1,2、O-1,2、R-1,2		
【講義概要】 (目的) 人びとの健康や病気が、社会的、経済的、政治的、環境的な条件に影響を受けることが広く認められるようになり、その研究が進んでいる。いくつかの保健機関は、健康の社会的要素が集団や個人の快適な暮らしに大きな影響をもたらすことを表明しており、本科目では社会と健康の関係を学習する。 (方法) 社会の仕組みと健康や病気との関わり合いを考察し、健康に影響する社会的要因を挙げ考察してゆく。 この授業はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GI0)】 ・社会が健康や病気とどう関係するのかを理解する。 【行動目標(SB0)】 ・健康科学と社会学系諸分野との関連について明確なイメージを所有する。		
【教科書・リザーブドブック】 資料を必要に応じて配布		
【参考書】 資料を必要に応じて配布		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含まない。 試験・レポートの解答の返却はおこないません。フィードバックは必要に応じ補講等にておこないます。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	オリエンテーション 認知症予防の施策	講義(対面)・ 藤本	講義内容に関することについて、予 習・復習を行っておくこと	30分
3,4	認知症養成サポーター(1) 認知症サポーター養成講座の視聴	映像視聴	講義内容に関することについて、予 習・復習を行っておくこと	30分
5,6	認知症養成サポーター(2) 課題	課題	講義内容に関することについて、予 習・復習を行っておくこと	30分
7	認知症の方への対応方法(1) 「二本の傘」の視聴	映像視聴	講義内容に関することについて、予 習・復習を行っておくこと	30分
8,9	認知症の方への対応方法(2)	課題	講義内容に関することについて、予 習・復習を行っておくこと	30分
10,11	高齢者の社会参加と生き甲斐について	課題	講義内容に関することについて、予 習・復習を行っておくこと	30分
12,13	認知症カフェを通しての具体的な方法(1) 本学のカフェの紹介	講義(映像視聴) ・長谷川	講義内容に関することについて、予 習・復習を行っておくこと	30分
14,15	認知症カフェを通しての具体的な支援方法(2) 課題	課題	講義内容に関することについて、予 習・復習を行っておくこと	30分

【科目名】法律と医療Ⅰ		【担当教員】向田 怜史
【授業区分】教養分野(社会科学)	【授業コード】1-02-0010-2	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	mukaida@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 火・木 12:40-13:30
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 医療従事者として必要とされる法律の基礎知識を修得する科目である。法律の知識は医療の場だけでなく日常生活においても必要である。可能な限り受講するのが望ましい。この講義は医療福祉分野の相談職として臨床経験がある講師が講じる。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) レポートは他に支障がない限り返却する。1・2回目のみ対面講義とし、3回目以降はオンデマンド配信での講義とする。アクティブラーニングの手法を用いて、主に問題解決型学習を焦点とした双方向の講義を展開していく。 生成系 AI の利用を全面的に許可する。授業内、および、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してよい。ただし、使用した場合にその旨をレポート等に記載すること。 ※障がい等について合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください		
【講義概要】 (目的) 医学が進歩し、医療技術が発達し、社会が変わることで、様々な法的・倫理的問題が生じている。本科目では、主に憲法、民法の基礎知識とそれに関連する医療上の問題を学ぶことで、医療上の法的・倫理的問題に対応できる知識を習得することを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,A-2 (方法) 授業は PowerPoint スライドを用いた説明を中心に行い配布資料を補助的に用いる。 本科目は主として、「法律と医療倫理」、「憲法と医療」などを講義する。		
【一般教育目標(GI0)】 ・法学について理解する。 ・憲法の基本的な考え方に基づき人権について理解する。 【行動目標(SB0)】 ・法学について説明出来る。 ・憲法の基本的な考え方に基づき人権について説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 特になし		
【参考書】 精神保健福祉士・社会福祉士養成基礎セミナー編集委員会 法学- 権利擁護と成年後見制度、へるす出版 2,310円(税込)) 野崎和義、コ・メディカルのための医事法学概論、ミネルヴァ書房、2011年、¥2,500円(税別)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価はレポートにより評価する。 ・出席点は評価に含めない。 ・レポートのフィードバックについては、個別にコメントをつけて返却する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				90				10	100
評価指標	取り込む力・知識			45					45
	思考・推論・創造の力			45					45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	日本国憲法の基本原理・基本的人権	対面講義	日本国憲法とは何か、インターネットや文献などで予習。	90分
3・4	日本国憲法の基本原理・人権各論 生命・自由および幸福追求権	配信講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	90分
5・6	日本国憲法の基本原理・人権各論 法の下での平等	配信講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	90分
7・8	日本国憲法の基本原理・人権各論 精神的自由権(1)	配信講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	90分
9・10	日本国憲法の基本原理・人権各論 精神的自由権(2)	配信講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	90分
11・12	日本国憲法の基本原理・人権各論 経済的自由権	配信講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	90分
13・14	人権各論 身体・生命の自由(人身の自由)	配信講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	90分
15	今までの振り返り	配信講義	今までの資料を復習しておくこと。	90分

【科目名】法律と医療Ⅱ		【担当教員】向田 怜史
【授業区分】教養分野(社会科学)	【授業コード】1-02-0015-2	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	mukaida@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 火・木 12:40～13:30
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・法律と医療Ⅰを合わせて履修することが望ましい。 ・医療従事者として必要とされる法律の基礎知識を修得する科目である。法律の知識は医療の場だけでなく日常生活においても必要である。可能な限り受講することが望ましい。この講義は、医療福祉分野の相談職として臨床経験がある講師が講じる。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) レポートは他に支障がない限り返却する。1、2回目のみ対面講義とし、3回目以降はオンデマンド配信での講義とする。アクティブラーニングの手法を用いて、主に問題解決型学習を焦点とした双方向の講義を展開していく。 生成系 AI の利用を全面的に許可する。授業内、および、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してよい。ただし、使用した場合にその旨をレポート等に記載すること。 ※障がい等について合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください		
【講義概要】 (目的) 医学が進歩し、医療技術が発達し、社会が変わることで、様々な法的・倫理的問題が生じている。本科目では、主に憲法、民法、刑法の基礎知識とそれに関連する医療上の問題を学ぶことで、医療上の法的・倫理的問題に対応できる知識を習得することを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,A-2 (方法) 授業は PowerPoint スライドを用いた説明を中心にを行い配布資料を補助的に用いる。 本科目は主として、「民法と医療」、「刑法と医療」などを講義する。		
【一般教育目標(GI0)】 医療従事者として必要な医療に関する法学の基本的な知識を修得する。		
【行動目標(SB0)】 法律と医療の関連性について説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 特になし		
【参考書】 安藤秀雄ほか、これだけは知っておきたい医療事務101法最新医療関連法の完全知識、医学通信社、2022年、3,200円(税別) 野崎和義、コ・メディカルのための医事法学概論、ミネルヴァ書房、2011年、2,500円(税別) 精神保健福祉士・社会福祉士養成基礎セミナー編集委員会 法学-権利擁護と成年後見制度、へるす出版 2,310円(税込)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価はレポートにより評価する。 ・出席点は評価に含めない。 ・レポートのフィードバックについては、コメントをつけて返却します。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				90				10	100
評価指標	取り込む力・知識			45					45
	思考・推論・創造の力			45					45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	民法の理解 契約・不法行為	対面講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	90分
3・4	民法の理解 親族・相続	配信講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	90分
5・6	行政法の理解	配信講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	90分
7・8	医療契約の基礎 医療契約・医療事故・医療過誤	配信講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	90分
9・10	個人情報保護法	配信講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	90分
11・12	医療と契約	配信講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	90分
13・14	脳死・臓器移植・安楽死・尊厳死	配信講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	90分
15	今までの振り返り	配信講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	90分

【科目名】		コミュニケーション心理学Ⅰ		【担当教員】	加藤 真由美
【授業区分】	教養分野(社会科学)	【授業コード】	1-02-0020-1	(メールアドレス) ma.kato@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 11:00～13:30(水～金)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修		
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ		
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) この授業はアクティブラーニングを用います。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 講義後、小テストを実施する。					
【講義概要】 (目的) 人間の社会生活の基礎をなすコミュニケーションについて、そのさまざまな特徴や理論を心理学視点で理解する。コミュニケーション自体は日常の一コマであるが、それらを学問的に整理し、本学生として医療での対人関係やその研究の切り口を身につける。 当該科目と学位授与方針との関連性；A-2，P-1，O-1，R-2 (方法) 講義資料を配布する。					
【一般教育目標(GIO)】 授業で学習したことをもとに、医療者・支援者の視点からの円滑な様々なコミュニケーションのポイントを理解する。					
【行動目標(SB0)】 授業で取り上げるキーワードを説明できる。 学びを日常のコミュニケーションで意識し、実践する。					
【教科書・リザーブドブック】 資料を配布する。					
【参考書】 深田 博己（1999）コミュニケーション心理学ー心理学的コミュニケーション論への招待．北王路書房． 山田 一成・結城 雅樹・北村 英哉（2007）よくわかる社会心理学（やわらかアカデミズム・わかるシリーズ）．ミネルヴァ書房．					
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 試験、小テストやレポート作成において、生成AIの使用は許可しません。 試験・レポートのフィードバック方法：必要に応じ補講等にて解説をおこないます。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70	30						100
評価指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	30	10						40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	オリエンテーション コミュニケーション心理学とは	講義	配布資料を読む、小テスト提出 講義ノート作成	240分
3-4	社会的認知1：自己認知	講義	配布資料を読む、小テスト提出 講義ノート作成	240分
5-6	社会的認知2：印象形成	講義	配布資料を読む、小テスト提出 講義ノート作成	240分
7-8	社会的認知3：ヒューリスティック、バイアス	講義	配布資料を読む、小テスト提出 講義ノート作成	240分
9-10	自己を表現するコミュニケーション(1)：自己開示と自己呈示①	講義	配布資料を読む、小テスト提出 講義ノート作成	240分
11-12	自己を表現するコミュニケーション(2)：自己開示と自己呈示②	講義	配布資料を読む、小テスト提出 講義ノート作成	240分
13-14	自己表現と社会的認知：リーダーシップ	講義	配布資料を読む、小テスト提出 講義ノート作成	240分
15・試験	まとめ 試験	講義	これまでの配布資料に目を通しておく	240分

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70	30						100
評価指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	30	10						40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	集団におけるコミュニケーション1:集団の形成	講義	配布資料を読む、小テスト提出 講義ノート作成	240分
3-4	集団におけるコミュニケーション2:集団凝集性	講義	配布資料を読む、小テスト提出 講義ノート作成	240分
5-6	集団におけるコミュニケーション3:同調行動・態度形成	講義	配布資料を読む、小テスト提出 講義ノート作成	240分
7-8	集団におけるコミュニケーション4:権威の服従	講義	配布資料を読む、小テスト提出 講義ノート作成	240分
9-10	集団におけるコミュニケーション5:対人説得・態度変容	講義	配布資料を読む、小テスト提出 講義ノート作成	240分
11-12	集団におけるコミュニケーション6:親密な他者との関係	講義	配布資料を読む、小テスト提出 講義ノート作成	240分
13-14	集団におけるコミュニケーション7:家族との関係	講義	配布資料を読む、小テスト提出 講義ノート作成	240分
15・試験	まとめ・定期試験	講義	これまでの配布資料に目を通しておく	240分

【科目名】統計学Ⅰ		【担当教員】丁子 雄希
【授業区分】教養分野(自然科学)	【授業コード】1-03-0000-3	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	tyouji@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】30	(オフィスアワー) メールにて適宜対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 高校数学の基礎知識を有していることが望ましい。 障がい等の理由により合理的な配慮が必要な場合は事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・本講義では、パソコンを使用しますので必ず持参ください。 ・授業中に統計ソフトのインストール方法についてお知らせします（Windows対応）。もし使用するパソコンがMacの方は事前にお知らせください。 ・生成AIの使用は禁止します。 ・授業はオンデマンド配信とアクティブラーニングから構成されます。		
【講義概要】 (目的) 保健医療分野において求められる統計学的な考え方や基礎的な統計学的手法を理解することを目的とする。 本科目は「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」関連の科目です。 当該科目と学位授与方針等との関連性； A-2 (方法) 統計学の基礎となる記述統計について学ぶ。さらにその知識を土台として推測統計学を学ぶ。 授業はオンデマンド配信で行います。		
【一般教育目標(GIO)】 統計学的な考え方を身に着けるために、記述統計や推測統計の基礎を理解する。 【行動目標(SB0)】 変数の種類、代表値とその使い分け、また2つの変数の関連の分析、さらに推測統計の基礎について説明することができる。		
【教科書・リザーブドブック】 山本 澄子(監修)、谷浩明(監修)：すぐできる!リハビリテーション統計[解析ソフト付](改訂第2版)：データのみかたから検定・多変量解析まで。2019。		
【参考書】		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) (評価の基準・方法) ・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 ・成績評価は、レポート・授業中の課題などにより総合的に評価する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				60				40	100
評価指標	取り込む力・知識			30				20	50
	思考・推論・創造の力			30				10	40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	オリエンテーション 記述統計と推測統計	講義	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。	60
3・4	尺度、分布、グラフ	講義・演習	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。 比率尺度、間隔尺度、順序尺度、名義尺度の違いを理解する。	60
5・6	検定の基礎	講義・演習	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。推測統計の流れを理解する。	60
7・8	2群パラメトリック検定（対応あり）	講義・演習	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。統計ソフトを用い、t検定を理解する。	60
9・10	2群パラメトリック検定（対応なし）	講義・演習	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。統計ソフトを用い、t検定を理解する。	60
11・12	ノンパラメトリック検定（Mann-WhitneyのU検定）	講義・演習	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。統計ソフトを用い、Mann-Whitney検定を理解する。	60
13・14	ノンパラメトリック検定（ χ^2 検定）	講義・演習	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。統計ソフトを用い、 χ^2 検定を理解する。	60
15・16	相関と回帰	講義・演習	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。統計ソフトを用い、相関と回帰を理解する。	60

17・18	3群のパラメトリック検定	講義・演習	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。統計ソフトを用い、3群間比較を理解する。	60
19・20	3群のノンパラメトリック検定	講義・演習	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。統計ソフトを用い、3群間比較を理解する。	60
21・22	重回帰分析	講義・演習	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。統計ソフトを用い、重回帰分析を理解する。	60
23・24	ロジスティック回帰分析	講義・演習	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。統計ソフトを用い、ロジスティック回帰分析を理解する。	60
25・26	診断の指標 感度，特異度	講義・演習	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。感度・特異度を理解する。	60
27・28	まとめ① (基本統計1)	講義	これまでの講義、配布資料をもとに学んだ内容を理解できる。	60
29・30	まとめ② (基本統計2)	講義	これまでの講義、配布資料をもとに学んだ内容を理解できる。	60

【科目名】統計学Ⅱ		【担当教員】星野 浩通
【授業区分】教養分野(自然科学)	【授業コード】1-03-0005-2	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	hoshino@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) メールにて適宜対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) この授業は前期に「統計学Ⅰ」「心理学統計法Ⅰ」を履修した学生を対象とします。統計学的分析の実際をエクセルを用いながら行う演習が中心となります。「統計学Ⅰ」「心理学統計法Ⅰ」で学んだ知識が必要となります。また、毎回の授業で課題を設定し、その提出が必要となります。＊障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員と事前に相談してください。生成系 AI の利用を全面的に許可しています。授業内、および、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してください。使用した場合にその旨をレポート等に記載してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) ・講義に加えてエクセルを利用した演習が中心の授業となります。クリッカーを用いた双方向授業を行う場合もある。 ・生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。生成AIの出力結果は、その内容によっては著作権を侵害する可能性があります。また、個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意するようにしてください。 ・小テスト、課題レポートは授業中にフィードバックします。		
【講義概要】 (目的) 現在多くの仕事の領域でデータを読み解く能力が求められている。これは専門職・事務職の区別を問わない。この講義では、入門程度の統計の知識を持つものが、実際にデータを操作して初歩的な統計分析を実施するための技能を修得することを目的としている。自分でデータを分析できるようになると、新聞やテレビ、学術論文で公表された数値をより正確に理解できるようになる。＊これは「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」関連の科目です。 学位授与方針との関連性：A-2, A-3 (方法) エクセルを使用して、データの集約法（記述統計）と基礎的な統計的検定（推測統計）を自分でデータを操作しながら学習する。エクセルによる分析の予備知識は必要ないが、エクセルを少し使えと役に立つ。		
【一般教育目標(GIO)】 本授業で学んだ知識を基にして、社会の実際のデータを読み取り、説明することができる。また、必要に応じてデータを操作することができる。		
【行動目標(SB0)】 基礎統計値の意味を理解し、基礎統計値の知識を基に実際のデータの読み取りができる。 推測統計の中でも特に平均の差の検定の意味を理解し、実際のデータの読み取りができる。		
【教科書・リザーブドブック】 山本澄子（監修）：すぐできる！リハビリテーション統計（改定第2版）南江堂,2018		
【参考書】 必要に応じて資料配布		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含まないが、毎度の課題の提出をもって出席とみなすこととする。毎度の課題成績を総合して評価する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			50	50					100
評価指標	取り込む力・知識		25	25					50
	思考・推論・創造の力		25	25					50
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	代表値の使い分けと読み取り	講義・演習・アクティブラーニング 星野浩通 指定教室	適切な代表値の使い分けについて説明できる。実際のデータから代表値の読み取りができる。	120
3・4	標準偏差と標準誤差	講義・演習・アクティブラーニング 星野浩通 指定教室	代表的な散布度である標準偏差と標準誤差について理解できる	120
5・6	平均値と標準偏差のグラフを作成	講義・演習・アクティブラーニング 星野浩通 指定教室	1～4回の学びを基に視覚情報としてグラフ化することができる。	120
7・8	相関係数算出(1)	講義・演習・アクティブラーニング 星野浩通 指定教室	相関係数の意味、算出されるプロセスを理解する。	120
9・10	相関係数の算出(2)	講義・演習・アクティブラーニング 星野浩通 指定教室	相関係数の意味、算出されるプロセスを理解する。	120
11・12	t検定(1)	講義・演習・アクティブラーニング 星野浩通 指定教室	対応のないt検定について理解できる。	120
13・14	t検定(2)	講義・演習・アクティブラーニング 星野浩通 指定教室	対応のあるt検定について理解できる。	120
15	まとめ	講義 星野浩通 指定教室	これまでの内容を配布資料をもとに振り返っておく。	120

【科目名】基礎生命科学		【担当教員】平田 恒彦
【授業区分】教養分野(自然科学)	【授業コード】1-03-0010-2	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	qqe83zfd@snow.ocn.ne.jp
【単位数】1	【コマ数】15コマ	(オフィスアワー) 来校時に対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 高校での「生物基礎」を選択したか否かをアンケート調査する。 高校で「生物基礎」を選択していなかった学生はこの科目を必ず選択していただきたい。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 食べ物・飲み物の持ち込みは厳禁する。講義中の無言勝手な出入りを禁ずる。 教師と学生との対話を心掛ける。講義中に試験問題等を提供する。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
【講義概要】 (目的) 本講義は基礎生物学に関する導入講義であり、医療学部 of 医生物科学の履修に向けて必要となる基礎的知識の修得を目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2 (方法) 高等学校にて「生物基礎」及び「化学基礎」を履修してこなかった学生を対象に、医生物科学を学ぶにあたって必須な学習事項を中心に概説する。 時の動きに合わせて時々話題を提供する。		
【一般教育目標(GI0)】 世間一般で話題となっている「生命（いのち）＝生き物」の在り方などについて常識的に語れるようになること。 【行動目標(SB0)】 「生命（いのち）＝生き物」に関する話題について自分の考えをまとめられるようになること。		
【教科書・リザーブドブック】 特に使用せずプリントを提供する。		
【参考書】 高校レベルの内容が記されている書籍、新聞等。 必要な場合にその都度紹介する。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 成績評価は期末試験およびレポート点等により総合的に評価する。 試験内容をプリント・コピーし、予め問題内容を簡単に解説する。 試験後、回答例を示します。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		85	5	5	0	0	0	5	100
評価指標	取り込む力・知識	0	0	0	0	0	0	0	0
	思考・推論・創造の力	50	0	0	0	0	0	0	50
	コラボレーションとリーダーシップ	10	0	0	0	0	0	0	10
	発表力	15	5	0	0	0	0	0	20
	学修に取り組む姿勢	10	0	5	0	0	0	5	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	教科目「基礎生命科学」の内容紹介 (「生物○○・・・」の高校での学習の有無についてのアンケート調査) からだをつくる物質・単位・溶液	講義	新聞マスメディアの生命(いのち) ＝生き物に関する記事を読むこと。	10
3-4	からだの中の(化学)反応(系) ～ ① 加水分解・酸化還元・酸と塩基 からだの中の(化学)反応(系) ～ ② 酵素	同上	同上	同上
5-6	細胞・細胞分裂…そして、生命の起源との関連 遺伝と遺伝子⇒情報伝達機構	同上	同上	同上
7-8	動物・ヒトの組織・器官 刺激と反応…そして、生活空間＝環境との関連	同上	同上	同上
9-10	循環 ～ ① 体液 循環 ～ ② 気体	同上	同上	同上
11-12	免疫 神経・ホルモン…そして、生活空間＝環境	同上	同上	同上
13-14	解剖生理学・生化学等との関連・・・ 病気に対して・・・	同上	同上	同上
15	英語で学ぶ基礎生命科学	同上	同上	同上
16	試験			

リハビリテーション学科

【科目名】		医生物科学Ⅰ		【担当教員】	平田 恒彦
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】	1-03-0015-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	qqe83zfd@snow.ocn.ne.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 来校時に対応	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
高校等で「生物基礎」を選択履修したものとして講義を執り行う。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
食べ物・飲み物の持ち込みは厳禁する。講義中の無言勝手な入出りを禁ずる。 教師と学生との対話を心掛ける。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。					
【講義概要】					
(目的)					
リハビリテーションという現実直面するヒトの肉体と心の関係を知る基礎を学ぶ。生命科学から見た人について考えるきっかけを得る。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2					
(方法)					
生命現象を呈する生物の姿かたち、生活の在り方を考えながら、生物体の基本単位である細胞、細菌学、その中で特に医療分野に必要な感染症についても学んでいく。本科目は主として、「生物（学）の世界」、「生物と環境の変化」、「万能細胞～ヒトのiPS細胞～」などを講義し、生物学と医療との相関について考える。					
【一般教育目標(GI0)】					
常識程度の医生物科学（生物学の基礎知識を基にした医学・医療領域の自然科学）を語れるようになること。					
【行動目標(SB0)】					
基礎医学及び医療に関する昨今話題をまとめ、語れるようになること。					
【教科書・リザーブドブック】					
平田恒彦著「人間・生き物科学」、考古堂、2012年、\1,980（税込）					
【参考書】					
高校の教科書・参考書、新聞 必要な場合にその都度紹介する。					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 試験評価は期末試験およびレポート点等により総合的に評価する。 講義概要をプリント・コピーし、予め問題内容を簡単に説明する。 試験後回答例を提示します。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		85	5	5	0	0	0	5	100
評価指標	取り込む力・知識	0	0	0	0	0	0	0	0
	思考・推論・創造の力	50	0	0	0	0	0	0	50
	コラボレーションとリーダーシップ	10	0	0	0	0	0	0	10
	発表力	15	5	0	0	0	0	0	20
	学修に取り組む姿勢	10	0	5	0	0	0	5	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	生物(学)の世界	講義	新聞等マスメディアの生命に関する記事を熟読すること。	10分
3-4	生命の誕生～オパーリンの世界～	同上	同上	同上
5-6	生物と環境の変化	同上	同上	同上
7-8	化石の世界	同上	同上	同上
9-10	野生生物の世界	同上	同上	同上
11-12	クスターの世界	同上	同上	同上
13-14	DNAとは	同上	同上	同上
15	万能細胞～ヒトのiPS細胞～	同上	同上	同上
16	試験			

【科目名】		医生物科学Ⅱ		【担当教員】	平田 恒彦
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】	1-03-0020-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	qqe83zfd@snow.ocn.ne.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 来校時に対応	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
ヒトというものに対して科学的に考えてみたいな～の思いを持っていることを期待したい。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
食べ物・飲み物の持ち込みは厳禁する。講義中の無言勝手な出入りは禁ずる。 教師と学生との対話を心掛ける。 試験後回答例を提示します。					
【講義概要】					
(目的)					
リハビリテーションという場を思いながら、現実には直面する生きている人の肉体と心のあり方、それが人の生まれから生長（成長）への流れ＝赤子から老いの中で、どのような動きを見せ、人の消失へ繋がるのかを辿ってみる。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2					
(方法)					
胎児のあり方、幼児 ～ 児童、少年少女、青年、壮年、晩年への辿りの中における人の「いのち（命）」のあり（＝有り ～ 在り）様を伺う。					
【一般教育目標(GI0)】					
人として生まれ・生きる・生きていることを「あらためて」思い・考えてみて、それを自分の実生活の中に反映させられるようになること。					
【行動目標(SB0)】					
このコロナ時代にあって、人のいのち（命）についての思いを新たになされるようになること。					
【教科書・リザーブドブック】					
特に使用せずプリントを提供する。					
【参考書】					
高校の教科書・参考書、 必要な場合にはその都度紹介する。					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は本学学則規定のGAP制度に従う。 試験評価は期末試験およびレポート点等により総合的に評価する。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		85	5	5				5	100
評価指標	取り込む力・知識								0
	思考・推論・創造の力	50							50
	コラボレーションとリーダーシップ	10							10
	発表力	15	5						20
	学修に取り組む姿勢	10		5				5	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	アトムは完成した。・・・が、生まれたのだろうか？ 「いのち」、この世への息吹きとは・・・??? 胎児への問い掛け（父親からの胎児への問い掛け）	講義	新聞・マスメディアの記事等に関心を抱くこと。	10分
3-4	赤ちゃんは顔を観・読む！ 赤ちゃんの学び・・・観る聞く・・・思って・考えているのだろうか???	同上	同上	同上
5-6	聞いて・・・見て・・・の世界へ。童話・童謡の世界へ・・・。	同上	同上	同上
7-8	幼児＝子どもの・・・生長（成長）しているヒトの・・・大人の・・・世界へ・・・。	同上	同上	同上
9-10	ヒトの世界へ・・・ヒトの社会生活・・・の世界へ。	同上	同上	同上
11-12	ヒトの・・・生きものの・・・「いのち（命）」とは・・・その「いのち（命）」が・・・。	同上	同上	同上
13-14	「いのち（命）」のあること・・・「生きる～生きている」こと・・・その支え・・・へ。	同上	同上	同上
15 16	まとめ～「生きる～生きている」ことに何を思う???	同上	同上	同上

【科目名】人間支援科学Ⅰ		【担当教員】加藤 真由美
【授業区分】教養分野(自然科学)	【授業コード】1-03-0025-2	(メールアドレス) ma.kato@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 11:00～13:30(水～金)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	
【単位数】1	【コマ数】15	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目は各専門領域の内容を踏まえて人間を支援する考え方や方法を講じる。 この授業はアクティブラーニングを用います。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 講義ではグループ演習を含む。		
【講義概要】 (目的) 多職種連携による支援方法を学び、自らが他者を労り支える基礎力としてコミュニケーションスキルを身に付けていくことを目的とする。 当該科目学位授与方針等との関連性；R-1、O-1、A-1、A-2 (方法) 資料を元に、演習などを取り入れて講義を行う。		
【一般教育目標(GIO)】 幅広い専門領域からの視点から人を支援できる方法を身に付けることで、さまざまな場面に応じた対応ができる。 社会人において必要なコミュニケーションスキルを理解し、身に付ける。 【行動目標(SB0)】 講義を通じて人とのつながりに意識することができる。様々な集団の中で求められるコミュニケーションスキルを習得する。		
【教科書・リザーブドブック】 必要に応じて資料を配布する。		
【参考書】		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 授業内また授業後に実施する小テスト、課題、試験、実技により評価する。 試験・レポートのフィードバック方法：必要に応じ補講等にておこないます。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60	20			20			100
評価指標	取り込む力・知識	30	10			10			50
	思考・推論・創造の力	30	10			10			50
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	コミュニケーションの構成要素	講義	配布資料を読む	90
3.4	言語・非言語コミュニケーション	講義	配布資料を読む	90
5.6	コミュニケーションスキル：自己を知る	講義・演習	配布資料を読む	90
7.8	コミュニケーションスキル：自分の考えや気持ちを伝える	講義・演習	配布資料を読む	90
9.10	治療的関係に求められるコミュニケーションスキル(1)	講義・演習	配布資料を読む	90
11.12	治療的関係に求められるコミュニケーションスキル(2)	講義・演習	配布資料を読む	90
13.14	治療的関係に求められるコミュニケーションスキル(3)	講義・演習	配布資料を読む	90
15	まとめ	講義	全配布資料を読む	90

【科目名】人間支援科学Ⅱ		【担当教員】丁子 雄希
【授業区分】教養分野(自然科学)	【授業コード】1-03-0000-2	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	tyouji@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) メール問い合わせにて随時対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・全専攻1・2年生 ・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。作業療法士として従事してきた経験から、人間支援科学に関して講じていきます。 ・障がい等の理由により合理的な配慮が必要な場合は事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) レポートは、他に支障のない限り返却します。 生成AIの使用は禁止します。 授業はオンデマンド配信とアクティブラーニングから構成されます。		
【講義概要】 (目的) 人と人の支援方法だけでなく、ことばやモノを使った支援を体験して学ぶ。多職種からの考え方を学びながら人を支えられることを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,2 (方法) 自身の所属する専門領域以外にも関心を持つことができるように、各専門領域の教員から人を支えるための支援方法（人から人、物を使用）を演習を踏めて講義する。		
【一般教育目標(GI0)】 生活に不都合を感じている方にとって、生活支援に役立つ「モノ」とは何かについて理解する。 【行動目標(SB0)】 各生活場面における、福祉用具、自助具について説明できる。 またその効能について説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 特になし		
【参考書】 特になし		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 ・成績評価は、レポート・授業中の課題などにより総合的に評価する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				60				40	100
評価指標	取り込む力・知識			30				20	50
	思考・推論・創造の力			30					30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1、2	生活支援とは何か 生活分類について	講義、演習	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。	30
3、4	生活支援の視点 FIMを用いて	講義、演習	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。	30
5、6	ADL①に役立つモノについて 食事支援	講義、演習	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。	30
7、8	ADL②に役立つモノについて 腰部・股関節疾患の事例を通して	講義、演習	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。	30
9、10	移動に役立つモノについて 車椅子	講義、演習	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。	30
11、12	高次脳機能障害者に役立つモノについて 生活支援事例を通して	講義、演習	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。	30
13、14	運転支援に役立つモノについて 連携シートの活用事例を通して	講義、演習	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。	30
15	発達障害児に役立つモノについて 生活支援事例を通して	講義	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。	30

リハビリテーション学科

【科目名】物理学Ⅰ		【担当教員】藤本 聡
【授業区分】教養分野(自然科学)	【授業コード】1-03-0035-2	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	fujimoto.s@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15 コマ	(オフィスアワー) 月～金曜日13時00分～13時25分
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・物理が苦手な人、高校で物理を学ばなかった人に合わせて授業を行う。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・この科目は実務経験者対応科目である。 ・対面授業での遅刻は授業開始後20分まで、早退は終了20分前まで、それ以上の遅刻・早退はすべて欠席扱いとなります。 ・授業方法が映像視聴や課題の場合には、課題の提出により出席になります。課題を提出しない場合には、欠席扱いとなります。課題は、必ず指定した日時までに提出してください。 ・生成系AIの利用は禁止しています。授業内での利用は厳禁となっており、このルールに違反した場合は、学内の規程に則って、適切な措置を取ります。 【講義概要】 (目的) ・リハビリテーションに関連する物理学を学ぶことを目的にする。 ・物理学を学ぶのに、必要な数学を習得する。 ・高校で物理学を学ぶ機会がなかった学生や苦手だった学生が、リハビリテーションに必要な物理学の基礎を習得する。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性； A-2 (方法) ・教科書と配布資料などによる講義と演習を行う。 ・講義は、対面授業と映像視聴、課題による方法で行う。 ・この授業はアクティブラーニングを用います。 【一般教育目標(GI0)】 ・リハビリテーションに必要な物理学の基礎を学ぶ。 ・物理学を学ぶのに必要な数学についても学ぶ。 【行動目標(SB0)】 学習者が、リハビリテーションに関連する物理学を学び、今後の学習や臨床で活用できるようになる。 【教科書・リザーブドブック】 江原義弘、山本澄子、中川昭夫・『【PT】【OT】【PO】身体運動の理解につなげる物理学』南江堂、2015年、\2800 【参考書】 【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・出席点は評価に含みません。 ・成績評価基準は本学学則規定のGAP制度に従う。 ・期末試験の実施とポートフォリオの取り組む姿勢を総合的に評価する。 ・試験・レポートの解答の返却はおこないません。フィードバックは必要に応じ補講等にておこないます。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80					20		100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	40							40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢						20		20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	オリエンテーション 物理学を学ぶのに必要な数学①	講義(対面)・演習	予習：教科書を読んでおく。 復習：演習した内容を復習	60
3,4	物理学を学ぶのに必要な数学②	課題・演習	予習：教科書を読んでおく。 復習：演習した内容を復習	60
5,6	物理学を学ぶのに必要な数学③ なぜ物理が必要か バネの伸びと力の合成	講義(映像視聴)・演習	復習：演習した内容を復習 予習：教科書1-12pを読んでおく	60
7,8	テコの原理と第一のテコ	講義(映像視聴)・演習	復習：演習した内容を復習 予習：教科書13-19pを読んでおく	60
9,10	物理学を学ぶのに必要な数学のまとめ演習 第2のテコ・第3のテコ	講義(映像視聴)・演習	復習：演習した内容を復習 予習：教科書21-p25を読んでおく	60
11,12	輪じく・滑車・歯車	講義(映像視聴)・演習	復習：演習した内容を復習 予習：教科書27-p33を読んでおく	60
13,14	まとめ演習	講義(映像視聴)・演習	予習：教科書を読んでおく。 復習：演習した内容を復習	60
15	まとめ演習の解説	課題・演習	予習：教科書を読んでおく。 復習：まとめ演習を復習	60

[illegible]

リハビリテーション学科

【科目名】物理学Ⅱ		【担当教員】藤本 聡
【授業区分】教養分野(自然科学)	【授業コード】1-03-0040-2	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	fujimoto.s@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15 コマ	(オフィスアワー) 月～金曜日13時00分～13時25分
【注意事項】		
(受講者に関わる情報・履修条件)		
物理学Ⅰを学んだ人を対象とする。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識)		
・この科目は実務経験者対応科目である。・対面講義での遅刻は授業開始後20分まで、早退は終了20分前まで、それ以上の遅刻・早退はすべて欠席扱いとなります。・授業方法が映像視聴や課題の場合には、課題の提出により出席になります。課題を提出しない場合には、欠席扱いとなります。課題は、必ず指定した日時までに提出してください。・生成系AIの利用は禁止しています。授業内での利用は厳禁となっており、このルールに違反した場合は、学内の規程に則って、適切な措置を取ります。		
【講義概要】		
(目的)		
・リハビリテーションに関連する物理学を学ぶことを目的にする。 ・高校で物理学を学ぶ機会がなかった学生や苦手だった学生が、リハビリテーションに必要な物理学の基礎を習得する。 ・物理学Ⅰで学んだことを、生体に応用できるようにする。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性； A-2		
(方法)		
教科書と配布資料などによる講義（映像配信）と演習を行う。 対面講義で行う場合には、アクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GI0)】		
・リハビリテーションに必要な物理学の基礎を習得する。		
【行動目標(SB0)】		
学習者がリハビリテーションに関連する物理学を学び、今後の学習や臨床で活用できるようになる。		
【教科書・リザーブドブック】		
江原義弘、山本澄子、中川昭夫・『【PT】【OT】【PO】身体運動の理解につなげる物理学』南江堂、2015年、\2800		
【参考書】		
【評価に関わる情報】		
(評価の基準・方法)		
・出席点は評価に含みません。 ・成績評価基準は本学学則規定のGAP制度に従う。 ・期末試験を実施、ポートフォリオの取り組む姿勢を総合的に評価する。 ・試験・レポートの解答の返却はおこないません。フィードバックは必要に応じ補講等にておこないます。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80					20		100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	40							40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢						20		20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	物理Ⅰ 期末試験の解説 生体の中のテコ①	講義(映像視聴)・演習	復習: 演習した内容を復習 予習: 教科書37-40pを読んでおく	60
3,4	生体の中のテコ②	講義(映像視聴)・演習	復習: 演習した内容を復習 予習: 教科書41-44pを読んでおく	60
5,6	下肢に存在するテコ	講義(映像視聴)・演習	復習: 演習した内容を復習 予習: 教科書47-50pを読んでおく	60
7,8	作用・反作用, 力の分解, 斜面, 振り子, 摩擦力	講義(映像視聴)・演習	復習: 演習した内容を復習 予習: 教科書51-58pを読んでおく	60
9,10	物理学Ⅱのまとめ演習	講義(映像視聴)・演習	復習: 演習した内容を復習 予習: 教科書を読んでおく。	60
11,12	物理学Ⅱのまとめ演習の解説 物理学Ⅱの小テスト	演習	復習: 演習した内容を復習 予習: 教科書を読んでおく。	60
13,14	物理Ⅱの小テストの解説 物理ⅠとⅡの総まとめ演習	演習	復習: 演習した内容を復習 予習: 教科書を読んでおく。	60
15	総まとめ演習の解説	演習	復習: 授業の内容を復習 予習: 教科書を読んでおく。	60

[illegible]

【科目名】レクリエーション		【担当教員】上松 恵理子
【授業区分】教養分野(体育関係学)	【授業コード】1-04-0000-2	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	uematsu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 授業終了後、随時メールで応じます
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・この科目では、レクリエーションに関する知識・指導の技術を学び、学生自身のレクリエーション活動における基礎的な指導能力の向上を図ります。 ・この科目では、楽しさをおして元気な心を育てるので、休まずに出席していただきたい。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) ・この科目では、レクリエーションに関する講義とレクリエーション実技実習を中心に行います。 ・実技試験は、グループで行います。授業を通して学んだことを、レポートにして提出していただきます。筆記試験では、この授業の基礎的な内容の確認を行います。		
【講義概要】 (目的) ・レクリエーション活動に関する基本的な知識や技術等の理論を学び、将来、勤務する病院や施設等でチームで行う仕事に活かせる力をつける。 ・児童から高齢者まで幅広い対象者にして実技を通じて目的に応じた適応力を身につける。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1 (方法) ・主に、講師が作成する資料を基に、座学である理論を学びます。 ・実技実習についても、講師が作成する資料を基に、講師から指導を受けて、各種実技に関する指導の技術を学び、指導力等を高めていきます。		
【一般教育目標(GI0)】 ・レクリエーションに関する基礎的な理論・指導の技術等を踏まえ、福祉・保健・医療の現場の仕事の活動につながる知識・技術の基礎的能力を習得する。		
【行動目標(SB0)】 1) レクリエーションに関する基礎的な理論について説明できる。2) レクリエーションの機能・効能について説明できる。3) 幅広い対象者に応じたレクリエーションの企画を立てることができる。4) レクリエーション活動実習をおして実践ができる。5) レクリエーションに関する基礎的な理論・考え方を説明できる。6) レクリエーションの特性を踏まえた計画を立て、指導ができる。8) レクリエーションの実践報告をまとめ、発表することができる。		
【教科書・リザーブドブック】 資料は授業時に提示する		
【参考書】 無し		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・試験（筆記試験30%、レポート50%、実技20%）で総合的評価を行い100点満点で60点以上を合格とする。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		30	0	50	0	20	0	0	100
評価指標	取り込む力・知識	30	0	0	0	0	0	0	30
	思考・推論・創造の力	0	0	50	0	0	0	0	50
	コラボレーションとリーダーシップ	0	0	0	0	20	0	0	20
	発表力	0	0	0	0	0	0	0	0
	学修に取り組む姿勢	0	0	0	0	0	0	0	0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	オリエンテーション レクリエーションとは何か レクリエーション科目の授業の説明	講義、	予習：これまで経験したレクリエーションについての感想を考える 復習：授業の資料で指示 次の時間の予習も授業の資料で指示	30
3・4	レクリエーションの課題とポイント グループでオリジナルの作戦の立案と実践	講義、実技	授業の資料にて指示	30
5・6	自らの動きの映像を題材にポイントを学ぶ チームの改善点を議論し、作戦を修正する 修正した作戦で再度行う	講義、実技	授業の資料にて指示	30
7・8	フラッグフットボールのルールを変更し、変更に対応した作戦の修正を行う 作戦の修正を反映した動きを練習する ルール変更したゲームを行う	講義、実技	授業の資料にて指示	30
9・10	映像を元に変更したルールの対応 グループで作戦の修正を行う 作戦の修正を反映した動きを練習する 修正した作戦でレクリエーションを行う	講義、実技	授業の資料にて指示	30
11	これまで経験したレクリエーションの特徴を踏まえ、 グループ別に内容を企画する	講義、実習	授業の資料にて指示	30
12・13・14	それぞれのグループが企画した内容でレクリエーション大会を実施する	実技	授業の資料にて指示	30
15	レクリエーション大会の評価と各大会の実施報告書の作成	講義、実習	授業の資料にて指示	30

[illegible]

【科目名】		スポーツ実践	【担当教員】	伊藤 渉
【授業区分】	教養分野(体育関係学)	【授業コード】	1-04-0005-3	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	w.ito@nur05.onmicrosoft.com ※Teamsチャットより連絡してください
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 火・水・木 14:00～16:00
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 1学年前期の必修科目です。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 運動をおこないやすい服装で参加してください。 体育館で活動するため屋内用の運動シューズを持参してください。 水分補給の準備, タオル, 着替え等を持参し, 各自の体調管理, 安全管理に配慮してください。 本講義はアクティブラーニングを用います。本講義はクリッカーを用いた, 双方向授業をおこないます。 この科目は実務経験を有する教員が担当します。				
【講義概要】 (目的) スポーツ活動を通して, 人々と相互に信頼された関係を築き, 個々が意思決定する。 お互いの考えを認知・共感・理解し, 有効な関係を築くコミュニケーション能力を養う。 対象者の健康に関連した諸課題に向き合うにあたり, スポーツと健康との関係について学ぶ。 社会生活をおこなっている対象者に対して, 社会環境の中でスポーツと健康がどのように関係しているのかについて学ぶ。 当該科目と学位授与方針等との関連性: A-1, A-2 (方法) スポーツ活動の実践としての演習を主としてすすめます。 グループワーク, プレゼンテーション, ディスカッションをおこないます。 本講義のまとめとしてレポート課題を課します。				
【一般教育目標(GI0)】 良好な人間関係を築く 信頼関係の構築と協働作業を実践する スポーツと健康の関係について学ぶ スポーツ活動支援における関連職種の役割を学ぶ 障がい者スポーツ支援について学ぶ 【行動目標(SB0)】 良好な人間関係のもとでスポーツ活動をおこなうことができる スポーツ活動を協働作業として実践し, 信頼関係の構築することができる スポーツと健康の関係について考えることができる スポーツ活動支援における関連職種の役割を考えることができる 障がい者スポーツを実践し, 障がい者スポーツ支援につちえ考えることができる				
【教科書・リザーブドブック】 なし				
【参考書】 なし				
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は, 本学学則規定のGPA制度に従います。 出席点は評価に含みません。ただし, 単位取得には授業の3分の2以上の出席が必要です。 授業での取り組み, レポート課題を総合的に評価します。 レポート課題はTeamsを用いて提出します。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				40				60	100
評価指標	取り込む力・知識			10				12	22
	思考・推論・創造の力			10				12	22
	コラボレーションとリーダーシップ							12	12
	発表力			10				12	22
	学修に取り組む姿勢			10				12	22

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	スポーツと健康	講義・演習	予習：なし 復習：授業の振り返り	30
3・4	スポーツ実践活動1 バレーボール，バドミントン，卓球	講義・演習	予習：なし 復習：授業の振り返り	30
5・6	スポーツ実践活動2 ボッチャ	講義・演習	予習：なし 復習：授業の振り返り	30
7・8	スポーツ実践活動3 ウォーキング，ランニング	講義・演習	予習：なし 復習：授業の振り返り	30
9・10	スポーツ実践活動4 車いすバスケットボール	講義・演習	予習：なし 復習：授業の振り返り	30
11・12	スポーツ実践活動5 スポーツ活動の企画	講義・演習	予習：なし 復習：授業の振り返り	30
13・14	スポーツ実践活動6 スポーツ活動の運営	講義・演習	予習：なし 復習：授業の振り返り	30
15	まとめ	講義・演習	予習：なし 復習：授業の振り返り	30

【科目名】		情報処理技法Ⅰ		【担当教員】 浅海 岩生、上松 恵理子、学務課、木村 和樹	
【授業区分】		教養分野(情報)	【授業コード】	1-05-0000-1	
【開講時期】		前期	【選択必修】	必修	
【単位数】		1	【コマ数】	30	
【メールアドレス】 igasami@nur05.onmicrosoft.com uematsu@nur05.onmicrosoft.com					
【オフィスアワー】 月曜～金曜(9-17時)Teamsにて対応					
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・授業では自分のパソコンを使用し実習しますので各自のパソコンを使用してください。 ・授業での提示する教材はWindows PC(パソコン)を使用していますが、Mac,ChromeBook PCを使用しても構いません。 ・Office365に接続できるようメールアドレス・パスワードを控えておくこと(大学入学時に各学生に付与されたもの) ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・課題はMicrosoft Teamsを使用し提出してもらいます。 ・課題・テストは必要に応じTeamsを用い返却します。 ・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。主担当教員は総合病院に勤務した経験より医療施設での情報リテラシーと活用について必要とする知識を講義します。					
【講義概要】 (目的) 情報処理技法Ⅰの目的は情報処理に関わるITリテラシーやスキルを身につけることにあります。 また数理・データサイエンス・AI教育として、「情報学」(データ収集・加工・処理)、「統計学」(データ分析・解析)、AIの導入項目(総論)を学びデータサイエンティストの基礎を築いていきます。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-3 (方法) 情報リテラシー、スキルまた数理・データサイエンス・AI教育の基礎知識について講義を通じ学び、実習を行うことにより具体的方法を学習していきます。					
【一般教育目標(GI0)】 ・現代の社会人として必要な情報リテラシーやスキルの習得を目指す。 ・これからのコモンリテラシー教育の一つに位置付けされている数理・データサイエンス教育の基礎の習得を目指す。 【行動目標(SB0)】 ・データサイエンス、AIの概要を説明できる ・ビックデータを使用したデータ収集・加工・処理、データ分析・解析が行える。 ・数理・データサイエンス・AIの関連性を説明できる。 ・パソコンのセキュリティー設定が行える。 ・Office365の基本機能(Word, Excel, PowerPoint, Teams, OneDrive)を使用できる。					
【教科書・リザーブドブック】 必要に応じ資料を配布します。					
【参考書】 必要に応じ資料を配布します。					
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・出席点は評価に含みません。・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価は、期末試験およびレポート点により総合的に評価する。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		0	40	50	0	0	0	10	100
評価指標	取り込む力・知識	0	20	25	0	0	0	0	45
	思考・推論・創造の力	0	20	25	0	0	0	0	45
	コラボレーションとリーダーシップ	0	0	0	0	0	0	0	0
	発表力	0	0	0	0	0	0	0	0
	学修に取り組む姿勢	0	0	0	0	0	0	10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	#オリエンテーション #情報リテラシー(1) ・データを守る上での留意事項	浅海(講義)	・シラバスを見ておく ・データセキュリティについて復習	・10分 ・30分
2	#情報リテラシー(2) ・SNSの使用について ・Teamsの投稿・チャットの使用 ・メールの利用と注意点	浅海(講義・演習)	・SNS・メールの種類と使用時の注意事項について調べておく ・SNS・メールの使用時の注意点についてまとめる。	・15分 ・30分
3	#情報リテラシー(3) ・社会で起きている変化 ・データ・AI利用の最新動向	浅海(講義)	・AIの定義について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
4	#情報リテラシー(4) ・社会で活用されているデータ ・データ・AIの活用領域	浅海(講義)	・AIの利用領域について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
5	#情報リテラシー(5) ・データ・AI利用活用のための技術 ・データ・AI利用の現状	浅海(講義)	・AIの活用の現状について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
6	#情報リテラシー(6) ・データ・AI利用活用における留意事項 ・データを守る上での留意事項	浅海(講義)	・AIの活用の危険性について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
7	#ICTリテラシー(1) ・コンピュータの基本構造と周辺装置 ・OSの種類とアプリケーション	浅海(講義)	・パソコンの基本構造について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
8	#ICTリテラシー(2) ・電源のON,OFFとスリープモード ・文字入力方法(キーボード・手書き・音声) ・Webブラウザの操作 ・Office365の基本操作	浅海(講義・演習)	・自分のPCのキーボード操作について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分

9	#ICTリテラシー(3) Wordの基本操作(1) ・キーボード使用練習 ・文字入力の方法(ローマ字入力/全角・半角) ・Wordの起動と終了、文書の保存	上松(講義・演習)	・Wordの操作について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
10	#ICTリテラシー(4) Wordの基本操作(2) ・文書レイアウトの設定 ・フォントの設定と文字配置 ・あいさつ文の挿入とインデント	上松(講義・演習)	・Wordの操作について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
11	#ICTリテラシー(5) Wordの基本操作(3) ・罫線と表の挿入・写真と図の挿入 ・箇条書きと段落番号 ・ヘッダーフッター・印刷	上松(講義・演習)	・Wordの操作について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
12	#ICTリテラシー(6) PowerPointの基本操作(1) ・PowerPointの機能と特徴 ・スライドマスターの設定 ・アウトラインで構成を練る	上松(講義・演習)	・PowerPointの操作について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
13	#ICTリテラシー(7) PowerPointの基本操作(2) ・表紙の作成、文字入力とレイアウトの調整 ・テキストボックスの挿入、アニメーションの設定	上松(講義・演習)	・PowerPointの操作について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
14	#ICTリテラシー(8) PowerPointの基本操作(3) ・ヘッダー・フッターの編集と挿入 ・ブラフの作り方	上松(講義・演習)	・PowerPointの操作について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
15	#ICTリテラシー(9) PowerPointの基本操作(4) ・音声・動画の挿入 ・スライドの印刷 ・スライドショーの方法	上松(講義・演習)	・PowerPointの操作について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
16	#ICTリテラシー(10) PowerPointの基本操作(5) ・プレゼンテーションの操作方法 ・発表者ツールとタイミングの方法 ・発表済みファイルの保存	上松(講義・演習)	・PowerPointの操作について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
17	#ICTリテラシー(11) Excel (1) ・Excelの基本概念、データ(数値・文字)の入力 ・数式を入力する、関数の利用	浅海(講義・演習)	・Excelの基本概念について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
18	#ICTリテラシー(12) Excel (2) ・セルとの書式設定と表示形式、セルの複写・結合・挿入 ・罫線とセルの塗りつぶし、グラフの作成	浅海(講義・演習)	・Excelの書式について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
19	#ICTリテラシー(13) Excel (3) ・データベースとテーブル	浅海(講義・演習)	・データベースについて調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分

20	#ICTリテラシー(14) Excel (4) ・ピボットテーブルの使用方法	浅海(講義・演習)	・ピボットテーブルについて調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
21	#ICTリテラシー(15) Excel (5) ・Formsの利用 ・アドインの組み込み(統計ツールなど)	浅海(講義・演習)	・Formsについて調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
22	#ICTリテラシー(16) Excel (6) ・その他発展的利用方法	浅海(講義・演習)	・Excelのアドインについて調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
23	#総合演習(1) オリエンテーション ・地域の課題を公開データより収集する。 ・Excel等を用いてデータを分析する。 ・分析したデータを用い問題点・考察・提言などをP.Pでまとめる。	浅海・グループ 担当教員(講義・演習)	・総合演習のテーマについて考えておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
24	総合演習(2) テーマ決定 グループワーク	浅海・グループ 担当教員(講義・演習)	・総合演習のテーマについて考えておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
25	総合演習(3) データ収集 グループワーク	浅海・グループ 担当教員(講義・演習)	・グループ内で役割を分担し作業を行う。	・30分
26	総合演習(4) データ収集・分析 グループワーク	浅海・グループ 担当教員(講義・演習)	・グループ内で役割を分担し作業を行う。	・30分
27	総合演習(5) 分析・PPT作成 グループワーク	浅海・グループ 担当教員(講義・演習)	・グループ内で役割を分担し作業を行う。	・30分
28	総合演習(6) 分析・PPT作成 グループワーク	浅海・グループ 担当教員(講義・演習)	・グループ内で役割を分担し作業を行う。	・30分
29	総合演習(7) 分析・PPT作成 グループワーク	浅海・グループ 担当教員(講義・演習)	・グループ内で役割を分担し作業を行う。	・30分
30	総合演習(8) PPT完成 グループワーク	浅海・グループ 担当教員(講義・演習)	・グループ内で役割を分担し作業を行う。	・30分

【科目名】情報処理技法Ⅱ		【担当教員】浅海 岩生
【授業区分】教養分野(情報)	【授業コード】1-05-0005-3	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	igasami@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 月～金曜(9-17時)Teamsにて対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・授業では自分のパソコンを使用し実習しますので各自のパソコンを使用してください。 ・授業での提示する教材はWindows PC(パソコン)を使用していますが、Mac,ChromeBook PCを使用しても構いません。 ・Office365に接続できるようメールアドレス・パスワードを控えておくこと(大学入学時に各学生に付与されたもの) ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・課題はMicrosoft Teamsを使用し提出してもらいます。 ・課題・テストは必要に応じTeamsを用い返却します。 ・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。主担当教員は総合病院に勤務した経験より医療施設での情報リテラシーと活用について必要とする知識を講義します。		
【講義概要】 (目的) ・情報処理技法Ⅱでは数理・データサイエンス(DS)を学ぶ上で、データ処理・分析を自分で行えることを目的としてブロックプログラム(Scratch)と記述プログラム言語Pythonについて学びます。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性：A-3 (方法) ・プログラミングの基礎的概念を理解するためScratchを用いたブロックプログラムについて講義と演習により学びます。 ・より詳細なデータ処理と分析が行えるよう記述式プログラミング言語Pythonの使い方を講義と演習により学びます。		
【一般教育目標(GI0)】 ・データの分析と処理を独自に行ない、日常の業務や研究に活かせることを目標にプログラミングの基礎を修得します。 【行動目標(SB0)】 ・Scratch言語を使用し簡単なプログラムを作成できる。 ・Python言語を用い基本的データ処理と分析ができる。		
【教科書・リザーブブック】 必要に応じ資料を配布する。		
【参考書】 ・阿部和広 監修/横川耕二：おとなも学びたいプログラミングSCRATCH入門、エムディエヌコーポレーション \1650		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・出席点は評価に含みません。 ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価は、小テストおよびレポート点等により総合的に評価する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		0	40	50	0	0	0	10	100
評価指標	取り込む力・知識		20	25					45
	思考・推論・創造の力		20	25					45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション ・プログラミング言語の役割 Scratch (1) ・Scratchでのプログラミングの概要 ・Scratchエディタの使用方法	講義・演習	・シラバスを読んでおく ・課題の実施	・15分 ・30分
2	Scratch (2) ・スプライトと背景 ・イベントによるプログラムの実行	講義・演習	・スプライト言語にいて予習しておく ・課題の実施	・15分 ・30分
3	Scratch (3) ・アニメーションの使用方法 ・インターラクション(メッセージ)の利用	講義・演習	・スプライト言語にいて予習しておく ・課題の実施	・15分 ・30分
4	Scratch (4) ・角度の測定 ・タイマーを使用した時間の測定 ・まとめ	講義・演習	・スプライト言語にいて予習しておく ・課題の実施	・15分 ・30分
5	Python(1) ・Python言語について ・利用環境を調える。 ・Google Colaboratoryの基本操作	講義・演習	・Pythonについて予習しておく ・課題の実施	・15分 ・30分
6	Python (2) ・変数とデータ型 ・四則演算 ・注釈の書き方 ・プログラムの共有方法	講義・演習	・Pythonについて予習しておく ・課題の実施	・15分 ・30分
7	Python (3) ・書式指定出力-1 ・キーボードよりの入力	講義・演習	・Pythonについて予習しておく ・課題の実施	・15分 ・30分
8	Python (4) ・リストの利用 ・条件分岐と繰り返し処理	講義・演習	・Pythonについて予習しておく ・課題の実施	・15分 ・30分

9	Python (5) ・書式指定出力-2 ・moduleの使用と統計関数 ・乱数・日付の使用	講義・演習	・Pythonについて予習しておく ・課題の実施	・15分 ・30分
10	Python (6) ・辞書の利用 ・Pandasと配列処理1 ・Excelデータの利用1	講義・演習	・Pythonについて予習しておく ・課題の実施	・15分 ・30分
11	Python (7) ・Pandasと配列処理2 ・Excelデータの利用2	講義・演習	・Pythonについて予習しておく ・課題の実施	・15分 ・30分
12	Python (8) ・データのフィルタリング1 ・時系列データの利用1 ・グラフの作成-1	講義・演習	・Pythonについて予習しておく ・課題の実施	・15分 ・30分
13	Python (9) ・データのフィルタリング2 ・グラフの作成-2	講義・演習	・Pythonについて予習しておく ・課題の実施	・15分 ・30分
14	Python (10) ・データ分析の実際 ・インタラクティブなグラフの作成	講義・演習	・Pythonについて予習しておく ・課題の実施	・15分 ・30分
15	Python (11) ・まとめ	講義・演習	・Pythonについて予習しておく ・課題の実施	・15分 ・30分

【科目名】医療英語ベーシック		【担当教員】大平 芳則	
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】	1-06-0000-2
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択
【単位数】	2	【コマ数】	30
【メールアドレス】y.ohdaira@nur05.onmicrosoft.com			
(オフィスアワー) 授業後・教室or水曜12:40～13:30			
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) この授業はアクティブラーニングを用います。 毎回、スマホまたはPC、およびイヤフォンを必ず持参すること。 試験については、結果の返却及びその解説をもってフィードバックとする。			
【講義概要】 (目的) 医学に関連する表現について、「聞く」「読む」を中心に講義と演習を通して医学の語彙や表現に慣れる。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2 (方法) 医学用のテキストを用い、講読と音声聴取により、医学用語を身につける。テキストの課題とシャドウイングに取り組み、定着を図る。生成AI、PC、スマホ、電子辞書、紙ベースの辞書等、利用できるものは何でも活用する。 スマホまたはPCを必ず持参すること。ただし、それらは全て適切に使わなければならない。引用した場合には、文献を明記すると同時に、引用箇所を明らかにする。特に、生成AIを使用した場合は、使用した箇所が明確に分かるよう記載し、必ず自分で内容を吟味し、必要な修正を行うことが求められる。			
【一般教育目標(GIO)】 医療現場のカルテは、しばしば英語で書かれているため、それをある程度読解できることが必要である。そのために、医療現場における基礎英語運用能力を向上させる。 【行動目標(SBO)】 医療現場における基本的な言い回しを理解できるようになる、また、基礎的な医学用語を身につける。			
【教科書・リザーブドブック】 仁木久恵 Nancy Sharts-Hopko 横田まり子 Let's Listen, Speak & Learn 臨床看護英語 医学書院 2020年 1700円＋税			
【参考書】 生成AI、PC、スマホ、電子辞書、紙ベースの辞書等、利用できるものは何でも活用する。			
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 中間試験（50％）と期末定期試験（50％）により評価する。 出席点は評価に含まない。 試験については、結果の返却及びその解説をもってフィードバックとする。 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50	50						100
評価指標	取り込む力・知識	50	50						100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	オリエンテーション テキストpp.1 2 3 5 8 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
3・4	テキストpp.9 10 11 13 14 15 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
5・6	テキストpp.17 18 20 21 22 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
7・8	テキストpp.23 24 26 27 28 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
9・10	テキストpp.29 30 33 34 35 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
11・12	テキストpp.36 37 40 41 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
13・14	Review	講義	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
15・16	中間試験 解説	講義	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分

17・18	テキストpp.43 44 46 47 48 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
19・20	テキストpp.49 50 52 53 54 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
21・22	テキストpp.55 56 58 59 60 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
23・24	テキストpp.61 62 64 66 67 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
25・26	テキストpp.68 69 70 72 73 74 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
27・28	テキストpp.76 77 78 81 82 83 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
29・30	Review	講義	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分

【科目名】医療英語アドバンス		【担当教員】大平 芳則
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】1-06-0000-2
【開講時期】	前期	【選択必修】選択
【単位数】	2	【コマ数】30
【注意事項】		
(受講者に関わる情報・履修条件)		
障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識)		
この授業はアクティブラーニングを用います。 生成AI、PC、スマホ、電子辞書、紙ベースの辞書等、利用できるものは何でも活用する。ただし、それらは全て適切に使う必要がある。引用した場合には、文献を明記し、引用箇所を明らかにする。特に、生成AIを使用した場合は、使用した箇所が明確に分かるよう記載し、必ず自分で内容を吟味し、必要な修正を行うことが求められる。		
【講義概要】		
(目的)		
医学に関連する表現について、「聞く」「読む」を中心に講義と演習を通して医学の語彙や表現に慣れる。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2		
(方法)		
医学用のテキストを用い、講読と音声聴取により、医学用語を身につける。テキストの課題とシャドウイングに取り組み、定着を図る。 スマホまたはPCおよびイヤホンを使って授業を進めるので、毎回必ず持参すること。もし、それらを持参できない場合は、事前に教員に相談してください。		
【一般教育目標(GIO)】		
医療現場のカルテは、しばしば英語で書かれているため、それをある程度読解できることが必要である。そのために、医療現場における基礎英語運用能力を向上させる。		
【行動目標(SB0)】		
医療現場における基本的な言い回しを理解できるようになる、また、基礎的な医学用語を身につける。		
【教科書・リザーブドブック】		
仁木久恵 Nancy Sharts-Hopko 横田まり子 Let's Listen, Speak & Learn 臨床看護英語 医学書院 2020年 1700円＋税		
【参考書】		
生成AI、PC、スマホ、電子辞書、紙ベースの辞書等、利用できるものは何でも活用する。		
【評価に関わる情報】		
(評価の基準・方法)		
中間試験（50％）と期末定期試験（50％）により評価する。 出席点は評価に含まない。 試験については、結果の返却及びその解説をもってフィードバックとする。 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50	50						100
評価指標	取り込む力・知識	50	50						100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	オリエンテーション テキストpp.1-8 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
3・4	テキストpp.9-16 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
5・6	テキストpp.17-22 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
7・8	テキストpp.23-28 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
9・10	テキストpp.29-35 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
11・12	テキストpp.36-42 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
13・14	Review	講義	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
15・16	中間試験 解説	講義	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分

17・18	テキストpp.43-48 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
19・20	テキストpp.49-54 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
21・22	テキストpp.55-60 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
23・24	テキストpp.61-67 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
25・26	テキストpp.68-75 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
27・28	テキストpp.76-83 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
29・30	Review	講義	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分

【科目名】医療英会話ベーシック		【担当教員】Sam Suleiman	
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】	1-06-0010-2
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択
【単位数】	2	【コマ数】	30
【注意事項】			
(受講者に関わる情報・履修条件)			
障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。			
(受講のルールに関わる情報・予備知識)			
試験結果の返却及びその解説をもってフィードバックとする。			
【講義概要】			
(目的)			
医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定 4 級に関連したトピックを基に『聴く』『話す』の演習を中心とした授業を行い学外検定試験に対応できるようにする。			
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2			
(方法)			
医療福祉英語検定協会の教材で導入した基礎専門用語・表現の対話内での使用を促し、その定着を図る。ディクテーション演習により正しい発音及び聞き取り能力を向上させる。簡単な医療現場での会話をモデルに、自分で会話文が作り使用できるようにする。擬似環境における対話練習により英語を聴く・話すことに慣れる。			
【一般教育目標(GIO)】			
医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定 4 級合格レベルの英語による会話力及び聴解力獲得を目標とする。			
【行動目標(SB0)】			
様々な日常医療現場における簡単な内容の会話を聴き理解できるようになる。また同現場での基礎的な対話ができるようになる。福祉英語検定 4 級のリスニングセクションにおいて高得点をとる。			
【教科書・リザーブドブック】			
医療福祉英語検定協会出版『Let's Study Welfare English: 英語で福祉を学ぼう』及び『福祉英語専門用語集』			
【参考書】			
辞書（英和、和英）を必ず持参すること。スマートフォンの使用は禁ずる。			
【評価に関わる情報】			
(評価の基準・方法)			
試験・小テストの結果及び授業内参加度等を総合的に評価する。			
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。			
出席点は評価に含まない。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		40	40					20	100
評価指標	取り込む力・知識	40	40						80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	オリエンテーション 教科書： 第1部レッスン1、第2部1. 1	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
3-4	教科書： 第1部レッスン2、第2部1. 2	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
5-6	教科書： 第1部レッスン3、第2部1. 3	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
7-8	教科書： 第1部レッスン4、第2部1. 4	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
9-10	教科書： 第1部レッスン5、第2部1. 5	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
11-12	教科書： 第1部レッスン6、第2部1. 6	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
13-14	教科書： 第1部レッスン7、第2部2. 1	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
15-16	教科書： 第1部レッスン8、第2部2. 2	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分

17-18	教科書： 第1部レッスン9、第2部2.3	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
19-20	教科書： 第1部レッスン10、第2部2.4	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
21-22	教科書： 第1部レッスン11、第2部3.1	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
23-24	教科書： 第1部レッスン12、第2部3.2	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
25-26	教科書： 第2部3.3、3.4	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
27-28	教科書： 第2部3.3、5.4.1	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
29-30	まとめ	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分

【科目名】医療英会話アドバンス		【担当教員】Sam Suleiman
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】1-06-0015-2
【開講時期】	前期	【選択必修】選択
【単位数】	2	【コマ数】30
【メールアドレス】nur-edu@nur05.onmicrosoft.com		
(オフィスアワー) 授業後、教室にて		
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 試験結果の返却及びその解説をもってフィードバックとする。		
【講義概要】 (目的) 医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定３級に関連したトピックを基に『聴く』『話す』の演習を中心とした授業を行い学外検定試験に対応できるようにする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2 (方法) 医療福祉英語検定協会の教材で導入した３級程度専門用語・表現の対話内での使用を促し、その定着を図る。ディクテーション演習により正しい発音及び聞き取り能力を向上させる。医療現場での会話をモデルにした演習を繰り返す行い、英語による会話継続力を身に付ける。擬似環境における対話練習により英語を聴く・話すことに慣れる。		
【一般教育目標(GIO)】 医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定３級合格レベルの英語による会話力及び聴解力獲得を目標とする。 【行動目標(SBO)】 医療現場における様々な領域の知識を身に付ける。様々な医療現場における会話を聞き理解できるようになるとともに、それを会話で応用できるようになる。また同場面でのコミュニケーションを無理なく継続できるようになる。福祉英語検定３級のリスニングセクションにおいて高得点をとる。		
【教科書・リザーブドブック】 医療福祉英語検定協会出版『Let's Study Welfare English: 英語で福祉を学ぼう』及び『福祉英語専門用語集』		
【参考書】 辞書（英和・和英）を必ず持参のこと。教員を除きスマートフォンの使用は禁ずる。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 試験結果及び授業内参加度等を総合的に評価する。 成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含まない。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70						30	100
評価指標	取り込む力・知識	70							70
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							30	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	オリエンテーション 教科書： 第1部レッスン1、第2部1. 1	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
3-4	教科書： 第1部レッスン2、第2部1. 2	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
5-6	教科書： 第1部レッスン3、第2部1. 3	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
7-8	教科書： 第1部レッスン4、第2部1. 4	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
9-10	教科書： 第1部レッスン5、第2部1. 5	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
11-12	教科書： 第1部レッスン6、第2部1. 6	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
13-14	教科書： 第1部レッスン7、第2部2. 1	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
15-16	教科書： 第1部レッスン7、第8部2. 2 長文読解	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強	45分

17-18	教科書： 第1部レッスン9、第2部2. 3	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強	45分
19-20	教科書： 第1部レッスン10、第2部2. 4	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強	45分
21-22	教科書： 第1部レッスン11、第2部3. 1	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強	45分
23-24	教科書： 第1部レッスン11、第2部3. 1	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強	45分
25-26	教科書： 第1部レッスン12、第2部3. 2	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強	45分
27-28	教科書： 第3部3. 3、3. 4	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強	45分
29-30	教科書： 第3部3. 5、4. 1	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強	45分

【科目名】 解剖学・総論Ⅰ		【担当教員】 松村 博雄
【授業区分】 専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】 2-11-0000-3	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	【大学取次】 nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 木曜日、12時50分～13時20分
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 今後、医学全般を学ぶ上での基礎となるものです。「死体解剖資格」を持ち、医学部での解剖学実習を指導した経験から、局所解剖学的に人体の構造を講義します。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 中学・高校の教科書の中で、生物に関する記載を復習しておくこと。試験の正解は他に支障の無い限り発表することとします。試験・レポートは他に支障の無い限り返却します。講義のときに配布したプリントは次回以降の講義にも持参すること。講義資料の要約、レポートの草稿作成、レジュメの草稿作成、プレゼン資料の原案作成については、生成系AIの利用を許可します。使用した場合はその旨を記載してください。これ以外の場面での利用は禁止します。		
【講義概要】 (目的) 医学、医療について学ぶための基礎として解剖学、形態学を学びます。さらに比較解剖学、発生学を通して、ヒトの特徴を理解することが出来ます。これらにより、ヒトの心身機能と身体構造について説明できるようになります。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,A-2 (方法) 教科書、プリントを主に学習します。骨、筋肉、神経、脈管などを総合的に、局所解剖学的に考察し、説明ができるようにします。本科目は主として、解剖学概論、人体構造の基本、体幹の構造などを講義します。		
【一般教育目標(GI0)】 医学、医療について学ぶための基礎として、ヒトのからだ、特に体幹についてその構造や働きを理解する。		
【行動目標(SB0)】 ヒトの体幹を構成している骨格、筋肉、血管、神経について説明できる。関連する関節の構造やその運動を説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 坂井建雄/監,町田志樹/著 『解剖学 第2版』 羊土社,2023年. ¥5,800+税		
【参考書】 森 於菟/著『分担解剖学第1巻 改訂第11版』金原出版,1985年. ¥9,765 平沢 興/著『分担解剖学第2巻 改訂第11版』金原出版,1984年. ¥11,130 小川 鼎三/著『分担解剖学第3巻 改訂第11版』金原出版,1982年. ¥9,030 坂井 建雄/監訳,市村 浩一郎・澤井 直/訳『プロメテウス解剖学コアアトラス 第4版』医学書院,2022年. ¥9,500+税		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含めません。毎講義終了後、チームスを用いて小テストを出題する。期限内に解答が必須です。また、全講義終了後、試験を実施する。成績評価は、講義中に出した課題、小テストと試験トにより総合的に行う。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50	35					15	100
評価指標	取り込む力・知識	50	35						85
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							15	15

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	みずから考え、学習するということ。医学を学ぶということ。脊椎動物について。身体の組織について。骨の組織構造および脊柱について。関節の構造について。	講義		
3・4	胸郭の構造- 胸郭を構成する骨格について。筋肉・腱・靱帯の組織構造について。	講義	前回の講義の復習	30分
5・6	胸郭の構造- 胸郭を構成する筋肉について。神経組織について。脊髄神経について、筋肉と神経の関係について。	講義	前回の講義の復習	30分
7・8	腹部の筋肉とその支配神経について。横隔膜と呼吸運動について。	講義	前回の講義の復習	30分
9・10	腹壁と鼠径部の構造について。鼠径管について。腰部の筋肉について。	講義	前回の講義の復習	30分
11・12	頸部の骨格、頸部の筋肉とその支配神経について。胸郭への入り口の構造について。	講義	前回の講義の復習	30分
13・14	頸部表面に投影される三角のいろいろ。頸部の大血管について。	講義	前回の講義の復習	30分
15	背部の筋肉と脊髄神経後枝について。解剖学的な肢位、運動の軸や面について。 試験	講義と試験	前回の講義の復習	30分

【科目名】		解剖学・総論Ⅱ		【担当教員】	松村 博雄
【授業区分】		専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	2-11-0005-3	(メールアドレス)
【開講時期】		前期	【選択必修】	必修	【大学取次】 nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】		1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 木曜日、12時50分～13時20分
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
今後、医学全般を学ぶ上での基礎となるものです。「死体解剖資格」を持ち、医学部での解剖学実習を指導した経験から、局所解剖学的に人体の構造を講義します。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
中学・高校の教科書の中で、生物に関する記載を復習しておくこと。試験の正解は他に支障の無い限り発表することとします。試験・レポートは他に支障の無い限り返却します。講義のときに配布したプリントは次回以降の講義にも持参すること。講義資料の要約、レポートの草稿作成、レジュメの草稿作成、プレゼン資料の原案作成については、生成系AIの利用を許可します。使用した場合はその旨を記載してください。これ以外の場面での利用は禁止します。					
【講義概要】					
(目的)					
医学、医療について学ぶための基礎として解剖学、形態学を学びます。さらに比較解剖学、発生学を通して、ヒトの特徴を理解することが出来ます。これらにより、ヒトの心身機能と身体構造について説明できるようになります。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,A-2					
(方法)					
教科書、プリントを主に学習します。骨、筋肉、神経、脈管などを総合的に、局所解剖学的に考察し、説明ができるようにします。本科目は主として、上肢帯および上肢の解剖学を講義します。					
【一般教育目標(GI0)】					
医学、医療について学ぶための基礎として、ヒトのからだ、特に上肢帯と上肢についてその構造や働きを理解する。					
【行動目標(SB0)】					
ヒトの上肢及び上肢帯を構成している骨格、筋肉、血管、神経について説明できる。関連の関節の構造やその運動を説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
坂井建雄/監,町田志樹/著 『解剖学 第2版』 羊土社,2023年. ¥5,800+税					
【参考書】					
森 於菟/著『分担解剖学第1巻 改訂第11版』金原出版,1985年. ¥9,765 平沢 興/著『分担解剖学第2巻 改訂第11版』金原出版,1984年. ¥11,130 小川 鼎三/著『分担解剖学第3巻 改訂第11版』金原出版,1982年. ¥9,030 坂井 建雄/監訳,市村 浩一郎・澤井 直/訳 『プロメテウス解剖学コアアトラス 第4版』医学書院,2022年. ¥9,500+税					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含めません。毎講義終了後、チームスを用いて小テストを出題する。期限内に解答が必須です。また、全講義終了後、試験を実施する。成績評価は、講義中に出した課題、小テストと試験トにより総合的に行う。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50	35					15	100
評価指標	取り込む力・知識	50	35						85
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							15	15

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	上肢帯と上肢の骨格について。上肢帯の関節について。肩関節について。	講義	解剖学・総論Ⅰの復習	40分
3・4	上肢帯の筋肉について。肩甲骨の運動について。肩関節の運動について。	講義	前回の講義の復習	30分
5・6	腕神経叢について。腋窩の構成について。上肢の筋肉について。	講義	前回の講義の復習	30分
7・8	前腕の骨格について。肘関節について。肘関節の運動について。	講義	前回の講義の復習	30分
9・10	前腕の筋肉について。肘窩について。上肢の脈管について。伸筋支帯と屈筋支帯について。	講義	前回の講義の復習	30分
11・12	手の骨格について。手根管について。手関節の筋肉と運動について。	講義	前回の講義の復習	30分
13・14	手内筋について。母指球と小指球について。手指の運動について。	講義	前回の講義の復習	30分
15	橈骨神経・尺骨神経・正中神経について。指の屈曲・伸展機構について。 試験	講義と試験		

【科目名】 解剖学・総論Ⅲ		【担当教員】 松村 博雄
【授業区分】 専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】 2-11-0010-3	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 必修	【大学取次】 nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 木曜日、12時50分～13時20分
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 今後、医学全般を学ぶ上での基礎となるものです。「死体解剖資格」を持ち、医学部での解剖学実習を指導した経験から、局所解剖学的に人体の構造を講義します。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 中学・高校の教科書の中で、生物に関する記載を復習しておくこと。試験の正解は他に支障の無い限り発表することとします。試験・レポートは他に支障の無い限り返却します。講義のときに配布したプリントは次回以降の講義にも持参すること。講義資料の要約、レポートの草稿作成、レジュメの草稿作成、プレゼン資料の原案作成については、生成系AIの利用を許可します。使用した場合はその旨を記載してください。これ以外の場面での利用は禁止します。		
【講義概要】 (目的) 医学、医療について学ぶための基礎として解剖学、形態学を学びます。さらに比較解剖学、発生学を通して、ヒトの特徴を理解することが出来ます。これらにより、ヒトの心身機能と身体構造について説明できるようになります。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1、A-2 (方法) 教科書、プリントを主に学習します。骨、筋肉、神経、脈管などを総合的に、局所解剖学的に考察し、説明ができるようにします。本科目は主として、下肢帯および下肢の解剖学、上肢と下肢の比較を講義します。		
【一般教育目標(GI0)】 医学、医療について学ぶための基礎として、ヒトのからだ、特に下肢と下肢帯についてその構造や働きを理解する。 【行動目標(SB0)】 ヒトの下肢及び下肢帯を構成している骨格、筋肉、血管、神経について説明できる。関連する関節の構造やその運動を説明できる。		
【教科書・リザーブブック】 坂井建雄/監,町田志樹/著 『解剖学 第2版』 羊土社,2023年. ¥5,800+税		
【参考書】 森 於菟/著『分担解剖学第1巻 改訂第11版』金原出版,1985年. ¥9,765 平沢 興/著『分担解剖学第2巻 改訂第11版』金原出版,1984年. ¥11,130 小川 鼎三/著『分担解剖学第3巻 改訂第11版』金原出版,1982年. ¥9,030 坂井 建雄/監訳,市村 浩一郎・澤井 直/訳『プロメテウス解剖学コアアトラス 第4版』医学書院,2022年. ¥9,500+税		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含めません。毎講義終了後、チームスを用いて小テストを出題する。期限内に解答が必須です。また、全講義終了後、試験を実施する。成績評価は、講義中に出した課題、小テストと試験トにより総合的に行う。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50	35					15	100
評価指標	取り込む力・知識	50	35						85
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							15	15

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	骨盤と大腿骨について。骨盤の男女差について。骨盤の靱帯について。股関節とその運動(1)について。	講義	解剖学・総論Ⅰと総論Ⅱを復習	40分
3・4	股関節とその運動(2)について。股関節の筋肉について。	講義	前回講義の復習	30分
5・6	膝関節を構成する骨について。膝関節の構造について。膝関節の靱帯について。	講義	前回講義の復習	30分
7・8	膝関節の運動について。大腿部の筋肉とその支配神経及び大腿部の血管について。	講義	前回講義の復習	30分
9・10	上肢と下肢の比較について。腰・仙骨神経叢―坐骨神経などについて	講義	前回講義の復習	30分
11・12	足部の骨格について。足関節の靱帯について。足関節の運動について。	講義	前回講義の復習	30分
13・14	距骨下関節を構成する骨について。距骨下関節の運動について。足底の靱帯について。足弓について。	講義	前回講義の復習	30分
15	足根管について。下腿と足の筋肉について。 試験	講義と試験		

【科目名】解剖学・各論Ⅰ		【担当教員】西野 幾子
【授業区分】専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】2-11-0015-3	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 授業終了後、非常勤控室で対応。
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 理学療法学、作業療法学、リハビリテーション心理学専攻1年次に在学している学生が対象。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 就学状況確認のため、適宜小テストを行うことがあります。 小テストの結果は全て返却します。 定期試験結果については必要に応じて解説を行います。		
【講義概要】 (目的) 人体を骨、筋、神経、脈管という系統に分析、また組織学的に細胞のレベルまで分析して説明する。最終的には再び人体を二重の筒(胴体と上・下肢) - (頭部と内臓)に、またマクロからミクロまでを統合して考察、理解する。これらにより、心身機能と身体構造の理解を深める。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2,A-3 (方法) 教科書、図譜などを活用して各器官、臓器の形態学的特徴を分析、考察して理解して説明できるようにする。 本科目は主として、「循環器」、「内臓学・組織学」、「呼吸器」などを講義する。		
【一般教育目標(GI0)】 医学や医療を学ぶ上での基礎を構築するため、人体の形態や構造を理解する。		
【行動目標(SB0)】 人体を構成する細胞・組織について、その構成や特徴を説明できる。 人体の内臓の構成や、諸器官について、その形態や構造を説明できる。		
【教科書・リザーブブック】 東洋療法学校協会編教科書 解剖学 第2版、東洋療法学校協会、医歯薬出版、2014年、\5,900+税		
【参考書】 藤田恒夫、入門人体解剖学 改訂第5版、南江堂、2012年、\5,000+税		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含みません。 成績評価は、期末試験および小テストにより総合的に評価する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90	10						100
評価指標	取り込む力・知識	90	10						100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	人体の細胞： 細胞の基本的な形態と構成 細胞の活動 人体に存在する様々な細胞	講義	講義内容の復習 配布レジュメの内容の理解	40分
3・4	人体の組織： 上皮組織と腺組織 種類と人体における分布	講義	講義内容の復習 配布レジュメの内容の理解	40分
5・6	人体の組織： 支持組織 筋組織 神経組織	講義	講義内容の復習 配布レジュメの内容の理解	40分
7・8	循環器系： 循環器系の構成 心臓の形態と構造	講義	講義内容の復習 配布レジュメの内容の理解	40分
9・10	循環器系： 血管の基本構造 大動脈と主な枝	講義	講義内容の復習 配布レジュメの内容の理解	40分
11・12	循環器系： 静脈系 胎児循環 リンパ管系とリンパ性器官	講義	講義内容の復習 配布レジュメの内容の理解	40分
13・14	呼吸器系： 外鼻と鼻腔 咽頭 喉頭	講義	講義内容の復習 配布レジュメの内容の理解	40分
15	呼吸器系： 気管 肺と胸膜	講義	講義内容の復習 配布レジュメの内容の理解	40分

【科目名】		生理学Ⅰ	【担当教員】	山口 賢一
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	2-11-0030-3	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	kenbo@med.niigata-u.ac.jp または kenbo2@gmail.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 随時メールにて質問・相談に対応する
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 高等学校で生物を履修していない学生は、高校生物の教科書、または参考書を使い、自ら学習して、生理学を理解する上で必要な基礎知識を補って下さい。不安な場合はいつでも相談に応じます。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 他の受講学生の迷惑となる私語は厳に慎んで下さい。注意しても守れない場合は、退室を求めることがあります。 試験結果・レポートは他に支障をきたさない場合に限り返却します。				
【講義概要】 (目的) 生体が営む複雑で巧妙な機能がどのようなしくみで成り立っているのかを理解する学問が生理学である。正常な生体機能を維持するための水分調節、血液、心臓循環系、老廃物排泄などのしくみを学んだ後、これらを調節する神経系と内分泌系の役割を学習する。これらの学習を通して、身体の成分や構造と心身の機能を総合的に理解することを目標とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2				
(方法) 「身近に起こる生理現象がなぜ生じるのか」を提示して学生に考えさせ、授業の疑問点や質問等を時間ごとに一人一人に書いて貰う。小テストも随時実施する。毎時間その結果を確認し、学生の理解度と授業の進展速度の適否を判断する。理解の足りない点や重要事項は反復して説明する。本科目では、主に、「体液の種類や性質とその調節」、「血液の成分と働き」、「心臓循環系の成り立ちと機能、その調節」、「泌尿器官による老廃物の排泄」などを重点的に講義する。				
【一般教育目標(G10)】 人体のメカニズムを学習し、専門分野の学習が円滑に行えるための知識を習得する。				
【行動目標(SB0)】 生理学を学ぶ意義、ホメオスタシスと病気の関わり、体液の性質と調節、血液の成分とそれらの働き、心臓血管系、泌尿器系の役割などについて説明できること。				
【教科書・リザーブブック】 内田さえ・鍵谷方子・上田晃・原田彰広 著 「人体の構造と機能 第6版」 医歯薬出版社 \3,300 (税込み 以下同) ゴロー 著・大和田潔 監修 「解剖生理学 超速! ゴロ勉強」 永岡書店 \1,650				
【参考書】 貴邑 富久子・根来 英雄 著 「シンプル生理学(改訂第8版)」 南江堂 \3,300 高松研・堀内ふき 監修 「生体のしくみ 標準テキスト 第3版」 医学映像教育センター \4,180 田中越郎 「イラストで学ぶ生理学 第4版」 医学書院 \2,970 (税込み)				
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 成績評価は、期末試験成績、出欠の状態や学習意欲などを総合的に評価して行う。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60	15	5				20	100
評価指標	取り込む力・知識	50	5						55
	思考・推論・創造の力	10		5					15
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢		10					20	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	生理学とはどんなことを学ぶ教科であるのか、大学でどのような姿勢で生理学を学ぶのか、ヒトが生きているとはどういうことか、器官分化と機能協調の重要性や病気の意味を考える。	講義 (担当山口)	化学エネルギー, ADP, ATP, 三大栄養素, TCA回路, β 酸化, 活性酸素, 生物学的仕事, 内部環境, 細胞外液, 組織液, リンパ, 器官分化, 恒常性の維持。	15分
3・4	体にある水(体液)の種類、組織液(細胞外液)と細胞内液の性質、成分表示の表し方や単位、細胞内外の電解質の種類と働き、浸透圧とは、組織液移動の要因、体液バランスの異常に由来する病気。	講義 (担当山口)	細胞内液・細胞外液, 組織液・間質液, 電解質・非電解質, モル濃度, 当量, 半透膜, 浸透圧, 氷点降下度, オスモル, 一次脱水, 二次脱水, 浮腫。	15分
5・6	血液の成分とそのはたらき-1。 血漿と血清の違い、それぞれの成分、赤血球の働き、赤血球の産生と破壊、白血球の種類、白血球の働き、アレルギー、抗原抗体反応。	講義 (担当山口)	ヘマトクリット, 赤血球, ヘモグロビン, メタヘモグロビン, CO中毒, 酸素解離曲線とその意味, 食球, 走化性, 血管外遊走, リンパ球, 自然免疫, 獲得免疫, T細胞, B細胞, 抗体, ワクチン。	15分
7・8	血液の成分とそのはたらき-2。 血小板の特徴と機能、止血作用と血液凝固反応、血小板の係わる病気、血液型の種類と特徴、輸血や臓器移植に起因する問題。	講義 (担当山口)	血液凝固, 線溶, 止血作用, 凝固因子の種類と働き, 血友病, 塞栓症, ABO血液型, 交差試験, Rh血液型, 胎児赤芽球症, MHC抗原。	15分
9・10	心臓循環系-1。 心臓の構造、左右の心臓を介する血液循環系、心臓興奮の自動能、興奮伝導のしくみ、心筋の性質、伝導の異常と心臓の病気、心電図と心音、聴診法、心臓のポンプ作用と心臓弁の働き。	講義 (担当山口)	ペースメーカー, 洞結節, 前電位, 房室結節, 刺激伝導系, 期外収縮, 代償性休止, 不整脈, 伝導ブロック, 加速伝導, 心電図記録法, 心電図波形と意味, 心拍出量の低下とその要因。	15分
11・12	心臓循環系-2。 心臓拍動に伴う諸現象の変化とそれらの機能連関、全身の血管系の概観と血流配分、血管の構造と種類、各血管系の特徴と働き、動脈の性質と血圧の測定、毛細血管・静脈の作用。	講義 (担当山口)	房室弁, 動脈弁, 心房圧, 心室圧, 等容性収縮期, 等容性拡張期, 心音, 心不全, 弾性血管, 抵抗血管, 高血圧, 交換血管, 容量血管, 肺循環, 冠状循環, 脳の血管系。	15分
13・14	心臓循環系-3。 体循環系・冠状循環系・肺循環系・脳血管系の成り立ち、特徴と機能、心血管機能の調節・血管内皮細胞・血管障害と病気、リンパ管系の成り立ちと機能、脳脊髄液、酸塩基平衡のしくみ。	講義 (担当山口)	冠状動脈口, 肺動脈楔入圧, 肺高血圧, 圧受容器, 化学受容器, 伸展受容器, 自律神経, 血管運動中枢, 一酸化窒素, 血管調節ホルモン, リンパ流, 脳室, 脳脊髄液。	15分
15	腎臓の構造と機能。 腎の機能単位、原尿の生成と糸球体毛細血管圧、糸球体濾過量と濾過率、尿細管や集合管の働きとその調節、クリアランス、尿の性状と排尿のしくみ、利尿薬の作用。	講義 (担当山口)	ネフロン, 糸球体, ボーマン嚢, 原尿, 近位・遠位尿細管, 集合管, 尿管, レニン・アンジオテンシン系, アルドステロン, 抗利尿ホルモン(ADH), 利尿薬, 尿素, カルシウム回路, 排尿反射。	10分

【科目名】生理学Ⅱ		【担当教員】山口 賢一
【授業区分】専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】2-11-0035-3	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	kenbo@med.niigata-u.ac.jp (山口) または kenbo2@gmail.com (山口)
【単位数】1	【コマ数】15コマ	(オフィスアワー) 随時メールにて質問・相談に対応する
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 生理学Ⅰを履修すること 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 他の受講学生の迷惑となる私語は厳に慎んで下さい。注意しても守れない場合は、退出を求めることがあります。 試験結果・レポートは他に支障をきたさない場合に限り返却します。		
【講義概要】 (目的) 生体が営む複雑で巧妙な機能がどのようなしくみで発現するのかを理解する学問が生理学である。正常な生体機能を維持するため、脳や脊髄などの中枢神経系や末梢神経系、および体内の様々な組織から放出されるホルモンやオータコイドなどが、体内でどのような調節作用を演じているのかを学修する。さらに、感覚機能や運動機能が、神経や筋肉のどのような働きによって達成されるのかを修得する。これらにより、身体の構造と心身の機能について、総合的な理解を深化させることを目標とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2 (方法) 「身近に起こる生理現象がなぜ生じるのか」を提示して学生に考えさせ、授業の疑問点や質問等を時間ごとに一人一人に書いて貰う。小テストも随時実施する。毎時間その結果を確認し、学生の理解度と授業の進展速度の適否を判断する。理解の足りない点や重要事項は反復して説明する。本科目では、主に、「神経系の構造と機能」、「内分泌器官とホルモンの作用」、「筋肉とその収縮のメカニズム」などを重点的に講義する。		
【一般教育目標(GI0)】 人体のメカニズムを学習し、専門分野の学習が円滑に行えるための知識を習得する。		
【行動目標(SB0)】 神経系の成り立ち・構造と機能、全身の内分泌器官の種類と各器官から分泌されるホルモンの作用、体を司る筋肉の分類・特徴・収縮の機構、感覚の種類などについて説明できること。		
【教科書・リザーブブック】 内田さえ・鍵谷方子・上田晃・原田彰広 著 「人体の構造と機能 第6版」 医歯薬出版社 \3,300 (税込み 以下同) ゴロー 著・大和田潔 監修 「解剖生理学 超速! ゴロ勉」 永岡書店 \1,650		
【参考書】 貴邑 富久子・根来 英雄 著 「シンプル生理学(改訂第8版)」 南江堂 \3,300 高松研・堀内ふき 監修 「生体のしくみ 標準テキスト 第3版」 医学映像教育センター \4,180 田中越郎 「イラストで学ぶ生理学 第4版」 医学書院 \2,970 (税込み)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 成績評価は、期末試験成績、出欠の状態や学習意欲などを総合的に評価して行う。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60	15	5				20	100
評価指標	取り込む力・知識	50	5						55
	思考・推論・創造の力	10		5					15
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢		10					20	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	神経系の構造と機能-1。神経単位、興奮の発生と伝導のしくみ、シナプス伝達と受容体、神経伝達物質の種類と作用。	講義 (担当山口)	膜電位、脱分極、過分極、イオンチャンネル、躍動伝導、EPSP、IPSP、シナプス顆粒、エクソサイトosis、シナプス前膜、シナプス後膜、神経伝達物質受容体。	15分
3・4	神経系の構造と機能-2。人体の神経系の成り立ちと構造的・機能的な神経の分類、末梢神経系と中枢神経系、体性神経系・自律神経系の成り立ちと働き。	講義 (担当山口)	脊髄、白質、灰白質、前索、側索、後索、脊髄神経、脊髄神経節、脳神経、体性神経、感覚神経、運動神経、自律神経、節前神経、節後神経。	15分
5・6	神経系の構造と機能-3。脊髄と脳の構成、各領域区分の構造と働き、脳波の記録と波形の分類・意味、睡眠の状態と病気に伴う脳波の変化。	講義 (担当山口)	脳幹、延髄、橋、中脳、小脳、視床、視床下部、神経核、大脳皮質、大脳辺縁系、大脳基底核、脳波、脳幹網様体、徐波睡眠、逆説(レム)睡眠。	15分
7・8	内分泌系とホルモンの作用-1。体内にある調節物質の種類と分類、内分泌器官の部位と種類、ホルモンの種類と構造的分類、ホルモン受容体の種類と特徴、ホルモン分泌の調節パターン。	講義 (担当山口)	細胞膜受容体、細胞内受容体、セカンド・メッセンジャー、ペプチド、アミン、アミノ酸、ステロイド、松果体ホルモン、視床下部ホルモン、正中隆起、下垂体門脈、前葉ホルモン、後葉ホルモン。	15分
9・10	内分泌系とホルモンの作用-2。甲状腺、副甲状腺、膵島、副腎から分泌されるホルモンの種類と作用機構。	講義 (担当山口)	サイロキシン、T3、T4、基礎代謝、産熱、上皮小体、カルシトン、パルソルモン、ランゲルハンス島、インスリン、グルカゴン、ソマトスタチン、副腎皮質、副腎髄質、血糖調節、電解質調節。	15分
11・12	内分泌系とホルモンの作用-3。腎臓、性腺、心臓、消化管、その他の組織から分泌されるホルモンやホルモン類似物質の種類と作用。	講義 (担当山口)	コルチコイド、カテコラミン、レニン・アンジオテンシン系、心房性ナトリウム利尿ホルモン、アンドロゲン、エストロゲン、hGG、hPL、オクタコイド、プロラクチン、ヒスタミン、消化管ホルモン。	15分
13・14	筋肉とその収縮機構-1。筋の分類と特徴、全身の骨格筋、骨格筋の命名法・各部の名称・筋繊維の分類、骨格筋の興奮(活動電位)と収縮の連関、骨格筋の分子構造と収縮のメカニズム。	講義 (担当山口)	横紋筋、平滑筋、赤筋、白筋、ミオグロビン、単収縮、強縮、等尺性収縮、等張性収縮、終盤、ニコチン受容体、筋電図、アクチン、ミオシン、筋小胞体、カルシウム、トロポニン、ATP、ADP。	15分
15	筋肉とその収縮機構-2。平滑筋収縮のメカニズム、筋収縮とエネルギーの産生・貯蔵、脊髄を介する筋反射の種類と神経性調節、脳による筋運動の調節。	講義 (担当山口)	カルモジュリン、ミオシン軽鎖、解糖系、クエン酸回路、クレアチン燐酸、伸張反射、筋紡錘、拮抗抑制、内臓反射、屈曲反射、交差性伸展反射、間脳・中脳・延髄・脊髄動物。	10分

【科目名】	生理学Ⅲ		【担当教員】	宮岡 洋三	
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	2-11-0040-3		
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修		
【単位数】	1	【コマ数】	15		
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
生理学Ⅰ、同Ⅱの単位履修。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
私語は他受講者の迷惑となるので、厳に慎んでください。注意しても守れない場合には、退出を求める可能性があります。 なお、特段の事情がなければ、試験結果（答案用紙）は返却します。					
【講義概要】					
(目的)					
生体が営む複雑で巧妙な機能がどのような機序（メカニズム）で生じるのかを考えるのが生理学である。「生理学Ⅰ、同Ⅱ」では、主に「体液、水・電解質・浸透圧の調節、血液、心臓と血管の働き、腎臓の機能、神経機能の概要、内分泌器官とホルモンの作用、筋肉と運動」について学んだ。「生理学Ⅲ」では、主に「呼吸機能、消化・吸収機能、栄養・代謝機能、体温調節機能」について学ぶ。これらにより、身体構造を基礎とした心身機能を理解する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2,A-3					
(方法)					
各時間の講義内容中で、どこが「核となる内容」なのかを意識しながら授業を進める。また、生理学は「積み重ね」の学問であり、先に「生理学Ⅰ、同Ⅱ」で学んだ内容が、「生理学Ⅲ」でもしばしば出てくる。既習内容の確認をするため、できるだけ頻繁に「生理学Ⅰ、同Ⅱ」の質問も交えて授業を展開していく。なお、授業中には理解・記憶を確かめるために随時質問をし、その回答は成績評価に反映する（下記の【評価に関わる情報】（評価の基準・方法）を参照）。					
【一般教育目標(GI0)】					
・人体機能の機構（メカニズム）を学習し、専門分野の学習が円滑に行えるための基礎知識を修得する。					
【行動目標(SB0)】					
・呼吸機能、消化・吸収機能、栄養・代謝機能、体温調節機能について説明できる。					
【教科書・リザーブブック】					
上田晃・内田さえ・鍵谷方子・原田彰宏著「人体の構造と機能（第6版）」、医歯薬出版、\3,300					
【参考書】					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 成績評価は、小試験と期末試験の得点によっておこなう。小試験は口頭による質問への回答をもって代える。なお、小試験と期末試験の得点割合はそれぞれ10%と90%とする。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90						10	100
評価指標	取り込む力・知識	75							75
	思考・推論・創造の力	15							15
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	呼吸機能-1:呼吸器系の構造、呼吸運動、肺容量、気道抵抗	講義	気道と肺、吸息筋・呼息筋、肺胞内圧・胸腔内圧、肺容量、死腔量、1秒率。	15分
2	呼吸機能-2:肺のガス交換、血液ガス分圧の変化	講義	拡散現象、肺胞換気量、ガス分圧、物理的溶解、化学的溶解。	15分
3	呼吸機能-3:血液ガス(酸素、二酸化炭素)の運搬と交換	講義	ヘモグロビン、酸素解離(結合)曲線、重炭酸イオン。	15分
4	呼吸機能-4:呼吸の神経調節、気道の防御反射	講義	呼吸中枢、ヘリング-ブローエル反射、機械受容器、くしゃみ、咳嗽	15分
5	呼吸機能-5:呼吸の化学性調節、異常呼吸	講義	末梢化学受容器、中枢化学受容野、呼吸の頻度・深度調節、チェーン-ストークス型呼吸、ビオー呼吸。	15分
6	自律神経機能 交感神経系・副交感神経系の構造と機能(一部「生理学Ⅰ、Ⅱ」の復習)	講義	二重神経支配、相反作用、緊張作用、エネルギー-消費的作用、エネルギー-蓄積的作用。	15分
7	消化と吸収-1:消化器の構造と機能概要	講義	各器官の配置、横紋筋と平滑筋、消化管の構造、実質臓器の構造。	15分
8	消化と吸収-2:消化管の運動	講義	咀嚼・嚥下、分節運動、蠕動運動、胃-大腸反射、排便調節。	15分

9	消化と吸収-3：消化液の分泌	講義	唾液・胃液・腸液・膵液・胆汁分泌、各種消化酵素の働き。	15分
10	消化と吸収-4：消化管運動と消化液分泌の調節機構	講義	神経性調節（内在神経系、外来神経系）、液性調節（各種消化管ホルモン）。	15分
11	消化と吸収-5：三大栄養素（糖質・タンパク質・脂質）の吸収	講義	小腸絨毛、円柱上皮細胞、共輸送担体、単糖、アミノ酸、毛細血管、トリグリセリド、カイロミクロン、リンパ管。	15分
12	栄養と代謝-1：栄養素の摂取と欠乏、無機質、ビタミン類。	講義	異化・同化、五大栄養素、欠乏症、必須アミノ酸、必須脂肪酸、ブドウ糖、グリコゲン、遊離脂肪酸、糖新生。	15分
13	栄養と代謝-3：物質代謝とエネルギー代謝、運動エネルギー	講義	中間代謝、吸収期、空腹期、熱量測定、燃焼熱、基礎代謝量、活動代謝量、エネルギー所要量、特異動的作用。	15分
14	体温調節機能-1：体温の各種変動、熱産生、熱放出	講義	日内変動、季節変動、性ホルモン、輻射・伝導・対流。	15分
15	体温調節機能-2：体温調節中枢（視床下部）、調節機構	講義	ふるえ、温熱性発汗、気化熱、視床下部、セトポイント。	15分

【科目名】 神経生理学Ⅰ		【担当教員】 黒瀬 雅之
【授業区分】 専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】 2-11-0050-3	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 必修	kurose@iwate-med.ac.jp
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 授業開講日、非常勤控室で対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) この科目では、30分以上で遅刻となります。 試験結果については、神経生理学Ⅱの開講日に非常勤控え室にて対応しますが、事前に学務課にてアポイントメントをお願いします。講義内容に関する質問には適宜対応しますが、メールでの回答が困難なことが多く、神経生理学Ⅱの開講日に非常勤控え室または講義室にて対応します。		
【講義概要】 (目的) 生理学は生命現象のメカニズムを解明する学問であり、その中で特に神経系が関与する生体機能について学習する。講義では、細胞の機能から始まり、生体内での情報の伝達のKey Playerとなる電気信号：活動電位の発生メカニズムを段階を追って理解する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2 (方法) 生体機能の円滑な遂行の基本となる神経機構の存在と背景にある細胞環境を中心としてパソコンを用いたプレゼンテーションと動画などを交えて授業を展開する。受講者には、能動的な講義参加を促すように講義プリントを配布し、プリントに必要な項目や図を記入させる。		
【一般教育目標(GI0)】 すべての生体現象の基盤となる細胞の特性、そして細胞周囲の環境、入力と出力となる活動電位の発生機序、発生した活動電位の情報伝導、そして上位中位に至るまでのシナプスでの情報伝達機構などの生理学における重要な基本的事項を理解する。 【行動目標(SB0)】 ・ 静止膜電位とその発生機構を説明できる ・ 膜電位の発生機序を物理化学的に説明出来る ・ 活動電位の発生と興奮伝導のしくみを説明出来る ・ 無髄および有髄神経における活動電位の伝導機構を説明できる ・ シナプスにおける伝達機構を説明出来る。		
【教科書・リザーブドブック】 大地 陸男著：「生理学テキスト（第9版）」文光堂、2022年 角田 亘、後藤 純信（編集）：「生理学（Crosslink basic リハビリテーションテキスト）」メジカルビュー社、2022年		
【参考書】 高松研、堀内ふき監修：「生体のしくみ標準テキスト（第3版）」株式会社医学映像教育センター		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・ 成績評価基準は、本学学則規定のGPA規定に従う。 ・ 成績評価は、試験(90%)と授業態度と出席数を含めた平常点（5%）により総合的に評価する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90						10	100
評価指標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造の力	30							30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	0						10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	生理学総論・神経総論 生理学という学問を学ぶ意義を理解する。情報処理機構の主役である神経系の役割を理解する。	講義・黒瀬	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 15分 復習 15分
2	膜電位の構成と活動電位① 神経系の主役となる電気信号の成り立ちを理解する。細胞の構造と機能を理解する。	講義・黒瀬	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 15分 復習 15分
3	膜電位の構成と活動電位② 細胞が有するイオンチャネルとポンプの構造と機能を理解する。	講義・黒瀬	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 15分 復習 15分
4	膜電位の構成と活動電位③ 細胞の周囲環境である細胞外液と内液を学び、イオン構成を理解する。	講義・黒瀬	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 15分 復習 15分
5	膜電位の構成と活動電位④ 活動電位が発生するまでの課程を順を追って学び、活動電位の各相を理解する。	講義・黒瀬	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 15分 復習 15分
6	神経細胞の構造と機能① 活動電位を伝達する神経細胞の解剖学的構造を学び、神経細胞の特徴を概説できる。	講義・黒瀬	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 15分 復習 15分
7	神経細胞の構造と機能② 神経細胞の主たる仕事である情報の伝搬方法を学び、興奮伝導の3原則を理解する。	講義・黒瀬	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 15分 復習 15分
8	シナプスでの情報伝達① 神経細胞間のつなぎ目に位置するシナプスの解剖学的特徴を理解する。	講義・黒瀬	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 15分 復習 15分

9	シナプスでの情報伝達② 主役となる神経伝達物質と受け手となる受容体の種類を列挙し、伝達過程を理解する。	講義・黒瀬	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 15分 復習 15分
10	シナプスでの情報伝達③ シナプスでの情報伝達の修飾機構について、薬剤や実例を使って理解する。	講義・黒瀬	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 15分 復習 15分
11	感覚総論 生体反応を誘発する各種感覚の種類と受容器の種類を学び、感覚受容の過程を概説できる。	講義・黒瀬	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 15分 復習 15分
12	聞こえる感覚：聴覚受容 関連する感覚器の解剖学的特徴を学び、振動が電気信号に変換されるまでの過程を理解する。	講義・黒瀬	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 15分 復習 15分
13	膜電位に関する知識の確認 生体での電気信号の発生と伝達に間する知識の再確認を行う。	講義・黒瀬	予習：配付された講義資料を読み直して知識の再確認を行う。	予習 30分 復習 30分
14	シナプスでの情報伝達に関する知識の確認 生体での電気信号の発生と伝達に間する知識の再確認を行う。	講義・黒瀬	予習：配付された講義資料を読み直して知識の再確認を行う。	予習 30分 復習 30分
15	神経生理学Ⅰまとめ	演習・黒瀬	予習：演習問題を用いて知識の再確認を行う。	予習 60分

【科目名】 神経生理学Ⅱ		【担当教員】 黒瀬 雅之、山村 健介
【授業区分】 専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】 2-11-0055-3	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 必修	kurose@iwate-med.ac.jp
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 授業開講日、非常勤控室で対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 神経生理学Ⅰを履修していること。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) この科目では、30分以上で遅刻となります。 講義内容に関する質問には適宜対応しますが、メールでの回答が困難なことが多く、神経生理学Ⅱの開講日に非常勤控え室または講義室にて対応します。		
【講義概要】 (目的) 生体は、環境の変化に対して適応する。このような適応は、感覚・認知により環境変化を捉え、神経系での情報処理された結果、適切な運動・行動・自律反応を起こすことに基づいている。本講義では、このような神経系における情報処理と機能発現の基礎を学ぶ。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2 (方法) 神経生理学Ⅰで学んだ神経機構を基礎として、円滑な生体機能を営む上で重要となる背景にある神経機構を中心に、パソコンを用いたプレゼンテーションと動画などを交えて授業を展開する。受講者には、能動的な講義参加を促すように講義プリントを配布し、プリントに必要な項目や図を記入させる。		
【一般教育目標(GIO)】 生体機能の円滑な遂行を理解するために、神経生理学Ⅰで学習した内容を基盤として、各種感覚情報の発生と伝達そして運動機能発現に至る処理機構を理解する。		
【行動目標(SB0)】 ・感覚（特殊感覚と体性感覚）受容のメカニズムを説明できる ・脊髄の構造と各種脊髄反射を概説できる ・姿勢制御のしくみを概説できる ・大脳皮質・小脳・大脳基底核による運動制御を概説できる ・脳波波形の種類を列挙できる・覚醒・睡眠と脳波を関連づけることができる		
【教科書・リザーブドブック】 大地 陸男著：「生理学テキスト（第9版）」文光堂、2022年 角田 亘、後藤 純信（編集）：「生理学（Crosslink basic リハビリテーションテキスト）」メジカルビュー社、2022年		
【参考書】 高松研、堀内ふき監修：「生体のしくみ標準テキスト（第3版）」株式会社医学映像教育センター		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は、本学学則規定のGPA規定に従う。 ・成績評価は、試験(90%)と授業態度と出席数を含めた平常点（5%）により総合的に評価する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90						10	100
評価指標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造の力	30							30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	0						10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	脳の概要 脳の区分を学び、感覚・運動との関連を理解する。	講義・山村	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 15分 復習 15分
2	運動系① 脊髄の構造を学び、前角から出力される運動ニューロンの特性を理解する。	講義・山村	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 15分 復習 15分
3	運動系② 2大脊髄反射である伸張反射と屈曲反射の神経機構を学び、反射の意義を理解する。	講義・山村	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 15分 復習 15分
4	運動系③ 2大脊髄反射である伸張反射と屈曲反射の神経機構を学び、反射の意義を理解する。	講義・山村	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 15分 復習 15分
5	運動系⑤ 大脳皮質による運動調節を理解する。	講義・山村	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 15分 復習 15分
6	運動系⑥ 大脳基底核・小脳による運動調節を理解する。	講義・山村	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 15分 復習 15分
7	脳波記録 脳の活動を可視化する脳波記録の手法と記録される波形について理解する。	講義・山村	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 15分 復習 15分
8	覚醒と睡眠 脳波記録から検出できる覚醒と睡眠の特徴を理解する。	講義・山村	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 15分 復習 15分

9	触圧感覚の情報処理機構 触圧刺激を電気信号に変換する過程を学び、触圧 覚の情報処理について理解する。	講義・黒瀬	予習：該当する項目を教科書にて参 照 復習：講義資料の重要事項に対する 知識の再確認	予習 15分 復習 15分
10	温度感覚の情報処理機構 温度刺激を電気信号に変換する過程を学び、温冷 覚の情報処理について理解する。	講義・黒瀬	予習：該当する項目を教科書にて参 照 復習：講義資料の重要事項に対する 知識の再確認	予習 15分 復習 15分
11	痛覚の末梢情報処理機構 末梢部での侵害刺激受容を学び、「痛み」のメカ ニズムを理解する。	講義・黒瀬	予習：該当する項目を教科書にて参 照 復習：講義資料の重要事項に対する 知識の再確認	予習 15分 復習 15分
12	固有感覚の情報処理機構 筋紡錘の構造と機能を学び、固有感覚の情報処理 について理解する。	講義・黒瀬	予習：該当する項目を教科書にて参 照 復習：講義資料の重要事項に対する 知識の再確認	予習 15分 復習 15分
13	運動機能に関する知識の再確認を行う。	講義・黒瀬	予習：該当する項目を教科書にて参 照	予習 60分 復習 60分
14	一般的な体性感覚である触圧・温度・痛覚・固有 感覚についての知識の再確認を行う。	講義・黒瀬	予習：該当する項目を教科書にて参 照	予習 60分 復習 60分
15	神経生理学Ⅱまとめ	演習・黒瀬	予習：該当する項目を教科書や講義 時の配付資料を参照して行う。また 、演習問題を用いて知識の再確認を 行う。	予習 60分

【科目名】	医学概論		【担当教員】	鈴木 薫
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	2-11-0065-3 (メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択 nur-edu@nur05.onmicrosoft.com (非常勤取次用アドレス)	
【単位数】	1	【コマ数】	15 (オフィスアワー) メール質問・相談可	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 現在の臨床医学を学ぶ上で基礎となる科目である。確実な知識を得ることが必要である。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 中学・高校時代に学習した生物学などの知識と結び付けて理解してほしい。これらの科目を復習しておくことが望ましい。				
【講義概要】 (目的) リハビリテーション分野だけでなく、医学及び医療に関わる専門職業人として、医の本質について理解を深め、幅広い視野をもった医療従事者としての基礎知識を身につける。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2 (方法) 健康の概念や疾病・障害の概念を中心に医学の発展や将来などについて、講義を行う。				
【一般教育目標(GIO)】 医学の目指すものは何かを考え、生命の尊厳性、神秘性を実感する。健康がどのように障害され、どうしたら、予防や回復が図れるか、理解を深める。また、疾病の自然史を理解する。さらに、社会医学的なことがらについて理解する。				
【行動目標(SBO)】 医学・医療の本質について説明できる。病むという状態がどのようにして起こるのか、宿主要因と環境要因の関わり合いで生じることを理解する。社会医学的な事象を理解する。				
【教科書・リザーブドブック】 小橋元、近藤克則、黒田健司研二、千代豪昭、学生のための医療概論、医学書院、2020年2月、\3,000（税別）				
【参考書】				
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 本学学則規定のGPA制度に従う。本講義に関する記述式試験を実施する。100点満点で60点以上を合格とする。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70						30	100
評価指標	取り込む力・知識	70							70
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							30	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	健康・病気・医学の体系	講義		
3・4	病気の原因	講義		
5・6	病気による身体の変化	講義		
7・8	病気の診断	講義		
9・10	病気の治療とリハビリテーション	講義		
11・12	病気の予防	講義		
13・14	新しい医療システム	講義		
15	医学および看護の生命へのアプローチ、衛生統計	講義		

【科目名】 公衆衛生学Ⅰ		【担当教員】 高橋 英明
【授業区分】 専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】 2-12-0000-3	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	hidencchi@gmail.com
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 来校時対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 医療や福祉を目指す学生にとって公衆衛生学は必須の基礎知識です。日常にも多くの問題が関わっており、興味をもって知識を増やして行くと良いでしょう。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 重要なことは配布資料にメモを取り、メディア等で調べ、空いた時間に知識の補填をしていくと将来にも役立つでしょう。		
【講義概要】 (目的) これまで医学や医療技術の進歩は目覚ましく、かつてない超高齢社会が形成されてきました。一方で、新型コロナウイルス感染症により全世界がその健康を脅かされることとなりました。現代における保健医療を理解して公衆衛生学的視点を養うことを目的とします。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2,A-3 (方法) 医学や医療技術の進歩はあっても、一人一人の健康が守られ、社会としての健康を作ることは重要です。そのために必要な公衆衛生学を中心に講義を構成しています。 配布資料にそって解説します。その後に課題を用紙に記入し提出して下さい。残った時間で質問して下さい。		
【一般教育目標(GIO)】 医療従事者として必要な公衆衛生学についての知識を習得しましょう。		
【行動目標(SB0)】 衛生学・公衆衛生学について説明できるようにします。健康と疾病について説明できるようにします。		
【教科書・リザーブドブック】 教科書は使いません。講義のスライドハンドアウトで復習するようにしてください。		
【参考書】 鈴木庄亮監修、辻一郎、小山洋編集「シンプル衛生公衆衛生学2020」南江堂、¥2,400		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従い、試験と受講状況により評価します。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80						20	100
評価指標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	① 衛生と健康について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
2	② 保健統計・人口について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
3	③ 疫学について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
4	④ EBMについて	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
5	⑤ 疾病リスクについて	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
6	⑥ 健康増進について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
7	⑦ 健康格差について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
8	⑧ 感染症について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分

9	⑨ 循環器系疾患、糖尿病、メタボリックシンドロームについて	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
10	⑩ 癌予防について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
11	⑪ 食品保健について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
12	⑫ 環境管理について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
13	⑬ 環境要因について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
14	⑭ 空気、水、廃棄物について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
15	⑮ 死をめぐる問題について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分

【科目名】 公衆衛生学Ⅱ		【担当教員】 高橋 英明
【授業区分】 専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】 2-12-0005-3	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	hidencch@gmail.com
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 来校時対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 医療や福祉を目指す学生にとって公衆衛生学は必須の基礎知識です。日常にも多くの問題が関わっており、興味をもって知識を増やして行くと良いでしょう。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 重要なことは配布資料にメモを取り、メディア等で調べ、空いた時間に知識の補填をしていくと将来にも役立つでしょう。		
【講義概要】 (目的) これまで医学や医療技術の進歩は目覚ましく、かつてない超高齢社会が形成されてきました。一方で、新型コロナウイルス感染症により全世界がその健康を脅かされることとなりました。現代における保健医療を理解して公衆衛生学的視点を養うことを目的とします。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2,A-3 (方法) 医学や医療技術の進歩はあっても、一人一人の健康が守られ、社会としての健康を作ることは重要です。そのために必要な公衆衛生学を中心に講義を構成しています。 配布資料にそって解説します。その後に課題を用紙に記入し提出して下さい。残った時間で質問して下さい。		
【一般教育目標(GI0)】 医療従事者として必要な公衆衛生学についての知識を習得しましょう。		
【行動目標(SB0)】 衛生学・公衆衛生学について説明できるようにします。健康と疾病について説明できるようにします。		
【教科書・リザーブドブック】 教科書は使いません。講義のスライドハンドアウトで復習するようにしましょう。		
【参考書】 鈴木庄亮監修、辻一郎、小山洋編集「シンプル衛生公衆衛生学2020」南江堂、¥2,400		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従い、試験と受講状況により評価します。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80						20	100
評価指標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	① チーム医療と医療安全について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
2	② 母子保健について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
3	③ 学校保健について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
4	④ 歯科保健について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
5	⑤ 産業保健について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
6	⑥ 職業病について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
7	⑦ 高齢者保健について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
8	⑧ 精神保健について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分

9	⑨ 災害保険について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
10	⑩ 国際保健について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
11	⑪ 保健所、地域医療について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
12	⑫ 障害者保健について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
13	⑬ 国民医療費と医療保障について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
14	⑭ 医師法、理学療法士、作業療法士法について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
15	⑮ 脳卒中の公衆衛生学的意義について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分

【科目名】臨床心理学概論Ⅰ		【担当教員】加藤 真由美
【授業区分】専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】2-12-0010-1	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】必修	ma.kato@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15 コマ	(オフィスアワー) 11:00～13:30(水～金)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 精神医療分野における臨床心理学にかかわる基本事項について講じます。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 受講者は、臨床心理学概論Ⅰと臨床心理学概論Ⅱを併せて履修登録すること。 講義に関する資料や課題は、配布する。教科書は、指示に合わせて予習・復習すること。 課題は、必ず指定の期限までに提出すること。		
【講義概要】 (目的) 臨床心理学の要点を理解する。 リハビリテーション現場や社会生活において、心理的な問題を抱える人と関わることはままある。 臨床心理学の視点からそれらの人たちの状態を把握し、援助するための理論や方法を学ぶ。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2 当該科目と学位授与方針等との関連性：0-2 (方法) 主として指定の教科書を参照しながら講義を行う。 必要に応じて、追加資料を配布する。		
【一般教育目標(GI0)】 臨床心理学に関する基本的な知識を身につける。 臨床心理学が果たす役割や支援のあり方を理解する。		
【行動目標(SB0)】 臨床心理学の歴史的経緯、主要な理論などについて説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 下山晴彦 監修・編著、佐藤隆夫 監修、本郷一夫 監修、石丸径一郎 編著 公認心理師スタンダードテキストシリーズ 3『臨床心理学概論』 ミネルヴァ書房 (2,400円＋税)		
【参考書】		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 試験、小テストやレポート作成において、生成AIの使用は許可しません。 試験・レポートのフィードバック方法：必要に応じて補講等にて解説をおこないます。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70	30						100
評価指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	30	10						40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	●臨床心理学とはどのようなものか	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	240分
3-4	●臨床心理学はどう役立つか	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	240分
5-6	●臨床心理学と公認心理師	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	240分
7-8	●臨床心理学の成り立ち	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	240分
9-10	●臨床心理学における研究	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	240分
11-12	●臨床心理学と生物- 心理- 社会モデル	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	240分
13-14	●臨床心理学における支援の前提 「動機づけ面接」を理解する	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	240分
15・試験	「臨床心理学概論Ⅰ」まとめ 試験	講義	資料・教科書を用いて復習を行う	240分

【科目名】 臨床心理学概論Ⅱ		【担当教員】 加藤 真由美
【授業区分】 専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】 2-12-0015-3	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	ma.kato@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15 コマ	(オフィスアワー) 11:00～13:30(水～金)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 精神医療分野における臨床心理学にかかわる基本事項について講じます。 この授業はアクティブラーニングを用います。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 受講者は、臨床心理学概論Ⅰと臨床心理学概論Ⅱを併せて履修登録すること。 講義に関する資料や課題は、配布する(Teams)。教科書は、指示に合わせて予習・復習すること。 課題は、必ず指定の期限までに提出すること。		
【講義概要】 (目的) 臨床心理学の要点を理解する。 リハビリテーション現場や社会生活において、心理的な問題を抱える人と関わることはままある。 臨床心理学の視点からそれらの人たちの状態を把握し、援助するための理論や方法を学ぶ。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2 当該科目と学位授与方針等との関連性：0-2 (方法) 主として指定の教科書を参照しながら講義を行う。 必要に応じて、追加資料を配布する。		
【一般教育目標(GI0)】 臨床心理学に関する基本的な知識を身につける。 臨床心理学が果たす役割や支援のあり方を理解する。		
【行動目標(SB0)】 臨床心理学の歴史的経緯、主要な理論などについて説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 下山晴彦 監修・編著、佐藤隆夫 監修、本郷一夫 監修、石丸径一郎 編著 公認心理師スタンダードテキストシリーズ 3『臨床心理学概論』 ミネルヴァ書房 (2,400円＋税)		
【参考書】		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 試験、小テストやレポート作成において、生成AIの使用は許可しません。 試験・レポートのフィードバック方法：必要に応じ補講等にて解説をおこないます。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70	30						100
評価指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	30	10						40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	●臨床心理学における支援Ⅰ 「クライアント中心療法」を理解する	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	240分
3-4	●臨床心理学における支援Ⅱ 「精神力動的アプローチ」を理解する	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	240分
5-6	●臨床心理学における支援Ⅲ 「行動療法」を理解する	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	240分
7-8	●臨床心理学における支援Ⅳ 「認知行動療法」を理解する	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	240分
9-10	●臨床心理学における支援Ⅴ 「家族療法・カップルセラピー」を理解する	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	240分
11-12	●臨床心理学における支援Ⅵ 「コミュニティ心理学」を理解する	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	240分
13-14	●臨床心理学における支援Ⅶ 「ナラティブ・アプローチ」を理解する	講義	講義ノートの完成 講義課題の完成	240分
15・試験	「臨床心理学概論Ⅱ」まとめ 試験	講義	資料・教科書を用いて復習を行う	240分

【科目名】 発達心理学Ⅰ		【担当教員】 姜 静愛
【授業区分】 専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】 2-12-0015-3	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	c.kan@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15 コマ	(オフィスアワー) 月木12:00-13:00
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 定期試験は各回授業で配布する資料全て持ち込み可とする。 合理的配慮が必要な学生に関しては、学務や学科に申請の上対応を行う。 生成AIに関しては、原則使用不可とするが利用したい場合は教員に申し出ることとする。		
【講義概要】 (目的) 近年、年齢を積み重ねることの重要性が、多くの領域で科学的に明らかにされている。本講義では、①認知機能の発達及び社会性の発達、②自己と他者の関係の在り方と心理的発達、③誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達、④発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方、⑤高齢者の心理などについて、心理学の知見に基づいた発達の過程を学ぶことを目的とする。 当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-1, O-1, R-2 (方法) 講義が中心である。誕生から死に至るまでの各過程で発生しやすい心理的危機や障害に触れ、それらに影響する内的要因(生物・心理的要因)と外的要因(社会・文化的要因)について考察し、適切な対処法を習得する。 本科目は主として、「生涯発達心理学の基礎」、「胎児期・乳児期」などを講義する。 学生の理解度を確認するために、クリッカーや匿名チャット等を用いる。また、本講義では対話・議論型授業型のアクティブラーニングを取り入れる。		
【一般教育目標(GI0)】 「生涯発達」という考え方を理解する。 胎児期及び乳幼児期～児童期に至るまでの 1. 身体的発達の特徴を知る。 2. 各ステージにおける認知機能及び感情・社会性の発達のプロセス、自己と他者のあり方の心理的発達の様相を知る。 3. 各ステージにおける発達の危機及び障害について理解し、適切な支援ができる。		
【行動目標(SB0)】 胎児期及び乳幼児期～児童期に至るまでの各発達段階で発生しやすい心理的危機を知る。 そして、その原因を内的要因(生物・心理的要因)と外的要因(社会・文化的要因)から考察できる。 各ステージの心理的危機に対して、適切な支援ができる。		
【教科書・リザーブドブック】 教科書等は特になし。 配布資料あり。		
【参考書】 本郷一夫編(2018) 発達心理学公認心理師の基礎と実践第12巻. 遠見書房. 向田久美子(2017) 発達心理学概論. NHK出版. 秦野悦子・近藤清美編(2020) 公認心理師カリキュラム準拠 発達心理学. 医歯薬出版.		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 定期試験60% (配布資料持ち込み可) ・小テスト40% (出欠確認を兼ねる) で評価する。 試験・レポートの解答の返却はおこないません。フィードバックは必要に応じ補講等にておこないます。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60	40						100
評価指標	取り込む力・知識	60	20						80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢		20						20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	発達心理学の基礎 ・生涯発達心理学とは？ ・発達の規定要因	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
3.4	胎児期・乳児期の発達とその支援：言語獲得	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
5.6	胎児期・乳児期の発達とその支援：愛着形成	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
7.8	幼児期の発達とその支援：保存の概念・社会性・	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
9.10	幼児期の発達とその支援：親子関係・虐待	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
11.12	生涯発達にかかわる臨床：発達障害	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
13.14	児童期の発達とその支援：道徳性・いじめ	授業	配布資料を読む、小テスト提出	240
15.試験	まとめ・定期試験	授業	これまでの配布資料に目を通しておく。	240

【科目名】 発達心理学Ⅱ		【担当教員】 姜 静愛
【授業区分】 専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】 2-12-0020-3	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	c.kan@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15コマ	(オフィスアワー) 月木, 12:30~13:30
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 毎授業後、小テストを実施。また、定期試験は各回授業で配布する資料全て持ち込み可とする。 定期試験は各回授業で配布する資料全て持ち込み可とする。 合理的配慮が必要な学生に関しては、学務や学科に申請の上対応を行う。 生成AIに関しては、原則使用不可とするが利用したい場合は教員に申し出ることとする。		
【講義概要】 (目的) 近年、年齢を積み重ねることの重要性が、多くの領域で科学的に明らかにされている。本講義では、①認知機能の発達及び社会性の発達、②自己と他者の関係の在り方と心理的発達、③誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達、④発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方、⑤高齢者の心理などについて、心理学の知見に基づいた発達の過程を学ぶことを目的とする。 当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-1, O-1, R-2 (方法) 講義は、PowerPointを使用する。 講義資料は、事前に配布する。 学生の理解度を確認するために、クリッカーや匿名チャット等を用いる。 また、本講義では対話・議論型授業型のアクティブラーニングを取り入れる。		
【一般教育目標(GI0)】 「生涯発達」という考え方を理解する。 青年期～成人期に至るまで、生涯の各ステージにおける発達の概要と克服すべき課題を知る。 1. 身体的発達(変化)の特徴を知る。 2. 各ステージにおける認知機能及び感情・社会性の発達のプロセス、自己と他者のあり方の心理的発達の様相を知る。 3. 各ステージにおける発達の危機及び障害について理解し、適切な支援ができる。		
【行動目標(SB0)】 一生涯の各発達段階で発生しやすい心理的危機を知る。 心理的危機の原因を内的要因(生物・心理的要因)と外的要因(社会・文化的要因)から考察できる。 心理的危機に対して、適切な支援ができる。		
【教科書・リザーブドブック】 教科書等は特になし。 毎回資料を用い講義する。		
【参考書】 本郷一夫編(2018) 発達心理学公認心理師の基礎と実践第12巻. 遠見書房。 向田久美子(2017) 発達心理学概論. NHK出版。 秦野悦子・近藤清美編(2020) 公認心理師カリキュラム準拠 発達心理学. 医歯薬出版。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 定期試験60%、小テスト40%で評価する。オンディマンド授業が中心となるため、毎回小テストを用意しており、その回答をもって出席とみなす。 試験・レポートの解答の返却はおこないません。フィードバックは必要に応じ補講等にておこないます。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60	40						100
評価指標	取り込む力・知識	60	20						80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢		20						20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	青年期の発達とその支援：自己同一性・身体的発達	講義	配布資料を読む、小テスト提出	240
3.4	青年期の発達とその支援：生殖と心理臨床	講義	配布資料を読む、小テスト提出	240
5.6	成人期前期：就労の問題と発達	講義	配布資料を読む、小テスト提出	240
7.8	成人後期：自立・ひきこもりなどの社会問題	講義	配布資料を読む、小テスト提出	240
9.10	生涯発達にかかわる臨床：発達障害	講義	配布資料を読む、小テスト提出	240
11.12	成人中期・成人後期の発達とその支援：中年期危機・対象喪失	講義	配布資料を読む、小テスト提出	240
13.14	成人期後期：高齢化と死への過程	講義	配布資料を読む、小テスト提出	240
15.試験	まとめ・定期試験	講義	これまでの配布資料に目を通しておく	240

リハビリテーション学科

【科目名】リハビリテーション医学		【担当教員】高橋 明美、小林 量作、真柄 彰
【授業区分】専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】2-12-0070-3	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】必修	a_takahashi@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 月～金 8:30-18:00
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・理学療法、作業療法、心理全専攻の学生にとり重要不可欠な基礎知識の講義です。必ず全講義に出席して下さい。 ・本科目は実務経験のある教員による授業科目です。医師や理学療法士の資格を持つ教員が、臨床で培った経験を下に、疾患別リハビリテーションについて講じていきます。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 ・この授業はアクティブラーニングを用います。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 試験の解答については、原則返却しません。 ただし、必要に応じて解答の解説は行います。		
【講義概要】 (目的) リハビリテーション医学が対象とする疾患、脳卒中、脊髄損傷、脳性麻痺、変性疾患、整形疾患、内部疾患等についてそれらを理解し、リハビリテーション治療技術を体得し実践できることを目標とします。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-3 (方法) 主として配布資料を使用して講義を行います。授業内容によって、演習を行います。 脳卒中、脊髄損傷、脳性麻痺、変性疾患、整形疾患、内部疾患等についての講義を通してリハビリテーション専門職として必要なリハビリテーション医学の基礎知識を学びます。また治療医学とは視点の異なるリハビリテーション医学的な考え方、評価、治療等についても学びます。		
【一般教育目標(GI0)】 リハビリテーション医学の基本を理解する。 【行動目標(SB0)】 脳卒中、脊髄損傷、脳性麻痺、変性疾患、整形疾患、内部疾患等について説明できる。 治療医学とは視点の異なるリハビリテーション医学的な考え方、評価、治療等を説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】		
【参考書】 ①真柄彰・鴨下博編：メディカルスタッフ専門基礎科目シリーズ，リハビリテーション医学，理工図書，2017，\5000（税別） ②出水紳一，他：リハビリテーション医学テキスト,改訂第5版，南江堂，2022，¥5400		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、期末試験およびその他学習に取り組む姿勢などにより総合的に評価する。 出席点は評価には含みません。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90						10	100
評価指標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造の力	30							30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1.2 後期	リハビリテーション医学総論 対象疾患、他オリエンテーション	講義 (高橋)	(予習) リハビリテーション概論で学んだことを復習しておくこと (復習) 配布資料を読んでおくこと	90 90
3.4 後期	脳卒中のリハビリテーション： 脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血	講義・演習 (高橋)	(予習) 前回の講義の復習。 (復習) 今回の講義の復習。配布資料を読んでおくこと	90 90
5.6 後期	変性疾患のリハビリテーション： パーキンソン病(PD)、筋萎縮性側索硬化症(ALS)、 脊髄小脳変性症(SCD)等	講義 (小林)	(予習) 前回の講義の復習。 (復習) 今回の講義の復習。配布資料を読んでおくこと	90 90
7.8 後期	整形外科疾患のリハビリテーション： 関節リウマチ(RA)、変形性関節症(OA)、骨折(Fx)等	講義 (小林)	(予習) 前回の講義の復習。 (復習) 今回の講義の復習。配布資料を読んでおくこと	90 90
9.10 後期	脊髄損傷のリハビリテーション： 脊髄損傷(頸髄損傷、胸腰髄損傷)	講義 (真柄)	(予習) 前回の講義の復習。 (復習) 今回の講義の復習。配布資料を読んでおくこと	90 90
11.12 後期	小児のリハビリテーション： 発達評価、小児疾患	講義 (真柄)	(予習) 前回の講義の復習。 (復習) 今回の講義の復習。配布資料を読んでおくこと	90 90
13.14 後期	疾患別リハビリテーション(心大血管疾患、呼吸器、廃用性)	講義・演習 (高橋)	(予習) 前回の講義の復習。 (復習) 今回の講義の復習。配布資料を読んでおくこと	90 90
15 後期	まとめ	講義 (高橋)	(予習) 前回の講義の復習。 (復習) 今回の講義の復習。配布資料を読んでおくこと	90 90

【科目名】 救急救命医学		【担当教員】 村井 絹子、山村 千絵
【授業区分】 専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】 2- 12- 0075- 3	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 必修	murai@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15コマ	(オフィスアワー) 月・水 8:30~17:30 (保健室)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目は、看護の実務経験者がある教員による授業科目です。看護師の臨床経験から、医療における医療安全の目的、救急救命の役割、急性期の経時的変化の適切な観察と処置などの知識と技術について講じていきます。リハビリテーション学科においては、将来、医療従事者として臨床現場で活躍することが期待されています。そのため、医療における安全管理及び緊急事態の適切な判断、素早い処置ができる知識と技術を身につけておく必要があります。臨床実習に備えた必修科目となっています。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 命の連鎖に繋がる応急手当講習は真摯な態度で臨んでください。また、学内のAED配置の場所について確認をしてください。小テストは解答・解説を行います。レポートについても必要に応じて解説を行い支障がない限り返却します。生成AIの利用を全面的に許可しています。授業内、予復習、レポート等の作成において自由に利用してください。但し、使用した場合にその旨をレポート等に記入してください。		
【講義概要】 (目的) この科目は、救急救命医学の基礎知識及び安全管理について学ぶことを目的としています。リハビリテーションの臨床現場は生命に関わる心疾患、脳卒中等の急性期管理の必要な患者が対象となり、生命に直結する緊急時に遭遇することが想定されます。そのため、緊急事態発生時に、適切かつ安全な医療を提供できる知識、技術を学んでいきます。また、医療現場における安全管理についても理解を深め、基本的知識を修得することを目的とします。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,2 (方法) 主としてテキストと配布資料を使用し、対面で講義を行います。 緊急時の応急手当方法については、実技演習を通して習得していきます。 講義内容に「村上市消防本部救命講習普通救命講習1（応急手当W E B講習e-ラーニング、実技救命講習）」が含まれています。		
【一般教育目標(GI0)】 ・医療の安全管理の基本的知識を修得し、多職種と継続的に連携した安全の取り組みを理解する。 ・救急医療体制を知り、救急医療の諸問題について理解する。 ・医療人として必要な応急処置法や心肺蘇生法について、知識を活用し技術を修得する。		
【行動目標(SB0)】 ・医療安全の用語、医療安全体制について説明できる。 ・救急医療体制と救急疾患の特性を説明できる。 ・成人の一次救命処置が実施できる。 ・小児の一次救命処置を説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 内山靖（他）編、安全管理学・救急医療学、医歯薬出版、2021年、¥2700（税別）		
【参考書】 瀬尾憲治（著）、AHAガイドライン2015に沿ったBLSの理解のために、医歯薬出版、2016年 二宮啓子（編著）、小児看護学概論改正第3版、南山堂、2017年 中野綾美（編著）、小児の発達と看護、メディカ出版、2018年		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・出席点は評価に含みません。 ・成績評価基準は本学学則規定GAP制度に従う。 ・成績評価は、小テスト及びレポート点数、実技点数により総合的に評価する。 ※障害への配慮が必要な学生は教員と事前に相談することを推奨します。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			30	10		60			100
評価指標	取り込む力・知識		30						30
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力					50			50
	学修に取り組む姿勢			10		10			20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1.2	医療安全の概要、基本的な考え方 ・医療安全の変遷 ・人間がもつ特性 ・医療安全の共通用語	講義	予習：テキストP8～13を読んでおく 復習：小テストでポイントを確認	30分 15分
3.4	医療安全の概要、医療安全体制について ・国の医療安全対策 ・組織の医療安全対策	講義	予習：テキストP24～27を読んでおく 復習：小テストでポイントを確認	30分 15分
5・6	医療事故における法的責任 ・医療過誤で問われる法的責任 ・有害事象の対応	講義	予習：テキストP20～23を読んでおく 復習：小テストでポイントを確認	30分 15分
7・8	救急医療 ・救急医療の特徴 ・緊急を要する病態・臨床所見・バイタルサインの特徴	講義	予習：テキストP64～69を読んでおく 復習：小テストでポイントを確認	30分 15分
9・10	小児のバイタルサイン ・小児のバイタルサインの特徴 ・小児、乳児の心肺蘇生	講義	予習：小児のバイタルサインの正常値を調べる 復習：小テストでポイントを確認	30分 15分
11.12	成人の救急救命・心肺蘇生 ・応急手当WEB講習e-ラーニング受講	e-ラーニング 受講	予習：BLSの手順について調べる 復習：課題レポートで振り返り	30分 30分
13・14	一次救命実習 ・村上市消防本部救命講習、普通救命講習1	講義・実習	予習：AEDの設置場所（大学）について調べる 復習：BLSの手順振り返り	15分 30分
15	一次救命実習 ・村上市消防本部救命講習、普通救命講習1	講義・実習	予習：AEDの設置場所（大学）について調べる 復習：BLSの手順振り返り	15分 30分

【科目名】 栄養学		【担当教員】 宮岡 里美
【授業区分】 専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】 2-12-0080-3	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 来学時の授業終了後※随時メールにて
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ※本科目は、理学療法学専攻及び作業療法学専攻の必修科目です。 ※本科目は実務経験を有する教員による授業です。大学での栄養教育に関する実務経験、及び保健・医療・福祉機関での臨床経験(摂食嚥下障害へのリハビリテーション)から、生命維持に欠かせない栄養の基本的な仕組みと、ライフステージや疾患に応じた栄養摂取法について講義・演習を行っていきます。臨床経験から、人が生きていく上での栄養摂取の重要性を心と身体の両面から講じていきます。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。 欠席した場合には、後日担当教員に申し出て、資料を受け取り、必ず参照して下さい。 講義中あるいは終了後にレポートを課す場合があります。また、自身の食生活調査や栄養計算等も行っていきます。 生成系 AI の利用を全面的に許可します。授業内、予復習、成果物(レポート等含む)作成において自由に利用して下さい。 。使用した場合には、生成AI の出力を引用した箇所や生成 AIサービスの名称、バージョンを明記して下さい。		
【講義概要】 (目的) 私たちは、生命誕生から生涯を終えるまで、生命活動を維持するために水分と栄養素を摂取し続ける必要があります。 本講義では、「栄養学」の側面からも心と身体の両面からサポートでき、種々の疾患を予防・改善できる基礎を学ぶことを目的とします。また、高齢社会において注目されているサルコペニア/フレイルと栄養の関係も説明でき、適した栄養摂取法により摂食嚥下障害や誤嚥性肺炎を予防・改善することも可能であることも学びます。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-3, P-2, O-2, R-2 (方法) Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。 毎回、講義用スライド資料及び関連する資料も配布します。 課題レポートや理解度確認テストは、回収後に解答の解説を行います。		
【一般教育目標(GIO)】 「食べる」営みが生命維持に必須であることを理解する。 生物としての生命/生活を維持のため、栄養的な側面から必要な食品の栄養特性と物性を説明できる。 栄養と健康維持・増進、栄養と疾病予防及びリハビリテーションとの関連を説明できる。 フレイル及びサルコペニアの予防、更に認知機能障害の予防を栄養管理の面から説明できる。 「食べる」営みが楽しみや生きがいなどQOLに関わり、心理・社会的な側面からも人の命を支えていることを理解する。 【行動目標(SBO)】 栄養を食品面と身体面の双方から説明することができる。 ライフステージやライフスタイルの変化に伴う食行動の特徴とその問題点を理解し、指導することができる。 保健・医療・福祉等でのリハビリテーションにおける栄養管理法の基礎を修得する。 経口摂取による栄養が、リハビリテーション効果に及ぼす影響を説明できる。 栄養状態とつづ症状等の心理状態の関係性を理解し、臨床現場で身体と心の両面から適切な支援ができる。		
【教科書・リザーブドブック】 特に指定しない		
【参考書】 栢下淳・若林秀隆(編著) 「リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎; 第3版」医歯薬出版(2022/12) \4,180 若林 秀隆(著)「PT・OT・STのための リハビリテーション栄養; 第3版」医歯薬出版(2020/10/30) ¥3,630 「食と栄養の大百科; 第2版」(Newtonムック別冊), (株)ニュートンプレス(2021/8/5) ¥1,980		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。 ・定期試験を実施する。 ・出席点は評価に含まれない。 ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ※障害への配慮が必要な学生は教員と事前に相談することを推奨します。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70		30					100
評価指標	取り込む力・知識	50							50
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力			10					10
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	要介護高齢者の身体状況 ・タンパク・エネルギー低栄養状態(PEM)とは ・栄養状態の評価法(栄養スクリーニング)	講義	【復習】加齢による「食べる」機能の障害を知り、適切な栄養サポート法があることを理解する。	20
2	低栄養状態と身体・精神機能 ・低栄養とうつ ・脳と栄養	講義	【復習】栄養状態とうつ症状等の心理状態との関係性を理解する。	20
3	なぜ栄養を摂取するのか？ ・人体の構成 ・消化、吸収、代謝	講義	【予習】生理学等のテキストで、栄養素の消化・吸収のしくみを確認しておく。	30
4	経口摂取と非経口摂取法 ・摂食嚥下障害 ・食形態 ・栄養投与ルート	講義	【復習】非経口摂取法の基本を理解する。	20
5	栄養素Ⅰ_3大栄養素① ・三大栄養素とは 1)炭水化物 糖質の成分と栄養特性 食物繊維のはたらき	講義 一部演習	【復習】三大栄養素の定義を再確認する。炭水化物の種類と機能を理解する。	20
6	栄養素Ⅰ_3大栄養素② 食品の成分と栄養特性 2)脂質 3)たんぱく質	講義	【復習】脂質とたんぱく質の種類と機能を確認する。必須脂肪酸/必須アミノ酸の機能を理解する。	20
7	栄養素Ⅱ_5大栄養素① ・ビタミンの種類 ・ビタミンの生理作用 ・ビタミンの過不足による症状	講義 確認テスト	【復習】ビタミンの種類と機能を確認する。ビタミンの生理機能を理解する。	20
8	栄養素Ⅱ_5大栄養素② ・ミネラルの種類 ・ミネラルの生理作用 ・ミネラルの過不足による症状 ・脱水症状	講義	【復習】ミネラルの生理機能を理解する。脱水症状とその予防法を理解する。	20

9	代謝と栄養所要量：栄養ケアプラン ・栄養計算（演習） ・エネルギーバランスの計算	講義 一部演習	【復習】エネルギー代謝と食事摂取基準を確認する。 【レポート課題】エネルギーバランスを計算し、図示する。	15 30
10	食品群別摂取量 ・栄養バランス ・栄養バランスガイド（演習）	講義 一部演習	【復習】バランスがとれた食事を理解する 【レポート作成】食事調査を実施し、考察する。	15 120
11	ライフステージによる食生活上の留意点	講義 一部演習	【復習】乳幼児期、児童期、青年期、成人期、妊娠・授乳期、高齢期の各身体の特徴と主な食事の留意点を理解する。	20
12	健康と食生活 ・心疾患、脳血管疾患、高血圧、糖尿病等	講義	【復習】栄養と疾患の関係を理解し、適切な栄養管理ができる。	20
13	介護予防のための栄養食事管理法① ・骨粗鬆症	講義	【復習】資料【「食べて」+「動く」→「健康寿命」】の意味（栄養と運動の重要性）を理解する。	20
14	介護予防のための栄養食事管理法② ・フレイルとは ・サルコペニア/フレイル予防と栄養	講義 一部演習（実技）	【レポート作成】自身でフレイルチェックを行い、その結果を考察する。	20
15	まとめ 多職種連携における ・栄養サポートチーム（NST） ・栄養ケアマネジメント（NCM）	講義	【復習】臨床における栄養管理法の概要を知り、NSTとは多職種で構成された医療チームであることを理解する。	20

リハビリテーション学科

【科目名】 リハビリテーション概論		【担当教員】 高橋 明美、藤本 聡、大平 芳則、大矢 薫
【授業区分】 専門基礎分野(社会福祉)	【授業コード】 2-13-0000-3	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	a_takahashi@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 月～金 8:30-18:00
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・リハビリテーションとは、理学療法、作業療法、心理全専攻(リハビリテーション専門職)の学生にとり基本中の基本、不可欠な基礎知識の講義です。必ず全講義に出席してください。 ・本科目は実務経験のある教員による授業科目です。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、公認心理師・臨床心理士の資格を持つ教員が、それぞれの立場からリハビリテーションやその分野における各専門職の役割などについて講じていきます。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 小テストについては、返却します。 試験の解答については、原則返却しません。ただし、必要に応じて試験内容について解説します。 予習も大事ですが、復習がさらに重要となります。前回の講義内容を十分復習してから受講してください。		
【講義概要】 (目的) リハビリテーションに対する正しい理解と知識を学習し、専門職種としての基本的な姿勢や考え方を身につけ、臨床の場で活用できるようにする。このことにより、多職種がリハビリテーションについて共通の価値観を修得し、多面的な支援の提供ができることを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,2,3 (方法) ・資料・教科書を用いて、体系的に学ぶよう講義を進めます。特に、“リハビリテーションとは何か”その本質に触れ、現在のリハビリテーションの仕組みを正しく知ることを第一のテーマとして、リハビリテーションの理念、歴史的変遷、障害者と障害のレベル、障害の測定・評価法などの実例を提示して進めます。 ・この授業はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GI0)】 保健・医療・福祉に及ぶ広範囲なリハビリテーション分野を深く理解する。		
【行動目標(SB0)】 1. リハビリテーションの理念、歴史的変遷について説明できる。2. 障害の概念や分類について説明できる。3. リハビリテーションの過程について説明できる。4. 各専門職の役割、チームアプローチについて説明できる。5. リハビリテーションを支える諸制度について説明できる。6. ICFに基づく障害の測定・評価方法について説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】		
【参考書】 ①真柄彰,他：リハビリテーション概論,理工図書,2017,\4700(税別) ②上好昭孝,他：医学生・コメディカルのための手引書,リハビリテーション概論,改訂第3版,永井書店,2014,¥3000(税別)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、期末試験および小テスト、その他学修に取り組む姿勢などにより総合的に評価する。 出席点は評価には含みません。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80	10					10	100
評価指標	取り込む力・知識	60	10						70
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1 前期	リハビリテーションの概念・理念、定義	講義 (高橋明美)	(復習) 講義で配布された資料を読むこと	90
2 前期	疾病と障害の概念、分類	小テスト、講義 (高橋明美)	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	90 90
3 前期	リハビリテーションの過程 チームアプローチ	小テスト、講義 (高橋明美)	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	90 90
4 前期	リハビリテーションの諸段階、諸制度 理学療法概論	小テスト、講義 (高橋明美)	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	90 90
5 前期	作業療法概論	講義 (藤本)	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	90 90
6 前期	言語聴覚療法概論	講義 (大平)	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	90 90
7 前期	リハビリテーション心理概論	講義 (大矢)	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	90 90
8 前期	まとめ 試験	小テスト、講義 レポート (高橋明美)	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	90 90

【科目名】		社会保障論		【担当教員】	向田 怜史
【授業区分】		専門基礎分野(社会福祉)	【授業コード】	2-13-0010-3	
【開講時期】		後期	【選択必修】	必修	
【単位数】		1	【コマ数】	15コマ	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
この講義は医療福祉分野の相談職として臨床経験のある講師が講じる。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
レポートは他に支障のない限り返却する。配信での講義である。アクティブラーニングの手法を用いて、主に問題解決型学習を焦点とした双方向の講義を展開していく。 生成系 AI の利用を全面的に許可する。授業内、および、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してよい。ただし、使用した場合にその旨をレポート等に記載すること。 ※障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください					
【講義概要】					
(目的)					
本邦における社会保障の現状、社会保障の概念や対象及びその理念、社会保障と財政、社会保険と社会扶助の関係、公的年金制度、医療保険制度の内容とその課題、制度の動向について学ぶことを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2					
(方法)					
教科書、レジュメを用いて講じていく。					
【一般教育目標(GI0)】					
・ 社会保障制度の概要について理解する。 ・ 年金保険制度について理解する。 ・ 医療保険制度・介護保険制度について理解する。 ・ 社会福祉制度・サービスについて理解する。					
【行動目標(SB0)】					
・ 社会保障制度の概要について説明できる。 ・ 年金保険制度について説明できる。 ・ 医療保険制度・介護保険制度について説明できる。 ・ 社会福祉制度・サービスについて説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
最新 社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座 社会保障 中央法規 2,900円+税 一般社団法人 日本ソーシャルワーカー教育学校連盟 編集					
【参考書】					
特になし					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・ 成績評価基準は本学学則既定のGPA制度に従う。 ・ 成績評価はレポートにより評価する。 ・ 出席点は評価に含めない。 ・ レポートのフィードバックについては、個別にコメントをつけて返却します。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				90				10	100
評価指標	取り込む力・知識			45					45
	思考・推論・創造の力			45					45
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2回	現代社会と社会保障	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
3・4回	社会保障の概念や対象およびその理念	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
5・6回	社会保障の財政	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
7・8回	社会保険・社会扶助・民間保険の関係	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
9・10回	社会保障制度の体系①	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
11・12回	社会保障制度の体系②	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
13・14回	諸外国における社会保障制度	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
15回	今までの振り返り	配信講義	復習：教科書と配布資料を事前に読んでおく	90分

【科目名】 公的扶助論		【担当教員】 向田 怜史
【授業区分】 専門基礎分野(社会福祉)	【授業コード】 2-13-0015-3	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	mukaida@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15コマ	(オフィスアワー) 火・木 12:40~13:30
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) この講義は、医療福祉分野の相談職としての臨床経験がある講師が講じていく。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) レポートは他に支障がない限り返却する。対面での講義であるが、アクティブラーニングの手法を用いて、主に問題解決型学習を焦点とした双方向の講義を展開していく。 生成系 AI の利用を全面的に許可する。授業内、および、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してよい。ただし、使用した場合にその旨をレポート等に記載すること。 ※障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
【講義概要】 (目的) 公的扶助の概念と仕組みについて総論的に理解することを目的とし、特に、生活保護制度の原理・原則・仕組みを理解することを目的とする。公的扶助が必要となる低所得層の生活実態、女性の貧困、子どもの貧困などの実際を学び、貧困の社会的背景を理解する。医療・福祉専門職として、貧困に対する捉え方、福祉ニーズが必要な方への支援について理解する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2 (方法) ・教科書と配布資料を用いて講じていく。		
【一般教育目標(GIO)】 ・公的扶助について理解する。 ・公的扶助が必要となる様々な社会的背景を理解する。 ・生活保護制度の原理・原則・仕組みについて理解する。		
【行動目標(SB0)】 ・公的扶助とは何かを説明できる。 ・公的扶助が必要となるさまざまな社会的背景を説明できる。 ・生活保護制度の原理・原則・仕組みについて説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 貧困に対する支援 ミネルヴァ書房 2022年05月01日出版 2,400円+税 杉本 敏夫 監修 金子 充 田中 秀和 中村 健 立花 直樹 編著		
【参考書】 ・特になし		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則既定のGPA制度に従う。 ・成績評価はレポートにより評価する。 ・出席点は評価に含めない。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				90				10	100
評価指標	取り込む力・知識			45					45
	思考・推論・創造の力			45					45
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2回	・ 貧困の概念と公的扶助の意義・範囲 ・ 貧困状態にある人と社会環境	対面講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
3・4回	・ 貧困状態にある人に対する福祉の理念 ・ 貧困観とスティグマ	対面講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
5・6回	・ 世界における貧困に対する制度の歴史 ・ 日本における貧困に対する制度の歴史	対面講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
7・8回	・ 生活保護法の概要と役割 ・ 生活困窮者自立支援制度の概要と役割	対面講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
9・10回	・ 低所得者対策の概要と役割 ・ ホームレス対策の概要と役割	対面講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
11・12回	・ 貧困に対する支援における関係機関の役割 ・ 貧困に対する支援における専門職の役割	対面講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
13・14回	・ 生活保護制度における専門職の役割と自立支援 ・ 生活困窮者自立支援制度における専門職の役割と自立支援 ・ 生活福祉資金貸付制度にみる専門職の役割と自立支援	対面講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
15回	・ 今までの振り返り	対面講義	復習：配布資料、教科書を読んでおく	90分

【科目名】 権利擁護と成年後見制度論		【担当教員】 向田 怜史
【授業区分】 専門基礎分野(社会福祉)	【授業コード】 2-13-0020-3	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	mukaida@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15コマ	(オフィスアワー) 火・木 12:40～13:30
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) この科目は、医療福祉分野の相談職として臨床経験のある講師が講じていく。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) オンデマンド配信での講義であるがアクティブラーニングの手法を用いて、主に問題解決型学習を焦点とした双方向の講義を展開していく。レポートについては、他の支障のない限り返却する。 生成系 AI の利用を全面的に許可する。授業内、および、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してよい。ただし、使用した場合にその旨をレポート等に記載すること。 ※障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
【講義概要】 (目的) 超高齢化社会と呼ばれる世の中で、認知症の方や障がいをもたれた方への支援に対する重要性が高まりつつある。この科目は特に権利擁護と成年後見制度についての基礎的知識を理解することを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2 (方法) 教科書とレジュメを用いて講じていく。オンデマンド配信にて講じていく。		
【一般教育目標(GIO)】 ・権利擁護について理解する。 ・成年後見制度について理解する。 ・権利擁護と成年後見制度についての社会的背景を理解する。 【行動目標(SBO)】 ・権利擁護について説明できる。 ・成年後見制度について説明できる。 ・権利擁護と成年後見制度についての社会的背景を説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 特になし		
【参考書】 精神保健福祉士・社会福祉士 養成セミナー 法学 権利擁護と成年後見制度 編集 精神保健福祉士・社会福祉士 養成基礎セミナー編集委員会 ヘルス出版 2,100円+税		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則既定のGPA制度に従う ・成績評価はレポートにより評価する ・出席点は評価に含まない		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				90				10	100
評価指標	取り込む力・知識			45					45
	思考・推論・創造の力			45					45
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2回	相談援助活動において想定される法律問題	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
3・4回	日本国憲法の基本原理の理解	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
5・6回	民法の理解	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
7・8回	成年後見制度	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
9・10回	日常生活自立支援事業	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
11・12回	成年後見制度利用支援事業	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
13・14回	権利擁護に係る組織、団体の役割と実際	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
15回	今までの振り返り	配信講義	復習：配布資料を読んでおく	90分

【科目名】	地域包括ケア論		【担当教員】	向田 怜史	
【授業区分】	専門基礎分野(社会福祉)	【授業コード】	2-13-0025-3		
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修		
【単位数】	1	【コマ数】	15		
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
この科目は医療福祉分野の相談職として臨床経験のある講師が講じる。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
レポートは他に支障のない限り返却する。配信講義であるが、アクティブラーニングの手法を用いて、主に問題解決型学習を焦点とした双方向の講義を展開していく。 生成系 AI の利用を全面的に許可する。授業内、および、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してよい。ただし、使用した場合にその旨をレポート等に記載すること。 ※障がい等について合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください					
【講義概要】					
(目的)					
医療・福祉・介護など様々な領域で地域福祉の理解は必要不可欠である。地域福祉の考え方を学ぶことで、地域や臨床において住民や多職種と連携することの意義や重要性について理解することを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1、A-2					
(方法)					
教科書と配布資料を用いて講じていく。					
【一般教育目標(GIO)】					
・ 地域福祉に関する概要を理解する。 ・ ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョンについて理解する。 ・ 地域における住民と多職種との連携の必要性について理解する。					
【行動目標(SBO)】					
・ 地域福祉に関する社会背景を説明できる。 ・ ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョンについて説明できる。 ・ 地域福祉に関わる制度等について説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
「よくわかる地域包括ケア」ミネルヴァ書房 2,400円+税 隅田 好美 藤井 博志 黒田 研二 編著					
【参考書】					
特になし					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・ 成績評価基準は本学学則既定のGPA制度に従う ・ 成績評価はレポートにより評価する ・ 出席は評価に含まない ・ レポートのフィードバックについては、個別にコメントをつけて返却する。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				90				10	100
評価指標	取り込む力・知識			45					45
	思考・推論・創造の力			45					45
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2回	地域包括ケアとは何か	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
3・4回	地域包括ケアと地域福祉	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
5・6回	地域包括ケアを支える制度	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
7・8回	地域福祉の基本理念と生活支援	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
9・10回	地域包括ケアを支える制度支える専門職	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
11・12回	保健予防と介護予防	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
13・14回	多様な対象者に対する地域包括ケア	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
15回	今までの振り返り	配信講義	復習：配布資料を読んでおく	90分

【科目名】 福祉財政論		【担当教員】 向田 怜史
【授業区分】 専門基礎分野(社会福祉)	【授業コード】 2-13-0030-3	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	mukaida@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 火・木 12:40～13:30
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) この講義は、医療福祉分野の相談職として臨床経験がある講師が講じる。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) レポートは他に支障のない限り返却する。配信講義であるが、アクティブラーニングの手法を用いて、主に問題解決型学習を焦点とした双方向の講義を展開していく。 生成系 AI の利用を全面的に許可する。授業内、および、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してよい。ただし、使用した場合にその旨をレポート等に記載すること。 ※障がい等について合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください		
【講義概要】 (目的) 社会保障・福祉制度における国・都道府県・市町村の役割とその財源について理解することを目的とする。国と地方との関係、組織及び団体、専門職の役割等の概要について理解することを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2 (方法) 教科書・レジュメを用いて講じていく		
【一般教育目標(GI0)】 ・社会福祉政策を遂行する行政システムや財政システムについて理解する。 ・福祉行財政について理解する。 【行動目標(SB0)】 ・日本の福祉行財政の動向について概説できる。 ・福祉行財政についての政治的経済的背景について説明できる ・社会福祉に関連する法規と課題について概説できる。		
【教科書・リザーブドブック】 福祉+α11 福祉財政 高端正幸 伊集守直 編集 橘木俊詔 宮本太郎 2018年9月20日 ミネルヴァ書房 3,500円+税		
【参考書】 特になし		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う ・成績はレポートにより評価する ・出席点は評価に含めない ・レポートのフィードバックについては、個別にコメントをつけて返却する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				90				10	100
評価指標	取り込む力・知識			45					45
	思考・推論・創造の力			45					45
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2回	- 日本における福祉財政の特徴 - 日本の福祉財政の歴史	配信講義	予習：教科書を読んでおく	90分
3・4回	- 税と社会保険料 - 福祉を支える政府間財政関係	配信講義	予習：教科書を読んでおく	90分
5・6回	- 年金財政 - 医療保障の財政	配信講義	予習：教科書を読んでおく	90分
7・8回	- 介護保障の財政 - 児童福祉財政	配信講義	予習：教科書を読んでおく	90分
9・10回	- 障害者の社会生活支援と財政 - 生活保護制度と財政	配信講義	予習：教科書を読んでおく	90分
11・12回	- 雇用保障の財政 - 諸外国の福祉財政(1)	配信講義	予習：教科書を読んでおく	90分
13・14回	諸外国の福祉財政(2)	配信講義	予習：教科書を読んでおく	90分
15回	今までの振り返り	配信講義	復習：配布資料、教科書を読んでおく	90分

【科目名】作業療法学概論Ⅰ		【担当教員】丁子 雄希
【授業区分】専門分野(基礎作業療法学)	【授業コード】4-21-0000-1	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	tyouji@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】30	(オフィスアワー) メール問い合わせにて随時対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 作業療法士を目指す学生にとっては、作業療法の基礎を学習する最も基本的な必修科目である。この科目は、実務経験者対応科目である。作業療法の臨床に携わってきた経験から、作業療法の基礎について講ずる。 障がい等の理由により合理的な配慮が必要な場合は事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) レポートは、他に支障のない限り返却します。 生成AIの使用は禁止します。 授業はオンデマンド配信とアクティブラーニングから構成されます。		
【講義概要】 (目的) 作業療法という職業の成り立ちに関する歴史的過程を概観し、治療・支援・援助手段としての「作業」とは何かについて理解する。 作業療法士の業務範囲について理解する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,2,3 当該科目と学位授与方針等との関連性：0-1 (方法) 講義および演習等により進める。		
【一般教育目標(GIO)】 作業療法の概要（歴史、定義、各分野、理論、管理、研究）を理解し、対象者の状態に応じた治療・支援・援助方法について総合的に学習する。保健、医療、福祉に関わる作業療法士としての職業倫理感の醸成に努める。他職種との連携の必要性について学習する。		
【行動目標(SB0)】 ・作業療法の歴史過程(成り立ち)について概略を述べることができる。 ・作業療法の「作業」の概念を述べることができる。 ・作業療法の目的、方法、内容、範囲等について述べることができる。		
【教科書・リザーブドブック】 長崎重信：作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 作業療法学概論 第3版、MEDICAL VIEW、2021		
【参考書】 なし		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 ・成績評価は、期末試験・授業中の課題などにより総合的に評価する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60						40	100
評価指標	取り込む力・知識	30						20	50
	思考・推論・創造の力	30							30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1、2	理学療法って何だろう？ 第1章 ①理学療法 ②リハビリテーションとハビリテーション	講義、グループワーク (長島)	教育的、職業的、社会的、医学的リハビリテーションの違いを理解しておくこと。授業で話し合ったことについて振り返る。	60
3、4	作業療法って何だろう？ 人と作業とのかかわり、作業療法の歴史	講義、演習	授業を振り返り、自身の「作業」を抽出してみる。	60
5、6	日本の作業療法 精神，結核，リハビリテーションと作業療法	講義、演習	該当箇所の復習を行うこと。 (教科書2章 参照)	30
7、8	身体障害の作業療法① 対象となる疾患と支援の実際	講義、演習	該当箇所の復習を行うこと。 (教科書4章 参照)	30
9、10	身体障害の作業療法② 作業療法の流れ	講義、演習	該当箇所の復習を行うこと。 (教科書4章 参照)	30
11、12	精神障害の作業療法 支援の実際	講義、演習 (長谷川)	該当箇所の復習を行うこと。	30
13、14	高齢期の作業療法 支援の実際	講義、演習	該当箇所の復習を行うこと。 (教科書4章 参照)	30
15、16	高次脳機能障害の作業療法 支援の実際	講義、演習	該当箇所の復習を行うこと。 (教科書4章 参照)	30

17、18	発達障害の作業療法 支援の実際	講義、演習	該当箇所の復習を行うこと。 (教科書4章 参照)	30
19、20	地域作業療法 支援の実際	講義、演習	該当箇所の復習を行うこと。 (教科書4章 参照)	30
21、22	臨床実習教育 理学療法士及び作業療法士学校養成施設指定規則 について	講義、演習	該当箇所の復習を行うこと。 (教科書4章 参照)	30
23、24	作業療法部門の管理 マネジメント	講義、演習	該当箇所の復習を行うこと。 (教科書7章 参照)	30
25、26	研究の種類 文献レビュー	講義、演習	該当箇所の復習を行うこと。 (教科書8章 参照)	30
27、28	研究の流れ 研究計画書の作成	講義、演習	該当箇所の復習を行うこと。 (教科書8章 参照)	30
29、30	作業療法研究 研究の倫理	講義、演習	該当箇所の復習を行うこと。 (教科書8章 参照)。	30

【科目名】作業療法学概論Ⅱ（実習）		【担当教員】長谷川 裕
【授業区分】専門分野(基礎作業療法学)	【授業コード】4-21-0010-1	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】必修	hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】30	(オフィスアワー) 月曜日～木曜日 13:00～13:20
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・実習の手引きを熟読しておくこと。・事前に実習施設に関わる情報を収集し、必要な資料等を準備しておくこと。 ・学内実習及び学外実習に関してのスケジュールは、適宜担当教員から連絡する。・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。作業療法士として従事してきた経験から、実際の作業療法に関して講じていきます。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) ・学外実習中に事故・事件等の問題が起きた場合は、直ちに実習先のスタッフおよび本学へ連絡すること。 ・学外実習後、学内にて実習で学んだことに関する発表を行うため、発表の準備を行うこと。 ・生成系AIの利用は禁止しています。授業内での利用は厳禁となっており、このルールに違反した場合は、学内の規程に則って、適切な措置を取ります。		
【講義概要】 (目的) 地域における作業療法士が所属する病院や施設に赴き、臨床場面で作業療法士の実際の業務を直接見聞する。そのことにより、自分の目指す作業療法士像のイメージを創り、専門学習に臨む動機を高めることを目的とする。 当該科目と学位授与方針との関連性；A－2 当該科目と学位授与方針との関連性；0－2 (方法) 地域における作業療法士が所属、活動する病院や施設に赴き、臨床場面の見学を行う。見学の前後に学内にて専任教員のもとセミナーを実施する。 この授業はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GI0)】 地域における作業療法士が活動する社会資源の役割や意義、作業療法士の役割について学ぶ。		
【行動目標(SB0)】 ・見学実施前に、地域において作業療法士が活動する社会資源の役割や意義について調べ理解しておく。 ・見学を通して、地域での作業療法士の役割について理解する。 ・見学実習後、見学実習で学んだことについて、グループ討論を行い、理解を深めた後、レポートにまとめる。		
【教科書・リザーブドブック】 作業療法学概論Ⅱ（実習）の手引き（配布）		
【参考書】 必要に応じて事前オリエンテーションの中で資料配付する。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 学外実習施設の実習指導者による評価及び学内におけるセミナー参加、体験発表（提出課題を含む）等の内容から総合的に評価を行う。試験・レポートの解答の返却はおこないません。フィードバックは必要に応じ補講等にておこないます。 評価基準の詳細な内容は「作業療法学概論Ⅱ（実習）の手引き」に記載する。 成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含みません。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				25	25	50			100
評価指標	取り込む力・知識			25					25
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				25				25
	学修に取り組む姿勢					50			50

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
学内1-2コマ	オリエンテーション(学内) 作業療法実践見学実習の注意事項、課題確認	講義	予習：手引きを読んでおくこと 復習：講義内容を復習してください	30
学内3-4コマ	グループ学習(学内) 実習先の施設概要等の情報収集 学生紹介用紙の記入	演習、情報収集	予習：情報収集した内容をまとめる。 復習：講義内容を復習してください	30
学内5-6コマ	礼儀について(学内)	講義	予習：手引きを読んでおくこと 復習：講義内容を復習してください	30
学内7-8コマ	コミュニケーション技術(学内) 会話内容について	演習、ディスカッション、発表	予習：手引きを読んでおくこと 復習：講義内容を復習してください	30
学外1日目 (8コマ分)	学外実習 (通所リハビリテーション等)	学外実習	予習：手引きを読んでおくこと 復習：講義(実習)内容を復習してください	30
学外2日目 (8コマ分)	学外実習 (通所リハビリテーション等)	学外実習	予習：手引きを読んでおくこと 復習：講義(実習)内容を復習してください	30
学内9-12コマ	グループ学習(学内) グループディスカッションの実施 実習内容の発表準備(発表用資料の作成)	グループワーク、ディスカッション	予習：手引きを読んでおくこと 復習：講義内容を復習してください	30
学内13,14	各グループ毎で発表(学内) テーマ：施設概要、学外実習での反省と学んだ内容	発表(プレゼンテーション)	予習：手引きを読んでおくこと 復習：講義内容を復習してください	30

【科目名】基礎作業学		【担当教員】長谷川 裕
【授業区分】専門分野(基礎作業療法学)	【授業コード】4-21-0015-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】必修	hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15コマ (45分)	(オフィスアワー) 月-木,13:00~13:20
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 作業療法の治療手段である「作業（作業活動）」について理解する。 この科目は、実務経験者対応科目である。 障害等があつて配慮が必要な学生は事前に相談することを推奨します。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・解剖学、生理学、運動学、心理学等、人間についての基本的理解ができていること。 ・生成AI 使用ルール：提出課題、発表用資料での直接的な使用（生成AIの文章等の複写等）は禁止します。アイデアを得るための使用は認めます。生成Aiから得た情報は必ず、文献、書籍等他の資料で確認してください。		
【講義概要】 (目的) 人の生活において、作業の意味とその範囲について理解する。また、作業の必要性について学修する。ライフスタイルと作業、健康と作業、文化と作業等についての基礎知識を学び、それらの観点から様々な作業活動の分析方法を学修する。 当該科目と学位授与方針等の関連性；0-1 (方法) 講義、演習およびグループディスカッション（討議）によって実施する。 この授業はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GI0)】 作業療法の「作業」とは何かについて学ぶ。 作業療法の治療手段としての作業の特徴、意味、範囲、意義について理解する。 【行動目標(SB0)】 ・作業療法の「作業」とは何かについて説明できる。 ・作業とライフサイクルの関連について説明できる。 ・作業分析とは何か、説明できる。 ・作業の意義について説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 適宜資料を配付します。		
【参考書】 「ひとと作業・作業活動」新版 2015 三輪書店 作業療法学ゴールドマスター・テキスト 「作業学」第3版メジカルビュー社 4,800 円（＋税）		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。 出席点は評価に含みません。 レポート、試験にて評価を行います。 レポートの返却は行いません。フィードバックは必要に応じ補講等にておこないます。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70		20				10	100
評価指標	取り込む力・知識	70		10					80
	思考・推論・創造の力			10					10
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	オリエンテーション（講義概要・方法・スケジュール） 「作業」とは	講義、討議	オリエンテーションで提示	30分
3,4	作業の特質について	講義	復習	30分
5,6	作業の特質について	講義	復習	30分
7,8	作業と生活機能	講義	復習	30分
9,10	作業（活動）とライフサイクル	講義	復習	30分
11,12	作業分析について	講義、演習、討議	復習	30分
13,14	包括的作業分析	講義、演習、討議	復習	30分
15	まとめ	講義	復習	30分

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				60	40				100
評価指標	取り込む力・知識			30	10				40
	思考・推論・創造の力			30	5				35
	コラボレーションとリーダーシップ				10				10
	発表力				5				5
	学修に取り組む姿勢				10				10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1,2	イントロダクション 作業療法と評価 評価の目的と意義	講義・演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
3,4	ICFとその理解 ICFワークショップ	講義・演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
5,6	臨床実習の展開①	講義・演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
7,8	臨床実習の展開② ケーススタディ	講義・演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
9,10	臨床実習の展開③ ケーススタディ	講義・演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
11,12	身体障害領域における評価について	講義・演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
13,14	精神障害領域における評価について	講義・演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
15	まとめ ※レポート課題あり	講義・演習	該当箇所の復習を行うこと。	30

【科目名】		基礎ゼミⅢ	【担当教員】 長谷川 裕、藤本 聡、浅海 岩生、キャリア担当教員	
【授業区分】	教養分野(導入教育)	【授業コード】	1-00-0016-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	必修	hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com、fujimoto.s@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	30コマ	(オフィスアワー) 月～金 13:00-13:20
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・この科目は基礎ゼミⅢ・Ⅳのセット履修となっています。 ・指定された担当教員と連絡を取り実施日程を調整すること。 ・障害等があって配慮が必要な学生は事前に相談することを推奨します。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。 ・本科目の単位付与の条件としてエルコアを受講完了し証明書の提出が必要です。 ・この授業はアクティブラーニングを用います。 ・生成AI 使用ルール：提出課題、発表用資料での直接的な使用（生成AIの文章等の複写等）は禁止します。アイデアを得るための使用は認めます。生成AIから得た情報は必ず、文献、書籍等他の資料で確認してください。				
【講義概要】 (目的) 将来の福祉・医療現場では、日々他者と接触しながら、多くの人間関係の中で仕事を行っている。その場合、基礎学力や専門知識・技術は云うに及ばず、他者とのコミュニケーション能力、及び迅速かつ適切な実行力が求められる。このゼミでは、いわゆる「社会人としての基礎力」、「課題解決していく能力」を身につけることを目的とする。本科目は「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」関連の科目です。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性； A-2,3 (方法) このゼミでは、専攻に関わらず、全学生を少人数グループに分けて実施する。各グループ毎に学生自らが地域に係るテーマ、医療・科学に係るテーマを設定し、調査活動やボランティア活動を実施し、多様な他者との関わり通して協同・協力について学ぶ。本科目では主として「文献研究」、「調査・研究計画」、「医療倫理(e-learning)」などについてゼミ活動をおこなう。得られたデータの解析に数理データサイエンスを取り入れる。非営利組織等の実データを取り扱い、課題解決のためのデータ分析等の実践的な学習をおこなう。				
【一般教育目標(GIO)】 ・他者とのコミュニケーションの取り方・協力の重要性について学ぶ。 ・他者と協力、役割分担をしながら課題を解決する体験を得る。 【行動目標(SBO)】 ・他者との円滑なコミュニケーションや協力関係が樹立できる。 ・調査・研究の基礎的知識を得る。 ・数理データサイエンスの習熟のため、Power BIを学習する。 ・e-learningとしてエルコアを授業の教材として使い、「医療倫理」についての受講を完了することができる ・グループ活動での体験を参考に、キャリア支援セミナーに参加してキャリア形成について考えることができる。				
【教科書・リザーブドブック】 ・必要に応じ資料を配付する。				
【参考書】 ・必要に応じ資料を配付する。				
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。 ・ゼミ担当教員による個別評価（グループ発表、最終レポート、学修に取り組む姿勢）、エルコア受講完了証明書の提出 ・レポート、成果発表、ポートフォリオの内容にて評価を行います。 ・レポートの返却は行いません。 ・出席点は評価に含みません。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				30	30		10	30	100
評価指標	取り込む力・知識			15					15
	思考・推論・創造の力			15					15
	コラボレーションとリーダーシップ				20			10	30
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢						10	20	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	・オリエンテーション ・研究倫理について(e-learningエルコアの方法)	講義・長谷川	・各自行いたい研究テーマを3つ考えておく。 ・研究倫理について復習する。	15分 15分
2,3	ゼミ活動-1 (スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定)	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	30
4,5	ゼミ活動-2 (スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定)	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	30
6,7,8	エルコアの実施	演習	担当教員の指示に従ってください。	30
9,10	Power BI①Power BIの概要と基本操作	配信・浅海先生	担当教員の指示に従ってください。	30
11,12	ゼミ活動-3 (スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定)	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	30
13,14	Power BI②Excelデータの取り込みとクエリ	配信・浅海先生	担当教員の指示に従ってください。	30
15,16	Power BI③数表とフィルターリング	配信・浅海先生	担当教員の指示に従ってください。	30

17,18	Power BI④グラフ表示と書式設定	配信・浅海先生	担当教員の指示に従ってください。	30
19,20	ゼミ活動-4 (スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定)	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	30
21,22	ゼミ活動-5 (スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定)	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	30
23,24	ゼミ活動-6 (スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定)	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	30
25,26	ゼミ活動-7 (スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定)	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	30
27,28	ゼミ活動-8 (スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定) ・ゼミ内での中間発表(8月9日までに実施)	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	30
29,30	キャリア支援セミナー 「私と社会の未来を考えるキャリアガイダンス」	キャリア担当教員	キャリア担当教員の指示に従ってください。	30

【科目名】 基礎ゼミⅢ		【担当教員】 長谷川 裕、藤本 聡、浅海 岩生、キャリア担当教員
【授業区分】 教養分野(導入教育)	【授業コード】 1-00-0016-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】 通年(後期)	【選択必修】 必修	hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com、fujimoto.s@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 30コマ	(オフィスアワー) 月～金 13:00-13:20
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・この科目は基礎ゼミⅢ・Ⅳのセット履修となっています。 ・指定された担当教員と連絡を取り実施日程を調整すること。 ・障害等があって配慮が必要な学生は事前に相談することを推奨します。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。 ・本科目の単位付与の条件としてエルコアを受講完了し証明書の提出が必要です。 ・この授業はアクティブラーニングを用います。 ・生成AI 使用ルール：提出課題、発表用資料での直接的な使用（生成AIの文章等の複写等）は禁止します。アイデアを得るための使用は認めます。生成AIから得た情報は必ず、文献、書籍等他の資料で確認してください。		
【講義概要】 (目的) 将来の福祉・医療現場では、日々他者と接触しながら、多くの人間関係の中で仕事を行っている。その場合、基礎学力や専門知識・技術は云うに及ばず、他者とのコミュニケーション能力、及び迅速かつ適切な実行力が求められる。このゼミでは、いわゆる「社会人としての基礎力」、「課題解決していく能力」を身につけることを目的とする。本科目は「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」関連の科目です。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性； A-2,3 (方法) このゼミでは、専攻に関わらず、全学生を少人数グループに分けて実施する。各グループ毎に学生自らが地域に係るテーマ、医療・科学に係るテーマを設定し、調査活動やボランティア活動を実施し、多様な他者との関わり通して協同・協力について学ぶ。本科目では主として「文献研究」、「調査・研究計画」、「医療倫理(e-learning)」などについてゼミ活動をおこなう。得られたデータの解析に数理データサイエンスを取り入れる。非営利組織等の実データを取り扱い、課題解決のためのデータ分析等の実践的な学習をおこなう。		
【一般教育目標(GIO)】 ・他者とのコミュニケーションの取り方・協力の重要性について学ぶ。 ・他者と協力、役割分担をしながら課題を解決する体験を得る。 【行動目標(SBO)】 ・他者との円滑なコミュニケーションや協力関係が樹立できる。 ・調査・研究の基礎的知識を得る。 ・数理データサイエンスの習熟のため、Power BIを学習する。 ・e-learningとしてエルコアを授業の教材として使い、「医療倫理」についての受講を完了することができる ・グループ活動での体験を参考に、キャリア支援セミナーに参加してキャリア形成について考えることができる。		
【教科書・リザーブドブック】 ・必要に応じ資料を配付する。		
【参考書】 ・必要に応じ資料を配付する。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。 ・ゼミ担当教員による個別評価（グループ発表、最終レポート、学修に取り組む姿勢）、エルコア受講完了証明書の提出 ・レポート、成果発表、ポートフォリオの内容にて評価を行います。 ・レポートの返却は行いません。 ・出席点は評価に含みません。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				30	30		10	30	100
評価指標	取り込む力・知識			15					15
	思考・推論・創造の力			15					15
	コラボレーションとリーダーシップ				20			10	30
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢						10	20	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	・オリエンテーション ・研究倫理について(e-learningエルコアの方法)	講義・長谷川	・各自行いたい研究テーマを3つ考えておく。 ・研究倫理について復習する。	15分 15分
2,3	ゼミ活動-1 (スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定)	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	30
4,5	ゼミ活動-2 (スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定)	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	30
6,7,8	エルコアの実施	演習	担当教員の指示に従ってください。	30
9,10	Power BI①Power BIの概要と基本操作	配信・浅海先生	担当教員の指示に従ってください。	30
11,12	ゼミ活動-3 (スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定)	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	30
13,14	Power BI②Excelデータの取り込みとクエリ	配信・浅海先生	担当教員の指示に従ってください。	30
15,16	Power BI③数表とフィルターリング	配信・浅海先生	担当教員の指示に従ってください。	30

17,18	Power BI④グラフ表示と書式設定	配信・浅海先生	担当教員の指示に従ってください。	30
19,20	ゼミ活動-4 (スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定)	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	30
21,22	ゼミ活動-5 (スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定)	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	30
23,24	ゼミ活動-6 (スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定)	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	30
25,26	ゼミ活動-7 (スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定)	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	30
27,28	ゼミ活動-8 (スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定) ・ゼミ内での中間発表(8月9日までに実施)	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	30
29,30	キャリア支援セミナー 「私と社会の未来を考えるキャリアガイダンス」	キャリア担当教員	キャリア担当教員の指示に従ってください。	30

【科目名】 基礎ゼミⅣ		【担当教員】 長谷川 裕、藤本 聡、丁子 雄希、キャリア担当教員
【授業区分】 教養分野(導入教育)	【授業コード】 1-00-0017-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】 通年(前期)	【選択必修】 必修	hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com、fujimoto.s@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 30コマ	(オフィスアワー) 月～木 13:00-13:20
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・この科目は基礎ゼミⅢ・Ⅳのセット履修となっています。 ・指定された担当教員と連絡を取り実施日程を調整すること。 ・障害等があって配慮が必要な学生は事前に相談することを推奨します。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。 ・この授業はアクティブラーニングを用います。 ・生成AI 使用ルール：提出課題、発表用資料での直接的な使用（生成AIの文章等の複写等）は禁止します。アイデアを得るための使用は認めます。生成AIから得た情報は必ず、文献、書籍等他の資料で確認してください。		
【講義概要】 (目的) 将来の福祉・医療現場では、日々他者と接触しながら、多くの人間関係の中で仕事を行っている。その場合、基礎学力や専門知識・技術は云うに及ばず、他者とのコミュニケーション能力、及び迅速かつ適切な実行力が求められる。この科目では、いわゆる「社会人としての基礎力」、「課題解決していく能力」を身につけることを目的とする。本科目は「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」関連の科目です。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性； A-2,3 (方法) この科目では、専攻に関わらず、全学生を少人数グループに分けて実施する。各グループ毎に学生自らが地域に係るテーマ、医療・科学に係るテーマを設定し、調査活動やボランティア活動を実施し、多様な他者との関わり通して協同・協力について学ぶ。本科目では主として「調査・データ収集」、「データ整理」、「発表」などについてゼミ活動をおこなう。文献検索を活用する。得られたデータを統計学的にまとめ、解析に数理データサイエンスを取り入れる。非営利組織等の実データを取り扱い、課題解決のためのデータ分析等の実践的な学習をおこなう。		
【一般教育目標(GI0)】 ・他者とのコミュニケーションの取り方・協力の重要性について学ぶ。 ・他者と協力、役割分担をしながら課題を解決する体験を得る。 【行動目標(SB0)】 ・他者との円滑なコミュニケーションや協力関係が樹立できる。 ・調査・研究の基礎的知識を得る。 ・数理データサイエンスの習熟のため、得られたデータの解析に基礎ゼミⅢで学んだPower BIを活用できる。 ・文献検索についてのWeb配信を視聴し、課題を提出する。 ・学習した文献検索方法を活用して、研究を進めるにあたり既に知られている知見を活用できる。 ・グループ活動での体験を参考に、キャリア支援セミナーに参加してキャリア意識を醸成することができる。		
【教科書・リザーブドブック】 ・必要に応じ資料を配付する。		
【参考書】 ・必要に応じ資料を配付する。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。 ・ゼミ担当教員による個別評価（グループ発表、最終レポート、学修に取り組む姿勢）、ポートフォリオの提出 ・レポート、成果発表、ポートフォリオの内容にて評価を行います。 ・レポートの返却は行いません。 ・出席点は評価に含みません。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				30	20		10	40	100
評価指標	取り込む力・知識			15					15
	思考・推論・創造の力			15					15
	コラボレーションとリーダーシップ				10			20	30
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢						10	20	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	・オリエンテーション ・文献検索について	講義・長谷川		30
2,3,4	文献検索についてのWeb配信を視聴し、課題を提出する。	配信・演習	担当教員の指示に従ってください。	30
5,6	研究結果を統計学的にまとめる手順とそのプレゼンテーションの方法(6月実施予定)	講義・丁子先生	担当教員の指示に従ってください。	30
7,8	ゼミ活動-1 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	30
9,10	ゼミ活動-2 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	30
11,12	ゼミ活動-3 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	30
13,14	ゼミ活動-4 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	30
15,16	ゼミ活動-5 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	30

[illegible]

【科目名】基礎ゼミⅣ		【担当教員】長谷川 裕、藤本 聡、丁子 雄希、キャリア担当教員
【授業区分】教養分野(導入教育)	【授業コード】1-00-0017-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】通年(後期)	【選択必修】必修	hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com、fujimoto.s@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】30コマ	(オフィスアワー) 月～木 13:00-13:20
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・この科目は基礎ゼミⅢ・Ⅳのセット履修となっています。 ・指定された担当教員と連絡を取り実施日程を調整すること。 ・障害等があって配慮が必要な学生は事前に相談することを推奨します。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。 ・この授業はアクティブラーニングを用います。 ・生成AI 使用ルール：提出課題、発表用資料での直接的な使用（生成AIの文章等の複写等）は禁止します。アイデアを得るための使用は認めます。生成Aiから得た情報は必ず、文献、書籍等他の資料で確認してください。		
【講義概要】 (目的) 将来の福祉・医療現場では、日々他者と接触しながら、多くの人間関係の中で仕事を行っている。その場合、基礎学力や専門知識・技術は云うに及ばず、他者とのコミュニケーション能力、及び迅速かつ適切な実行力が求められる。この科目では、いわゆる「社会人としての基礎力」、「課題解決していく能力」を身につけることを目的とする。本科目は「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」関連の科目です。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性； A-2,3 (方法) この科目では、専攻に関わらず、全学生を少人数グループに分けて実施する。各グループ毎に学生自らが地域に係るテーマ、医療・科学に係るテーマを設定し、調査活動やボランティア活動を実施し、多様な他者との関わり通して協同・協力について学ぶ。本科目では主として「調査・データ収集」、「データ整理」、「発表」などについてゼミ活動をおこなう。文献検索を活用する。得られたデータを統計学的にまとめ、解析に数理データサイエンスを取り入れる。非営利組織等の実データを取り扱い、課題解決のためのデータ分析等の実践的な学習をおこなう。		
【一般教育目標(GI0)】 ・他者とのコミュニケーションの取り方・協力の重要性について学ぶ。 ・他者と協力、役割分担をしながら課題を解決する体験を得る。 【行動目標(SB0)】 ・他者との円滑なコミュニケーションや協力関係が樹立できる。 ・調査・研究の基礎的知識を得る。 ・数理データサイエンスの習熟のため、得られたデータの解析に基礎ゼミⅢで学んだPower BIを活用できる。 ・文献検索についてのWeb配信を視聴し、課題を提出する。 ・学習した文献検索方法を活用して、研究を進めるにあたり既に知られている知見を活用できる。 ・グループ活動での体験を参考に、キャリア支援セミナーに参加してキャリア意識を醸成することができる。		
【教科書・リザーブドブック】 ・必要に応じ資料を配付する。		
【参考書】 ・必要に応じ資料を配付する。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。 ・ゼミ担当教員による個別評価（グループ発表、最終レポート、学修に取り組む姿勢）、ポートフォリオの提出 ・レポート、成果発表、ポートフォリオの内容にて評価を行います。 ・レポートの返却は行いません。 ・出席点は評価に含みません。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				30	20		10	40	100
評価指標	取り込む力・知識			15					15
	思考・推論・創造の力			15					15
	コラボレーションとリーダーシップ				10			20	30
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢						10	20	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	・オリエンテーション ・文献検索について	講義・長谷川		30
2,3,4	文献検索についてのWeb配信を視聴し、課題を提出する。	配信・演習	担当教員の指示に従ってください。	30
5,6	研究結果を統計学的にまとめる手順とそのプレゼンテーションの方法(6月実施予定)	講義・丁子先生	担当教員の指示に従ってください。	30
7,8	ゼミ活動-1 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	30
9,10	ゼミ活動-2 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	30
11,12	ゼミ活動-3 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	30
13,14	ゼミ活動-4 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	30
15,16	ゼミ活動-5 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	30

[illegible]

【科目名】 コンピューターと人間の接点Ⅰ		【担当教員】 浅海 岩生
【授業区分】 教養分野(情報)	【授業コード】 1-05-0010-2	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	igasami@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 月～金曜(9-17時)Teamsにて対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・授業では自分のパソコンを使用し実習しますので各自のパソコンを使用してください。 ・授業での提示する教材はWindows PC(パソコン)を使用していますが、Mac,ChromeBook PCを使用しても構いません。 ・Office365に接続できるようメールアドレス・パスワードを控えておくこと(大学入学時に各学生に付与されたもの) ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・課題はMicrosoft Teamsを使用し提出してもらいます。 ・課題・テストは必要に応じTeamsを用い返却します。 ・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。主担当教員は総合病院に勤務した経験より医療施設での情報リテラシーと活用について必要とする知識を講義します。		
【講義概要】 (目的) ・IoT(物のインターネット)の仕組みを理解するため、その構成要素であるマイクロコンピュータと各種のセンサーについて学習する。またマイクロコンピュータよりのデータ収集方法(有線・無線・インターネットより)についても理解する。 ・IoTをリハビリテーション分野に応用する方法について理解する。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性：A-3 (方法) ・マイクロコンピュータ(MICRO:BIT)を使用し各種センサーを制御するプログラミングをブロックプログラム言語を用い演習する。 ・各種のセンサーより得られたデータを有線、無線あるいはインターネットを経由してパーソナルコンピュータに取り込み分析するプログラムについて演習する。 ・またリハビリテーション分野でのIoT利用例を示しプログラミング演習をおこなう。		
【一般教育目標(GI0)】 ・人間とコンピュータを結ぶセンサーについて説明できる。 ・各種のセンサーよりデータを取り込む方法を説明できる。 ・リハビリテーション分野でのIoT利用について利用例を説明できる。 【行動目標(SB0)】 ・MICRO:BITの構造について説明できる。 ・MICRO:BITを使用した簡単なプログラミングが作成できる。 ・MICRO:BITを使用し各種のセンサーよりデータの取り込むプログラムを作成できる。 ・センサーよりのデータの収集法と分析方法について説明できる。 ・リハビリテーション分野でのIoTを活用したデータ収集について具体的事例を考案できる。		
【教科書・リザーブドブック】 必要に応じ資料を配布する。		
【参考書】 必要に応じ資料を配布する。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・出席点は評価に含みません。 ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価は、小テストおよびレポート点等により総合的に評価する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		0	30	60	0	0	0	10	100
評価指標	取り込む力・知識		20	30					50
	思考・推論・創造の力		10	30					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション インターフェースとは IoTとその利用	講義	・シラバスを読んでおく。 ・MICRO:BITの概要について復習する。	10分 15分
2	ビッグデータと データエンジニアリング (☆) ・ICT(情報通信技術)の進展、ビッグデータ・ビッグデータの収集と蓄積、クラウドサービス・ビッグデータ活用事例・人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータ・ソーシャルメディアデータ	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題の作成	10分 15分
3	データ表現 (☆) ・コンピュータで扱うデータ ・構造化データ、非構造化データ ・情報量の単位、二進数、文字コード ・配列、木構造、グラフ	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題の作成	10分 15分
4	データ収集 ・IoTとインターフェイス ・データ収集の事例	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題の作成	10分 15分
5	Micro:bitの基本構造と開発環境 プログラミング基礎(※)-1 ・LEDに文字を表示する ・ハートマークを表示する ・音を発生させる	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題の作成	10分 15分
6	プログラミング基礎(※)-2 ・スイッチを使用したプログラム ・データ型と変数 ・四則演算 ・時間を測定する	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題の作成	10分 15分
7	プログラミング基礎(※)-3 ・ジャンケンゲームの作成 ・揺れを感知する ・乱数の利用 ・条件分岐・反復処理	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題の作成	10分 15分
8	プログラミング基礎(※)-4 ・温度と光の強さを測定する ・関数の使用 データ加工-1 ・測定値のグラフ化	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題の作成	10分 15分

9	プログラミング基礎（※）-5 ・シリアル通信の使用とデバイスモニタ データ加工-2 ・集計処理、四則演算、サンプリング処理	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題の作成	10分 15分
10	プログラミング基礎（※）-6 ・加速度を測定する データ加工-3 ・クレンジング処理	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題の作成	10分 15分
11	プログラミング基礎（※）-7 ・無線の利用 ・リモートサンプリング	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題の作成	10分 15分
12	プログラミング基礎（※）-8 ・傾きを検知する ・関節角度を測定する	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題の作成	10分 15分
13	プログラミング基礎（※）-9 ・センサーを利用した運動プログラムを作成する	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題12の作成	10分 15分
14	データベース ・データベースとは ・RSBについて ・測定データをクラウドに保存する	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題の作成	10分 15分
15	ITセキュリティ ・セキュリティの3要素（機密性、可用性、完全性）・データの暗号化、復号化・データの盗聴、改ざん、なりすまし・電子署名、公開鍵認証基盤（PKI）・ユーザ認証とアクセス管理・マルウェアによるリスク	講義	・配布資料を確認しておく。 ・課題の作成	30分 30分

【科目名】 コンピューターと人間の接点Ⅱ		【担当教員】 浅海 岩生
【授業区分】 教養分野(情報)	【授業コード】 1-05-0015-2	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	igasami@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 月～金曜(9-17時)Teamsにて対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・授業では自分のパソコンを使用し実習しますので各自のパソコンを使用してください。 ・授業での提示する教材はWindows PC(パソコン)を使用していますが、Mac,ChromeBook PCを使用しても構いません。 ・Office365に接続できるようメールアドレス・パスワードを控えておくこと(大学入学時に各学生に付与されたもの) ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) ・課題はMicrosoft Teamsを使用し提出してもらいます。 ・課題・テストは必要に応じTeamsを用い返却します。 ・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。主担当教員は総合病院に勤務した経験より医療施設での情報リテラシーと活用について必要とする知識を講義します。		
【講義概要】 (目的) ・この科目では人工知能(AI)の概要を学習する。また強化学習を用いたモデル作成とプログラミングを行いAIの有用性を理解すると共に、リハビリテーション分野への応用についても考察する。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性：A-3		
(方法) ・Google teachable machineを利用し画像認識・音声認識・姿勢認識のデータモデル作成しScratch言語でプログラムする方法について演習する。 ・これらの学習モデルをリハビリテーション分野に活用例を示し応用プログラムを作成する。		
【一般教育目標(GI0)】 ・AIの概要について説明できる。 ・強化学習について説明できる。 ・AIのリハビリテーション分野での活用を説明できる。		
【行動目標(SB0)】 ・AIの定義と強化学習について概要を説明できる。 ・強化学習モデルの作成方法について説明できる。 ・強化学習モデルをScratch言語を用いてプログラミングできる。 ・リハビリテーション分野での強化学習モデルの利用を具体的に考察できる。		
【教科書・リザーブドブック】 必要に応じ資料を配布する。		
【参考書】 ・阿部和広 監修/横川耕二：おとなも学びたいプログラミングSCRATCH入門、エムディエヌコーポレーション \1650 ・ScratchでAIを学ぼう ゲームプログラミングで強化学習を体験(日本語) 単行本 \2090		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・出席点は評価に含みません。 ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価は、小テストおよびレポート点等により総合的に評価する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		0	40	50	0	0	0	10	100
評価指標	取り込む力・知識		20	25					45
	思考・推論・創造の力		20	25					45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション AIの歴史と応用分野 (☆) ・ AIの歴史、推論、探索、 ・ 汎用AI/特化型AI (強いAI/弱いAI) ・ 人間の知的活動とAI技術 ・ AI技術の活用領域の広がり	講義	・ シラバスを見ておく ・ 課題を行う。	・ 10分 ・ 30分
2	オリエンテーション AIの歴史と応用分野 (☆) ・ AIの歴史、推論、探索、 ・ 汎用AI/特化型AI (強いAI/弱いAI) ・ 人間の知的活動とAI技術 ・ AI技術の活用領域の広がり	講義	・ 授業資料PDFで動画を見ておく ・ 課題を行う。	・ 10分 ・ 30分
3	機械学習の基礎と展望 (☆) ・ 実世界で進む機械学習の応用と発展 (需要予測、異常検知、商品推薦など) ・ 機械学習、教師あり学習、教師なし学習、強化学習 ・ 学習データと検証データ ・ ホールドアウト法、交差検証法・ 過学習、バイアス	講義	・ 授業資料PDFで動画を見ておく ・ 課題を行う。	・ 10分 ・ 30分
4	深層学習の基礎と展望 (☆) ・ 実世界で進む深層学習の応用と革新 (画像認識、自然言語処理、音声生成など) ・ ニューラルネットワークの原理 ・ ディープニューラルネットワーク (DNN) ・ 学習用データと学習済みモデル	講義	・ 授業資料PDFで動画を見ておく ・ 課題を行う。	・ 10分 ・ 30分
5	認識 ・ 認識技術の活用事例 ・ パターン認識、特徴抽出、識別 ・ 数字認識、文字認識 ・ 画像認識、音声認識	講義	・ 授業資料PDFで動画を見ておく ・ 課題を行う。	・ 10分 ・ 30分
6	予測・判断 ・ 予測技術の活用事例・ 決定木 (Decision Tree) ・ 混同行列、Accuracy、Precision、Recall・ MSE (Mean Square Error) ・ ROC曲線、AUC (Area Under the Curve)	講義・演習	・ 授業資料PDFで動画を見ておく ・ 課題を行う。	・ 10分 ・ 30分
7	Scratch言語入門-1	講義・演習	・ 授業資料PDFで動画を見ておく ・ 課題を行う。	・ 10分 ・ 30分
8	Scratch言語入門-2	講義・演習	・ 授業資料PDFで動画を見ておく ・ 課題を行う。	・ 10分 ・ 30分

9	Scratch言語入門-2	講義・演習	・授業資料PDFで動画を見ておく ・課題を行う。	・10分 ・30分
10	認識-2 機械学習モデルを使用したプログラムの作成 ・画像認識プログラム	講義・演習	・授業資料PDFで動画を見ておく ・課題を行う。	・10分 ・30分
11	認識-3 機械学習モデルを使用したプログラムの作成 ・音声認識プログラム	講義・演習	・授業資料PDFで動画を見ておく ・課題を行う。	・10分 ・30分
12	言語・知識-1 ・自然言語処理の活用事例 ・形態素解析、単語分割、係り受け解析	講義・演習	・授業資料PDFで動画を見ておく ・課題を行う。	・10分 ・30分
13	言語・知識-2 ・大規模言語モデルとChatGPT ・プロンプトエンジニアリング	講義・演習	・授業資料PDFで動画を見ておく ・課題を行う。	・10分 ・30分
14	身体・運動 ・AIとロボット ・家庭用ロボット、産業用ロボット、サービスロボット ・自動化機械、センサー、アクチュエータ ・シーケンス制御、フィードバック制御	講義・演習	・授業資料PDFで動画を見ておく ・課題を行う。	・10分 ・30分
15	AIの構築・運用 (☆) ・AIの学習と推論、評価、再学習・AIの開発環境と実行環境・AIの社会実装、ビジネス/業務への組み込み・複数のAI技術を活用したシステム (スマートスピーカー、AIアシスタントなど)	講義	・授業資料PDFで動画を見ておく ・課題を行う。	・10分 ・30分

【科目名】中国語		【担当教員】橋本 親往
【授業区分】教養分野(外国語)	【授業コード】1-06-0020-2	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	hashimoto@nur.ac.jp
【単位数】2	【コマ数】30コマ	(オフィスアワー) 08:30～17:30
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 初修中国語会話なので、中国や中国医学、中国語に関心のある人は誰でも履修することができる。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) すべて配信授業なので、毎回ビデオを積極的に視聴し、発音・発声すること、宿題・復習・予習することが求められる。 筆記具などの学習ツールを用意すること。		
【講義概要】 (目的) 日本と中国は「互いに引っ越すことのできない隣人」で、文化的にも地理的にも切っても切れない関係にある。言葉の学習を通して、中国人と日本人の表現のしかた・考え方の違いを知り、相互理解の一助とすることができたらよいが、本講義はその入門授業である。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,2 (方法) 中国語の発音、ローマ字表記、初級会話や関連する単語・常用表現などを学ぶ。		
【一般教育目標(GIO)】 将来、本格的中国語の学習のための入門授業として、発音・ローマ字表記や初級会話を身につける。		
【行動目標(SB0)】 あいさつ、自己紹介や簡単な会話ができるようにする。		
【教科書・リザーブドブック】 どんと来い中国語『無料中国語会話テキスト』の中国語本文を基に、日本語解説などを修正編集、PDFをMP4に変換。		
【参考書】 小学館『中日辞典』『日中辞典』（電子辞書）		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 毎回の視聴状況・課題または小テストにより総合的に評価。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			60					40	100
評価指標	取り込む力・知識		30						30
	思考・推論・創造の力		30						30
	コラボレーションとリーダーシップ							10	10
	発表力							15	15
	学修に取り組む姿勢							15	15

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	「中国語」とは 発音……ローマ字「拼音」 単語＝文字のアクセント(声調)……四声、轻声 北京語音表	発音練習		30 60
3・4	北京語音表	発音練習		90
5・6	第1課 こんにちは 会話／単語 注目フレーズ(常用語)：あいさつ言葉 語彙：指示代名詞 文法：「～嗎」の疑問文	会話練習 教材音声 ⇄ 学生	学習チェックテスト	90
7・8	第2課 お元気ですか 会話／単語／注目フレーズ(常用語)：時間帯別のあいさつ言葉 文法：「也・都」の使い方 質問：「你早」と「早上好」のニュアンスの違い	会話練習 教材音声 ⇄ 学生	学習チェックテスト	90
9・10	第3課 お忙しいですか 会話／単語／注目フレーズ(常用語)：否定詞を使った質問文「不～嗎」 語彙：時制をあらわす言葉 文法：自然な否定文「あまり～ない」	会話練習 教材音声 ⇄ 学生	学習チェックテスト	90
11・12	第4課 家の中の様々な生活用品【単語】 リビングに関する単語／ベッドルームに関する単語／バスルームに関する単語／キッチンに関する単語／書斎に関する単語	発音練習	学習チェックテスト	90
13・14	第5課 お名前は 会話／単語／注目フレーズ(常用語)：①「私の名前は～です」②初対面で使う「お会いできてうれしいです」 文法：「就」の使い方	会話練習 教材音声 ⇄ 学生	学習チェックテスト	90
15・16	第6課 今日は何月何日 会話／単語／語彙：日付や曜日の言い方／注目フレーズ(常用語)：①「～でもいいですか」「～しましょうよ」②「だね」「だよ」色々な語気助詞／文法：「是」の省略 主語・補語を直結	会話練習 教材音声 ⇄ 学生	学習チェックテスト	90

17・18	第7課 ご紹介します 会話／単語／注目フレーズ（常用語）：①「どなたですか」②「ちょっと～する」③「ご紹介します」④「道中気をつけて」／文法：①所有や所属を示す「的」②最も基本的文型「主語＋述語」	会話練習 教材音声 ♪ 学生	学習チェックテスト	90
19・20	第8課 何人家族ですか 会話／単語／語彙：家族関係を表す呼び名 文法：①所有や所在を表す「有」の文型 ②介詞「在」を使った文型	会話練習 教材音声 ♪ 学生	学習チェックテスト	90
21・22	第9課 基本単語① 人称代名詞／指示代名詞／疑問詞／基本的な動詞	発音練習	学習チェックテスト	90
23・24	第10課 いま何時 会話／単語 語彙：時間の表し方 文法：時間詞を置く語順	会話練習 教材音声 ♪ 学生	学習チェックテスト	90
25・26	第11課 お家はどこですか 会話／単語／注目フレーズ（常用語）：①数量の尋ね方②「ならばよかった」 文法：V1してV2する…二つの動作が連続する連動句	会話練習 教材音声 ♪ 学生	学習チェックテスト	90
27・28	第12課 試着室はどこ 会話／単語 注目フレーズ（常用語）：①ものを尋ねる「すみません」②文を強調「就」 文法：①方位詞②正反疑問文「V＋不＋V」	会話練習 教材音声 ♪ 学生	学習チェックテスト	90
29・30	第13課 基本単語② 助詞（介詞：時間／場所・範囲／方向／対象）／ 能願動詞（できる・したい・すべき） 基本的な形容詞	発音練習	学習チェックテスト	90

【科目名】医療英文抄読法Ⅰ		【担当教員】原 亜由美	
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】	1-06-0025-2
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択
【単位数】	1	【コマ数】	15
【メールアドレス】ayumi.hara38@gmail.com			
(オフィスアワー) メール随時受付。返信は平日のみ。			
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 課題および小テストにはコメントを戻すので各自反映すること。課題提出期限、添削コメントの戻しはそれぞれ1週間以内とする。以下の場合においては生成AIの利用を許可する。これ以外の場面での利用は禁止する。〈利用可の場面〉課題のための下訳作成や草稿作成 ※生成AIによる原稿を本人の推敲がされないままの課題提出は禁止する。			
【講義概要】 (目的) 将来、英語で書かれた文献を苦手意識なしに読むことができる基盤を身につける。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2 (方法) オンデマンド型講義。具体的には音声解説付きの授業ファイルに基づき、フォームズによる課題提出と添削コメントのteams上でのやりとりをする。主に教科書を使用し、各章において読解のための語彙演習を行う。			
【一般教育目標(GIO)】 英語で書かれた学術論文を読むための基礎知識を身につける。 【行動目標(SB0)】 リハビリテーションにおける英語基本語彙を知る。医療にまつわる英文を読解し、要旨をまとめる。			
【教科書・リザーブドブック】 指定教科書：指定教科書：清水 雅子、リハビリテーションの基礎英語、メジカルビュー社、2017年、\2,400（税別）			
【参考書】 様式は問わないが辞書（英和、和英）を用意、使用のこと。			
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 小テスト及び課題レポートの結果を総合的に評価する。 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 出席点は評価に含まない。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			35	65					100
評価指標	取り込む力・知識		30	40					70
	思考・推論・創造の力		5	20					25
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			5					5

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション	講義	概要把握	45分
2	英文読解に必要な基礎事項の確認	講義・演習	例文翻訳の小レポート提出	45分
3-4	疾患／リハビリテーションにまつわる読解演習① 教科書使用	講義・演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
5-6	疾患／リハビリテーションにまつわる読解演習② 教科書使用	講義・演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
7-8	疾患／リハビリテーションにまつわる読解演習③ 教科書使用	講義・演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
9-10	疾患／リハビリテーションにまつわる読解演習④ 教科書使用	講義・演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
11-12	疾患／リハビリテーションにまつわる読解演習⑤ 教科書使用	講義・演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
13-14	疾患／リハビリテーションにまつわる読解演習⑥ 教科書使用	講義・演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分

[illegible]

【科目名】医療英文抄読法Ⅱ		【担当教員】原 亜由美	
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】	1-06-0027-2
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択
【単位数】	1	【コマ数】	15
【メールアドレス】ayumi.hara38@gmail.com			
(オフィスアワー) 授業終了後、教室にて			
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 課題および小テストにはコメントを返すので各自反映すること。課題提出期限、添削コメントの戻しはそれぞれ1週間以内とする。以下の場合においては生成AIの利用を許可する。これ以外の場面での利用は禁止する。〈利用可の場面〉課題のための下訳作成や草稿作成 ※生成AIによる原稿を本人の推敲がされないままの課題提出は禁止する。			
【講義概要】 (目的) 将来、英語で書かれた文献を苦手意識なしに読むことができる基盤を身につける。必要な学術文献を見つけることができる。当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2 (方法) オンデマンド型講義。具体的には音声解説付きの授業ファイルに基づき、フォームズによる課題提出と添削コメントのteams上でのやりとりをする。主に教科書を使用し、各章において読解のための語彙演習を行う。オンラインの検索システムを利用した英語論文検索の演習も行う。			
【一般教育目標(GIO)】 英語で書かれた学術論文を読むための基礎知識を身につける。 【行動目標(SB0)】 リハビリテーションにおける英語基本語彙を知る。医療にまつわる英文を読解し、要旨をまとめる。学術論文の検索方法を知る。			
【教科書・リザーブドブック】 指定教科書：清水 雅子、リハビリテーションの基礎英語、メジカルビュー社、2017年、\2,400（税別）			
【参考書】 様式は問わないが辞書（英和、和英）を用意、使用のこと。			
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 小テスト及び課題レポートの結果を総合的に評価する。成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。出席点は評価に含まない。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			35	65					100
評価指標	取り込む力・知識		30	40					70
	思考・推論・創造の力		5	20					25
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			5					5

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション	講義及び演習	授業内容の復習	45分
2	英文読解に必要な基礎事項の確認	演習	授業内容の復習 例文翻訳の小レポート提出	45分
3-4	疾患／リハビリテーションにまつわる読解演習① 教科書使用	演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習	90分
5-6	疾患／リハビリテーションにまつわる読解演習② 教科書使用	演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
7-8	疾患／リハビリテーションにまつわる読解演習③ 教科書使用	演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
9-10	疾患／リハビリテーションにまつわる読解演習④ 教科書使用	講義及び演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
11-12	医療学術論文検索についての演習①	演習	授業内容の復習 PubMed検索についての課題①提出	90分
13-14	医療学術論文検索についての演習②	演習	授業内容の復習 PubMed検索についての課題②提出	90分

[illegible]

【科目名】 解剖学・各論Ⅱ		【担当教員】 西野 幾子
【授業区分】 専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】 2-11-0020-3	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 授業終了後、非常勤控室で対応。
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 理学療法学、作業療法学、リハビリテーション心理学専攻2年次に在学している学生が対象。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 就学状況確認のため、適宜小テストを行うことがあります。 小テストの結果は全て返却します。 定期試験結果については必要に応じて解説を行います。		
【講義概要】 (目的) 人体を骨、筋、神経、脈管という系統に分析、また組織学的に細胞のレベルまで分析して説明する。最終的には再び人体を二重の筒(胴体と上・下肢) - (頭部と内臓)に、またマクロからミクロまでを統合して考察、理解する。これらにより、心身機能と身体構造の理解を深める。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2,3 (方法) 教科書、図譜などを活用して各器官、臓器の形態学的特徴を分析、考察して理解して説明できるようにする。 本科目は主として、「消化器」、「泌尿器」、「生殖器」、「内分泌系」などを講義する。		
【一般教育目標(GI0)】 医学や医療を学ぶ上での基礎を構築するため、人体の形態や構造を理解する。		
【行動目標(SB0)】 人体の内臓の構成や、諸器官について、その形態や構造を説明できる。		
【教科書・リザーブブック】 東洋療法学校協会編、解剖学、医歯薬出版、2014年、\5,900+税		
【参考書】 藤田恒夫、入門人体解剖学 改訂第5版、南江堂、2012年、\5,000+税		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含みません。 成績評価は、期末試験および小テストにより総合的に評価する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90	10						100
評価指標	取り込む力・知識	90	10						100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	消化器系： 消化器系の基本構成 口腔の構成と構造	講義	講義内容の復習 配布レジュメの理解	40分
3・4	消化器系： 各部の消化管の位置、形態、構造	講義	講義内容の復習 配布レジュメの理解	40分
5・6	消化器系： 各部の消化管の位置、形態、構造 消化腺の位置、形態、構造	講義	講義内容の復習 配布レジュメの理解	40分
7・8	泌尿器系： 泌尿器系の構成 腎臓の位置、形態、構造 尿路の構造と位置	講義	講義内容の復習 配布レジュメの理解	40分
9・10	生殖器系： 男性生殖器系の構成 各臓器の位置、形態、構造	講義	講義内容の復習 配布レジュメの理解	40分
11・12	生殖器系： 女性生殖器系の構成 各臓器の位置、形態、構造	講義	講義内容の復習 配布レジュメの理解	40分
13・14	内分泌系： 内分泌系の構成 各臓器の位置、形態、構造	講義	講義内容の復習 配布レジュメの理解	40分
15	内分泌系： 各臓器の位置、形態、構造 まとめ	講義	講義内容の復習 配布レジュメの理解	40分

【科目名】		解剖学実習		【担当教員】	松村 博雄
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	2-11-0025-3	(メールアドレス) 【大学取次】nur-edu@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 火曜日12：50～13：20	
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	必修		
【単位数】	1	【コマ数】	45		
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
今後、医学全般を学ぶ上での基礎となるものです。「死体解剖資格」を持ち、医学部での解剖学実習を指導した経験から、局所解剖学的に人体の構造を講義します。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
解剖学総論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを復習すること。試験の正解は他に支障の無い限り発表することとします。試験・レポートは他に支障の無い限り返却します。講義のとき配布したプリントは次回以降の講義にも持参すること。講義資料の要約、レポートの草稿作成、レジュメの草稿作成、プレゼン資料の原案作成については、生成系AIの利用を許可します。使用した場合はその旨を記載して下さい。これ以外の場面での利用は禁止します。					
【講義概要】					
(目的)					
解剖学実習は、脳科学なканずく中枢神経の解剖学を学習することを通して、解剖学総論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学習した知識を、心身機能と身体構造の結合へと理解を深めることが目的である。中枢神経系の理解により、脳や脊髄の障害が身体各部へどのように影響を与えるかを、局所解剖学的にとらえて、理解・説明できるようにすることも重要な目標の一つである。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2,A-3					
(方法)					
医学の大学で人体解剖の見学・実習を行う。献体されたご遺体から、生と死、生命の尊厳、医の倫理を実体験として感じ、学ぶことができる。生体で体表から同定しうる構造についての触診・体表への投影などについても学ぶ。リハビリテーションの現場のように、他人に説明することで理解を深める。					
【一般教育目標(GIO)】					
医学、医療について学ぶための基礎として、ヒトの中枢神経系を全体として、その構造や働きを理解する。					
【行動目標(SBO)】					
中枢神経系を全体として説明ができるようにします。運動や感覚の伝導路を説明できるようにします。					
【教科書・リザーブドブック】					
河野邦雄・伊藤隆造他著『東洋療法学校協会編教科書 解剖学 第2版』医歯薬出版2006年					
【参考書】					
森 於菟著『分担解剖学第1巻 改訂第11版』金原出版,1985年. ¥9,765 平沢 興著『分担解剖学第2巻 改訂第11版』金原出版,1984年. ¥11,130 小川 鼎三著『分担解剖学第3巻 改訂第11版』金原出版、1982年. ¥9,030 坂井建雄/監訳、市村浩一郎・澤井直/訳 『プロメテウス解剖学コアアトラス 第4版』 医学書院 2022年 ¥9500＋税					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は、本学学則規定のG P A制度に従う。出席点は評価に含めません。毎講義終了後、チームスを用いて小テストを出題する。期限内に解答が必須です。また、講義期間の中間と全講義終了後、試験を実施する。成績評価は、講義中に出した課題、解剖学実習・見学でのレポート、及び小テストと試験により総合的に行う。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60	20	10				10	100
評価指標	取り込む力・知識	60	20	0					80
	思考・推論・創造の力			10					10
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	中枢神経系の概観ーニューロンとシナプス。脊髄(1)。	講義	解剖学総論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの復習。	40分
3・4	脊髄(2)。神経系の発生。	講義	前回講義の復習	30分
5・6	脳幹(1)。	講義	前回講義の復習	30分
7・8	脳幹(2)。頭部の骨格。	講義	前回講義の復習	30分
9・10	脳神経(1)ー視神経，嗅神経，動眼神経，滑車神経，外転神経，三叉神経	講義	前回講義の復習	30分
11・12	脳神経(2)ー顔面神経，内耳神経，舌咽神経，迷走神経，副神経，舌下神経。	講義	前回講義の復習	30分
13・14	小脳	講義	前回講義の復習	30分
15・16	間脳(1)ー視床	講義	前回講義の復習	30分

17・18	中間試験 解剖学実習・見学のオリエンテーション	講義		
19・20	解剖学実習・見学の第1日目，午前	実習		
21・22	解剖学実習・見学の第1日目，午後	実習		
23・24	解剖学実習・見学の第2日目，午前	実習		
25・26	解剖学実習・見学の第2日目，午前午後	実習		
27・28	間脳(2)――視床下部	講義	前回講義の復習	30分
29・30	大脳――皮質，髄質	講義	前回講義の復習	30分
31・32	大脳基底核	講義	前回講義の復習	30分
33・34	大脳辺縁系	講義	前回講義の復習	30分
35・36	運動の伝導路と感覚の伝導路	講義	前回講義の復習	30分
37・38	脳の髄膜，脳室系，脳を栄養する動脈，硬膜静脈洞。	講義	前回講義の復習	30分

[illegible]

【科目名】	解剖学実習		【担当教員】	松村 博雄	
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	2-11-0025-3		
【開講時期】	通年(後期)	【選択必修】	必修		
【単位数】	1	【コマ数】	45		
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
今後、医学全般を学ぶ上での基礎となるものです。「死体解剖資格」を持ち、医学部での解剖学実習を指導した経験から、局所解剖学的に人体の構造を講義します。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
解剖学総論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを復習すること。試験の正解は他に支障の無い限り発表することとします。試験・レポートは他に支障の無い限り返却します。講義のとき配布したプリントは次回以降の講義にも持参すること。講義資料の要約、レポートの草稿作成、レジュメの草稿作成、プレゼン資料の原案作成については、生成系AIの利用を許可します。使用した場合はその旨を記載して下さい。これ以外の場面での利用は禁止します。					
【講義概要】					
(目的)					
解剖学実習は、脳科学なかんずく中枢神経の解剖学を学習することを通して、解剖学総論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学習した知識を、心身機能と身体構造の結合へと理解を深めることが目的である。中枢神経系の理解により、脳や脊髄の障害が身体各部へどのように影響を与えるかを、局所解剖学的にとらえて、理解・説明できるようにすることも重要な目標の一つである。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2,A-3					
(方法)					
医学の大学で人体解剖の見学・実習を行う。献体されたご遺体から、生と死、生命の尊厳、医の倫理を実体験として感じ、学ぶことができる。生体で体表から同定しうる構造についての触診・体表への投影などについても学ぶ。リハビリテーションの現場のように、他人に説明することで理解を深める。					
【一般教育目標(GI0)】					
医学、医療について学ぶための基礎として、ヒトの中枢神経系を全体として、その構造や働きを理解する。					
【行動目標(SB0)】					
中枢神経系を全体として説明ができるようにします。運動や感覚の伝導路を説明できるようにします。					
【教科書・リザーブブック】					
河野邦雄・伊藤隆造他著『東洋療法学校協会編教科書 解剖学 第2版』医歯薬出版2006年					
【参考書】					
森 於菟著『分担解剖学第1巻 改訂第11版』金原出版,1985年. ¥9,765 平沢 興著『分担解剖学第2巻 改訂第11版』金原出版,1984年. ¥11,130 小川 鼎三著『分担解剖学第3巻 改訂第11版』金原出版、1982年. ¥9,030 坂井建雄/監訳, 市村浩一郎・澤井直/訳 『プロメテウス解剖学コアアトラス 第4版』 医学書院 2022年 ¥9500+税					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は、本学学則規定のG P A制度に従う。出席点は評価に含めません。毎講義終了後、チームスを用いて小テストを出題する。期限内に解答が必須です。また、講義期間の中間と全講義終了後、試験を実施する。成績評価は、講義中に出した課題、解剖学実習・見学でのレポート、及び小テストと試験により総合的に行う。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60	20	10				10	100
評価指標	取り込む力・知識	60	20	0					80
	思考・推論・創造の力			10					10
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	中枢神経系の概観ーニューロンとシナプス。脊髄(1)。	講義	解剖学総論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの復習。	40分
3・4	脊髄(2)。神経系の発生。	講義	前回講義の復習	30分
5・6	脳幹(1)。	講義	前回講義の復習	30分
7・8	脳幹(2)。頭部の骨格。	講義	前回講義の復習	30分
9・10	脳神経(1)ー視神経，嗅神経，動眼神経，滑車神経，外転神経，三叉神経	講義	前回講義の復習	30分
11・12	脳神経(2)ー顔面神経，内耳神経，舌咽神経，迷走神経，副神経，舌下神経。	講義	前回講義の復習	30分
13・14	小脳	講義	前回講義の復習	30分
15・16	間脳(1)ー視床	講義	前回講義の復習	30分

17・18	中間試験 解剖学実習・見学のオリエンテーション	講義		
19・20	解剖学実習・見学の第1日目，午前	実習		
21・22	解剖学実習・見学の第1日目，午後	実習		
23・24	解剖学実習・見学の第2日目，午前	実習		
25・26	解剖学実習・見学の第2日目，午前午後	実習		
27・28	間脳(2)――視床下部	講義	前回講義の復習	30分
29・30	大脳――皮質，髄質	講義	前回講義の復習	30分
31・32	大脳基底核	講義	前回講義の復習	30分
33・34	大脳辺縁系	講義	前回講義の復習	30分
35・36	運動の伝導路と感覚の伝導路	講義	前回講義の復習	30分
37・38	脳の髄膜，脳室系，脳を栄養する動脈，硬膜静脈洞。	講義	前回講義の復習	30分

[illegible]

リハビリテーション学科

【科目名】 生理学実習		【担当教員】 木村 和樹、長谷川 裕、藤本 聡、村井 絹子、星野 浩通
【授業区分】 専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】 2-11-0285-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	k.kimura@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 45コマ	(オフィスアワー) 月～金曜日 9:00-17:00
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 1 年次に学んだ生理学の基本的な知識が身に付いているものとして進めていく。各実習は専門領域の教員が、機器の使用方法や目的を説明して実習を行う。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。そのため本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 実習時には白衣・KCを着用すること。実習後のレポート提出については、担当教員の指示に従うこと。 各班ごとに、日時と開講場所が異なるので注意すること。 この授業はクリックカーを用いた、双方向授業をおこないます。この授業はアクティブラーニングを用います。生成AIは部分的に使用しても良い。レポートで使用する場合はその旨を記載すること。		
【講義概要】 (目的) 生理学実習では生理学で学んだ知識を実習によって体験し、人体の多様な機能と調節機構について理解を深めることを目標とする。生体機能を科学的視点で捉える能力を高めるために、生理学の講義で習得した知識と実際に生体で起こる現象を包括的に融合させる。また、基本的な臨床検査の解釈に必要な基礎的知識を学修することを目的とする。 ※当該科目と学位授与方針等との関連性:A-2 (方法) 前半では動画学習を行い、実習の内容を理解する。 後半では実習を行い、結果をまとめ、自身の考察を記載する。 ※新型コロナウイルスの感染状況によってはオンラインに切り替える可能性もあります。		
【一般教育目標(GI0)】 生体機能を科学的視点で捉える能力を高めるために、生理学の講義で習得した知識と実際に生体で起こる現象を包括的に融合させる。また、基本的な臨床検査の解釈に必要な基礎的知識を習得する。 【行動目標(SB0)】 生命現象の基礎となるデータの採取、結果の整理、考察ができる。		
【教科書・リザーブドブック】 生理学実習プリント（オリエンテーション時もしくは各実習で配布）		
【参考書】 貴邑 富久子、根来 英雄・「シンプル生理学（改訂第 6 版）」南江堂、2008 年．\3,132（税込） 大地陸男著・『生理学テキスト（第 7 版）』文光堂、2013 年．\5,184（税込）		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含まない。 科目を修得するためには2/3以上の出席およびレポートの提出が条件である。 実習前動画レポートを30点分、実習レポートを70点分とした計100点のうち60点以上を合格とする。 試験・レポートの解答の返却はおこないません。フィードバックは必要に応じ補講等にておこなう。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			30					30
	思考・推論・創造の力			50					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			20					20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1コマ分	オリエンテーション、動画学習・実習の説明	座学	各講義で準備することを確認する。 レポート作成と提出にあたり、注意する事項を理解する。	60
2コマ分	心電図について	動画配信	動画内容を理解し、レポート課題を行なうこと。	60
2コマ分	皮膚感覚について	動画配信	動画内容を理解し、レポート課題を行なうこと。	60
2コマ分	表面筋電図について	動画配信	動画内容を理解し、レポート課題を行なうこと。	60
2コマ分	スパイロメータについて	動画配信	動画内容を理解し、レポート課題を行なうこと。	60
2コマ分	バイタルについて	動画配信	動画内容を理解し、レポート課題を行なうこと。	60
2コマ分	平衡機能について	動画配信	動画内容を理解し、レポート課題を行なうこと。	60
2コマ分	血圧測定の演習	実習	実習内容を理解すること。	60

[illegible]

リハビリテーション学科

【科目名】		病理学概論	【担当教員】	平田 誠市
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	2-11-0060-3	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	s.hirata@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 随時メールで応じます。
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。病院で病理検査業務を行ってきた経験を基に、疾病の原因、経過と結果について講義します。解剖学の知識を必要とするため、復習しておいてください。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識) ・講義のレジュメは必要に応じ、各自でプリントアウトして活用すること。 ・記憶の定着のためにレポートは手書きで行うこと。 ・生成AIの私活用:可(文章の最後に利用した生成AI名を記入すること)				
【講義概要】 (目的) なぜ病気を発症し、症状が現れるのか。リハビリテーションにおける病態理解のために必要な病理学の知識を身につけることを目的とします。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,A-2,A-3 (方法) 講義はオンデマンド型の動画を単元別に複数配信します。レポートは手書きしたものを写真撮影し、PDF形式で1枚にまとめ、Teams経由で提出してください。定期試験は全てのレポートを提出した人に行います。				
【一般教育目標(GI0)】 ・理学療法・作業療法を実践するために、病気がどのような原因で起こり、その結果、身体にどのような異常が起きるか、病理学の基礎的知識を理解することを目標とする。				
【行動目標(SB0)】 ・病因論、退行性・進行性病変、代謝障害、循環障害、免疫・炎症・感染症、腫瘍、老化、先天異常、奇形について説明できる。				
【教科書・リザーブブック】 教科書：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 病理学 第4版 医学書院 5,060円(税込み)				
【参考書】 ・なるほどなっとく!病理学 第2版 小林正伸 南山堂 2,420円(税込み) ・シンプル病理学 改訂第8版 笹野公伸/岡田保典/安井弥 改定第8版 南江堂 定価3,300円(税込み)				
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) マークシート方式の筆記試験(50%)、レポート(50%)で評価します。(成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従います。)				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50		50					100
評価指標	取り込む力・知識	50		50					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習・教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	- 概要 - 病因論 - 老化について解説する。	オンデマンド型講義	予習;教科書5-14,93-100pを読んでおく。 復習;レポート課題に取り組み、講義内容の重要ポイントを覚える。	60分 240分
3・4	- 退行性病変 - 進行性病変について解説する。	オンデマンド型講義	予習;教科書15-25pを読んでおく。 復習;レポート課題に取り組み、講義内容の重要ポイントを覚える。	60分 240分
5・6	代謝障害について解説する。	オンデマンド型講義	予習;教科書27-35pを読んでおく。 復習;レポート課題に取り組み、講義内容の重要ポイントを覚える。	60分 240分
7・8	循環障害について解説する。	オンデマンド型講義	予習;教科書37-48pを読んでおく。 復習;レポート課題に取り組み、講義内容の重要ポイントを覚える。	60分 240分
9・10	免疫について解説する。	オンデマンド型講義	予習;教科書50-59pを読んでおく。 復習;レポート課題に取り組み、講義内容の重要ポイントを覚える。	60分 240分
11・12	- 炎症 - 感染症について解説する。	オンデマンド型講義	予習;教科書61-72pを読んでおく。 復習;レポート課題に取り組み、講義内容の重要ポイントを覚える。	60分 240分
13・14	腫瘍について解説する。	オンデマンド型講義	予習;教科書73-92pを読んでおく。 復習;レポート課題に取り組み、講義内容の重要ポイントを覚える。	60分 240分
15	先天異常、奇形について解説する	オンデマンド型講義	予習;教科書101-112pを読んでおく。 復習;レポート課題に取り組み、講義内容の重要ポイントを覚える。	60分 120分

【科目名】		内科学Ⅰ	【担当教員】	杉谷 想一
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0025-3	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	s-sugitani@mgh.jp
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 火曜日 15:00～17:00
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 医療概論、解剖学、生理学、病理学、生化学などの知識と結びつけ、病態をイメージし、深く理解できるように留意する。試験問題は求めがあった場合には開示する。筆記試験が合格点に達しない場合は、追試験あるいは課題に対するレポート提出により再評価し、十分な理解と知識を習得できたと認めた場合は合格とする。レポート作成に際して、具体的な使用箇所の申告と発展的内容の追記と考察の加筆を行うことを条件に、一部においてのみ生成AIの使用も認める。				
【講義概要】 (目的) 基本的な内科学を講義する。ヒトの正常な解剖、生理機能を理解した上で、内科学の概念と医療における役割を理解する。「感染症」「炎症」「アレルギー」など病因を学ぶことで、疾病の概念、診断学、治療や予後を十分に理解する。これらにより、心身機能と身体構造、加齢変化、及び疾病や障害への理解、がんや難病など、リハビリテーションや心理面への支援が必要な疾病についても深く理解する。内科学Ⅰでは「消化器」「代謝」などの疾患を各論的に学習する。当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2 (方法) 教科書と配布資料を用いて、パワーポイントプレゼンテーションにより講義する。内科学総論を学びながら解剖、生理学、生化学の基本を身につけた後、疾患の病態、診断法、治療法について解説する。リハビリテーション医療は、高齢者を対象とする機会が多く、複数の疾患の合併があり、複雑な病態を呈する場合が多く、病因や病態を十分に理解できるように疾患のメカニズムを総論的に学習する。				
【一般教育目標(GIO)】 ・PT・OT・RP の仕事を円滑に行うために、常にその対象であるヒトの全身的な病態を正確に把握する。 ・ヒトの正常な解剖、生理機能を学ぶことで、内科学の基本を理解する。 ・病因を学ぶことで、疾病の概念、診断学の基礎、予後を十分に理解する。				
【行動目標(SBO)】 ・代表的な病態の概略を理解し、症状や病態の原因と解決方法について説明できる。 ・病態ごとに必要な検査や処置、緊急度や禁忌を考えることができる。				
【教科書・リザーブドブック】 角田亘・岡崎史子他「Crosslinkbasic リハビリテーションテキスト・内科学」メジカルビュー社				
【参考書】 浅野嘉延編「なるほどなっとく内科学」改訂2版 南山堂				
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含みません。 本講義に関する記述式試験を実施する。 成績評価は、試験を100点満点とし、60点以上を合格とする。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80						20	100
評価指標	取り込む力・知識	80							80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	内科学概論・解剖と生理・検査	講義	予習・復習	30
2	診断と症候学・臓器不全	講義	予習・復習	30
3	感染症Ⅰ（診断と治療）	講義	予習・復習	30
4	免疫と炎症	講義	予習・復習	30
5	腫瘍学総論（診断と治療）	講義	予習・復習	30
6	内分泌と代謝疾患	講義	予習・復習	30
7	採血検査、画像検査、薬剤	講義	予習・復習	30
8	消化器概論	講義	予習・復習	30

9	消化管疾患とがん	講義	予習・復習	30
10	肝炎・肝不全	講義	予習・復習	30
11	肝硬変・肝がん	講義	予習・復習	30
12	胆道・膵疾患	講義	予習・復習	30
13	糖尿病・高脂血症・高尿酸血症	講義	予習・復習	30
14	内分泌・代謝疾患各論	講義	予習・復習	30
15	前期のまとめ	講義	予習・復習	30
16	テスト			

【科目名】	内科学Ⅱ		【担当教員】	杉谷 想一
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0030-3 (メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修 s-sugitani@mgh.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15 (オフィスアワー) 火曜日 15:00～17:00	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 医療概論、解剖学、生理学、病理学、生化学などの知識と結びつけるよう留意する。 試験問題は求めがあった場合には開示する。筆記試験が合格点に達しない場合は、追試験あるいは課題に対するレポート提出により再評価し、十分な理解と知識を習得できたと認めた場合は合格とする。レポート作成に際して、具体的な使用箇所の申告と発展的内容の追記と考察の加筆を行うことを条件に、一部においてのみ生成AIの使用も認める。				
【講義概要】 (目的) 基本的な内科学を講義する。ヒトの正常な解剖、生理機能を理解した上で内科学の概念と医療における役割を理解する。感染症や炎症、アレルギーなど病因を総論的に学び、疾病の概念、診断学、治療や予後など、内科学Ⅰでの総論的な理解に引き続き、内科学Ⅱでは「循環器」「呼吸器」「血液」「腎・泌尿器」「膠原病」などの疾患を各論的に学習する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2 (方法) 教科書と配布資料を用いて、パワーポイントプレゼンテーションにより講義する。 内科学総論を学びながら解剖、生理学、生化学の基本を身につけた後、疾患の病態、診断法、治療法について解説する。 リハビリテーション医療は、高齢者を対象とする機会が多く、複数の疾患の合併があり、複雑な病態を呈する場合が多く、病因や病態を十分に理解できるように疾患のメカニズムを総論的に学習する。				
【一般教育目標(GI0)】 ・ PT・OT・RP の仕事を円滑に行うために、常にその対象であるヒトの全身的な病態を正確に把握する。 ・ ヒトの正常な解剖、生理機能を学ぶことで、内科学の基礎と実際の役割について深く理解する。 ・ 病因を学ぶことで、疾病の概念、診断学の基礎、予後を十分に理解する。				
【行動目標(SB0)】 ・ 代表的な病態の概略を理解し、症状や病態の原因と解決方法について説明できる。 ・ 病態ごとに必要な検査や処置、緊急度や禁忌を考えることができる。				
【教科書・リザーブドブック】 角田亘・岡崎史子他「Crosslinkbasic リハビリテーションテキスト・内科学」メジカルビュー社				
【参考書】 浅野嘉延編「なるほどなっとく内科学」改訂2版 南山堂				
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含みません。 本講義に関する記述式試験を実施する。 成績評価は、試験を100点満点とし、60点以上を合格とする。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80						20	100
評価指標	取り込む力・知識	80							80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	循環器概論（検査・症候学）	講義	予習・復習	30
2	循環器各論（高血圧・狭心症・心筋梗塞）	講義	予習・復習	30
3	循環器各論（心電図と不整脈）	講義	予習・復習	30
4	循環器各論（心筋疾患、心不全、心臓リハビリ）	講義	予習・復習	30
5	呼吸器概論	講義	予習・復習	30
6	呼吸器疾患の診断、検査、治療	講義	予習・復習	30
7	呼吸器各論（呼吸器感染症）	講義	予習・復習	30
8	呼吸器各論（慢性閉塞性肺疾患、アレルギー性肺疾患）	講義	予習・復習	30

9	血液概論	講義	予習・復習	30
10	血液疾患各論	講義	予習・復習	30
11	腎・泌尿器概論	講義	予習・復習	30
12	腎・泌尿器疾患各論	講義	予習・復習	30
13	免疫と膠原病	講義	予習・復習	30
14	免疫不全と感染症 II	講義	予習・復習	30
15	後期のまとめ	講義	予習・復習	30
16	テスト			

【科目名】	内科学Ⅱ		【担当教員】	杉谷 想一
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0030-3	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	
【単位数】	1	【コマ数】	15	
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
医療概論、解剖学、生理学、病理学、生化学などの知識と結びつけるよう留意する。 試験問題は求めがあった場合には開示する。筆記試験が合格点に達しない場合は、追試験あるいは課題に対するレポート提出により再評価し、十分な理解と知識を習得できたと認めた場合は合格とする。レポート作成に際して、具体的な使用箇所の申告と発展的内容の追記と考察の加筆を行うことを条件に、一部においてのみ生成AIの使用も認める。				
【講義概要】				
(目的)				
基本的な内科学を講義する。ヒトの正常な解剖、生理機能を理解した上で内科学の概念と医療における役割を理解する。感染症や炎症、アレルギーなど病因を総論的に学び、疾病の概念、診断学、治療や予後など、内科学Ⅰでの総論的な理解に引き続き、内科学Ⅱでは「循環器」「呼吸器」「血液」「腎・泌尿器」「膠原病」などの疾患を各論的に学習する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2				
(方法)				
教科書と配布資料を用いて、パワーポイントプレゼンテーションにより講義する。 内科学総論を学びながら解剖、生理学、生化学の基本を身につけた後、疾患の病態、診断法、治療法について解説する。 リハビリテーション医療は、高齢者を対象とする機会が多く、複数の疾患の合併があり、複雑な病態を呈する場合が多く、病因や病態を十分に理解できるように疾患のメカニズムを総論的に学習する。				
【一般教育目標(GIO)】				
・ PT・OT・RP の仕事を円滑に行うために、常にその対象であるヒトの全身的な病態を正確に把握する。 ・ ヒトの正常な解剖、生理機能を学ぶことで、内科学の基礎と実際の役割について深く理解する。 ・ 病因を学ぶことで、疾病の概念、診断学の基礎、予後を十分に理解する。				
【行動目標(SBO)】				
・ 代表的な病態の概略を理解し、症状や病態の原因と解決方法について説明できる。 ・ 病態ごとに必要な検査や処置、緊急度や禁忌を考えることができる。				
【教科書・リザーブドブック】				
角田亘・岡崎史子他「Crosslinkbasic リハビリテーションテキスト・内科学」メジカルビュー社				
【参考書】				
浅野嘉延編「なるほどなっとく内科学」改訂2版 南山堂				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含みません。 本講義に関する記述式試験を実施する。 成績評価は、試験を100点満点とし、60点以上を合格とする。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80						20	100
評価指標	取り込む力・知識	80							80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	循環器概論（検査・症候学）	講義	予習・復習	30
2	循環器各論（高血圧・狭心症・心筋梗塞）	講義	予習・復習	30
3	循環器各論（心電図と不整脈）	講義	予習・復習	30
4	循環器各論（心筋疾患、心不全、心臓リハビリ）	講義	予習・復習	30
5	呼吸器概論	講義	予習・復習	30
6	呼吸器疾患の診断、検査、治療	講義	予習・復習	30
7	呼吸器各論（呼吸器感染症）	講義	予習・復習	30
8	呼吸器各論（慢性閉塞性肺疾患、アレルギー性肺疾患）	講義	予習・復習	30

9	血液概論	講義	予習・復習	30
10	血液疾患各論	講義	予習・復習	30
11	腎・泌尿器概論	講義	予習・復習	30
12	腎・泌尿器疾患各論	講義	予習・復習	30
13	免疫と膠原病	講義	予習・復習	30
14	免疫不全と感染症 II	講義	予習・復習	30
15	後期のまとめ	講義	予習・復習	30
16	テスト			

リハビリテーション学科

【科目名】整形外科学Ⅰ		【担当教員】栢森 良二
【授業区分】専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】2-12-0035-3	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	r.kayamori@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15 コマ	(オフィスアワー) 月曜日9:30-16:30,メールで対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・リハビリテーション医学に関連する整形外科分野全般を学習します。整形外科分野の疾病について理解することを目標とする。基礎にある運動器の解剖学,生理学,運動学などの分野に関する参考書やスマホ,コンピュータなどを参考に,学習準備をすると良い。 ＊この科目は実務経験を有する教員が担当します。日本整形外科学会,日本リハビリテーション医学会の専門医として日常外来診療で運動器疾患の診断およびリハビリテーションに従事してきた経験から運動器疾患に関して講じます。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) ・講義の進行具合によって,講義内容が前後することがあります。 ・解剖学,生理学,運動学は十分に理解しておいてください。各講義の学修課題について予習は必須です。 ・各講義終了後に小テストを行います。10問で○×式です。全体で15回あります。事前に講義資料と一緒にTeamsで配布します。講義終了直後にTeamsに返却してください。試験結果について必要に応じて解説します。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
【講義概要】 (目的) ・リハビリテーション医学における整形外科領域の疾患の病態,症候,診断,治療などについて学ぶことができる。リハビリテーション関連職種として疾患の病態を理解して,治療手技を習得できる。 ＊当該科目と学位授与方針等との関連性;A-2,A-3 (方法) ・骨,関節,軟部組織等身体各部位における代表的な運動器疾患について事前にTeamsで配布した資料を用いて講義を行います。視覚的理解を促進するためにスライドでのイラストと動画を多用します。小テストも事前にTeamsで配布しますので予習ができます。		
【一般教育目標(GIO)】 ・リハビリテーション医学における整形外科領域の基本的な疾患を理解し,これを説明ができる。		
【行動目標(SB0)】 ・各講義の学修課題に沿って運動器疾患の病態,症候,治療原則を予習をする。不明な点はスマホ,コンピュータ,参考書を用いて事前に調べておく。次に講義を主体的に聴講し,疑問点を積極的に質問する。最後に小テストで復習する。 ・この15回の繰り返しを行い,さらに整形外科学全体をまとめる作業を行う。		
【教科書・リザーブドブック】 講義資料を使用します。教科書などはとくにありません。		
【参考書】 ・栢森良二「学生のためのリハビリテーション医学概論一第3版第4刷」(2023年1月,医歯薬出版,\3,300)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従います。 ・小テスト,まとめの筆記試験,出席授業態度などを総合的に評価します。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50	40					10	100
評価指標	取り込む力・知識	40	40						80
	思考・推論・創造の力	10							10
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1, 2	骨粗鬆症と骨軟化症，高齢者の4大骨折	小テスト，講義	骨皮質と海綿骨。骨基質と類骨。骨芽細胞と破骨細胞，骨細胞の役割。近位骨と遠位骨。高齢者の4大骨折。	90
3, 4	小児骨折の特徴，骨折のX線の読影，骨折治療の原則	小テスト，講義	小児骨折の特性。MoteggiaとGaleazzi骨折。上腕骨顆上骨折の合併症とFolkmann拘縮。骨折治療の原則。ギブス固定の副作用。	90
5, 6	骨折合併症と末梢神経損傷	小テスト，講義	偽関節。血栓塞栓症。上腕骨，前腕骨，大腿骨の骨折や肩や股関節脱臼の合併症。	90
7, 8	絞扼性神経障害と手の装具	小テスト，講義	胸郭出口，手根管，肘部管，Guyon管，Frohseアーケード，梨状筋，足根管の部位と圧迫神経。各種の手装具。	90
9, 10	膝靱帯損傷と肩の脱臼靱帯損傷	小テスト，講義	膝蓋骨の役割。Screw home 回旋。肩回旋腱板損傷と肩関節周囲炎の病態。	90
11, 12	変形性関節症：膝と股関節	小テスト，講義	変形性関節症の病態。軟骨の特性。人工関節脱臼肢位。	90
13, 14	関節リウマチ：病態，変形，ADL留意点	小テスト，講義	関節リウマチの病態。特徴的変形。	90
15	まとめ	講義	講義全体で疑問点があれば質問する。整形外科学関連分野の予習，復習	45

リハビリテーション学科

【科目名】整形外科学Ⅱ		【担当教員】栢森 良二
【授業区分】専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】2-12-0040-3	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】必修	r.kayamori@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15 コマ	(オフィスアワー) 月曜日9:30-16:30 メールで対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・リハビリテーション医学に関連する整形外科分野を学習します。この分野の疾病の病態、症候、治療学について理解することを目標とします。解剖学、生理学、運動学の分野に関しては、参考書、スマホ、コンピュータを積極的に活用して学習準備をすると良い。 ＊この科目は実務経験を有する教員が担当します。日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会の専門医として日常外来診療で運動器疾患の診断およびリハビリテーションに従事してきた経験から運動器疾患に関して講じます。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) ・講義の進行具合によって、講義内容が前後することがあります。 ・解剖学、組織学、病理学、生理学、運動学はある程度理解しているものとして講義を進めます。 ・小テストは講義前に講義資料と一緒にTeamsで配布します。解答は講義終了後に学務課のTeams返却してください。 ・講義はすべて対面講義で実施します。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
【講義概要】 (目的) ・リハビリテーション医学の中の整形外科領域における疾患の病態、症候、診断、治療などについて理解をして、これを説明できる。 ＊当該科目と学位授与方針等との関連性；A-2,A-3 (方法) ・骨、関節、軟部組織等身体各部位における代表的な運動器関連基礎疾患について事前にTeamsで配布した資料を用いて講義を行います。予習にもちいる小テストも事前にTeamsで配布いたします。		
【一般教育目標(GI0)】 ・基本的なリハビリテーション医学に関連する整形外科領域の疾患の説明ができる。		
【行動目標(SB0)】 ・整形外科で取り扱う運動器の疾病や外傷などの病態や治療を説明できる。 ・リハビリテーション医学の中の整形外科領域の疾患に対するリハビリテーションの目的や役割を関連付けて説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 講義資料を使用します。教科書などはありませんが、講義資料、小テストは以下の参考書から採用しています。		
【参考書】 ・栢森良二「学生のためのリハビリテーション医学概論―第3版」(医歯薬出版、\3,300)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従います。 ・小テスト、まとめの筆記試験、出席授業態度などを総合的に評価します。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50	40					10	100
評価指標	取り込む力・知識	40	40						80
	思考・推論・創造の力	10							10
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1, 2	脊髄損傷(1)－疫学と症候，脊髄の機能解剖	小テスト，講義	整脊髄損傷の発生頻度と好発年齢。4つの上行路と下行路。過伸展と過屈曲損傷。後縦靱帯と黄色靱帯。	90
3, 4	脊髄損傷(2)－ASIA分類	小テスト，講義	完全麻痺の定義。標準感覚点。機能予後とA,B,C,D,Eレベル。	90
5, 6	脊髄損傷(3)－Zancolli分類	小テスト，講義	C6損傷の詳細分類。ADLの機能予後。	90
7, 8	脊髄損傷(4)－自律神経症障害と5つの臨床症候群	小テスト，講義	自律神経の内臓支配。自律神経過反射。排尿排便障害。Brown-Séquard症候群，中心性頸髄症円錐vs.馬尾症候群。	90
9, 10	椎間板ヘルニア，分離すべり症，脊柱管狭窄症	小テスト，講義	疲労骨折の際頻度部位。分離すべり症と変性すべり症の相違。	90
11, 12	側彎症と骨端症	小テスト，講義	側彎症の分類。UnderarmとMilwaukee装具の相違。骨端症の好発部位。	90
13, 14	疼痛の分類と切断	小テスト，講義	CRPSの2つの分類。肩手症候群。先天性と小児の切断の特徴。切断の合併症。	90
15	まとめ	講義	講義全体で疑問点があれば質問する。整形外科学関連分野の予習，復習	45

リハビリテーション学科

【科目名】臨床神経学Ⅰ		【担当教員】高橋 英明
【授業区分】専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】2-12-0045-3	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	hidencch@gmail.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 来校時対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) PT、OT、STを目指す学生にとって臨床神経学は必須の基礎知識です。興味がでてきたら参考書で知識を増やして行くと良いでしょう。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 重要なことは配布資料にメモを取り、メディア等で調べ、空いた時間に知識の補填をしていくと将来にも役立つでしょう。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
【講義概要】 (目的) リハビリテーションの対象となる疾患の一つである神経系疾患は機能と障害を理解することでその病態や検査所見ならびに治療や予後に繋がる病気です。その代表的疾患を理解して臨床神経学的視点を養うことを目的とします。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2,A-3 (方法) 神経疾患は多岐に渡っており、すべてを知り理解することは簡単なことでは有りませんが、その基本的な神経解剖と神経症候学と脳血管障害、脳腫瘍といった疾患を中心に講義を構成しています。 スライドと配布資料にそって講義します。その後に課題を用紙に記入し提出して下さい。残った時間で質問して下さい。		
【一般教育目標(GIO)】 神経系の構造・機能・病態についての基礎を、臨床的視点を中心に横断的に学びます。 【行動目標(SBO)】 神経系の構造・機能・病態を説明できるようにします。		
【教科書・リザーブドブック】 教科書は用いません。配布資料と講義中のスライドをみて学びましょう。		
【参考書】 医療情報科学研究所編集「病気がみえるvol.7脳・神経」メディクメディア、¥3,990		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従い、試験と受講状況（課題の提出）により評価します。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80						20	100
評価指標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	① 脳卒中と脳出血について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
2	② 脳梗塞について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
3	③ トルーソー症候群について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
4	④ もやもや病と脳血管の理解	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
5	⑤ 脳動脈瘤とくも膜下出血について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
6	⑥ 脳腫瘍概論、脳ヘルニア、てんかんについて	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
7	⑦ 良性脳腫瘍について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
8	⑧ 悪性脳腫瘍と小児脳腫瘍について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分

9	⑨ 髄膜腫と神経症状について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
10	⑩ 転移性脳腫瘍について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
11	⑪ 脳の手術（開頭術と穿頭術）について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
12	⑫ 頭蓋骨腫瘍について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
13	⑬ 高次脳機能障害の理解	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
14	⑭ 髄膜癌腫症と腰椎穿刺、腰椎ドレナージについて	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
15	⑮ 延髄内側、外側症候群について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分

リハビリテーション学科

【科目名】臨床神経学Ⅱ		【担当教員】高橋 英明
【授業区分】専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】2-12-0050-3	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	hidencch@gmail.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 来校時対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) PT、OT、STを目指す学生にとって臨床神経学は必須の基礎知識です。興味がでてきたら参考書で知識を増やして行くと良いでしょう。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 重要なことは配布資料にメモを取り、メディア等で調べ、空いた時間に知識の補填をしていくと将来にも役立つでしょう。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
【講義概要】 (目的) リハビリテーションの対象となる疾患の一つである神経系疾患は機能と障害を理解することでその病態や検査所見ならびに治療や予後に繋がる病気です。その代表的疾患を理解して臨床神経学的視点を養うことを目的とします。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2,A-3 (方法) 神経疾患は多岐に渡っており、すべてを知り理解することは簡単なことでは有りませんが、その基本的な神経解剖と神経症候学と脳血管障害、脳腫瘍といった疾患を中心に講義を構成しています。 スライドと配布資料にそって講義します。その後に課題を用紙に記入し提出して下さい。残った時間で質問して下さい。		
【一般教育目標(GIO)】 神経系の構造・機能・病態についての基礎を、臨床的視点を中心に横断的に学びます。 【行動目標(SBO)】 神経系の構造・機能・病態を説明できるようにします。		
【教科書・リザーブドブック】 教科書は用いません。配布資料と講義中のスライドをみて学びましょう。		
【参考書】 医療情報科学研究所編集「病気がみえるvol.7脳・神経」メディクメディア、¥3,990		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従い、試験と受講状況（課題の提出）により評価します。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80						20	100
評価指標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	① 頭部外傷について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
2	② 認知症について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
3	③ 髄膜炎と神経感染症について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
4	④ 片頭痛について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
5	⑤ 変性疾患について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
6	⑥ パーキンソン病について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
7	⑦ 脱髄疾患について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
8	⑧ ミオパチーについて	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分

9	⑨ 水頭症について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
10	⑩ 脊髄と脊椎疾患について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
11	⑪ 先天奇形と母斑症について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
12	⑫ 末梢神経障害について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
13	⑬ 自律神経障害について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
14	⑭ せん妄と転倒について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分
15	⑮ 脳卒中と癌のリハビリテーションについて	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	講義25分＋課題作成15分＋質問5分

リハビリテーション学科

【科目名】小児科学		【担当教員】栢森 良二
【授業区分】専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】2-12-0055-3	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】必修	r.kayamori@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 月曜日午前午後, メールにて対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) リハビリテーション医学における小児科学の領域は、心と身体の成長と発達につきる。臨床領域は解剖学、生理学、発生学、遺伝学、人間発達学など広範な基礎分野に支えられている。さらに成長発達障害の領域も講義の中に含まれる。事前に配布される講義資料をもとに、参考書、スマホ、インターネットを積極的に活用して予習する必要がある。＊実務では障害児やてんかん外来を行っています。日本臨床神経生理学会脳波部門の専門医です。またこれまでPTOT国家試験委員を務め、医学部を含めて特別支援コース、看護学科など複数の学部学科でリ小児成長発達の講義を長年行っています。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) ・講義の進行具合によって、講義内容が前後することがあります。 ・発生学、遺伝学、人間発達学などの学習を必須です。 ・小テストは講義前に講義資料と一緒にTeamsで配布します。講義終了直後に学務課のTeamsに返却してください。 ・講義はすべて対面講義で実施します。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
【講義概要】 (目的) 小児のリハビリテーション分野は、[re]という「再び」元の状態に回復させることでないのでハビリテーションと呼んでいます。心と身体の成長発達とその障害を理解して、これを説明できるようにする。また小児の持っている能力を伸ばし社会参加を促進するにはどうするか理解する。当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2,A-3 (方法) 正常児の成長発達とその障害について事前にTeamsで配布した資料を用いて講義を行います。小テストも事前にTeamsで配布いたします。講義を十分に理解するには事前の講義資料と同時に配付される小テストを4時間ほどかけて予習する必要があります。疑問に思った点は講義で質問をする。さらに講義の後に理解したことを復習として十分な時間をかける必要があります。		
【一般教育目標(GI0)】 出生から5, 6歳までの粗大・微細運動、言葉、生活習慣、社会性などの成長とその5原則を理解する。さらに児童期、思春期の人間発達の課題、第二性徴、「三つ子の魂百まで」のパーソナリティ形成を習得する。認知、情意、精神運動が障害される自閉症スペクトラム、学習障害、Down症候群、Duchenn型筋ジストロフィー、軟骨無形成症、脳性麻痺などについても理解する。 【行動目標(SB0)】 ・個人・社会、粗大運動、手の微細運動、言語の分野の発達評価表を学修する。 ・原始反射と姿勢発達の順序を理解する。 ・小児期における獲得される人間発達の課題は何かを理解する。身体及び学習発達障害にはどんなものがあるか学修する。		
【教科書・リザーブドブック】 講義資料を使用します。講義資料は下記の参考書から採用しています。		
【参考書】 ・栢森良二「学生のためのリハビリテーション医学概論―第3版第4刷」(2023年1月, 医歯薬出版, \3,300)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従います。 ・小テスト, まとめの筆記試験, 出席授業態度などを総合的に評価します。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50	40					10	100
評価指標	取り込む力・知識	40	40						80
	思考・推論・創造の力	10							10
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	- 小児の成長と発達 カウプ指数, 成長の5原則 - デンバー発達スクリーニングテスト (DDST)	講義, 小テスト	出生時の体重が2倍, 身長が2倍になる時期。成長の臨界期。Scammon発育曲線。DDSTの見方を解説する	90
3・4	- 遠城寺式乳幼児分析的発達検査 - 原始反射と姿勢反応	講義, 小テスト	運動, 社会性, 言語の領域から小児の成長発達を診ている。どんな原始反射があり, 出現時期は。	90
5・6	- Eriksonのライフサイクルにおける小児のライフステージ - 身長スパートと第二性徴	講義, 小テスト	3歳までの人間発達の課題は何か。気性パーソナリティの形成。春はどこから来るか。	90
7・8	- 自閉症スペクトラムと学習障害 - 遺伝性成長障害	講義, 小テスト	自閉症の特性。学習障害にはどんなものがあるか。遺伝性成長障害にはどんなものがあるか。	90
9・10	脳性麻痺 (1) , (2)	講義, 小テスト	脳性麻痺の定義, どのように成長発達していくか。	90
11・12	- Down症候群 - Duchennnn型筋ジストロフィー	講義, 小テスト	それぞれの成長発達過程を診ていく。	90
13・14	- 二分脊椎 - 小児がんと死因	講義, 小テスト	脊髄髄膜瘤では残存腰仙髄神経レベルによって機能予後が決定される。神経因性膀胱, 水頭症, 脊髄係留症候群などの合併症がある。	90
15	まとめ	講義	講義全体で疑問点があれば質問する。小児科学関連分野の予習, 復習	45

[illegible]

リハビリテーション学科

【科目名】 精神疾患とその治療		【担当教員】 向田 怜史
【授業区分】 専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】 2-12-0060-1	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	mukaida@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15コマ	(オフィスアワー) 火・木 12:40～13:30
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 基本的な精神疾患を理解するだけでなく、医療人として心の病を持つ患者様に対する実際の対応の仕方を修得することが求められる。この講義は、精神保健福祉分野の臨床経験のある講師が経験を交えながら講じていく。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 試験結果は他に支障のない限り返却する。対面での講義を基本とし、アクティブラーニングの手法を用いて、主に問題解決型学習を焦点とした双方向の講義を展開していく。 生成系 AI の利用を全面的に許可する。授業内、および、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してよい。ただし、使用した場合にその旨をレポート等に記載すること。 ※障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談すること。		
【講義概要】 (目的) この科目は理学療法士・作業療法士・公認心理師養成のための必修科目である。精神医学についての一般的な知識を身につけるだけでなく、レゾン等を含み広くリハビリテーション分野および心理臨床分野での精神医学的アプローチを下記を中心に実践的に学ぶ。 ①精神疾患総論②向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-3,P-1,O-1,R-1 (方法) レジュメ、教科書を用いながら精神科医療に関する事例を取り上げ、疾患別に講義を行う。		
【一般教育目標(GIO)】 ・ ICDに準じた基本的な各精神疾患の概要について理解する。 【行動目標(SBO)】 ・ ICDに準じた基本的な各精神疾患の概要を説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 メディカルスタッフのための精神医学 谷岡哲也 友竹正人 安原由子 大坂京子 編集 中外医学社 2021年		
【参考書】 PT・OT・ST・心理職のための高次脳機能障害・精神医学・心理学必修キーワード 椿原彰夫 著 診断と治療社 2020年 標準理学療法学・作業療法学―専門基礎分野（精神医学）第4版 奈良勲 鎌倉矩子 上野武 2015年 医学書院		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・ 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・ 成績評価は定期試験により評価する。 ・ 出席点は評価に含めない。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90						10	100
評価指標	取り込む力・知識	45							45
	思考・推論・創造の力	45							45
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2回	精神医学の歴史 精神症状：客観症状と主観症状 意識の障害・自我意識の障害を中心に	対面講義	教科書P1～P20を読んでおくこと	90分
3・4回	ICDとDSMの違い 精神障害各論 ・物質使用及び嗜癖行動による障害 ・成人のパーソナリティおよび行動の障害	対面講義	前回の資料と教科書P150～P163、 P204～P208を読んでおくこと	90分
5・6回	精神障害各論 ・統合失調症と妄想性障害 ・気分障害	対面講義	前回の資料と教科書P165～P185を読んでおくこと	90分
7・8回	薬物治療について	対面講義	前回の資料と教科書P45～P63を読んでおくこと	90分
9・10回	精神障害各論 ・神経症性障害	対面講義	前回の資料と教科書P186～P196を読んでおくこと	90分
11・12回	精神障害各論 児童期の精神障害 ・ASD、LD、ADHD、チック障害を中心に	対面講義	前回の資料と教科書P223～P237を読んでおくこと	90分
13・14回	精神科リハビリテーションについて	対面講義	前回の資料と教科書P118～P128を読んでおくこと	90分
15回	今までの振り返り	対面講義	今までの資料や教科書を復習しておくこと	90分

リハビリテーション学科

【科目名】リハビリテーション工学		【担当教員】星野 浩通
【授業区分】専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】2-12-0065-3	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	hoshino@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 月曜～金曜 5時限
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 生活支援機器(車いす、杖、自助具、生活環境装置)についての説明を行います。生活支援機器に興味の持っている学生は受講を進めます。この科目は理学療法士として実務経験がある教員による講義です。生活支援機器を中心としたリハビリテーションに従事し、利用者の生活支援に必要な車いす、杖、生活支援機器全般について講じます。講義形態は講義とアクティブラーニングで構成します。＊障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員と事前に相談してください。生成AIの利用については自由とします。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) パーソナルコンピューター、タブレットを使用して講義を行います。講義資料はteamsに電子媒体として配信します。必要であれば事前に印刷をするようにしてください。自学、講義演習としてとしてFUI0SN360を利用した3Dデータの作成などを行う予定です。車椅子など重いものを運ぶ場合があるので、授業準備は複数名(3名)くらいで来てください。課題はteamsから提出をお願いします。科目試験は事務局にて返却をします。試験結果について必要に応じて解説をします。再試験は返却しません。		
【講義概要】 (目的) 理学療法士は日常生活における患者の姿勢や安全性、効率の良い運動を考慮し、理学療法を提供していく必要がある。リハビリテーション工学では人の姿勢や運動を理解し、介護技術や福祉機器の原理、使用方法を修得し、さらに工学の視点で評価・分析する方法を学修することを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2,P-3,0-3,R-1 (方法) 電子媒体にて資料を配布します。各自PCかタブレットを使ってください。 グループ学習とグループ発表を行います。 授業が終了後にICTを利用した、確認テストを行います。その際はoffice365のサインインが必要になります。		
【一般教育目標(GIO)】 人間支援工学を習得するために、人間の動作や姿勢における生体力学を理解し、かつ人間支援機器の種類や使用方法について理解する。 【行動目標(SBO)】 生態におけるバイオメカニクスを説明する。 生活支援機器の種類や使用法を説明する。 生活支援機器の構造を理解し、自ら作成案を提示できる。		
【教科書・リザーブドブック】 Teamsでの資料提示		
【参考書】 なし		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) (評価の基準・方法) ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価は、期末試験およびレポート点により総合的に評価する。 ・出席点は評価に含まない。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50	15		35				100
評価指標	取り込む力・知識	50	15						65
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力				35				35
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	リハビリテーション工学について オリエンテーション	講義対面 星野浩通 指定教室	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
2	3DCDのモデリング FOSION360 3Dプリンターについて	講義対面 星野浩通 指定教室	事前にFOSION360のダウンロードと登録をお願いします。	20
3	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 移動支援機器(車椅子)	講義対面 星野浩通 指定教室	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 車椅子パーツの名称を復習すること	20
4	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 移動支援機器(車椅子関連用品)	講義対面 星野浩通 指定教室	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 車いすパーツの名称を復習すること	20
5	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 移動支援機器(車椅子関連用品)	講義対面 星野浩通 指定教室	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 車いすに使用するシートの種類を復習すること	20
6	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 移動支援機器(車椅子関連用品) (車椅子シーティング)	講義対面 星野浩通 指定教室	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 車いすに使用するシートの種類を復習すること	20
7	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 移動支援機器(環境制御装置)	講義対面 星野浩通 指定教室	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 環境制御の概要を復習すること	20
8	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 移動支援機器(環境制御装置)	講義対面 星野浩通 指定教室	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 環境制御の概要を復習すること	20

9	生活支援 （疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具） 移動支援機器（人の心の杖となれ）	講義対面 星野浩通 指定教室	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 杖の種類と適応について復習すること	20
10	生活支援 （疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具） 移動支援機器（人の心の杖となれ）	講義対面 星野浩通 指定教室	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 杖の種類と適応について復習すること	20
11	生活支援（疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具） 演習（福祉機器の考察）	講義対面 星野浩通 指定教室	発表に向けた作成 グループを作り、発表準備	45
12	支援機器の作成作成案 グループ活動	アクティブラーニング 星野浩通 指定教室	発表に向けた作成 グループを作り、発表準備	20
13	支援機器の作成作成案 グループ活動	アクティブラーニング 星野浩通 指定教室	発表に向けた作成 グループを作り、発表準備	20
14	生活支援（疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具） 成果発表	アクティブラーニング 星野浩通 指定教室	発表に向けた準備	20
15	生活支援（疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具） 成果発表	アクティブラーニング 星野浩通 指定教室	発表に向けた準備	20

リハビリテーション学科

【科目名】 薬理学		【担当教員】 桑島 治博
【授業区分】 専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】 2-12-0077-3	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	kuwajima@ngt.ndu.ac.jp
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 来校時の授業終了後に対応します。
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 臨床で患者に投与される薬物についての基礎知識となる科目です。 解剖学および生理学の知識が必要なので復習しておいてください。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 受講前に教科書を必ず読んでわからない言葉などを予習をしておいてください。 (フィードバック方法) 最終コマ講義の際に演習問題の模範解答を、定期試験終了後に定期試験の模範解答を配布してフィードバックする。		
【講義概要】 (目的) リハビリテーション分野において必要となる様々な病態、および健康状態における薬物作用の基礎知識を習得する。リハビリテーション分野において、必要となる薬理学の概念と知識を習得する。薬物の作用機序、体内動態、薬物に影響を及ぼしうる要因、さらに薬物の副作用についての知識を習得する。授業内容に準じて知識を習得し、リハビリテーション医療に生かせる能力を身につける。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2 (方法) 教科書と配付資料を用いて、リハビリテーション分野に関連する薬物療法を中心に講義を行う。		
【一般教育目標(GI0)】 将来、医療現場においてコメディカルとして参画するために、各疾患で適用される薬物と生体との相互作用を学び、薬物療法の基本原理を理解する。		
【行動目標(SB0)】 ①用量と薬理作用の関係を説明する。 ②薬物の作用機序を説明する。 ③各ライフステージにおける薬物動態を説明する。 ④薬物の副作用・有害作用を説明する。 ⑤各疾患の薬物療法で使用される薬物の種類、作用機序、副作用を説明する。		
【教科書・リザーブドブック】 イラストで理解するかみくだき薬理学(第2版) 南山堂 \2,300		
【参考書】		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定GPAに従う。 ・成績評価は期末試験および課題レポート点により総合的に評価する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80	0	20	0	0	0	0	100
評価指標	取り込む力・知識	80	0	10	0	0	0	0	90
	思考・推論・創造の力	0	0	5	0	0	0	0	5
	コラボレーションとリーダーシップ	0	0	0	0	0	0	0	0
	発表力	0	0	0	0	0	0	0	0
	学修に取り組む姿勢	0	0	5	0	0	0	0	5

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1.2	薬理学の基礎知識(1)	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。 講義後、課題2題を自己学習しレポートで提出する。 講義ごとに確認テストを行う。	30
3.4	薬理学の基礎知識(2)	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。 講義後、課題2題を自己学習しレポートで提出する。 講義ごとに確認テストを行う。	30
5.6	末梢神経に作用する薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。 講義後、課題2題を自己学習しレポートで提出する。 講義ごとに確認テストを行う。	30
7.8	中枢神経に作用する薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。 講義後、課題2題を自己学習しレポートで提出する。 講義ごとに確認テストを行う。	30
9.10	心臓・血管・血液に作用する薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。 講義後、課題2題を自己学習しレポートで提出する。 講義ごとに確認テストを行う。	30
11.12	アレルギー、炎症に用いる薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。 講義後、課題2題を自己学習しレポートで提出する。 講義ごとに確認テストを行う。	30
13.14	悪性腫瘍に用いる薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。 講義後、課題2題を自己学習しレポートで提出する。 講義ごとに確認テストを行う。	30
15	感染症に用いる薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。 講義後、課題2題を自己学習しレポートで提出する。 講義ごとに確認テストを行う。	30

【科目名】 感染症学		【担当教員】 平田 恒彦
【授業区分】 専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】 2-12-0085-3	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 来校時に対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 今後：臨床実習を行う学生には、感染症から自分自身を守るためには大切な知識を提供するので受講してほしい。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) マスメディアの情報、ニュースに注目。聴講時の飲食・雑談および無言勝手な出入りは厳禁である。試験後回答例を提示する。		
【講義概要】 (目的) 数々の抗生物質やワクチンの登場以来、「感染症」は終わったとの見方が医療関係者や研究者の間で大勢を占めつつあった。そんな時に病原大腸菌0-157が襲ってきた。忘れつつあった細菌の襲来である。感染症、それはヒトが生きている限り、他の生物との関わりの中で、避けられない環境の中で起こる1つの現象である。学問としての内容は古典的な場面があるが、忘れてはいけない医生物科学の分野である。そのため、感染症予防対策を伝染病という観点からも眺める。新型コロナウイルス感染症についても話題を提供する。当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2 (方法) 本講座においては、他の生物の兼ね合いを考えながら、解剖生理学、免疫学、疫学等を背景にし、広い視点から学習をすすめ、リハビリテーション現象の中での具体的な問題を考察する。		
【一般教育目標(GI0)】 ・感染症について理解し、医療現場（特にリハビリテーション現場）での感染予防について理解することができること。		
【行動目標(SB0)】 ・感染症に関する話題を語れるようになること。		
【教科書・リザーブドブック】 増沢俊幸著「感染制御の基本がわかる微生物学・免疫学」羊土社		
【参考書】 講義内で必要であれば紹介する		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 成績評価は、期末試験およびレポート点等により総合的に評価する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		85	0	10	0	0	0	5	100
評価指標	取り込む力・知識	0	0	0	0	0	0	0	0
	思考・推論・創造の力	50	0	0	0	0	0	5	55
	コラボレーションとリーダーシップ	15	0	0	0	0	0	0	15
	発表力	10	0	5	0	0	0	0	15
	学修に取り組む姿勢	10	0	5	0	0	0	0	15

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	微生物学・免疫学の発展の歴史、微生物学の基礎 (生物学的特徴)	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
3-4	免疫と生体防御機構 ― 1	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
5-6	免疫と生体防御機構 ― 2	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
7-8	感染症の制御	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
9-10	化学療法と耐性菌	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
11-12	細菌学各論、ウイルス学各論	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
13-14	真菌学各論、蠕虫学各論	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
15 16	臓器・組織別感染症 試験	講義 講義(補講) 16 コマ目	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分

【科目名】 高次脳機能障害学概論		【担当教員】 大平 芳則
【授業区分】 専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】 2-14-0000-3	(メールアドレス) y.ohdaira@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 水曜12:40～13:30
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	
【単位数】 1	【コマ数】 15コマ	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) この授業はアクティブラーニングを用います。 生成AI、PC、スマホ、電子辞書、紙ベースの辞書等、利用できるものは何でも活用する。ただし、それらは全て適切に使う必要がある。引用した場合には、文献を明記し、引用箇所を明らかにする。特に、生成AIを使用した場合は、使用した箇所が明確に分かるよう記載し、必ず自分で内容を吟味し、必要な修正を行うことが求められる。		
【講義概要】 (目的) 我々が過ごす日常生活の中で、言語や記憶、行為、認知さらに注意といった様々な高次脳機能が常に介在している。それらの高次脳機能とはどのような機能なのか、またそれらの機能が障害されると、日常生活にどのような影響を受けるのかなどについて学ぶ。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2 (方法) 高次脳機能およびその障害像について講義を行なう。		
【一般教育目標(GI0)】 高次脳機能障害患者が抱える諸問題について、その病態を知りどのような形でアプローチすることが大切であるか評価を含めて理解する。		
【行動目標(SB0)】 高次脳機能とは、どのようなものか言える。 高次脳機能障害にはどのような障害があるか言える。 それぞれの高次脳機能障害につて説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 なし。 資料を配付します。		
【参考書】 石合純夫 高次脳機能障害学 医歯薬出版 2022年 4500円＋税 山鳥重 神経心理学入門 医学書院 1985年 6400円＋税		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価は、毎回授業ごとの課題レポート100%とする。 出席点は評価に含まない。 課題レポートについては、その記載例をもってフィードバックとする。 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			100					100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1.2	高次脳機能障害とは 大脳	講義 (オンデマンド)	講義で行った部分の資料を用いて復習	60分
3.4	意識障害 注意の障害	講義 (オンデマンド)	講義で行った部分の資料を用いて復習	60分
5.6	認知症	講義 (オンデマンド)	講義で行った部分の資料を用いて復習	60分
7.8	言語の障害	講義 (オンデマンド)	講義で行った部分の資料を用いて復習	60分
9.10	行為の障害	講義 (オンデマンド)	講義で行った部分の資料を用いて復習	60分
11.12	視覚の障害	講義 (オンデマンド)	講義で行った部分の資料を用いて復習	60分
13.14	半側空間無視	講義 (オンデマンド)	講義で行った部分の資料を用いて復習	60分
15	その他の高次脳機能障害	講義 (オンデマンド)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分

【科目名】 摂食・嚥下障害学概論		【担当教員】 山村 千絵
【授業区分】 専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】 2-14-0005-3	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	yamamura@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15コマ	(オフィスアワー) 月～金 11:30～12:30
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 摂食嚥下のメカニズムや、口腔機能に関する基本的な検査・診断・評価・訓練・嚥下食等に興味を持ち、将来、臨床現場において、あるいは、食支援を必要とする家族等の介護場面において、本領域の知識や技術を活用したいと思う学生が聴講するのが望ましい。この科目は実務経験者（歯・口腔の機能とりわけ咀嚼機能に精通した歯科医師）が担当する科目である。受講生が所属する専攻分野に合わせて、歯科領域の専門的な内容についても、わかりやすく講じていく。 障害等があって配慮が必要な学生は事前に相談することを推奨します。		
（受講のルールに関わる情報・予備知識） 頭頸部や顎顔面・口腔・咽頭・喉頭領域の解剖学的模型のほか、臨床現場で実際に使用されている器具類を示しながら、講義を進めていく。1年次に「解剖学」・「生理学」・「人体の構造と機能及び疾病」等の科目で学んだ内容のうち、特に頭頸部や顎顔面・口腔・咽頭・喉頭領域の事項について復習をしておく、本講義が理解しやすくなる。定期試験実施後のフィードバックについては、模範解答の配付を行うことで対応する。講義途中で課すレポートは、提出後に添削して返却するので確認すること。生成AIについては、「講義資料の要約、レポートの草稿作成」の場合においてのみ利用を許可する。		
【講義概要】 (目的) はじめに、摂食嚥下機能と関係の深い頭頸部や顎顔面・口腔・咽頭・喉頭領域の構造と機能を学び、次に、正常な構造や機能が障害された場合の病態像や、障害されるメカニズム、リハビリテーションの基礎等を学ぶ。本講義の履修は、臨床実習や臨床現場、その他の食支援の場面等において、摂食嚥下機能が低下した方に対応する際に、理学療法士・作業療法士・心理専門職等のリハビリテーションスタッフが、どのように関わったらよいかを知ることにつながる。 当該科目と学位授与方針等との関連性： A-2,3 P-2 O-2 R-1 (方法) パワーポイントスライドを主に使用して講義を進めていく。講義資料は毎回プリントして配付する。なお、予習に必要な資料については、前もって配付することがある。また、必要に応じて、各種の解剖学的模型を使用したり、口腔内を観察したり、臨床で使う器具類を提示・使用したり、嚥下食等の試食をしたり匂いを嗅いだりするなど、学生の五感をフルに活用させながら、立体的に講義を進めていく。これらの体験を実施する際は、十分な感染防止対策を実施したうえで行うが、コロナ禍にあっては体験の一部が制限される場合もある。		
【一般教育目標(GIO)】 摂食嚥下リハビリテーションのチーム医療において、理学療法士・作業療法士・心理専門職として、基本的な役割を果たすために、摂食嚥下の機能および障害領域に関する基礎的事項を理解し、将来の臨床現場やその他の食支援の場面等において役に立つ知識や技術を身につける。		
【行動目標(SBO)】 ・ 摂食嚥下障害とそのリハビリテーションの概要について説明できる。 ・ 摂食嚥下に関係する諸器官の解剖、生理について説明できる。 ・ 摂食嚥下の基本的なメカニズムについて説明できる。 ・ 口腔機能に関する基本的な検査・診断・評価・訓練を実施できる。 ・ 摂食嚥下障害に関するチーム医療の概要について説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 特に教科書等は指定しない。講義内容は、プリント資料として配付する。		
【参考書】 向井美恵（他著）『摂食・嚥下障害ベストナーシング』 学研メディカル秀潤社、2010年。 \2,640（税込） 倉智雅子（編著）『言語聴覚士のための摂食・嚥下障害学』 医歯薬出版、2013年。 \4,840（税込） 山田好秋（著）『よくわかる摂食・嚥下のメカニズム 第2版』 医歯薬出版、2013年。 \4,620（税込）		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価の基準については、本学学則に規定されているGPA制度に従う。 すべての講義終了後に記述式試験を実施するほか、講義途中においてもレポート等課題を課す。 講義終了後の試験80%、講義途中で課すレポート等課題の達成度10%、学修に取り組む姿勢や態度（出席状況を除く）10%の割合で総合的に評価を行う。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80		10				10	100
評価指標	取り込む力・知識	70							70
	思考・推論・創造の力	10		10					20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1,2	咀嚼とは何か。嚥下とは何か。 摂食とは何か。 (それぞれの定義を理解する。)	講義	(復習) 学修した内容を整理し ノート等にまとめる。	90分
3,4	歯・口腔・顎・顔面の構造 歯・口腔・顎・顔面の機能 (口腔解剖学・口腔生理学の内容を深める。)	講義 アクティブ・ ラーニング演習	(予習) これまでに学んできた 口腔・咽頭領域の 解剖・生理について 復習をしておく。	90分
5,6	咀嚼の仕組み 咀嚼の神経性制御機構 (生理学的観点から学ぶ。)	講義	(復習) 学修した内容を整理し ノート等にまとめる。	90分
7,8	嚥下の仕組み 嚥下の神経性制御機構 (生理学的観点から学ぶ。)	講義	(復習) 学修した内容を整理し ノート等にまとめる。	90分
9,10	摂食・嚥下障害の病態 摂食・嚥下障害の症状 誤嚥の種類 誤嚥性肺炎 (臨床につなげる。)	講義	(予習) 事前に配付するプリントを 読んでおく。 (復習) 学修した内容を整理し ノート等にまとめる。	30分 60分
11,12	摂食・嚥下障害の原因 機能的摂食・嚥下障害 器質的摂食・嚥下障害 加齢による摂食・嚥下機能の低下 (臨床につなげる。)	講義	(予習) 事前に配付するプリントを 読んでおく。 (復習) 学修した内容を整理し ノート等にまとめる。	30分 60分
13,14	摂食・嚥下機能の検査・評価 摂食時の観察、医療面接、視診、触診 一般検査、神経学的検査、スクリーニング 非VF系嚥下機能評価 (臨床につなげる。)	講義 アクティブ・ ラーニング演習	(予習) 事前に配付するプリントを 読んでおく。 (復習) 学修した内容を整理し ノート等にまとめる。	30分 60分
15	摂食・嚥下リハビリテーション(訓練・治療) 摂食・嚥下訓練開始前の準備・ケア 訓練の組み立て、間接訓練、直接訓練 ケアを必要とする人への接し方 (臨床につなげる。)	講義 アクティブ・ ラーニング演習	(予習) 事前に配付するプリントを 読んでおく。 (復習) 学修した内容を整理し ノート等にまとめる。	30分 60分

【科目名】基礎運動学Ⅰ		【担当教員】金子 巧
【授業区分】専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】2-14-0010-3	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	kaneko@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15コマ	(オフィスアワー) 水曜日12:45～13:15
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・解剖学、生理学と関係の深い分野です。1年次に学習した解剖学、生理学の内容を復習してください。 ※この科目は実務経験を有する教員が担当します。臨床で心身機能の維持回復に関わるリハビリテーションに従事してきた経験から、身体運動に関する基本的事項について講じます。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) ・各自、教科書などの教材を利用し、事前学習および復習を行うこと。 ・試験結果について、解答の開示と点数の通知はしますが情報漏洩の観点から返却はしません。 ・試験後、必要に応じて試験内容を中心とした補講（試験内容の解説を含む）を行います。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
【講義概要】 (目的) ・リハビリテーションを実施するためには身体運動の分析が必要です。本講義では、運動に関する用語や、身体運動に関する基本的概念を学びます。また、身体の構造や機能に関し、解剖学や生理学、物理学の知識を統合し、運動の捉え方を学習します。 ＊当該科目と学位授与方針等との関連性；A-2,3 (方法) ・講義を中心に、身体運動に関する知識を深めます。また小テストを行い、学習を深めます。 ・講義の中で能動的に学べるようアクティブラーニング、グループワークを用います。 ・この授業はクリックカーを用いた、双方向授業をおこないます。		
【一般教育目標(GI0)】 ・運動や動作の観察と分析を行うための基本的手段や用語を理解し、記述・説明することができる 【行動目標(SB0)】 ・運動や動作に必要な身体機能と構造を理解し、記述・説明することができる ・姿勢や歩行について運動学用語を使って記述・説明することができる		
【教科書・リザーブドブック】 ・Donald A.Neumann,筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版,医歯薬出版		
【参考書】 ・中島雅美,他編著,PT・OT基礎から学ぶ運動学ノート 第2版,医歯薬出版,2016年,¥4,000(税別) ・中村隆一,他,基礎運動学 第6版,医歯薬出版,2003年,¥6,800(税別)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則指定のGPA制度に従います。出席点は評価に含みません。 ・小テスト、筆記試験を総合的に評価します。 ・試験・レポートの解答の返却はおこないません。フィードバックは必要に応じ補講等にておこないます。 ・生成系 AI の利用を全面的に許可します。授業内、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してください。使用した場合にその旨をレポート等に記載してください。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60	40						100
評価指標	取り込む力・知識	50	40						90
	思考・推論・創造の力	10							10
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	・講義ガイダンス ・解剖学，生理学の確認	講義，小テスト	解剖学，生理学の復習	60
3,4	・キネシオロジーの基本原理	講義，小テスト	・解剖学，生理学，物理学の復習	60
5,6	・運動学総論①	講義，小テスト	・解剖学，生理学の復習 ・講義内容の復習	60
7,8	・運動学総論②	講義，小テスト	・解剖学，生理学の復習 ・講義内容の復習	60
9,10	・運動学総論③	講義，小テスト	・解剖学，生理学の復習 ・講義内容の復習	60
11,12	・上肢、下肢について	講義、小テスト	・解剖学，生理学の復習 ・講義内容の復習	60
13,14	・体幹、姿勢について	講義、小テスト	・解剖学，生理学の復習 ・講義内容の復習	60
15	・歩行、学習と記憶について	講義、小テスト	・解剖学，生理学の復習 ・講義内容の復習	60

【科目名】基礎運動学Ⅱ		【担当教員】若菜 翔哉
【授業区分】専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】2-14-0015-3	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	wakana@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 火：12時50分～13時20分
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・基礎運動学Ⅰの内容と関連付けて学習すること。 ・解剖学と生理学の知識を定着させておくこと(解剖学と生理学との関連付けが非常に大切になります)。 ・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で理学療法士としてリハビリテーションに従事してきた経験から、運動学の基礎知識について講義を行います。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) ・各自、教科書などの教材を利用し、事前学習および復習を行うこと。 ・試験結果について、解答の開示と点数の通知はしますが情報漏洩の観点から返却はしません。 ・試験後、必要に応じて試験内容を中心とした補講(試験内容の解説を含む)を行います。		
【講義概要】 (目的) ・リハビリテーションを実施するためには身体運動の分析が必要です。本講義では、運動学の基礎知識を学びます。また、運動学だけではなく解剖学や生理学の知識と統合し、姿勢や歩行分析など身体運動の分析に応用できるようになることを目的とする。 ＊当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,2 ＊当該科目と学位授与方針等との関連性：P-1,2 (方法) ・主として教科書と配布資料を使用して講義を行います。 ・毎講義ごとに小テストを行い、講義内容の理解度を確認します。 ・この授業はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GI0)】 ・臨床に必要な運動学の基礎知識を理解できる。		
【行動目標(SB0)】 ・運動学の基礎知識を説明し記述することができる。 ・運動学、解剖学、生理学の内容を統合し、それぞれを関連付けて説明し記述することができる。		
【教科書・リザーブブック】 1. 弓岡光徳, 溝田勝彦, 村田伸, エッセンシャル・キネシオロジー 機能的運動学の基礎と臨床 原著第3版, 南江堂, 2020年, ¥5,800 (税別)		
【参考書】 ・中村隆一, 他, 基礎運動学 第6版, 医歯薬出版, 2003年, ¥6,800 (税別) ・解剖学, 生理学の講義・実習で使用している教科書		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 ・成績評価は、本試験(筆記試験)と小テスト(毎講義実施)により総合的に評価する。 ・出席点は評価に含みません。・試験の解答の返却はおこないません。フィードバックは必要に応じて補講等にておこないます。・生成系 AI の利用を全面的に許可します。授業内、予復習、成果物(レポート等含む)作成において自由に利用してください。使用した場合にその旨をレポート等に記載してください。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80	20						100
評価指標	取り込む力・知識	80	20						100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1, 2	【第4章 肩複合体の構造と機能】	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P51～88 講義までに上記範囲を最低1回は読んでおくこと。 肩関節複合体を構成する骨格筋や関節について学習しておくこと。	60
3, 4	【第5章 肘・前腕複合体の構造と機能】	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P89～115 講義までに上記範囲を最低1回は読んでおくこと。 肘・前腕複合体を構成する骨格筋や関節について学習しておくこと。	60
5, 6	【第6章 手関節の構造と機能】	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P117～133 講義までに上記範囲を最低1回は読んでおくこと。 肘・前腕複合体を構成する骨格筋や関節について学習しておくこと。	60
7, 8	【第8章 脊柱の構造と機能】	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P169～216 講義までに上記範囲を最低1回は読んでおくこと。 脊柱に關与する骨格筋や関節について学習しておくこと。	60
9, 10	【第9章 股関節の構造と機能】	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P217～258 講義までに上記範囲を最低1回は読んでおくこと。 股関節に關与する骨格筋や関節について学習しておくこと。	60
11, 12	【第10章 膝関節の構造と機能】	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P259～292 講義までに上記範囲を最低1回は読んでおくこと。 膝関節に關与する骨格筋や関節について学習しておくこと。	60
13, 14	【第11章 足関節と足部の構造と機能】	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P293～330 講義までに上記範囲を最低1回は読んでおくこと。 足関節に關与する骨格筋や関節について学習しておくこと。	60
15	総まとめ	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P51～330、これまでの配布資料 講義までに上記範囲を復習しておくこと。	60

リハビリテーション学科

【科目名】基礎運動学Ⅲ		【担当教員】若菜 翔哉、押木 利英子
【授業区分】専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】2-14-0020-3	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	wakana@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 火：12時50分～13時20分
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・基礎運動学Ⅰ・Ⅱと関連付けて学習すること。 ・解剖学と生理学の知識を定着させておくこと（解剖学と生理学との関連付けが非常に大切になります）。 ・基礎運動学ⅠとⅡで学んだ内容を定着させておくこと。 ・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で理学療法士としてリハビリテーションに従事してきた経験から、姿勢や歩行、運動発達について講義を行います。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) ・各自、教科書などの教材を利用し、事前学習および復習を行うこと。 ・試験結果について、解答の開示と点数の通知はしますが情報漏洩の観点から返却はしません。 ・試験後、必要に応じて試験内容を中心とした補講（試験内容の解説を含む）を行います。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
【講義概要】 (目的) ・歩行分析および観察を実施する際に必要とされる基礎知識を学習する。 ・運動発達や運動学習についての基礎知識を学習する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, 2 P-1, 2 (方法) ・主として教科書と配布資料を使用して講義を行います。また必要に応じて実技を実施します。 ・講義内容に関するレポート課題を提示します。 ・この授業はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GI0)】 ・歩行分析および観察の基礎知識を理解し、理学療法評価に関連付けることができる。 ・運動発達や運動学習に関する基礎知識を理解し、理学療法評価に関連付けることができる。		
【行動目標(SB0)】 ・歩行分析および観察に関する基礎知識を記述し説明することができる。 ・運動発達や運動学習に関する基礎知識を記述し説明することができる。		
【教科書・リザーブブック】 1. 弓岡光徳, 溝田勝彦, 村田伸, エッセンシャル・キネシオロジー 機能的運動学の基礎と臨床 原著第3版, 南江堂, 2020年, ¥5,800 (税別)		
【参考書】 ・中村隆一, 他: 基礎運動学 第6版. 医歯薬出版. 2003年. ¥6,800 (税別) ・Kirsten Gotz-Neumann: 観察による歩行分析, 医学書院. 2014. ¥5,000 (税別)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 ・成績評価は、本試験（筆記試験）とレポート課題により総合的に評価する。 ・出席点は評価に含みません。 ・生成系 AI の利用を全面的に許可します。授業内、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してください。使用した場合にその旨をレポート等に記載してください。 ・試験・レポートの解答の返却は行いません。フィードバックは必要に応じて補講等にて行います。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80		20					100
評価指標	取り込む力・知識	80		20					100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1, 2	【歩行の運動学①】 歩行周期と重心移動	講義・実技(若菜)	講義および予習範囲：P331～348 講義までに上記範囲を最低1回は読んでおくこと。 歩行周期、歩行の関連用語の意味を理解しておくこと。	60
3, 4	【歩行の運動学②】 関節運動学	講義・実技(若菜)	講義および予習範囲：P331～348 講義までに上記範囲を最低1回は読んでおくこと。歩行における各運動面状の各関節運動について学習しておくこと。	60
5, 6	【歩行の運動学③】 筋活動	講義・実技(若菜)	講義および予習範囲：P331～348 講義までに上記範囲を最低1回は読んでおくこと。 歩行における各筋活動について学習しておいてください。	60
7, 8	【歩行の運動学④】 運動力学 【レポート課題の提示】 「歩行周期について」	講義・実技(若菜)	講義および予習範囲：P331～348 講義までに上記範囲を最低1回は読んでおくこと。床反力について学習しておくこと。	60
9, 10	動作分析について	講義・演習(押木)	「発達障害理学療法学」前期に学習した正常運動発達について、復習しておいてください。	60
11, 12	発達分析について	講義・演習(押木)	「発達障害理学療法学」前期に学習した正常運動発達について、復習しておいてください。	60
13, 14	運動学習と臨床応用	講義(押木)	「発達障害理学療法学」前期に学習した正常運動発達について、復習しておいてください。	60
15	筆記試験	試験	1～14コマの内容を理解し、説明できるようにしておくこと。	60

リハビリテーション学科

【科目名】 予防リハビリテーション学		【担当教員】 長島 裕子
【授業区分】 専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】 2-14-0035-3	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 必修	y.nagashima@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15 コマ	(オフィスアワー) 毎週火曜日 12:50～13:20
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) リハビリテーション専門職ならびにリハビリテーションを学ぶ立場であることを認識し、本邦に生じている少子高齢化による社会的影響を予習しておくことを勧めます。 この科目は実務経験者（予防に精通した理学療法士）が担当する科目です。受講生にとって、予防の概念や実践方法についてわかりやすく講じていきます。 この授業はアクティブラーニングを用います。また、この授業はクリッカーを用いた、双方向授業をおこないます。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・講義開始後15分以降の入室の場合は遅刻とします。 ・介護予防の実践（体操等）を行う際は、動きやすい服装としてください。 ・生成系AIの利用は、一部の場面を除き許可しています（確認テストや期末試験，再試験での場面は禁止）。使用した場合にその旨をレポート等に記載してください。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
【講義概要】 (目的) 健康で生き生きとした生活を支援することを目標に、医療従事者が必要とする以下の疾病予防の3層について学ぶ。 ①日常生活を送る上で介護が必要な状態に陥ることを予防すること。 ②要介護状態にある方の場合は介護状態が重度化していくことを予防すること。 ③再び要介護状態に陥ることのないように再発予防を行うこと。 （当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2,3） (方法) ・予防リハビリテーションの基礎知識と具体的対処方法を講義または実技を通して学ぶ。		
【一般教育目標(GI0)】 1. 予防の概念を理解する。 2. 予防に対するリハビリテーションの役割を理解する。 【行動目標(SB0)】 1. 予防の概念を理解し、説明できる。 2. 予防に対するリハビリテーションの役割を理解し、その実践方法等について説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 教科書なし。 講義内で資料を配付する。		
【参考書】 特になし		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価の基準については、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、期末試験（80%）・講義内の小テスト（20%）により総合的に評価する。 出席点は評価に含みません。 講義内で小テストを実施し、採点后返却します。試験結果について、解答を返却し必要に応じてフィードバックを実施します。 ・再試験該当となった場合、希望がある場合に限り補講を実施します。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80	20						100
評価指標	取り込む力・知識	80	20						100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	介護予防の必要性	講義	介護予防とは何かをインターネット等で調べておくこと。	30
3・4	高齢者の身体的変化と特性	講義	骨・筋に対する生理学的知識を復習しておくこと。	30
5・6	高齢者の精神的変化と特性	講義	「うつ」についてインターネット等で調べておくこと。	30
7・8	ロコモティブシンドローム・フレイルの概念と予防	講義・実技	日本整形外科学会公式ロコモティブシンドローム予防啓発サイトをみておくこと。	30
9・10	転倒予防のメカニズムと予防	講義・実技	骨（特に大腿骨・脊椎）の生理学的知識を復習しておくこと。	30
11・12	認知症に対する予防	講義・実技	脳の生理学的知識を復習しておくこと。	30
13・14	メタボリックシンドロームの概念と予防	講義	厚生労働省「e-ヘルスネット」をみておくこと。	30
15	まとめ	講義	今までの講義を復習しておくこと。	30

【科目名】	老年心理学		【担当教員】	宮岡 里美	
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0040-3		
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択		
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ		
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
※本科目は実務経験のある教員による授業科目です。医療及び保健福祉機関で、介護支援専門員としても高齢者のリハビリテーション及び生活支援に従事してきた臨床経験から、高齢期の心身の変化の特徴と支援法について講じていきます。超高齢社会において、高齢者の心身の健康維持という課題は非常に重要です。幸福な一生を送るために私たちはどのような支援をすべきなのかを各人の観点から考えていただきたいと思います。※本科目は、心理学専攻の必修科目であり、公認心理師国家試験受験資格を取得するための指定科目です。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。欠席した場合には、後日担当教員に申し出て、資料を受け取り、必ず参照して下さい。授業中に実施した心理テスト等のデータは、原則提出を求めません。講義後にレポート課題を課すことがあります。生成系 AI の利用を全面的に許可します。授業内、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してください。使用した場合には、生成AI の出力を引用した箇所や生成 AIサービスの名称、バージョンを明記して下さい。					
【講義概要】					
(目的)					
本科目では、科学的知見に基づいた加齢に伴う心身の変化とその問題を学ぶことを目的とします。加齢に伴う①認知機能及び感情・社会性の変化、②自己と他者の関係の在り方の変化についての基礎的な知識及び考え方を学びます。その上で、超高齢社会の日本の現状や問題について考えていきます。当該科目と学位授与方針との関連性；A-1, P-2, O-1, R-2					
(方法)					
Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。講義スライドのPDF資料は配布し、関連する参考文献を紹介します。欠席した場合には、後日担当教員に申し出て、資料を受け取り、必ず参照して下さい。授業中に実施した心理テスト等のデータは、原則提出を求めません。課題レポートや理解度確認テストは、回収後に解答の解説を行います。					
【一般教育目標(GIO)】					
「高齢期」の心身の変化の概要と克服すべき課題を知る。 1. 高齢期の身体的変化の特徴を知る。 2. 高齢期における認知機能及び感情・社会性の変化、自己と他者のあり方の心理的变化の様相を知る。 3. 高齢期を「サクセスフルエイジング」の観点からとらえていく。 4. 高齢期の危機及び障害について理解し、適切な支援ができる。					
【行動目標(SBO)】					
「サクセスフルエイジング」を心身両面から支援できる。 「補償を伴う選択的最適化理論」「死の受容」等の観点から、高齢者への”心のケア”ができる。 心理的危機の原因を内的要因(生物・心理的要因)と外的要因(社会・文化的要因)から考察できる。 心理的危機に対して、適切なこころの支援ができる。					
【教科書・リザーブドブック】					
特に指定せず。 毎回、講義スライドのPDF資料は配布し、関連する参考文献を紹介する。					
【参考書】					
佐藤真一（編著）「よくわかる高齢者心理学（〈わかる〉シリーズ）」／ミネルヴァ書房／2016年／2,700円 権藤 恭之（編集）「高齢者心理学（朝倉心理学講座）」／朝倉書店／2008年／3,888円					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。 ・定期試験を実施する。 ・出席点は評価に含まれない。 ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ※障害への配慮が必要な学生は教員と事前に相談することを推奨します。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60		20			20		100
評価指標	取り込む力・知識	40		10					50
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢						20		20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	高齢社会の実態 ・平均寿命と健康寿命 ・介護予防	講義 情報リテラシー (図表の見方)を含む	【復習】(要点の整理) 平均寿命と健康寿命の差の推移を調べる。そして、健康寿命を維持する要因を考察する。	20
2	ライフサイクルと高齢期 ・高齢期に対する考え方の変化 ・サクセスフルエイジング/エイジレスライフ	講義 演習：PBL(ディスカッション)を含む	【復習】(要点の整理) 高齢期を衰退期としてとらえるのではなく、積極的に生きる姿を理解する。	20
3	高齢期の身体機能① ・感覚機能の変化 ・感覚機能の低下が日常生活に及ぼす影響	講義	【復習】(要点の整理) 感覚機能(視聴覚等)低下が日常生活へ及ぼす影響を理解する。そして、その支援法を考案する。	20
4	高齢期の身体機能② ・運動機能の変化 ・「フレイル」と「サルコペニア」 ・調査法	講義 演習：PBL(課題解決)を含む	【復習】(要点の整理) 「フレイル・サルコペニア」の定義、及びその状態が日常生活/健康寿命へ及ぼす影響を理解する。	20
5	「フレイル」予防と健康寿命 ・運動機能の観点から ・口腔機能と栄養の観点から	講義 演習：PBL(ディスカッション)を含む	【復習】(要点の整理) フレイル予防を運動と栄養摂取の観点から支援することができる。	20
6	高齢期の精神機能① ・高齢期のストレス ・「喪失体験」と孤独/孤立 ・高齢期のうつ症状	講義	【復習】(要点の整理) 加齢に伴い職業生活や家族構成が変化し、自身の果たす役割も変化していく過程を理解する。	20
7	「死の受容」 ・キューブラ・ロス モデル ・モーニングワーク	講義 演習：PBL(ディスカッション)を含む	【復習】(要点の整理) 自身の死を受け容れていく心理過程を理解する。また、遺族の重篤な「喪失の体験」を理解し、当事者の心に寄り添う姿勢を学ぶ。	20
8	高齢期の精神機能② 「認知症」 ・記憶機能の低下 ・知的機能の変化_結晶性知能と流動性知能	講義 演習：必要な情報収集と分析の学習を含む	【復習】(要点の整理) 認知機能のメカニズムを理解し、その機能の維持及び予防法を知る。また、認知症への適切な対応法を理解する。	20

9	高齢期のメンタルヘルス① ・ 高齢期の人間関係/家族関係の変化 ・ 加齢とパーソナリティの変化 ・ 「回想法」	講義 演習：PBL（シナリオに基づく実践）を含む	【復習】（要点の整理） 「回想法」が生涯をまとめ上げ自我を統合していくうえで重要な役割を果たすことを理解する。	20
10	高齢期のメンタルヘルス② ・ 生きがい・心と体の健康づくり ・ 「社会参加」への支援： ” きょういくときょうよう ”	講義 演習：PBL（ディスカッション）を含む	【復習】（要点の整理） 高齢者の再適応能力を支援する方策を考える。	20
11	高齢者の人権擁護① ・ 高齢者の自殺（発生件数とその動機）	講義	【復習】（要点の整理） 高齢者の自殺件数とその状況から、自殺防止を考える。	20
12	高齢者の人権擁護② ・ 事例検討 ・ 高齢者虐待の防止 ・ 高齢者の養護者に対する支援	講義 演習：PBL（ディスカッション）を含む	【復習】（要点の整理） 「高齢者虐待防止法」の主旨を理解する。	20
13	高齢者を尊重するケア技術① ・ パーソン・センタード・ケア	講義	【復習】（要点の整理） ” パーソン・センタード ” の語源をも理解し、このケア法を技術と心の両面から理解する。	20
14	高齢者を尊重するケア技術② ・ ユマニチュード ・ バリデーション	講義 演習：PBL（事例への対応法を考える）を含む	【復習】（要点の整理） ” ユマニチュード ” ” バリデーション ” の語源をも理解し、これらケア法を技術と心の両面から理解する。	20
15	まとめ ・ 超高齢社会における 高齢者の社会参加 高齢者の就業支援と経済的自立	講義	【復習】（要点の整理） 高齢者の社会参加（再就業及びボランティア等）が本人のよりよく生きていく原動力となり、大きな社会貢献ともなることを理解する。	20

【科目名】		認知症	【担当教員】	伊林 克彦
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0041-3	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	ibayashi@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 火曜～金曜 13:30～16:00
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) この科目は1年次の脳の働きや病態についての知識が必要とされます。 この授業はアクティブラーニングを用います。 この授業はクリックカーを用いた、双方向授業をおこないます。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 変性疾患や脳血管障害の知識が必須ですのでよく予習を行ってください。 試験・レポートのフィードバック方法：試験結果を返却する際により学んで欲しい点、当該科目と関連領域での専門性をより高めることなどについてフィードバックします。				
【講義概要】 (目的) 認知症になる原因や、どのようなタイプの認知症があるのかを学び、さらに中核症状と周辺症状についても把握する。また、認知症者の心の問題や対応方法を学び、認知症に対する理解を深める。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2				
(方法) 座学が中心であるが、時に映像による認知症の理解や、認知症者とその家族との関係などについても話し合う機会を設ける。				
【一般教育目標(GI0)】 高齢化社会に伴い増加し続ける認知症患者のために医療人として何ができるかを知り、当該疾患の病態をできるだけ詳しく理解する。				
【行動目標(SB0)】 認知症のタイプや症状について説明できる。 認知症の中核症状と周辺症状の違いについて説明できる。 認知症者に対するトレーニング法について実践できる。				
【教科書・リザーブドブック】 講義資料配布				
【参考書】 田郁代 他著・「高次脳機能障害学」医学書院、2009年 ￥4,725				
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含みません。 成績評価は期末試験およびレポート等により総合的に評価する。 試験・レポートの解答の返却はおこないません。フィードバックは必要に応じ補講等にておこないます。 生成系 AI の利用を全面的に許可します。授業内、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してください。 ・使用した場合にその旨をレポート等に記載してください。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80						20	100
評価指標	取り込む力・知識							10	10
	思考・推論・創造の力	80							80
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	認知症とは	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
3.4	認知症になる原因は	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
5.6	どのようなタイプの認知症があるのか	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
7.8	認知症者の心の内側は	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
9.10	認知症をどのような方法でとらえるのか	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
11.12	認知症者の脳の画像は	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
13.14	認知症者の中核症状と周辺症状とは	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
15	認知症の治療法	講義 (オンデマンド形式)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分

【科目名】	運動学実習		【担当教員】	知名 規人
【授業区分】	専門分野(基礎作業療法学)	【授業コード】	4-21-0000-1 (メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修 china@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	30 (オフィスアワー) 火曜日13:30-15:00	
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
本科目は、実技演習を中心とした双方向型授業（アクティブラーニング）の科目です。 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。臨床現場においてさまざまな疾患を有する対象者を支援してきた経験から、身体障がい領域における評価に関連する触診について講じていきます。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
・各自、教科書などの教材を利用し、事前学習および復習を行ってください。 ・受講の際は、体表に振れやすい服装（原則は半袖Tシャツ、半ズボン：体調や気候により例外あり）を着用し、装飾品(ピアス、ネックレス等)は外してください。また、爪は短くしておいてください。 ・試験後のフィードバックは当該教員に予定を聞き、各自で確認をしてください。 ・生成系AIの利用は、一部の場面を除き許可しています（確認テストや期末試験、再試験での場面は禁止）。				
【講義概要】				
(目的)				
作業療法に必要な運動器の異常を触察により検出する能力を高める。同時に体表解剖学を学ぶことにより、どのような組織に異常があるかを同定することができる。病的部位の種類や損傷の程度により、作業療法の適応が否か、またどのような作業療法を提供することが適切かを判断できるようになることを目的とする。 (当該科目と学位授与方針との関連性；0-1,0-2,0-3)				
(方法)				
教科書やデモンストレーション、視覚的教材（画像、動画）を使用して講義を行います。 学修形態は双方向型授業（アクティブラーニング）とし、ランドマークや筋の部位を触察により同定できるように演習を通して技能を修得します。 また、触察技術に関する実技試験や筆記試験を行い、当該講義の内容理解を確認します。				
【一般教育目標(GI0)】				
ランドマークと筋を的確に触察することができる。				
【行動目標(SB0)】				
・各運動や動作に必要な身体機能と構造を理解する。 ・ランドマークを的確に触察することができ、作業療法評価に応用することができる。 ・筋を触察することができ、作業療法評価に応用することができる。				
【教科書・リザーブドブック】				
青木隆明監修「改訂第2版 運動療法のための機能解剖学的触診技術 動画プラス 上肢」MEDICALVIEW, 2022. 青木隆明監修「改訂第2版 運動療法のための機能解剖学的触診技術 動画プラス 下肢・体幹」MEDICALVIEW, 2022.				
【参考書】				
特になし				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価は、実技試験（本試験、中間試験（小テスト））と筆記試験（初回の小テスト）により総合的に評価する。 ・出席点は評価に含みません。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			20			80			100
評価指標	取り込む力・知識		10			20			30
	思考・推論・創造の力					20			20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力					20			20
	学修に取り組む姿勢		10			20			30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	小テスト(筆記試験) オリエンテーション	小テスト 演習	範囲： 肩甲骨，上腕骨，骨盤，大腿骨，脛骨と腓骨 上記範囲を描写できるかを確認する	60
3,4	触察(骨) 肩甲骨，鎖骨，上腕骨，橈骨，尺骨	演習	使用教科書：1. 上肢 講義および予習範囲：P16～79 上記範囲を最低1回は読んでおくこと (各骨の構造とランドマーク)	60
5,6	触察(骨) 肩甲骨，鎖骨，上腕骨，橈骨，尺骨	演習	使用教科書：1. 上肢 講義および予習範囲：P16～79 上記範囲を最低1回は読んでおくこと (各骨の構造とランドマーク)	60
7,8	触察(骨) 肩甲骨，鎖骨，上腕骨，橈骨，尺骨	演習	使用教科書：1. 上肢 講義および予習範囲：P16～79 上記範囲を最低1回は読んでおくこと (各骨の構造とランドマーク)	60
9,10	触察(筋) 肩甲上腕関節に関わる筋 肩甲胸郭関節に関わる筋 肘関節に関わる筋	演習	使用教科書：1. 上肢 講義および予習範囲：P154～260 上記範囲を最低1回は読んでおくこと (各筋の起始停止,作用)	60
11,12	触察(筋) 肩甲上腕関節に関わる筋 肩甲胸郭関節に関わる筋 肘関節に関わる筋	演習	使用教科書：1. 上肢 講義および予習範囲：P154～260 上記範囲を最低1回は読んでおくこと (各筋の起始停止,作用)	60
13,14	触察(筋) 肩甲上腕関節に関わる筋 肩甲胸郭関節に関わる筋 肘関節に関わる筋	演習	使用教科書：1. 上肢 講義および予習範囲：P154～260 上記範囲を最低1回は読んでおくこと (各筋の起始停止,作用)	60
15,16	中間試験(実技試験)	中間試験	肩関節と肘関節に関わる骨および筋に対する触察技術の修得程度を確認する	60

17,18	触察（骨・筋） 骨盤，胸郭と脊柱に関する諸組織	演習	使用教科書：2. 下肢・体幹 講義および予習範囲：P2～17,268～311 上記範囲を最低1回読んでおくこと（各部位の構造,起始停止,作用）	60
19,20	触察（骨・筋） 骨盤，胸郭と脊柱に関する諸組織	演習	使用教科書：2. 下肢・体幹 講義および予習範囲：P2～17,268～311 上記範囲を最低1回読んでおくこと（各部位の構造,起始停止,作用）	60
21,22	触察（骨） 大腿骨，膝関節周辺，足関節および足部周辺	演習	使用教科書：2. 下肢・体幹 講義および予習範囲：P18～74 上記範囲を最低1回読んでおくこと（各骨の構造とランドマーク）	60
23,24	触察（骨） 大腿骨，膝関節周辺，足関節および足部周辺	演習	使用教科書：2. 下肢・体幹 講義および予習範囲：P18～74 上記範囲を最低1回読んでおくこと（各骨の構造とランドマーク）	60
25,26	触察（骨・筋） 大腿骨，膝関節周辺，足関節および足部周辺， 股関節に関わる筋	演習	使用教科書：2. 下肢・体幹 講義および予習範囲：P18～74,88～91,140～179 上記範囲を最低1回読んでおくこと（各部位の構造,起始停止,作用）	60
27,28	触察（筋） 股関節，膝関節，足関節および足部に関わる筋	演習	使用教科書：2. 下肢・体幹 講義および予習範囲：P140～258 上記範囲を最低1回読んでおくこと（各筋の構造,起始停止,作用）	60
29,30	触察（筋） 股関節，膝関節，足関節および足部に関わる筋	演習	使用教科書：2. 下肢・体幹 講義および予習範囲：P140～258 上記範囲を最低1回読んでおくこと（各筋の構造,起始停止,作用）	60
	本試験（実技試験）	実技試験	範囲：本科目で学んだ内容	

リハビリテーション学科

【科目名】基礎作業学実習Ⅰ		【担当教員】長谷川 裕
【授業区分】専門分野(基礎作業療法学)	【授業コード】4-21-0020-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	hasegawa.y@nur.ac.jp
【単位数】1	【コマ数】45コマ	(オフィスアワー) 月～木 13:00～13:20
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 作業療法学を学ぶ学生にとっては治療手段の1つである作業種目（アクティビティ）についての基本的な理解を深める重要な科目です。 障害等があって配慮が必要な学生は事前に相談することを推奨します。 本科目は、基礎作業学実習Ⅱと並行して開講します。 ＊この科目は実務者対応科目です。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 1年次科目の「基礎作業学」修得済みを前提に講義を進めます。 製作の関係で、作業種目の順番を変更することがあります。その都度連絡します。 生成AI 使用ルール：提出課題、発表用資料での直接的な使用（生成AIの文章等の複写等）は禁止します。アイデアを得るための使用は認めます。生成AIから得た情報は必ず、文献、書籍等他の資料で確認してください。		
【講義概要】 (目的) 治療的手段である各種の作業活動について、病院・施設において用いられている創造的、製作的作業を実際に体験実習する。 当該科目と学位授与方針との関連性：A-2 当該科目と学位授与方針との関連性：O-1 (方法) 木工、木彫、陶芸、皮革細工その他の作業活動を手順に従って製作体験実習を行う。		
【一般教育目標(GI0)】 作業療法でよく用いられる作業種目について、正しい道具の扱い方と種々の技法を習得する。 各種の作業活動を治療手段として用いるときの身体的、心理・精神的効果について分析し、適用する基礎を修得する。 【行動目標(SB0)】 体験したそれぞれの作業種目について、必要な道具、材料、手順、段階付け、応用方法について述べるができる。 体験した作業種目について、対象者の障害の状態に応じて適用すること、および禁忌事項について述べるができる。		
【教科書・リザーブドブック】 メジカルビュー社 ゴールドマスター・テキスト「作業学」（第3版）監修；長崎重信、 編集；浅沼辰志 5,280円（税込み）		
【参考書】 医歯薬出版株式会社 「作業活動 実習マニュアル」 監修；古川 宏、4200円＋税 医学書院 「作業で語る事例報告」 編集；齋藤佑樹 3500円＋税		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 評価基準・方法は本学学則規定のGPA制度に従う。 成績評価は、試験、提出物、学修に取り組む姿勢および作品の総合評価となります。 試験結果は必要に応じて解説を行います。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		20		20			30	30	100
評価指標	取り込む力・知識	20		10					30
	思考・推論・創造の力			10			10		20
	コラボレーションとリーダーシップ							5	5
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢						20	25	45

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション ・講義日程の説明 ・使用する道具・材料の準備後片付け等に関する注意事項	講義	次回からの実技実習に関する配付資料について読んでおくこと。	30分
2～14回	木工	実技実習、アクティブラーニング	次回からの実技実習に関する配付資料について読んでおくこと。	30分
15～24回、29～34回	陶芸	実技実習、アクティブラーニング	次回からの実技実習に関する配付資料について読んでおくこと。	30分
25～28回	木彫	実技実習、アクティブラーニング	次回からの実技実習に関する配付資料について読んでおくこと。	30分
35～45回	革細工	実技実習、アクティブラーニング	次回からの実技実習に関する配付資料について読んでおくこと。	30分

【科目名】基礎作業学実習Ⅱ		【担当教員】長谷川 裕、藤本 聡
【授業区分】専門分野(基礎作業療法学)	【授業コード】4-21-0025-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	hasegawa.y@nur.ac.jp
【単位数】1	【コマ数】45コマ	(オフィスアワー) 月～金 13:00～13:20
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 作業療法学を学ぶ学生にとっては治療手段の1つである作業種目（アクティビティ）についての基本的な理解を深める重要な科目です。 障害等があって配慮が必要な学生は事前に相談することを推奨します。 本科目は、基礎作業学実習Ⅰと並行して開講します。 ＊この科目は実務者対応科目です。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 1年次科目の「基礎作業学」修得済みを前提に講義を進めます。 製作の関係で、作業種目の順番を変更することがあります。その都度連絡します。 生成AI 使用ルール：提出課題、発表用資料での直接的な使用（生成AIの文章等の複写等）は禁止します。アイデアを得るための使用は認めます。生成AIから得た情報は必ず、文献、書籍等他の資料で確認してください。		
【講義概要】 (目的) 作業療法の治療的手段である各種の作業活動について、病院・施設において用いられている創造的、製作的作業を実際に体験実習する。 当該科目と学位授与方針との関連性；A- 2 当該科目と学位授与方針との関連性；O- 1 (方法) 園芸活動、紙工芸、手芸、工芸などの各種作業活動を手順に従って製作体験実習を行う。		
【一般教育目標(GI0)】 作業療法でよく用いられる作業種目について、正しい道具の扱い方と種々の技法を習得する。 各種の作業種目を治療手段として用いるときの身体的、心理・精神的効果について分析し、適用する基礎を修得する。 【行動目標(SB0)】 体験したそれぞれの作業種目について、必要な道具、材料、手順、段階付け、応用方法について述べるができる。 体験した作業種目について、対象者の状態に応じて適用すること、段階付けおよび禁忌事項について述べるができる。		
【教科書・リザーブドブック】 メジカルビュー社 ゴールドマスター・テキスト 「作業学」 監修；長崎重信、 編集；浅沼辰志 5,280円（税込み）		
【参考書】 医歯薬出版株式会社 「作業活動 実習マニュアル」 監修；古川 宏、 4200円＋税 医学書院 「作業で語る事例報告」 編集；齋藤佑樹 3500円＋税		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 評価基準・方法は本学学則規定のGPA制度に従う。 成績評価は、試験、提出物、学修に取り組む姿勢および作品の総合評価となります。 試験結果は必要に応じて解説を行います。 出席点は評価に含まれません。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		30		20	10		20	20	100
評価指標	取り込む力・知識	30		10					40
	思考・推論・創造の力			10			10		20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢						10	20	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1～4回	園芸	実技実習、アクティブラーニング	次回の実技実習に関する配付資料をよく読んでおくこと。	30分
5,6回	エコクラフト	実技実習、アクティブラーニング	次回の実技実習に関する配付資料をよく読んでおくこと。	30分
7,8回	園芸	実技実習、アクティブラーニング	次回の実技実習に関する配付資料をよく読んでおくこと。	30分
9～12回	マクラメ	実技実習、アクティブラーニング	次回の実技実習に関する配付資料をよく読んでおくこと。	30分
13～16回	園芸	実技実習、アクティブラーニング	次回の実技実習に関する配付資料をよく読んでおくこと。	30分
17,18回	マクラメ	実技実習、アクティブラーニング	次回の実技実習に関する配付資料をよく読んでおくこと。	30分
19～22回	園芸	実技実習、アクティブラーニング	次回の実技実習に関する配付資料をよく読んでおくこと。	30分
23～26回	エコクラフト	実技実習、アクティブラーニング	次回の実技実習に関する配付資料をよく読んでおくこと。	30分

[illegible]

【科目名】作業療法理論学		【担当教員】丁子 雄希
【授業区分】専門分野(基礎作業療法学)	【授業コード】4-21-0000-1	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	tyouji@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) メール問い合わせにて随時対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 障がい等の理由により合理的な配慮が必要な場合は事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 作業療法概論で学んだ内容を復習しておくこと。 課題は、他に支障のない限り返却します。 生成AIの使用は禁止します。 授業はオンデマンド配信とアクティブラーニングから構成されます。		
【講義概要】 (目的) 作業療法の理論を整理し、さらに作業療法の全体理論を学ぶ。作業療法の臨床実践でどのような理論を用いているのかを理解することにより、治療技術としての作業療法の理解を深めることを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,2,3 当該科目と学位授与方針等との関連性：0-1,2,3 (方法) 教科書と必要に応じて資料配付により講義、演習を交えて行う。		
【一般教育目標(GIO)】 作業療法の視点を捉えるために、作業療法の全体理論について理解する。 作業療法の臨床実践で活用するために、代表的な理論について理解する。 【行動目標(SBO)】 作業療法の全体理論と各理論を構成する概念について列記できる。 作業療法の実践で広く活用されている理論について具体的に述べるができる。		
【教科書・リザーブドブック】 小川真寛、藤本一博、京極真：5W1Hでわかりやすく学べる作業療法理論の教科書、メジカルビュー、2020		
【参考書】		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 ・成績評価は、期末試験・授業中の課題などにより総合的に評価する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60						40	100
評価指標	取り込む力・知識	30						20	50
	思考・推論・創造の力	30							30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1、2	作業療法の理論とは 作業療法理論の背景と発展 作業療法理論と臨床実践	講義、演習	該当箇所の復習を行うこと。 (教科書1章 参照)	30
3、4	超メタ理論 作業に根ざした実践2.0	講義、演習	該当箇所の復習を行うこと。 (教科書2章 参照)	30
5、6	メタ理論 作業科学 Doing,Being,Becoming,Belonging	講義、演習	該当箇所の復習を行うこと。 (教科書2章 参照)	30
7、8	大範囲理論 カナダモデル	講義、演習	該当箇所の復習を行うこと。 (教科書2章 参照)	30
9、10	大範囲理論 人間作業モデル	講義、演習	該当箇所の復習を行うこと。 (教科書2章 参照)	30
11、12	中範囲理論 CI療法	講義、演習	該当箇所の復習を行うこと。 (教科書2章 参照)	30
13、14	プロセスモデル MTDLPとOTIPM	講義、演習	該当箇所の復習を行うこと。 (教科書2章 参照)	30
15	クライアント中心の実践	講義	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。	30

【科目名】 身体機能作業療法評価学（実習）		【担当教員】 知名 規人
【授業区分】 専門分野(作業療法評価学)	【授業コード】 4-23-0005-1	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	china@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 30	(オフィスアワー) 火曜日13:30-15:00
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目は、実技演習を中心とした双方向型授業（アクティブラーニング）の科目です。 なお、初回の4コマ分は実技試験を実施します。 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。臨床現場においてさまざまな疾患を有する対象者を支援してきた経験から、身体障がい領域における評価について講じていきます。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) ・各自、教科書やDVDなどの教材を利用し、事前学習および復習を行ってください。 ・本科目を受講の際は、必ず本学指定の実習着（ケーシーおよび靴）を着用し、装飾品（ピアス、ネックレス等）は外してください。（肌着および靴下は原則白色、カーディガンは黒または紺とします。アンクレットソックスは認めません。） ・試験後のフィードバックは当該教員に予定を聞き、各自で確認してください。 ・生成系AIの利用は、一部の場面を除き許可しています（確認テストや期末試験、再試験での場面は禁止）。		
【講義概要】 (目的) 臨床で必要とされる基本的な作業療法評価に関する知識の理解を深め、技術を習得する。 （当該科目と学位授与方針等との関連性；0-1,2.）		
(方法) 教科書やデモンストレーション、視覚的教材（画像、動画）を使用して講義を行います。 また、各講義の前または後に必ず確認テストを行い、当該講義の内容理解を確認します。期末には実技試験を実施します。 学修形態は双方向型授業（アクティブラーニング）とし、それぞれのグループ（3グループ）に分かれ、演習を通して技能を修得します。		
【一般教育目標(GI0)】 作業療法評価技術を修得するために、評価の必要性および各種評価技法の原則や理論について理解し、実践することができる。		
【行動目標(SB0)】 ・作業療法に関する各種評価を、実施する理由と目的について説明することができる。 ・作業療法に関する各種評価を、臨床に即した手順や方法で安全かつ正確な方法で実施することができる。 ・各種評価の結果を、生活機能障害と関連付けて理解することができる。 ・グループで協力して学習を進めることができる ・確認テストをもとに振り返りを行い、各自学習を深め、知識と技術を統合して評価技術を高めることができる。		
【教科書・リザーブドブック】 能登真一，他（編）「標準作業療法学専門分野 作業療法評価学（第3版）」，医学書院，2017年。 Dale Avers and Marybeth Brown(著)「新・徒手筋力検査法（原著第10版）」，協同医書出版社，2020年。		
【参考書】		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・学内試験規定に基づく授業態度、確認テスト、実技試験結果を総合的に評価する。 ・出席点は評価に含まない。 ・試験：実技試験。小テスト：講義前または後の確認テスト。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			20			80			100
評価指標	取り込む力・知識		10			20			30
	思考・推論・創造の力		5			20			25
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力					10			10
	学修に取り組む姿勢		5			30			35

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-4	実技試験 (肩関節・股関節のROMおよびMMT)	(担当全教員) 試験	肩関節および股関節のすべての運動方向に対するROMおよびMMT手技の修得程度を確認する。	60
5-16	講義オリエンテーション ROM(上肢・下肢・頸部・体幹)	(担当全教員) 講義, 演習	ROM(上肢・下肢・頸部・体幹)の範囲における各基本軸, 移動軸, 参考可動域, 測定方法を事前学習し, 講義時にその実際を学ぶ。	60
17-28	MMT(上肢・下肢・頸部・体幹)	(担当全教員) 講義, 演習	MMT(上肢・下肢・頸部・体幹)の範囲における測定方法を事前学習し, 講義時にその実際を学ぶ。	60
29,30	医療面接とバイタルサインの測定	(担当全教員) 講義, 演習	課題内容: 評価の進め方, 医療面接と情報収集, 意識障害・全身状態の評価	60
試験	身体機能作業療法評価学(実習)で学んだ内容を範囲とする。	(担当全教員) 試験	総まとめ	60

【科目名】 精神疾患作業療法評価学		【担当教員】 長谷川 裕、藤本 聡
【授業区分】 専門分野(作業療法評価学)	【授業コード】 4-23-0010-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	fujimoto.s@nur05.onmicrosoft.com (藤本)、 hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com (長谷川)
【単位数】 1	【コマ数】 30コマ	(オフィスアワー) 月曜日～木曜日 13:00～13:20
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・この科目を履修するには、作業療法学概論Ⅰ・Ⅱ(実習)を履修していることが前提です。 ・この科目は実務経験者対応科目である。精神科病院で作業療法士として従事してきた経験から、精神機能作業療法に関する歴史や制度、社会資源、実践例について講じていきます。 ・障害等があって配慮が必要な学生は事前に相談することを推奨します。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・指定図書、参考書は出来る限り読んでください。 ・欠席した場合の配付資料は担当教員の研究室に受け取りに来てください。 ・この授業はアクティブラーニングを用います。 ・生成系 AI の利用は禁止しています。		
【講義概要】 (目的) 精神機能作業療法に関する歴史や制度、社会資源、実践例について学ぶ。また、精神障害における評価として、評価のプロセス、観察の技術や各種検査方法について学修することを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性; 0-1,2 (方法) 教科書と配布資料、視聴教材などによる学修と精神障害評価の演習を行う。		
【一般教育目標(GI0)】 ・精神機能作業療法の歴史と理念を理解できる。 ・精神領域に関する関連法規や制度を理解できる。 ・精神障害領域における評価の流れを理解することができる。 【行動目標(SB0)】 ・精神機能作業療法の役割と課題を説明できる。 ・障害者総合支援法・医療観察法・診療報酬制度等について説明できる。 ・精神機能の評価として、情報収集、観察、面接、検査等の目的、手法について理解することができる。		
【教科書・リザーブドブック】 ・小林夏子編集『標準作業療法学専門分野 精神機能作業療法学』第3版, 医学書院, 2020年, ¥4,000(税別)		
【参考書】 ・山根 寛著『精神障害と作業療法』新版, 三輪書店, 2017年, ¥4,000 (税別)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・出席点は評価に含みません。 ・試験とポートフォリオで評価する。 ・試験の解答の返却はおこないません。フィードバックは必要に応じ補講等にておこないます。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80					10	10	100
評価指標	取り込む力・知識	40					5		45
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	40					5	10	55

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	オリエンテーション 精神障害について 精神科病院の現状	講義（藤本）	講義内容を復習する	30分
3,4	精神機能作業療法の歴史より学ぶ①	講義、演習（藤本）	講義内容を復習する	30分
5,6	精神機能作業療法の歴史より学ぶ② 一事例を通して学ぶー	講義、演習、ディスカッション（藤本）	講義内容を復習する	30分
7,8	精神保健福祉法・関係法規・制度	講義・演習（藤本）	講義内容を復習する	30分
9,10	精神障害作業療法に関連する理論・モデル、ICF等	講義・演習（藤本）	講義内容を復習する	30分
11,12	地域生活における作業療法の視点 退院後の社会資源	講義、演習（藤本）	講義内容を復習する	30分
13,14	精神作業療法の実際 まとめ	講義、演習（藤本）	講義内容を復習する	30分
15,16	オリエンテーション、精神科作業療法の過程について	講義・演習（長谷川）	講義内容を復習する	30分

17,18	精神障害作業療法評価（情報収集）について	講義・演習（長谷川）	講義内容を復習する	30分
19,20	精神障害作業療法評価（情報収集）について	講義・演習（長谷川）	講義内容を復習する	30分
21,22	精神障害作業療法評価（観察）について	講義・演習（長谷川）	講義内容を復習する	30分
23,24	精神障害作業療法評価（観察）について	演習・演習（長谷川）	講義内容を復習する	30分
25,26	精神障害作業療法評価（面接・検査）について	演習・演習（長谷川）	講義内容を復習する	30分
27,28	精神障害作業療法評価（面接・検査）について	演習・演習（長谷川）	講義内容を復習する	30分
29,30	精神障害作業療法評価について・まとめ	演習・演習（長谷川）	講義内容を復習する	30分

【科目名】 発達過程作業療法評価学		【担当教員】 森本 千恵
【授業区分】 専門分野(作業療法評価学)	【授業コード】 4-23-0015-1	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 必修	c.morimoto@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 講義後1時間程度
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・発達に関連する講義内容を復習する。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) ・講義内容に関連する事項については、各自で学習することが必要である。 ・わからないことがあれば、必ず質問すること。わからないことをそのままにして進まないようにすること。 ・特別な事情を除いて、授業開始後20分以上の入室は遅刻とみなす。 ・この科目は実務経験者対応科目である。 ・生成AIの講義内の利用は禁止する。		
【講義概要】 (目的) 定型発達児の発達と対照し、発達障害によりもたらされる作業の課題を抽出し、作業療法治療計画を立案することができるようになる。 当該科目と学位授与方針等との関連性：0-1 (方法) ・教科書や配布資料などによって発達障害に対する導入から評価に至る作業療法過程についての講義を行う。 ・試験結果は、必要に応じて適宜、文書あるいは口頭でフィードバックする。		
【一般教育目標(GI0)】 発達障害領域の作業療法における基礎的知識として、定型発達を理解することができる。 発達検査の概要を理解し、述べることができる。 発達検査の結果から評価をまとめ、治療プログラム立案までのプロセスの概要を述べることができる。		
【行動目標(SB0)】 発達検査の概要を理解し、演習を通して検査方法を習得する。 定型発達の様子や検査結果から評価をまとめ、治療プログラム立案までのプロセスを演習し、習得する。		
【教科書・リザーブドブック】 ・上杉雅之，辛島千恵子． イラストでわかる発達障害の作業療法． 医歯薬出版株式会社，2016． ・Jung Sung Hong． 正常発達 脳性まひの治療アイディア【第2版】． 三輪書店，2014．		
【参考書】 ・適宜、資料等を配布する。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定のG P A制度に従う。 ・定期試験および小テストで総合的に判断する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50			50	0	0	0	100
評価指標	取り込む力・知識	40		0	20	0	0	0	60
	思考・推論・創造の力	10	0	0	20	0	0	0	30
	コラボレーションとリーダーシップ	0	0	0	0	0	0	0	0
	発表力	0	0	0	10	0	0	0	10
	学修に取り組む姿勢	0	0	0	0	0	0	0	0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	・オリエンテーション ・発達障害における作業療法	講義	復習：授業内容を振り返るとともに、関連事項について調べる	120分
3・4	・発達の基礎と理論 ・発達検査の概要	講義	予習：該当部分について、教科書を使用して予習する。 復習：授業内容を振り返るとともに、関連事項について調べる	120分
5・6	・原始反射・姿勢反射・反応の発達① ・運動・認知・心理機能の発達① ・ADLの発達①	講義	予習：該当部分について、教科書を使用して予習する。 復習：授業内容を振り返るとともに、関連事項について調べる	120分
7・8	・原始反射・姿勢反射・反応の発達② ・運動・認知・心理機能の発達② ・ADLの発達②	講義	予習：該当部分について、教科書を使用して予習する。 復習：授業内容を振り返るとともに、関連事項について調べる	120分
9・10	・原始反射・姿勢反射・反応の発達③ ・運動・認知・心理機能の発達③ ・ADLの発達②	講義	予習：該当部分について、教科書を使用して予習する。 復習：授業内容を振り返るとともに、関連事項について調べる	120分
11・12	・事例検討 ・評価実施	グループワーク ・演習	予習：該当部分について、教科書を使用して予習する。 復習：授業内容を振り返るとともに、関連事項について調べる	120分
13・14	・事例検討 ・評価実施	グループワーク ・演習	予習：該当部分について、教科書を使用して予習する。 復習：授業内容を振り返るとともに、関連事項について調べる	120分
15	まとめ		予習・復習：授業内容を振り返るとともに、関連事項について調べる	120分

【科目名】 高次脳機能作業療法評価学		【担当教員】 丁子 雄希
【授業区分】 専門分野(作業療法評価学)	【授業コード】 4-23-0020-1	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 必修	tyouji@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) メール問い合わせにて随時対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・本科目は必修科目となります。 ・障がい等の理由により合理的な配慮が必要な場合は事前に相談してください。 ・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。特に、医療分野で高次脳機能障害者に対して支援してきた経験から実践に即した評価内容について講じていきます。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・本科目を履修するにあたり、解剖学（脳の役割）について復習をしておいてください。 ・フィードバック方法：試験結果は返却しませんが、試験対策は十分に行います。また、適宜相談に応じます。 ・生成AIの使用は禁止します。 ・授業はオンデマンド配信とアクティブラーニングから構成されます。		
【講義概要】 (目的) 認知・高次脳機能障害に対する理解を深め、作業療法評価を習得する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-3 当該科目と学位授与方針等との関連性：0-3 (方法) 教科書と配布資料などによる高次脳機能障害評価の講義・演習が中心となる。		
【一般教育目標(GI0)】 高次脳機能障害作業療法評価学で学んだ知識から、障害に応じた評価方法が選定でき、実施できる。		
【行動目標(SB0)】 ・認知・高次脳機能障害の症状を列挙できる。 ・障害の種類によって適切な評価を選定できる。 ・各種評価を適切に実施できる。		
【教科書・リザーブドブック】 石合純夫・『高次脳機能障害学 第3版』 医歯薬出版株式会社、2022		
【参考書】 能登真一（編集）・『高次脳機能障害作業療法学』標準作業療法学 専門分野 医学書院、2012		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・評定は多肢選択式による期末試験と授業中の課題によって行う。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70		30					100
評価指標	取り込む力・知識	50		10					60
	思考・推論・創造の力	10		10					20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10		10					20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1、2	・注意障害の臨床症状を把握する。 ・注意障害の評価法を理解する。	講義、演習	教科書 193 - 196 p を読んでおく。	30
3、4	・記憶障害の臨床症状を把握する。 ・記憶障害の評価法を理解する。	講義、演習	教科書 197 - 217 p を読んでおく。	30
5、6	・半側空間無視の臨床症状を把握する。 ・半側空間無視の評価法を理解する。	講義、演習	教科書 151 - 169 p を読んでおく。	30
7、8	・失語症の臨床症状を把握する。 ・失語症の評価法を理解する。	講義、演習	教科書 23 - 43 p を読んでおく。	30
9、10	・失行の臨床症状を把握する。 ・失行の評価法を理解する。	講義、演習	教科書 61 - 71 p を読んでおく。	30
11、12	・遂行機能障害の臨床症状を把握する。 ・遂行機能障害の評価法を理解する。	講義、演習	教科書 220 - 230 p を読んでおく。	30
13、14	・認知症のタイプを整理し、臨床症状を把握する。 ・認知症の評価法を理解する。	講義、演習	教科書 237 - 257 p を読んでおく。	30
15	総括	講義	配布資料	15

【科目名】 高齢期作業療法評価学		【担当教員】 藤本 聡	
【授業区分】 専門分野(作業療法評価学)	【授業コード】 4-23-0025-1	(メールアドレス) fujimoto.s@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 月曜日～木曜日 13:00～13:20	
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修		
【単位数】 1	【コマ数】 15		
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・1年次科目「作業療法評価学総論」を履修済みであること。 ・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。高齢期施設で作業療法士として従事してきた経験から、高齢期障害作業療法評価学に関して講じていきます。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・教科書を一読してから講義に臨むこと。 ・生成系AIの利用は禁止しています。授業内での利用は厳禁となっており、このルールに違反した場合は、学内の規程に則って、適切な措置を取ります。			
【講義概要】 (目的) 高齢期を迎えた対象者の心身機能の変化を理解し、障害の状態を測定・評価する意義を理解する。 当該科目と学位授与方針との関連性：A-2,3 当該科目と学位授与方針との関連性：0-1,2 (方法) 「作業療法評価学総論」で学んだ基本的知識をもとに、高齢期特有の心身機能の変化を捉えるための測定・評価について演習を通じて修得する。 この授業はアクティブラーニングを用います。			
【一般教育目標(GI0)】 高齢期障害の特徴を理解したうえで、評価の流れ、評価の実際、評価結果の統合、対象者の全体像について把握することができる。 【行動目標(SB0)】 1. 高齢期障害の特徴を述べることができる。 2. 高齢期障害に対する評価測定方法を挙げることができる。 3. 高齢期障害の対象者の状態を把握するために適切な評価項目を選択し、実施することができる。			
【教科書・リザーブドブック】 医学書院； 標準作業療法学 専門分野 「作業療法評価学」 第3版 能登真一他編集 5800円＋税			
【参考書】 メジカルビュー社；ゴールドマスター・テキスト「作業療法評価学」 第2版、長崎重信監修 佐竹 勝 他編集 5600円＋税			
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定のG P A制度に従う。 ・出席点は評価に含みません。 ・期末試験とポートフォリオで評価する。 ・試験・レポートの解答の返却はおこないません。フィードバックは必要に応じ補講等にておこないます。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80					20		100
評価指標	取り込む力・知識	40					10		50
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢	40					10		50

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	オリエンテーション 高齢化社会 高齢期障害の特徴について	講義	テキスト p 602－604の予習・復習	30
3-14	高齢期障害に対する作業療法評価内容について ・活動能力や意欲の評価法 ・認知・知的機能の評価法 ・介護負担感に関する評価法	講義、演習、実技	テキスト p 604－609の予習・復習	30
15	高齢期障害に対する作業療法評価内容について まとめ演習	講義、実技	テキスト p 602－609の予習・復習	30
16	期末試験	試験	全ての講義内容を予習・復習	60

【科目名】作業療法学内実習Ⅰ		【担当教員】知名 規人
【授業区分】専門分野(作業療法治療学)	【授業コード】4-23-0005-1	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】必修	china@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】30	(オフィスアワー) 火曜日13:30-15:00
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目は、実技演習を中心とした双方向型授業（アクティブラーニング）の科目です。 臨床実習を想定した科目となりますので、実習生としての心構えを持って講義に臨んでください。 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。臨床現場においてさまざまな疾患を有する対象者を支援してきた経験から、身体障がい領域における評価について講じていきます。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・各自、教科書やDVDなどの教材を利用し、事前学習および復習を行ってください。 ・本科目を受講の際は、必ず本学指定の実習着（ケーシーおよび靴）を着用し、装飾品（ピアス、ネックレス等）は外してください。（肌着および靴下は原則白色、カーディガンは黒または紺とします。アンクレットソックスは認めません。） ・試験後のフィードバックは当該教員に予定を聞き、各自で確認してください。 ・生成系AIの利用は、一部の場面を除き許可しています（確認テストや期末試験、再試験での場面は禁止）。		
【講義概要】 (目的) 臨床で必要とされる基本的な作業療法評価に関する知識の理解を深め、技術を修得する。 （当該科目と学位授与方針等との関連性；0-1,2.） (方法) 教科書やデモンストレーション、視覚的教材（画像、動画）を使用して講義を行います。 学修形態は双方向型授業（アクティブラーニング）とし、それぞれのグループに分かれ、演習を通して技能を修得します。 当該講義の内容理解確認は、適宜、講義の前または後に確認テストを行い、期末は筆記試験を行います。 臨床技能の確認は、客観的臨床技能試験（OSCE）を行います。		
【一般教育目標(GIO)】 作業療法評価技能を修得するために、評価の必要性について理解を深め、各種評価技法の原則や理論について理解し、実践することができる。		
【行動目標(SBO)】 ・作業療法に関する各種評価を、実施する理由と目的について説明することができ、臨床に即した手順や方法で安全かつ正確な方法で実施することができる。 ・各種評価の結果を、生活機能障害と関連付けて理解することができる。 ・グループで協力して学習を進めることができる ・各自、グループ演習を基に振り返りを行い、知識と技術を統合して作業療法評価技能を高めることができる。		
【教科書・リザーブドブック】 才藤栄一監修「PT・OTのためのOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版」金原出版株式会社,2020年。		
【参考書】 身体機能作業療法評価学（実習）で使用した教科書等		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・学内試験規定に基づく授業態度、確認テスト、OSCEの結果を総合的に評価する。 ・出席点は評価に含まない。 ・試験：OSCEおよび筆記試験。小テスト：講義前または後の確認テスト。 ・試験結果について、必要に応じて解説を行います。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		20	10			70			100
評価指標	取り込む力・知識	10	5			15			30
	思考・推論・創造の力	5				15			20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力					10			10
	学修に取り組む姿勢	5	5			30			40

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-4	講義オリエンテーション 形態計測	講義，演習	形態計測に関する事前学習を行うこと。 また，復讐を行うこと。	60
5-8	感覚検査	講義，演習	※小テストあり（形態計測：測定部位のランドマーク） 感覚検査に関する事前学習を行うこと。 また，復讐を行うこと。	60
9-12	反射（深部腱反射，病的反射）	講義，演習	反射に関する事前学習を行うこと。 また，復讐を行うこと。	60
13-16	姿勢反射検査，バランス検査	講義，演習	※小テストあり（反射中枢） 姿勢反射検査，バランス検査に関する事前学習を行うこと。 また，復讐を行うこと。	60
17-20	OSCE前練習	演習（PBLを含む）	模擬患者に対して，優先的に高い身体機能評価を実施することができるよう，練習を行うこと。	60
21-24	OSCE	試験（OSCE）	模擬患者に対して，優先的に高い身体機能評価を実施する。 OSCE実施後は，自身の臨床能力を到達水準と照らし合わせ，客観的に振り返ること。	60
25-28	OSCE振り返り	演習	教員やグループ内で，自己評価および他者評価を通して，客観的に振り返ること。 また，不足している技能の学習を進めるための計画を立案すること。	60
29,30	まとめ	演習	これまでに学習した内容について，復讐を行うこと。	60

【科目名】 高齢期作業療法学Ⅰ		【担当教員】 藤本 聡
【授業区分】 専門分野(作業療法治療学)	【授業コード】 4-24-0100-1	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 必修	fujimoto.s@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 月曜日～木曜日 13:00～13:20
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・高齢期作業療法は、作業療法の主要な分野の1つです。積極的な学習態度で臨んでください。 ・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。高齢期施設で作業療法士として従事してきた経験から、高齢期障害作業療法に関して講じていきます。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・この科目は、高齢期作業療法評価学の履修及び単位取得済みを前提に講義を進めます。 ・教科書を一読してから講義に臨むこと。 ・生成系AIの利用は禁止しています。授業内での利用は厳禁となっており、このルールに違反した場合は、学内の規程に則って、適切な措置を取ります。		
【講義概要】 (目的) ・高齢社会の問題点、課題等について分析し、作業療法のアプローチ方法について探求することを目的とする。 学位授与方針との関連性：A－3 学位授与方針との関連性：0－1 (方法) 講義、演習、グループ学習、発表、ディスカッション等にて実施する。 この授業はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GIO)】 ・高齢化進展の問題点を説明できる。 ・老化に伴う様々な要因を把握し、適切な作業療法アプローチについて検討し、理解することができる。 ・高齢期障害に対する作業療法士の役割を挙げることができる。 【行動目標(SBO)】 ・高齢化進展の問題点を説明できる。 ・老化に伴う様々な要因を把握し、適切な作業療法アプローチについて検討し、理解することができる。 ・高齢期障害に対する作業療法士の役割を挙げることができる。		
【教科書・リザーブドブック】 標準作業療法学：松房利憲他編、「高齢期作業療法学」第4版 医学書院		
【参考書】 日本作業療法士協会監修：村田和香編、改訂第3版 作業療法学全書 第7巻 作業治療学 第4巻、「老年期」協同医書出版		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・出席点は評価に含みません。 ・レポート、小テスト、ポートフォリオで評価する。 ・レポートの返却はおこないません。フィードバックは必要に応じ補講等にておこないます。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			20	80					100
評価指標	取り込む力・知識		20	40					60
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	オリエンテーション ・スケジュールと課題の説明 高齢期にある対象者の作業療法の理念と役割	講義、演習、担当教員：藤本	講義内容に関する予習・復習	60
3-6	・ロコモティブ症候群 ・骨粗鬆症と骨折 ・転倒と骨折 ・筋力トレーニング	講義、小テスト、担当教員：小林量作先生	講義内容に関する予習・復習	60
7-8	高齢者のこころとからだの特徴① ・高齢期のからだの特徴（高齢期における生活課題等）	講義（オンデマンド配信）、課題、担当教員：藤本	レポート作成のための予習・復習	60
9,10	高齢者のこころとからだの特徴② ・高齢期のこころの特徴	講義（オンデマンド配信）、課題、担当教員：藤本	講義内容に関する予習・復習	60
11,12	高齢者のこころとからだの特徴③ ・予防、支援方法	講義（オンデマンド配信）、課題、担当教員：藤本	講義内容に関する予習・復習	60
13,14	高齢期の特徴 ・課題Ⅰ 排泄問題	課題、担当教員：藤本	課題に対する予習、復習	60
15	高齢社会の抱える問題点、課題、作業療法の視点 ・課題Ⅱ 高齢社会の抱える問題点	課題、担当教員：藤本	課題に対する予習、復習	60

【科目名】 高齢期作業療法学Ⅱ		【担当教員】 丁子 雄希	
【授業区分】 専門分野(作業療法治療学)	【授業コード】 4-24-0105-1	(メールアドレス) tyouji@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 月曜日～木曜日 13:00～13:20	
【開講時期】 後期	【選択必修】 必修		
【単位数】 1	【コマ数】 15		
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・この科目は、高齢期作業療法学Ⅰとセットになっているため、高齢期作業療法学Ⅰが履修済みであることを前提に講義を進めます。Ⅰと同様に積極的な学習態度で臨んでください。 ・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。高齢期施設で作業療法士として従事してきた経験から、高齢期障害作業療法に関して講じていきます。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・高齢期作業療法学Ⅰを履修、単位修得済みであること。 ・生成系AIの利用は禁止しています。授業内での利用は厳禁となっており、このルールに違反した場合は、学内の規程に則って、適切な措置を取ります。			
【講義概要】 (目的) ・高齢社会の問題点、課題等について分析し、作業療法のアプローチ方法について探求することを目的とする。 学位授与方針との関連性；A－3 学位授与方針との関連性：0－1 (方法) 症例検討することにより、高齢期障害の特徴と高齢期障害への作業療法について、理解を深める。 この授業はアクティブラーニングを用います。			
【一般教育目標(GI0)】 ・高齢期障害の特徴と高齢期障害に対する作業療法を理解する。 ・生活行為向上マネジメント（MTDLP）の方法、考え方を理解する。 【行動目標(SB0)】 ・老化に伴う様々な要因を把握し、適切な作業療法アプローチについて検討し、理解することができる。 ・高齢期障害に対する作業療法士の役割を挙げることができる。			
【教科書・リザーブドブック】 配布資料			
【参考書】 標準作業療法学：松房利憲他編、「高齢期作業療法学」第3版 医学書院 4,000円＋税 ICF 国際生活機能分類－国際障害分類改定版 中央法規出版 3,500＋税			
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定のG P A制度に従う。 ・出席点は評価に含みません。 ・レポートと成果発表で評価する。 ・レポートの返却はおこないます。フィードバックは適宜おこないます。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				60	40				100
評価指標	取り込む力・知識			30					30
	思考・推論・創造の力			30					30
	コラボレーションとリーダーシップ				10				10
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢				20				20

[illegible]

【科目名】日常生活適応学Ⅰ		【担当教員】丁子 雄希
【授業区分】専門分野(地域作業療法学)	【授業コード】4-25-0000-1	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	tyouji@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】30	(オフィスアワー) メール問い合わせにて随時対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・作業療法学専攻2年生 ・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。作業療法士として従事してきた経験から、日常生活適応学に関して講じていきます。 ・障がい等の理由により合理的な配慮が必要な場合は事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・実技・演習を行うため、動きやすい服装で参加すること。 ・レポートは、授業に支障がない範囲で返却し、必要に応じてフィードバックを行う。 ・生成AIの使用は禁止します。 ・授業ではアクティブラーニングを導入します。		
【講義概要】 (目的) ・日常生活動作の概要、評価や支援方法について学修することを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2,3 当該科目と学位授与方針等との関連性：0-1,2,3 (方法) ・座学、実技を中心とした授業形態とする。		
【一般教育目標(GI0)】 ・日常生活活動の評価指標、各動作の特徴と援助方法を理解できる。 【行動目標(SB0)】 ・日常生活活動の評価指標、各動作の特徴および援助方法を理解し、対象者を評価することができる。		
【教科書・リザーブドブック】 PT・OTビジュアルテキスト ADL 第2版、羊土社、2021		
【参考書】 特になし		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・レポートと実技に取り組む姿勢で総合的に判定する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				60		40			100
評価指標	取り込む力・知識			30					30
	思考・推論・創造の力			30					30
	コラボレーションとリーダーシップ					20			20
	発表力								
	学修に取り組む姿勢					20			20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1、2	ADLの概念と範囲	講義	該当箇所の予習・復習を行うこと。 (教科書1-1 参照)	30
3、4	ADL評価のポイント	講義	該当箇所の予習・復習を行うこと。 (教科書2-1 参照)	30
5、6	ADL評価表 (FIM, BI)	講義、演習	該当箇所の予習・復習を行うこと。 (教科書2-2 参照)	60
7、8	ADL評価表 (IADL)	講義、演習	該当箇所の予習・復習を行うこと。 (教科書2-2 参照)	30
9、10	介助方法と練習指導 (脳卒中①) 疾患の概要、基本動作	講義、実技	該当箇所の予習・復習を行うこと。 (教科書3-1 参照)	60
11、12	介助方法と練習指導 (脳卒中②) 食事、整容	講義、実技	該当箇所の予習・復習を行うこと。 (教科書3-1 参照)	60
13、14	介助方法と練習指導 (脳卒中③) 排泄、入浴	講義、実技	該当箇所の予習・復習を行うこと。 (教科書3-1 参照)	60
15、16	介助方法と練習指導 (脊髄損傷①) 疾患の概要、基本動作	講義、実技	該当箇所の予習・復習を行うこと。 (教科書3-2 参照)	60

17、18	介助方法と練習指導（脊髄損傷②） 食事、整容	講義、実技	該当箇所の予習・復習を行うこと。 （教科書3-2 参照）	60
19、20	介助方法と練習指導（脊髄損傷③） 排泄、入浴	講義、実技	該当箇所の予習・復習を行うこと。 （教科書3-2 参照）	60
21、22	介助方法と練習指導（パーキンソン病） 疾患の概要、ADL全般	講義、実技	該当箇所の予習・復習を行うこと。 （教科書4-1 参照）	30
23、24	介助方法と練習指導（神経筋疾患） 疾患の概要、ADL全般	講義、実技	該当箇所の予習・復習を行うこと。 （教科書4-1 参照）	30
25、26	介助方法と練習指導（認知症） 疾患の概要、ADL全般	講義、実技	該当箇所の予習・復習を行うこと。 （教科書4-2 参照）	30
27、28	介助方法と練習指導（リウマチ） 疾患の概要、ADL全般	講義、実技	該当箇所の予習・復習を行うこと。 （教科書4-9 参照）	30
29、30	介助方法と練習指導（脳性麻痺） 疾患の概要、ADL全般	講義、実技	該当箇所の予習・復習を行うこと。 （教科書4-5 参照）	60

リハビリテーション学科

【科目名】日常生活適応学Ⅱ		【担当教員】丁子 雄希
【授業区分】専門分野(地域作業療法学)	【授業コード】4-25-0005-1	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	tyouji@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】30	(オフィスアワー) メール問い合わせにて随時対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・作業療法学専攻2年生 ・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。作業療法士として従事してきた経験から、日常生活適応学に関して講じていきます。 ・障がい等の理由により合理的な配慮が必要な場合は事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・実技・演習を行うため、動きやすい服装で参加すること。 ・試験は、授業に支障がない範囲で返却し、必要に応じてフィードバックを行う。 ・生成AIの使用は禁止します。 ・授業ではとアクティブラーニングを導入します。		
【講義概要】 (目的) ・日常生活適応学Ⅰで学んだことを活かし、ADLと福祉用具、装具の関係性について学修することを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2,3 当該科目と学位授与方針等との関連性：0-1,2,3 (方法) ・座学、実技を中心とした授業形態とする。		
【一般教育目標(GI0)】 ・障害に合った福祉用具と住環境を整えることを理解できる。 ・障害に合ったスプリントを選定できる。 【行動目標(SB0)】 ・対象者に合った福祉用具・住環境・スプリントについて、提案することができる。		
【教科書・リザーブドブック】 福祉住環境コーディネーター検定試験®3級 要点まとめ＋よく出る問題、成美堂出版、2022		
【参考書】 PT・OTビジュアルテキスト ADL 第2版、羊土社、2021		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・試験とグループ学習に取り組む姿勢で総合的に判定する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60				40			100
評価指標	取り込む力・知識	30							30
	思考・推論・創造の力	30							30
	コラボレーションとリーダーシップ					20			20
	発表力								
	学修に取り組む姿勢					20			20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1、2	概論 住環境支援について	講義	配布資料の復習を行うこと。	30
3、4	暮らしやすい生活環境をめざして 少子高齢化社会の現状と課題	講義、演習	該当箇所の予習・復習を行うこと。 (教科書1章 参照)	30
5、6	福祉住環境支援 介護保険制度の概要	講義、演習	該当箇所の予習・復習を行うこと。 (教科書1章 参照)	60
7、8	健康と自立をめざして 高齢者の健康と自立に関する基準	講義、演習	該当箇所の予習・復習を行うこと。 (教科書2章 参照)	30
9、10	ヘルスプロモーションの概念と実践 障害者の自立のための方策	講義、演習	該当箇所の予習・復習を行うこと。 (教科書2章 参照)	30
11、12	バリアフリーとユニバーサルデザイン 福祉用具の定義と分類	講義、演習	該当箇所の予習・復習を行うこと。 (教科書3章 参照)	30
13、14	種々の福祉用具① (基本動作、排泄、入浴、など)	講義、演習	該当箇所の予習・復習を行うこと。 (教科書3章 参照)	60
15、16	種々の福祉用具② (コミュニケーション、自助具など)	講義、演習	該当箇所の予習・復習を行うこと。 (教科書3章 参照)	60

17、18	安全・安心・快適な住まい 段差、手すり、幅・スペース	講義、演習	該当箇所の予習・復習を行うこと。 (教科書4章 参照)	60
19、20	色彩・照明・インテリア 非常時の対応	講義、演習	該当箇所の予習・復習を行うこと。 (教科書4章 参照)	30
21、22	安心できる住生活とまちづくり 多様化する高齢者の暮らし 高齢者や障害者に対応した住宅施策	講義、演習	該当箇所の予習・復習を行うこと。 (教科書5章 参照)	30
23、24	スプリントの概要 スプリントと各種疾患	講義、演習	配布資料の復習を行うこと。	30
25、26	スプリント計画 作成までの流れ、注意点	講義、演習、実 技	配布資料の復習を行うこと。	30
27、28	スプリント作成 カックアップスプリント	講義、実技	配布資料の復習を行うこと。	30
29、30	スプリント作成 短対立装具，マレットフィンガー	講義、実技	配布資料の復習を行うこと。	30

【科目名】		地域作業療法学		【担当教員】	藤本 聡
【授業区分】		専門分野(地域作業療法学)	【授業コード】	4-25-0010-1	(メールアドレス)
【開講時期】		後期	【選択必修】	必修	hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com (藤本)
【単位数】		1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月曜日～木曜日 13:00～13:20
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
・本科目は、グループ学習や発表を行いますので、積極的な学習態度で臨んでください。 ・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。老年期施設や通所リハビリテーション、介護予防で作業療法士として従事してきた経験から、地域作業療法に関して講じていきます。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
・定期本試験結果はポータルサイト上で確認すること。再試験該当者には、再試験対策の案内を行う。 ・生成系AIの利用は禁止しています。授業内での利用は厳禁となっており、このルールに違反した場合は、学内の規程に則って、適切な措置を取ります。					
【講義概要】					
(目的)					
・障害者が地域社会の中で共生と共同を以って積極的な社会参加を通して、生きがいを感じながら自らの人生を主体的に生きることを支援する。そのための保健・医療・福祉の動向を踏まえた、障害者のQOL に視点を当てた生活を重視した包括的援助体系について、多面的に学修をすることを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性;A-1,2 0-1,2					
(方法)					
・講義及び演習を中心に行う。 ・この授業はアクティブラーニングを用います。					
【一般教育目標(GI0)】					
・地域リハビリテーションの位置づけ、法制度について理解することができる。 ・地域生活支援と作業療法の関わりについて理解することができる。					
【行動目標(SB0)】					
・疾患やライフステージに応じた生活や生活障害を理解し、作業療法を提供できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
配付資料					
【参考書】					
・「標準作業療法学専門分野 高齢期作業療法学 第3版」医学書院 ・「標準作業療法学専門分野 地域作業療法学 第3版」医学書院					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・期末試験および授業参加態度、レポート等より総合的に評価する。 ・試験・レポートの解答の返却はおこないません。フィードバックは必要に応じ補講等にておこないます。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80					20		100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	40							40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢						20		20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	オリエンテーション 地域作業療法の基盤と背景	講義、ディスカッション、担当教員：藤本	予習・復習：講義内容に関して	30分
3・4	福祉用具と住環境整備①	講義、担当教員：小林量作先生	予習・復習：講義内容に関して	30分
5・6	福祉用具と住環境整備② ・事例を通して学ぶ	講義、担当教員：小林量作先生	予習・復習：講義内容に関して	30分
7-10	介護予防の実際 介護予防の事例より学ぶ	講義、演習、ディスカッション、担当教員：藤本	予習・復習：講義内容に関して	30分
11-14	地域作業療法を支える制度 認知症に関する施策 認知症への作業療法 実践事例を通して学ぶ	講義、演習、ディスカッション、担当教員：藤本	予習・復習：今までの講義について	30分
15	まとめ演習	演習、担当教員：藤本	予習・復習：全ての講義の内容	30分
16	試験	試験	予習・復習：全ての講義の内容	30分

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				10	10	80			100
評価指標	取り込む力・知識			5		20			25
	思考・推論・創造の力			5		20			25
	コラボレーションとリーダーシップ				5				5
	発表力				5				5
	学修に取り組む姿勢					40			40

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	オリエンテーション①(学内) 実習要項の読み合わせ、課題確認等	講義	予習：配布資料を読んでおく。 復習：講義内容を復習しておく。	60
3,4	オリエンテーション②(学内) 学生紹介用紙作成、	講義、演習	予習：配布資料を読んでおく。 復習：講義内容を復習しておく。	60
5,6	コミュニケーション	講義・実技、長谷川千種先生、F棟	予習：コミュニケーションスキルについて、調べておく。 復習：講義内容を復習しておく。	60
7,8	1年時の学外見学実習の反省点と今回の実習に向けての改善点(学内)	個人演習、グループ学習、発表、ディスカッション	予習：配布資料を読んでおく。 復習：講義内容を復習しておく。	60
9,10	臨床実習における注意事項(学内)	講義	予習：配布資料を読んでおく。 復習：講義内容を復習しておく。	60
学外1週目	臨床実習 (医療施設、老人保健施設等)	実習	予習：配布資料を読んでおく 復習：行動記録、実習記録の作成	60
学外2週目	臨床実習 (医療施設、老人保健施設等) 最終日、実習指導者よりフィードバックと総括	実習	予習：配布資料を読んでおく 復習：行動記録、実習記録の作成	60
11-18	臨床体験報告	資料作成、発表、ディスカッション	予習：課題作成、課題提出、学習課題報告 復習：講義内容	

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				10	10	80			100
評価指標	取り込む力・知識			5		20			25
	思考・推論・創造の力			5		20			25
	コラボレーションとリーダーシップ				5				5
	発表力				5				5
	学修に取り組む姿勢					40			40

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	オリエンテーション①(学内) 実習要項の読み合わせ、課題確認等	講義	予習：配布資料を読んでおく。 復習：講義内容を復習しておく。	60
3,4	オリエンテーション②(学内) 学生紹介用紙作成、	講義、演習	予習：配布資料を読んでおく。 復習：講義内容を復習しておく。	60
5,6	コミュニケーション	講義・実技、長谷川千種先生、F棟	予習：コミュニケーションスキルについて、調べておく。 復習：講義内容を復習しておく。	60
7,8	1年時の学外見学実習の反省点と今回の実習に向けての改善点(学内)	個人演習、グループ学習、発表、ディスカッション	予習：配布資料を読んでおく。 復習：講義内容を復習しておく。	60
9,10	臨床実習における注意事項(学内)	講義	予習：配布資料を読んでおく。 復習：講義内容を復習しておく。	60
学外1週目	臨床実習 (医療施設、老人保健施設等)	実習	予習：配布資料を読んでおく 復習：行動記録、実習記録の作成	60
学外2週目	臨床実習 (医療施設、老人保健施設等) 最終日、実習指導者よりフィードバックと総括	実習	予習：配布資料を読んでおく 復習：行動記録、実習記録の作成	60
11-18	臨床体験報告	資料作成、発表、ディスカッション	予習：課題作成、課題提出、学習課題報告 復習：講義内容	

【科目名】基礎ゼミⅤ		【担当教員】星野 浩通
【授業区分】 教養分野(高年次教養教育)	【授業コード】1-07-0000-2	(メールアドレス)
【開講時期】通年(前期)	【選択必修】選択	hoshino@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 月～金 8:30-18:00
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) この科目は選択科目ですが、将来就職に繋げる上で重要となってくる科目ですので、できるだけ受講してください。 ＊障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員と事前に相談してください。 この科目は、アクティブラーニングを中心としてグループワークやディスカッションを行います。 生成系 AIの利用を全面的に許可しています。授業内、および、予復習、成果物(レポート等含む)作成において自由に利用してください。使用した場合にその旨をレポート等に記載してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・この科目は、キャリアセンター教員、外部講師も招いて就職に関連する内容について教授いただきます。面接の仕方や履歴書の書き方などについては、受講生の方に実際に行ってもらいます。 ・専攻により、授業日程・内容の順番が入れ替わることがあります。 ・受講した際にレポート課題を行ってもらいますが、レポート(感想文含む)については返却します。 ・クリッカーを用いた双方向授業を行う場合もある。		
【講義概要】 (目的) 3年次は、卒業後の就職に向け自己を認識し、就職活動への意識を高めることを目的とする。また3年次後期からは、専攻によっては就職活動が開始可能となるような力を養成することをも目的とする。 当該科目と学位授与方針との関連性：A-1.2 (方法) 就職に関しての個別相談や指導を行う他、これからの就職活動に向けた自己理解セミナーを実施する。就職ガイダンスや各種キャリア講座、履歴書作成や面接マナーなどを実施する。		
【一般教育目標(GIO)】 就職に繋げるための活動のポイントを理解する 【行動目標(SB0)】 ・自己分析を通して、自己を知り、自分の強みをアピールすることができる ・自分の目標とする職業・分野、やりたいことを見出し、就職活動に繋げることができる ・就職活動のスケジュールリングができる ・スケジュール管理ができる		
【教科書・リザーブドブック】 なし		
【参考書】 新潟リハビリテーション大学Placement Book		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う ・ポートフォリオ課題の評価、レポート(感想文含む)課題、その他を総合的に判断し成績評価とする ・出席点は評価に含まれない。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				40			40	20	100
評価指標	取り込む力・知識			20			20		40
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			20			20	20	60

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	イントロダクション、就職活動の流れの説明	講義 大矢薫 指定教室	配布資料	30
3.4	キャリアポートフォリオ作成を通して自己理解①	講義 大矢薫 指定教室	配布資料	30
5.6	キャリアポートフォリオ作成を通して自己理解②	講義 大矢薫 指定教室	配布資料	30
7.8	外部講師（マイナビ）による自己理解セミナー	講義・演習 (外部講師) 指定教室	配布資料	30
9.10	専攻別に実施 (PTOT専攻は就職活動準備) (RP専攻はインターシップ講座) ＊専攻別で時間場所が違います。	講義・演習。アクティブラーニング (PTOT専攻：星野) (RP教員：大矢)	配布資料	30
11.12	専攻別に実施 (PTOT専攻は就職活動準備) (RP専攻はインターンシップ・マナー講座) ＊専攻別で時間場所が違います。	講義・演習。アクティブラーニング (PTOT専攻：星野) (RP教員：大矢)	配布資料	30
13.14	外部講師（マイナビ）による履歴書・面接対策セミナー	講義・演習 (外部講師)	配布資料	30
15	専攻別に実施 (PTOT専攻はポートフォリオまとめ) (RP専攻はSPI対策講座) ＊専攻別で時間場所が違います。	講義・演習。アクティブラーニング (PTOT専攻：星野) (RP教員：大矢)	配布資料	30

【科目名】基礎ゼミⅤ		【担当教員】星野 浩通
【授業区分】 教養分野(高年次教養教育)	【授業コード】1-07-0000-2	(メールアドレス)
【開講時期】通年(後期)	【選択必修】選択	hoshino@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 月～金 8:30-18:00
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) この科目は選択科目ですが、将来就職に繋げる上で重要となってくる科目ですので、できるだけ受講してください。 ＊障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員と事前に相談してください。 この科目は、アクティブラーニングを中心としてグループワークやディスカッションを行います。 生成系 AIの利用を全面的に許可しています。授業内、および、予復習、成果物(レポート等含む)作成において自由に利用してください。使用した場合にその旨をレポート等に記載してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・この科目は、キャリアセンター教員、外部講師も招いて就職に関連する内容について教授いただきます。面接の仕方や履歴書の書き方などについては、受講生の方に実際に行ってもらいます。 ・専攻により、授業日程・内容の順番が入れ替わることがあります。 ・受講した際にレポート課題を行ってもらいますが、レポート(感想文含む)については返却します。 ・クリッカーを用いた双方向授業を行う場合もある。		
【講義概要】 (目的) 3年次は、卒業後の就職に向け自己を認識し、就職活動への意識を高めることを目的とする。また3年次後期からは、専攻によっては就職活動が開始可能となるような力を養成することをも目的とする。 当該科目と学位授与方針との関連性：A-1.2 (方法) 就職に関しての個別相談や指導を行う他、これからの就職活動に向けた自己理解セミナーを実施する。就職ガイダンスや各種キャリア講座、履歴書作成や面接マナーなどを実施する。		
【一般教育目標(GIO)】 就職に繋げるための活動のポイントを理解する 【行動目標(SB0)】 ・自己分析を通して、自己を知り、自分の強みをアピールすることができる ・自分の目標とする職業・分野、やりたいことを見出し、就職活動に繋げることができる ・就職活動のスケジュールリングができる ・スケジュール管理ができる		
【教科書・リザーブドブック】 なし		
【参考書】 新潟リハビリテーション大学Placement Book		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う ・ポートフォリオ課題の評価、レポート(感想文含む)課題、その他を総合的に判断し成績評価とする ・出席点は評価に含まれない。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				40			40	20	100
評価指標	取り込む力・知識			20			20		40
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			20			20	20	60

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	イントロダクション、就職活動の流れの説明	講義 大矢薫 指定教室	配布資料	30
3.4	キャリアポートフォリオ作成を通して自己理解①	講義 大矢薫 指定教室	配布資料	30
5.6	キャリアポートフォリオ作成を通して自己理解②	講義 大矢薫 指定教室	配布資料	30
7.8	外部講師（マイナビ）による自己理解セミナー	講義・演習 (外部講師) 指定教室	配布資料	30
9.10	専攻別を実施 (PTOT専攻は就職活動準備) (RP専攻はインターシップ講座) ＊専攻別で時間場所が違います。	講義・演習。アクティブラーニング (PTOT専攻：星野) (RP教員：大矢)	配布資料	30
11.12	専攻別を実施 (PTOT専攻は就職活動準備) (RP専攻はインターンシップ・マナー講座) ＊専攻別で時間場所が違います。	講義・演習。アクティブラーニング (PTOT専攻：星野) (RP教員：大矢)	配布資料	30
13.14	外部講師（マイナビ）による履歴書・面接対策セミナー	講義・演習 (外部講師)	配布資料	30
15	専攻別を実施 (PTOT専攻はポートフォリオまとめ) (RP専攻はSPI対策講座) ＊専攻別で時間場所が違います。	講義・演習。アクティブラーニング (PTOT専攻：星野) (RP教員：大矢)	配布資料	30

リハビリテーション学科

【科目名】		チーム医療学Ⅱ		【担当教員】	高橋 明美、長谷川 裕、伊藤 渉、藤本 聡
【授業区分】		専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0030-3	(メールアドレス)
【開講時期】		前期	【選択必修】	選択	a_takahashi@nur05.omnicrosoft.com/w.ito@nur05.omnicrosoft.com/fujimoto.s@nur05.omnicrosoft.com/
【単位数】		1	【コマ数】	15コマ(45分)	(オフィスアワー) 月～金：13：00- 13：20
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
本科目は実務経験のある教員による授業科目です。理学療法士、作業療法士の資格を持つ教員が、それぞれの立場からチーム医療について講じていく。 障害等があって配慮が必要な学生は事前に相談することを推奨します。 この科目は、実務経験者対応科目である。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
・復習を行い理解を深めること ・演習やグループ討論を行うので休まないこと ・生成AI 使用ルール：提出課題、発表用資料での直接的な使用（生成AIの文章等の複写等）は禁止します。アイデアを得るための使用は認めます。生成Aiから得た情報は必ず、文献、書籍等他の資料で確認してください。					
【講義概要】					
(目的)					
対象者へのリハビリテーション・サービスを効果的に進めていくためには、医療専門職間の連携の重要性はもちろんであるが、さらに広く保健医療・福祉領域の関連専門職との連携が不可欠である。 この科目では、「チーム医療学Ⅰ」で学んだ内容をさらに発展させ、実際の事例を通して専門職間の連携の重要性について理解を深め、今後の臨床活動とのつながりを具体的にイメージできるようになることを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2,3 当該科目と学位授与方針等との関連性：P-2, 0-2, R-2					
(方法)					
実際の現場でリハビリテーション専門職がどのように働き、どのように連携を取るのか、できるだけ具体的な事例を挙げながら講義する。模擬症例（仮想事例）を通して、専攻職業の役割と有効な専門職間連携についての考察を進めるので、学生同士の討論、発表を重視する。 この授業はアクティブラーニングを用います。					
【一般教育目標(GI0)】					
リハビリテーションサービスを効果的に進めるために、関連する保健・医療・福祉領域の専門職がどのように連携を取ればよいのかを理解する。					
【行動目標(SB0)】					
・コマごとの課題に対して、班員と積極的に意見交換できる。 ・コマごとの課題に対して、積極的に文献検索し、討論や発表に活用することができる。 ・講義、討論、文献検索などの一連の作業で得られた内容に自分の考えも添えて、レポートとしてまとめることができる。 ・病期や症状における専攻職業の役割の概要と、多職種との連携の概要を述べることができる。					
【教科書・リザーブドブック】					
指定しない。 必要に応じて資料を配付する。					
【参考書】					
指定しない。					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。 ・出席点は評価に含みません。 ・成績は、レポートにおける取組む力・知識、思考・推論・創造の力を総合的に評価する。 ・レポートの返却は行いません。フィードバックは必要に応じ補講等にておこないます。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			50					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1,2	- 科目の流れについてのオリエンテーション - 専門職連携の実際例から学ぶ - 災害時の専門職連携（その1）－	- 講義 - 討論 (担当：藤本)	- リハ専門職、関連専門職について確認する - 討論のまとめをする	
3,4	- 専門職連携の実際例から学ぶ - 災害時の専門職連携（その2）－	- 課題配信 - 演習 (担当：藤本)	事例について、災害時の専門職連携についてまとめる	
5,6	- 専門職連携の実際例から学ぶ - 提示症例に対する援助・支援、連携を考察する（その1：診療現場）－	- 課題配信 - 演習 (担当：長谷川)	- 保健・福祉領域を含めた専門職を幅広く調べる - 症例に対する連携をまとめる	
7,8	- 専門職連携の実際例から学ぶ - 提示症例に対する援助・支援、連携を考察する（その2：訪問支援）－	- 課題配信 - 演習 (担当：長谷川)	- 前回の連携について確認する - 症例に対する連携をまとめる	
9,10	専門職連携の実際例から学ぶ①	- 講義 - 演習 (担当：伊藤)	- 事前に提示する症例に対して確認しておく - 提示された症例に対する専門職連携についてまとめる	
11,12	専門職連携の実際例から学ぶ②	- 講義 - 演習 (担当：伊藤)	- 前回の連携について確認する - 提示された症例に対する専門職連携についてまとめる	
13,14	病院や施設における専門職連携の実際について知る	- 講義 - 討論 - 発表 (担当：高橋)	病院や施設における専門職連携について確認する 症例に対する連携方法をまとめ、発表する	
15	- 終末期医療における専門職連携を考える - まとめ	- 講義 - 討論 (担当：高橋)	- 終末期医療の現状について調べる - 科目のまとめ	

リハビリテーション学科

【科目名】心理測定法Ⅰ		【担当教員】中川 明仁
【授業区分】専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】2-14-0045-3	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	
【単位数】1	【コマ数】15	
(オフィスアワー) メールにて適宜対応		
【注意事項】		
(受講者に関わる情報・履修条件)		
言語聴覚障害コースの学生にとっては、国家試験出題基準の指定科目です。 注意：心理テスト法の実践を学びたい場合は、他臨床心理系科目を選択してください。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください		
(受講のルールに関わる情報・予備知識)		
・本科目では講義に加えて演習を取り入れて心理測定法の実際を学びます。講義で得た知識を基にしながら、演習を通して心理測定法がどのように行われるのか体感して理解を深めます。 ・生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。生成AIの出力結果は、その内容によっては著作権を侵害する可能性があります。また、個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意するようにしてください。		
【講義概要】		
(目的)		
心理測定法や統計学的な知識の習得を通じて行動やところを科学的視点で理解することを目指します。 当該科目と学位授与方針等との関連性； S-1、R-2		
(方法)		
心理測定法の中でも主に精神物理学的測定法を学ぶ。また、心理測定法Ⅱに向けて、変数の種類や尺度水準、尺度構成における信頼性と妥当性について学ぶ。講義で得た知識を実際に自ら測定をを実践することで知識の定着を図る。		
【一般教育目標(GI0)】		
心理測定法の中でも主に精神物理学的測定法の手法を身に着けるため、その手法で用いられる種々の方法論を理解する。		
【行動目標(SB0)】		
精神物理学的測定法、変数の種類や尺度水準、信頼性と妥当性の概要について説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】		
毎回の授業で資料を配布する		
【参考書】		
山田弘幸（編・著）／言語聴覚士のための心理学：第3章「心理学的測定」／医歯薬出版／定価 4,320円（税込） 市川伸一編著／新心理学ライブラリ 13「心理測定法への招待」／サイエンス社／定価 2,835円（税込）		
【評価に関わる情報】		
(評価の基準・方法)		
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含みません。試験、小テストの成績を総合して評価する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60		40					100
評価指標	取り込む力・知識	40		30					70
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	心理測定法とは	講義	心理測定法の概要、意義について理解できる	120
3・4	測定の水準(名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比率尺度)	講義、演習	4つの尺度水準の違いを説明できる	120
5・6	精神物理学的測定法(1)(刺激閾、弁別閾、主観的等価値、丁度可知差異)	講義、演習	刺激閾、弁別閾、主観的等価値、丁度可知差異の意味を説明できる	120
7・8	精神物理学的測定法(2)(調整法、極限法)	講義、演習	調整法、極限法の意味、またその実際を説明できる	120
9・10	精神物理学的測定法(3)(恒常法、マグニチュード推定法)	講義、演習	恒常法、マグニチュード推定法の意味、またその実際を説明できる	120
11・12	恒常誤差	講義	さまざまな恒常誤差の意味を説明できる	120
13・14	妥当性と信頼性	講義	妥当性と信頼性の意味を説明できる	120
15	まとめ	講義	これまでの講義、配布資料をもとに学んだ内容を理解できる	120

【科目名】心理測定法Ⅱ		【担当教員】中川 明仁
【授業区分】専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】2-14-0045-3	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	
【単位数】1	【コマ数】15	
(オフィスアワー) メールにて適宜対応		
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 言語聴覚障害コースの学生にとっては、国家試験出題基準の指定科目です。 注意：心理テスト法の実践を学びたい場合は、他臨床心理系科目を選択してください。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・本科目では講義に加えて演習を取り入れて心理測定法の実際を学びます。講義で得た知識を基にしながら、演習を通して心理測定法がどのように行われるのか体感して理解を深めます。 ・生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。生成AIの出力結果は、その内容によっては著作権を侵害する可能性があります。また、個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意するようにしてください。		
【講義概要】 (目的) 心理測定法や統計学的な知識の習得を通じて行動やこころを科学的視点で理解することを目指します。 当該科目と学位授与方針等との関連性； S-1、R-2 (方法) 心理測定法の中でも主に尺度構成法を学ぶ。また、心理統計学の基礎として代表値、散布度、相関関係、統計的仮説検定の考え方について学ぶ。		
【一般教育目標(GI0)】 心理測定法の中でも主に尺度構成法の手法を身に着けるため、その手法で用いられる種々の方法論を理解する。また、統計学的考え方を身に着けるため、記述統計と推測統計の考え方を理解する。		
【行動目標(SB0)】 尺度構成法および記述統計、推測統計について説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 毎回の授業で資料を配布する		
【参考書】 山田弘幸（編・著）／言語聴覚士のための心理学：第3章「心理学的測定」／医歯薬出版／定価 4,320円（税込） 市川伸一編著／新心理学ライブラリ 13「心理測定法への招待」／サイエンス社／定価 2,835円（税込）		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含みません。試験、小テストの成績を総合して評価する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60	40						100
評価指標	取り込む力・知識	40	30						70
	思考・推論・創造の力	20	10						30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	尺度構成法(1) 直接法 ME法、MP法	講義、演習	直接法のME法とMP法の説明ができる	120
3・4	尺度構成法(2) 間接法 一対比較、評定尺度法、SD法、MSD法	講義、演習	間接法の一対比較、評定尺度法、SD法、MSD法が説明できる	120
5・6	調査法 質問紙構成のプロセス	講義、演習	質問紙が作成されるまでのプロセスを説明できる	120
7・8	心理統計学(1) 度数分布と代表値	講義、演習	度数分布と代表値が説明できる	120
9・10	心理統計学(2) 散布度 分散と標準偏差	講義、演習	分散と標準偏差が説明できる	120
11・12	心理統計学(3) 共分散と相関	講義、演習	共分散と相関が説明できる	120
13・14	心理統計学(4) 統計的仮説検定 t検定	講義、演習	統計的仮説検定の考え方が理解できる	120
15	まとめ	講義	これまでの講義、配布資料をもとに学んだ内容を理解できる	120

【科目名】知覚・認知心理学Ⅰ		【担当教員】中川 明仁
【授業区分】専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】2-14-0055-3	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	
【単位数】1	【コマ数】15	
(オフィスアワー) メールにて適宜対応		
【注意事項】		
(受講者に関わる情報・履修条件)		
「公認心理師」の資格取得にかかわる必修科目です。また、「認定心理士」資格取得のための必須科目です。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識)		
・ 毎回資料を配布します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。テスト答案とレポートの返却：他に支障がない限り返却します。		
・ 生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。生成AIの出力結果は、その内容によっては著作権を侵害する可能性があります。また、個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意するようにしてください。		
【講義概要】		
(目的)		
人の情報処理の過程（感覚・知覚・認知・思考等）について種々の理論を基に理解し、それらの機序及び障害について学ぶ。当該科目と学位授与方針等との関連性；R-1,2,3		
(方法)		
毎回の授業において資料を配布し、その資料に基づいたパワーポイントを使用して授業を進める。		
【一般教育目標(GI0)】		
人の情報処理の過程（感覚・知覚・認知・思考等）の機序及びその障害について学ぶことで、知覚や認知関わる心理現象を科学的な視点で考察することができる。		
【行動目標(SB0)】		
人の感覚・知覚・認知・思考等の機序及びその障害について説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】		
授業資料を毎回配布します。		
【参考書】		
箱田 裕司編 『知覚・認知心理学』 遠見書房（2,600円＋税）		
森 敏昭他『グラフィック認知心理学』 サイエンス社（2,400円＋税）		
御領 謙他『最新 認知心理学への招待 心の働きとしくみを探る』 サイエンス社（2,950円＋税）		
【評価に関わる情報】		
(評価の基準・方法)		
・ 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。		
・ 小レポートと定期試験を実施する。		
・ 小レポートのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。		
・ 出席点は評価に含みません。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60		40					100
評価指標	取り込む力・知識	30		20					50
	思考・推論・創造の力	30		20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	感覚	講義	講義プリントの復習 感覚の種類、構造、特性についてまとめる	120
3・4	感覚の測定(1)	講義	講義プリントの復習 刺激閾、弁別閾、主観的等価値、丁度可知差異についてまとめる	120
5・6	感覚の測定(2)	講義	講義プリントの復習 調整法、極限法の意味についてまとめる	120
7・8	感覚の測定(3)	講義	講義プリントの復習 恒常法、マグニチュード推定法についてまとめる	120
9・10	視知覚と聴知覚	講義	講義プリントの復習 明るさや色、奥行き知覚および聴覚の仕組みについてまとめる	120
11・12	知覚の発達	講義	講義プリントの復習 乳幼児期からの種々の知覚の発達のプロセスについてまとめる	120
13・14	知覚の障害	講義	講義プリントの復習 知覚の障害の概要についてまとめる	120
15	まとめ		これまでの講義プリントの復習	120

【科目名】知覚・認知心理学Ⅱ		【担当教員】中川 明仁
【授業区分】専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】2-14-0060-3	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	
【単位数】1	【コマ数】15	
(オフィスアワー) メールにて適宜対応		
【注意事項】		
(受講者に関わる情報・履修条件)		
「公認心理師」の資格取得にかかわる必修科目です。また、「認定心理士」資格取得のための必須科目です。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識)		
・ 毎回資料を配布します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。テスト答案とレポートの返却：他に支障がない限り返却します。		
・ 生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。生成AIの出力結果は、その内容によっては著作権を侵害する可能性があります。また、個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意するようにしてください。		
【講義概要】		
(目的)		
人の情報処理の過程（感覚・知覚・認知・思考等）について種々の理論を基に理解し、それらの機序及び障害について学ぶ。当該科目と学位授与方針等との関連性；R-1,2,3		
(方法)		
毎回の授業において資料を配布し、その資料に基づいたパワーポイントを使用して授業を進める。		
【一般教育目標(GI0)】		
人の情報処理の過程（感覚・知覚・認知・思考等）の機序及びその障害について学ぶことで、知覚や認知関わる心理現象を科学的な視点で考察することができる。		
【行動目標(SB0)】		
人の感覚・知覚・認知・思考等の機序及びその障害について説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】		
授業資料を毎回配布します。		
【参考書】		
箱田 裕司編 『知覚・認知心理学』 遠見書房（2,600円＋税）		
森 敏昭他『グラフィック認知心理学』 サイエンス社（2,400円＋税）		
御領 謙他『最新 認知心理学への招待 心の働きとしくみを探る』 サイエンス社（2,950円＋税）		
【評価に関わる情報】		
(評価の基準・方法)		
・ 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。		
・ 小レポートと定期試験を実施する。		
・ 小レポートのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。		
・ 出席点は評価に含みません。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60		40					100
評価指標	取り込む力・知識	30		20					50
	思考・推論・創造の力	30		20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	記憶(1)	講義	講義プリントの復習 記憶の種類、メカニズムについてまとめる	120
3・4	記憶(2)	講義	講義プリントの復習 記憶の忘却のメカニズムについてまとめる	120
5・6	注意	講義	講義プリントの復習 選択注意や注意の制御についてまとめる	120
7・8	概念と言語	講義	講義プリントの復習 「概念」とは何かということと、「概念」と言語との関連をまとめる	120
9・10	問題解決・推論・意思決定	講義	講義プリントの復習 人の問題解決行動の背後にある原理についてまとめる	120
11・12	認知と感情、メタ認知	講義	講義プリントの復習 感情表出にかかわる認知の特徴およびメタ認知の内容についてまとめる	120
13・14	認知の個人差	講義	講義プリントの復習 認知の個人差が生じる機序についてまとめる	120
15	まとめ		これまでの講義プリントの復習	120

リハビリテーション学科

【科目名】 学習・言語心理学Ⅰ		【担当教員】 宮岡 里美
【授業区分】 専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】 2-14-0065-3	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15 コマ	(オフィスアワー) 授業終了後 ※随時メールにて対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ※本科目は実務経験を有する教員による授業です。大学での学習・言語心理学教育に関する実務経験、及び保健・医療・福祉機関での臨床経験(言語・高次脳機能障害及び摂食嚥下障害へのリハビリテーション)から、人の言語及び行動の基本的な仕組みとその障害への適切な対応について講義していきます。人は置かれた環境によりよく適応して生きていけるよう、経験に基づいて柔軟に学習していく能力を備えていることを講じていきます。 ※本科目は、心理学専攻の必修科目であり、公認心理師国家試験受験資格を取得するための指定科目です。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。 欠席した場合には、後日担当教員に申し出て、資料を受け取り、必ず参照して下さい。 授業中に実施した心理テスト等のデータは、原則提出を求めません。 生成系 AI の利用を全面的に許可します。授業内、予復習、成果物(レポート等含む)作成において自由に利用して下さい。 。使用した場合には、生成AI の出力を引用した箇所や生成 AIサービスの名称、バージョンを明記して下さい。		
【講義概要】 (目的) ①経験に基づく行動の変化、及び②言語習得の機序を学びます。ヒトは、誕生から死に至るまでさまざまな行動を学習し、臨機応変に変化させていきます。本講義を通して、学習心理学の基本的理論と知見について学び、学習理論を心の支援に応用する考え方を理解していきます。また、ヒトは言語で他者とのコミュニケーションを交わしています。この言語習得のメカニズムを脳科学の観点からも学び、言語障害に対する適切な支援法を実践できることを目的とします。 当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-2, 0-1, R-1 (方法) Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。 毎回、講義スライドのPDF資料は配布し、関連する参考文献を紹介します。 欠席した場合には、後日担当教員に申し出て資料を受け取り、必ず参照して下さい。 課題レポートや理解度確認テストは、回収後に解答の解説を行います。		
【一般教育目標(GIO)】 学習の基本原理を学び、動物及び人間の行動の基盤には学習のメカニズムが機能していることを理解する。 言語習得の基本プロセスと言語の機能(役割)を理解する。 学習の障害、言語障害の機序を学び、適切な支援ができる。		
【行動目標(SBO)】 人間の行動は変化するものであることを説明できる。 人間の行動は、ある程度は予測し、コントロールすることも可能であることを説明できる。 学習の原理を日常生活場面や将来の臨床場面で応用していくことができる。 学習・言語障害に対して適切な支援ができる。		
【教科書・リザーブドブック】 学習・言語心理学(ライブラリ心理学の杜7)/ 木山幸子・大沼卓也 他(著)/ サイエンス社(2022/10)/ ¥3,135(税込)		
【参考書】 学習の心理 第2版(コンパクト新心理学ライブラリ2)/ 実森正子・中島定彦(著)/ サイエンス社(2019)/ ¥2,530(税込) 学習と言語の心理学/ 中島定彦(著)/ 昭和堂(2020)/ ¥2,750(税込) メイザーの学習と行動/ ジェームズ E メイザー(著)/ 二瓶社(2008)/ ¥4,400(税込)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。 ・定期試験を実施する。 ・出席点は評価に含まれない。 ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ※障害への配慮が必要な学生は教員と事前に相談することを推奨します。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70				30			100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20				10			30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10				20			30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	学習とは何か(定義) 生得性行動 ・初期学習(刻印づけ、臨界期)・馴化 古典的条件づけ(1) 基本原理と典型例(パブロフの実験)	講義	【復習】指定教科書p.2 ・学習の定義を理解する 【復習】指定教科書p.41-55 ・生得性行動との対比から学習性行動の基礎を理解する【復習問題】p.54	60
3.4	古典的条件づけ(2) 条件づけの強化 ・条件刺激と無条件刺激の時間的關係 ・味覚嫌悪学習 古典的条件づけ(3) 条件づけの消去と自然回復	講義	【復習】指定教科書p.6-8 【復習】指定教科書p.56-68 ・古典的条件づけの基本的手続きを理解する。・生活場面での「自然的回復」現象を列挙してみる。	60
5.6	古典的条件づけ(4) 汎化と弁別 ・恐怖の条件づけ ・実験神経症 古典的条件づけ(5) 臨床応用 ・PTSDの機序 まとめ	講義	【復習】指定教科書p.11-13 ・条件づけで強化された不安や恐怖等のネガティブ感情は消去されにくいことを理解する。 【復習問題】p.74-75	60
7.8	オペラント条件づけ(1) 基本原理と典型例(スキナーの実験) オペラント条件づけ(2) オペラント条件づけの型 ・報酬訓練 ・罰訓練 ・逃避訓練と回避訓練	講義	【復習】指定教科書p.43-64 【復習】指定教科書p.149-154 ・オペラント条件づけの基本的手続きを理解する。	60
9.10	オペラント条件づけ(3) 強化スケジュール ・連続強化 ・部分強化 オペラント条件づけ(4) 消去 ・連続強化／部分強化と消去抵抗	講義	【復習】指定教科書p.64-74 ・私たちの生育過程や日常生活も強化スケジュールで条件づけられている場面が多くあることを理解する。	60
11.12	オペラント条件づけ(5) 正・負の強化と弱化 ・日常場面での強化と弱化 オペラント条件づけ(6) オペラント条件づけと動機づけ ・迷信行動 ・罰の功罪 ・学習性無力感	講義	【復習】指定教科書p.74-92 ・教育場面や日常生活場面で使用されている「正の弱化(罰)」の効果について、各自の体験に基づいて考察してみよう。	60
13.14	問題解決 ・方略・試行錯誤学習(ソーンダイクの実験) ・洞察(ケーラーの実験) ・潜在学習(トールマンの実験) ・過去経験の正・負の影響	講義	【復習】指定教科書p.98-118 ・各自の体験から「ひらめき」が思い浮かんだ瞬間を思い起こし、それまでの過去の経験の影響を考えてみよう。【復習問題】p.119	60
15	まとめ 古典的条件づけとオペラント条件づけ 問題解決	講義	【予習】指定教科書p.2-119 国試過去問の関連問題を通して、理解を深める。	60

リハビリテーション学科

【科目名】 学習・言語心理学Ⅱ		【担当教員】 宮岡 里美
【授業区分】 専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】 2-14-0070-3	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15 コマ	(オフィスアワー) 授業終了後 ※随時メールにて対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ※本科目は実務経験を有する教員による授業です。大学での学習・言語心理学教育に関する実務経験、及び保健・医療・福祉機関での臨床経験(言語・高次脳機能障害及び摂食嚥下障害へのリハビリテーション)から、人の言語及び行動の基本的な仕組みとその障害への適切な対応について講義していきます。人は置かれた環境によりよく適応して生きていけるよう、経験に基づいて柔軟に学習していく能力を備えていることを講じていきます。 ※本科目は、心理学専攻の必修科目であり、公認心理師国家試験受験資格を取得するための指定科目です。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。 欠席した場合には、後日担当教員に申し出て、資料を受け取り、必ず参照して下さい。 授業中に実施した心理テスト等のデータは、原則提出を求めません。 生成系 AI の利用を全面的に許可します。授業内、予復習、成果物(レポート等含む)作成において自由に利用して下さい。 。使用した場合には、生成AI の出力を引用した箇所や生成 AIサービスの名称、バージョンを明記して下さい。		
【講義概要】 (目的) ①経験に基づく行動の変化、及び②言語習得の機序を学びます。ヒトは、誕生から死に至るまでさまざまな行動を学習し、臨機応変に変化させていきます。本講義を通して、学習心理学の基本的理論と知見について学び、学習理論を心の支援に応用する考え方を理解していきます。また、ヒトは言語で他者とのコミュニケーションを交わしています。この言語習得のメカニズムを脳科学の観点からも学び、言語障害に対する適切な支援法を実践できることを目的とします。 当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-2, 0-1, R-1 (方法) Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。 毎回、講義スライドのPDF資料は配布し、関連する参考文献を紹介します。 欠席した場合には、後日担当教員に申し出て資料を受け取り、必ず参照して下さい。 課題レポートや理解度確認テストは、回収後に解答の解説を行います。		
【一般教育目標(GI0)】 学習の基本原理を学び、動物及び人間の行動の基盤には学習のメカニズムが機能していることを理解する。 言語習得の基本プロセスと言語の機能(役割)を理解する。 学習の障害、言語障害の機序を学び、適切な支援ができる。		
【行動目標(SB0)】 人間の行動は変化するものであることを説明できる。 人間の行動は、ある程度は予測し、コントロールすることも可能であることを説明できる。 学習の原理を日常生活場面や将来の臨床場面で応用していくことができる。 学習・言語障害に対して適切な支援ができる。		
【教科書・リザーブブック】 学習・言語心理学(ライブラリ心理学の杜7)/ 木山幸子・大沼卓也 他(著)/ サイエンス社(2022/10)/ ¥3,135(税込)		
【参考書】 学習の心理 第2版(コンパクト新心理学ライブラリ2)/ 実森正子・中島定彦(著)/ サイエンス社(2019)/ ¥2,530(税込) 学習と言語の心理学/ 中島定彦(著)/ 昭和堂(2020)/ ¥2,750(税込) メイザーの学習と行動/ ジェームズ E メイザー(著)/ 二瓶社(2008)/ ¥4,400(税込)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。 ・定期試験を実施する。 ・出席点は評価に含まれない。 ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ※障害への配慮が必要な学生は教員と事前に相談することを推奨します。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70				30			100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20				10			30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10				20			30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	技能学習(1) ・学習曲線 ・技能と脳 技能学習(2) ・結果の知識 ・条件：全習法/分習法、集中練習/分散練習	講義 一部演習	【復習】指定教科書p.121-133 感覚系と運動系の協応からなる技能(例：スマホやPCの操作, 自転車や自動車の運転, 楽器演奏, スポーツ)の学習は日常生活に必須であることを理解する	60
3.4	技能学習(3) ・技能の記憶 ・レミニセンス ・転移 技能学習(4) ・効果的な学習法(構え) ・熟達と脳	講義	【復習】指定教科書p.134-143 技能の学習は類似した技能の習得にもなっている, ある筋肉系の学習が他の筋肉系の学習を促進する現象を理解する。【復習問題】指定教科書p.143	60
5.6	社会的学習(1) ・定義 ・観察学習 ・模倣学習 社会的学習(2) ・社会的学習理論から考察する攻撃行動/いじめ・虐待行動	講義 一部演習	【復習】指定教科書p.145-159 学習は, 自分自身の体験からのみではなく, 他者の体験を見たり聞いたりするだけで自身も学習することができることを理解する。	60
7.8	社会的学習(3) ・社会的学習理論のポジティブな側面とネガティブな側面 社会的学習(4) ・観察学習による効果的な動機づけ・自己効力感	講義	【復習】指定教科書p.160-164 バンデューラの社会的学習理論に基づくセルフ・エフィカシーの概念を理解する。 【復習問題】指定教科書p.165	60
9.10	言語学習(1) 言語の機能(役割) 言語の獲得 ・母語の音韻獲得 ・N. Chomskyの言語理論 言語学習(2) ・言語と概念形成 ・母語と外国語の獲得	講義	【復習】指定教科書p.167-205 子どもの音声言語の発達過程(母語の音韻獲得)を理解する。言語獲得の「臨界期仮説」については、その科学的根拠を各自で調べる。	60
11.12	言語学習(3) 言語と思考 ・内言/外言・J. PiagetとL. S. Vygotskyの論争 言語学習(4) 言語と脳 ・Broca野 ・Wernicke野	講義	【復習】指定教科書p.207-226 言語が思考に果たす役割を理解するとともにその障害への適切な支援法を考案する。言語及び思考という高次脳機能を脳科学の観点からも理解する。	60
13.14	言語学習(5) 言語・コミュニケーションの障害 ・談話・会話の管理能力 ・失語症 ・失読失書 ・神経発達症群 言語学習(6) 言語・コミュニケーション障害への支援	講義	【復習】指定教科書p.272-294 言語及びコミュニケーション障害の多様性への理解を深め, 適切な支援法を考案する。 【復習問題】 p.294-295	60
15	まとめ	講義	【予習】指定教科書p.167-295 国試過去問の関連問題を通して, 理解を深める。	60

【科目名】作業療法研究法		【担当教員】森本 千恵
【授業区分】専門分野(基礎作業療法学)	【授業コード】4-21-0035-1	(メールアドレス)
【開講時期】通年(前期)	【選択必修】必修	c.morimoto@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】30	(オフィスアワー) 講義後1時間程度。
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・特に統計学について復習しておくこと。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・主体的かつ自律的に学習に取り組む。 ・生成AIの利活用は認めない。 ・試験結果等は、必要に応じて適宜、文書あるいは口頭でフィードバックする。		
【講義概要】 (目的) ・作業療法研究に関する基本的知識を学修する。 ・研究計画を作成し、発表できるようになる。 当該科目と学位授与方針等との関連性：:A-3,0-3 (方法) ・教科書（参考資料）や配布資料などによって、研究に関する知識を修得する。 ・ゼミ活動を通して、研究計画の立案および発表を実施する。		
【一般教育目標(GI0)】 ・作業療法や関連する分野における課題を科学的に検討する知識と技術を獲得するために、研究を実施するために必要な知識と技術を習得する 【行動目標(SB0)】 ・研究に関する基本的知識について説明できる。 ・研究論文について、科学的・批判的に読み、内容を発表することができる。 ・研究計画を立案し、発表することができる。		
【教科書・リザーブドブック】 鎌倉矩子、宮前珠子、清水 一．作業療法士のための研究法入門．三輪書店，2006．		
【参考書】 適宜紹介する。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・3分の2以上の出席を満たした受講者に対して成績評価を行う。 ・小テスト、課題、発表内容、発表態度により総合的に判断する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			50		50				100
評価指標	取り込む力・知識		30		10				40
	思考・推論・創造の力				20				20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢		20		10				30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	・オリエンテーション ・研究の意義と目的 ・研究テーマの検討	オンデマンド講義／演習		
3・4	・多次元の研究とさまざまな研究デザイン ・研究テーマの検討	オンデマンド講義／演習		60
5・6	・文献抄読の方法 ・研究テーマの検討	オンデマンド講義／演習		60
7・8	・文献抄読 ・発表の準備	講義・演習		60～120
9・10	・文献抄読 ・発表の準備	演習		60～120
11・12	・文献抄読 ・発表の準備	演習		60～120
13・14	・文献の紹介	演習		120
15	・文献の紹介	演習		120

[illegible]

【科目名】作業療法研究法		【担当教員】森本 千恵
【授業区分】専門分野(基礎作業療法学)	【授業コード】4-21-0035-1	(メールアドレス)
【開講時期】通年(後期)	【選択必修】必修	c.morimoto@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】30	(オフィスアワー) 講義後1時間程度。
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・特に統計学について復習しておくこと。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) ・主体的かつ自律的に学習に取り組む。 ・生成AIの利活用は認めない。 ・試験結果等は、必要に応じて適宜、文書あるいは口頭でフィードバックする。		
【講義概要】 (目的) ・作業療法研究に関する基本的知識を学修する。 ・研究計画を作成し、発表できるようになる。 当該科目と学位授与方針等との関連性：:A-3,0-3 (方法) ・教科書（参考資料）や配布資料などによって、研究に関する知識を修得する。 ・ゼミ活動を通して、研究計画の立案および発表を実施する。		
【一般教育目標(GI0)】 ・作業療法や関連する分野における課題を科学的に検討する知識と技術を獲得するために、研究を実施するために必要な知識と技術を習得する 【行動目標(SB0)】 ・研究に関する基本的知識について説明できる。 ・研究論文について、科学的・批判的に読み、内容を発表することができる。 ・研究計画を立案し、発表することができる。、		
【教科書・リザーブドブック】 鎌倉矩子、宮前珠子、清水 一．作業療法士のための研究法入門．三輪書店，2006．		
【参考書】 適宜紹介する。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・3分の2以上の出席を満たした受講者に対して成績評価を行う。 ・小テスト、課題、発表内容、発表態度により総合的に判断する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			50		50				100
評価指標	取り込む力・知識		30		10				40
	思考・推論・創造の力				20				20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢		20		10				30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	・オリエンテーション ・研究の意義と目的 ・研究テーマの検討	オンデマンド講義／演習		
3・4	・多次元の研究とさまざまな研究デザイン ・研究テーマの検討	オンデマンド講義／演習		60
5・6	・文献抄読の方法 ・研究テーマの検討	オンデマンド講義／演習		60
7・8	・文献抄読 ・発表の準備	講義・演習		60～120
9・10	・文献抄読 ・発表の準備	演習		60～120
11・12	・文献抄読 ・発表の準備	演習		60～120
13・14	・文献の紹介	演習		120
15	・文献の紹介	演習		120

[illegible]

【科目名】作業療法画像評価学		【担当教員】森本 千恵
【授業区分】専門分野(作業療法評価学)	【授業コード】4-23-0030-1	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	c.morimoto@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 講義後1時間程度。
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 解剖学（特に中枢神経系）についてよく復習しておくこと。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・講義内容に関連する事項については、各自で学習することが必要である。 ・わからないことがあれば、必ず質問すること。わからないことをそのままにして進まないようにすること。 ・特別な事情を除いて、授業開始後20分以上の入室は遅刻とみなす。 ・この科目は実務経験者対応科目である。 ・生成AIの講義内の利用は禁止する。		
【講義概要】 (目的) 作業療法の対象として代表的な中枢神経障害（特に脳血管障害）患者に対するより具体的なアプローチ構築のために、CT・MRI等の画像の評価を学修することを目的とする。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,2 ・当該科目と学位授与方針等との関連性：0-1,3 (方法) ・教科書や資料を用いて、講義を行う。 ・実際の医用画像を使いながら評価の実技を交えた演習を行う。 ・試験結果は、必要に応じて適宜、文書あるいは口頭でフィードバックする。		
【一般教育目標(GI0)】 ・作業療法実践に関わる技術を習得するために、医用画像評価に必要な知識と技術を学修する。 【行動目標(SB0)】 ・医用画像を評価し、症状と病態の予測を行うことができる。		
【教科書・リザーブドブック】 監修・著酒井安治郎/編著小宮桂治/著高村浩司，演習で学ぶ脳画像読影からリハ介入まで，医歯薬出版株式会社		
【参考書】 ・適宜紹介する。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・3分の2以上の出席を満たした受講者に対して成績評価を行う。 ・受講態度、小テスト、期末試験により総合的に判断する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70	20					10	100
評価指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	30							30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	・コースイントロダクション ・画像評価と作業療法	講義		
3・4	・画像評価に関する基礎知識(1)	講義	・予習：講義に関する内容について教科書・資料を確認する。 ・復習：講義内容を振り返るとともに、関連事項について調べる	60～120
5・6	・解剖学（復習） ・脳画像を用いた解剖学的部位の同定（1）	講義・演習	・予習：講義に関する内容について教科書・資料を確認する。 ・復習：講義内容を振り返るとともに、関連事項について調べる	60～120
7・8	・解剖学（復習） ・脳画像を用いた解剖学的部位の同定（2）	講義・演習	・予習：講義に関する内容について教科書・資料を確認する。 ・復習：講義内容を振り返るとともに、関連事項について調べる	60～120
9・10	・中枢神経障害の医用画像評価（1）	講義・演習	・予習：講義に関する内容について教科書・資料を確認する。 ・復習：講義内容を振り返るとともに、関連事項について調べる	60～120
11・12	・中枢神経障害の医用画像評価（2）	講義・演習	・予習：講義に関する内容について教科書・資料を確認する。 ・復習：講義内容を振り返るとともに、関連事項について調べる	60～120
13・14	・中枢神経障害の医用画像評価（3）	講義・演習	・予習：講義に関する内容について教科書・資料を確認する。 ・復習：講義内容を振り返るとともに、関連事項について調べる	60～120
15	まとめ			

【科目名】 中枢神経疾患作業療法学		【担当教員】 丁子 雄希
【授業区分】 専門分野(作業療法治療学)	【授業コード】 4-24-0000-1	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	tyouji@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 30	(オフィスアワー) メール問い合わせにて随時対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 障がい等の理由により合理的な配慮が必要な場合は事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 脳卒中をはじめとした中枢神経障害の知識について整理しておくこと。 フィードバック方法：レポートは他に支障のない限り返却します。 生成AIの使用は禁止します。 授業はオンデマンド配信とアクティブラーニングから構成されます。		
【講義概要】 (目的) 中枢神経疾患（脳梗塞、脳出血など）に対する作業療法の評価やアプローチ方法を習得する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-3 当該科目と学位授与方針等との関連性：0-3 (方法) 教科書と配布資料などに沿って講義・演習を行う。		
【一般教育目標(GI0)】 ・ 中枢疾患の臨床像とその生活機能障害について理解する。 ・ 中枢疾患に対する作業療法評価から治療に至る過程を理解する。 【行動目標(SB0)】 ・ 中枢疾患の臨床像とその生活機能障害について説明できる。 ・ 中枢疾患の作業療法について、その目的と治療、指導、援助内容が説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 ・ 竹林崇．上肢機能障害の作業療法．文光堂．2018．		
【参考書】 ・ 道免和久，竹林崇．行動変容を導く 上肢機能回復アプローチ．医学書院．2017． ・ 竹林崇．作業で紡ぐ上肢機能アプローチ．医学書院，2021．		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・ 成績評価基準は本学学則規定のGAP制度に従う。 ・ 評定は多肢選択式による期末試験と授業中の課題によって行う。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70						30	100
評価指標	取り込む力・知識	40						10	50
	思考・推論・創造の力	20						10	30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10						10	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1、2	- 中枢神経疾患に対する作業療法総論 - 脳卒中事例に対する評価と治療①	講義、演習	予習：次回単元の教科書・資料を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	30
3、4	- ボトムアップアプローチ - トップダウンアプローチ - 脳卒中事例に対する評価と治療②	講義、演習	予習：次回単元の教科書・資料を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	30
5、6	- ファシリテーションテクニック - 関節運動学に基づく徒手療法 - 脳卒中事例に対する評価と治療③	講義、演習	予習：次回単元の教科書・資料を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	30
7、8	- 筋骨格系と運動機能障害の診方・考え方 - TMS治療, Neuro, ボツリヌス治療 - 脳卒中事例に対する評価と治療④	講義、演習	予習：次回単元の教科書・資料を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	30
9、10	- CI療法 - 川平法 - 脳卒中事例に対する評価と治療⑤	講義、演習	予習：次回単元の教科書・資料を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	30
11、12	- メンタルプラクティス - ロボット療法 - 脳卒中事例に対する評価と治療⑥	講義、演習	予習：次回単元の教科書・資料を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	30
13、14	- 回復期における作業療法 - 脳卒中事例に対する評価と治療⑦	講義、演習	予習：次回単元の教科書・資料を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	30
15、16	- 脳卒中と生活動作 - 脳卒中事例に対する評価と治療⑧	講義、演習	予習：次回単元の教科書・資料を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	30

17、18	• Bruunstromstage • 評価とアプローチ • 脳卒中事例に対する評価と治療⑨	講義、演習	予習：次回単元の教科書・資料を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	30
19、20	• SIAS • 疾患の概要、評価、アプローチ • 脳卒中事例に対する評価と治療⑩	講義、演習	予習：次回単元の教科書・資料を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	30
21、22	• FMA • 疾患の概要、評価、アプローチ • 脳卒中事例に対する評価と治療⑪	講義、演習	予習：次回単元の教科書・資料を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	30
23、24	• 脳卒中に対する作業療法（模擬事例①） • 疾患の概要、評価、アプローチ • 脳卒中事例に対する評価と治療⑫	講義、演習	予習：次回単元の教科書・資料を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	30
25、26	• 脳卒中に対する作業療法（模擬事例②） • 疾患の概要、評価、アプローチ • 脳卒中事例に対する評価と治療⑬	講義、演習	予習：次回単元の教科書・資料を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	30
27、28	• 脳卒中に対する作業療法（模擬事例③） • 疾患の概要、評価、アプローチ • 脳卒中事例に対する評価と治療⑭	講義、演習	予習：次回単元の教科書・資料を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	30
29、30	• 脳卒中に対する作業療法（模擬事例④） • 疾患の概要、評価、アプローチ • 脳卒中事例に対する評価と治療⑮	講義、演習	予習：次回単元の教科書・資料を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	30

【科目名】 中枢神経疾患作業療法学演習		【担当教員】 知名 規人
【授業区分】 専門分野(作業療法治療学)	【授業コード】 4-24-0040-1	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	china@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 30	(オフィスアワー) 火曜日13:30-15:00
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目は、グループ演習を中心とした双方向型授業（アクティブラーニング）の科目です。 臨床実習を想定した科目となりますので、実習生としての心構えを持って講義に臨んでください。 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。臨床現場においてさまざまな疾患を有する対象者を支援してきた経験から、身体障がい領域における臨床実践を想定した作業療法評価立案および支援立案について講じていきます。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
【受講のルールに関わる情報・予備知識】 ・各自、教科書などの教材を利用し、解剖学・生理学・神経内科学などの再学習を事前に行ってください。 ・グループ発表に向けて、協働する姿勢で臨んでください。 ・生成系AIの利用は、発表用資料を作成するうえで参考にする場合のみ利用を許可しています。ただし、その出力結果をそのまま使用することは禁止します。オリジナルの考えやアイデアを必ず組み合わせてください。		
【講義概要】 (目的) 中枢神経疾患を呈する方に対する効率的な評価および効果的な支援について、理解を深める。 （当該科目と学位授与方針等との関連性；0-1,0-2,0-3） (方法) 小グループによる課題基盤型学習（Problem Based Learning; PBL）を実施します。 グループ演習を通して効率的な評価および効果的な支援について理解を深めます。		
【一般教育目標(GIO)】 中枢神経疾患を呈する対象者を担当した際に、効率的な評価および効果的な支援を立案することができる。		
【行動目標(SBO)】 対象者にとって必要となる作業療法評価について、立案する理由と目的について説明することができる。 各評価結果に基づいて、生活機能障害と関連付けて述べるすることができる。 対象者にとって必要となる作業療法支援について、立案する理由と目的について説明することができる。		
【教科書・リザーブドブック】 作業療法マニュアル75 生活行為向上マネジメント 改訂第4版, 日本作業療法士協会, 2022年。 竹林崇：上肢運動障害の作業療法, 文光堂, 2018年。		
【参考書】 中枢神経疾患作業療法学で使用した資料等		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・学内試験規定に基づく授業態度、成果発表、レポート、ポートフォリオにより総合的に評価する。 ・出席点は評価に含まない。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				25	50		25		100
評価指標	取り込む力・知識			10	10		10		30
	思考・推論・創造の力			10	10		10		30
	コラボレーションとリーダーシップ				10				10
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢			5	10		5		20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1,2	オリエンテーション 急性期の作業療法（評価）	演習（PBL）	事例を読み，対象者に必要な評価を立案すること．また，発表用資料およびポートフォリオの作成を行うこと．	60
3,4	急性期の作業療法（評価）	演習（PBL）	発表用資料およびポートフォリオの作成を行うこと．	60
5,6	急性期の作業療法（評価）グループ発表 急性期の作業療法（支援）	演習（PBL）	他グループ発表を聞き，参考になる点を整理しておくこと． 事例を読み，対象者に必要な支援を立案すること．	60
7,8	急性期の作業療法（支援）	演習（PBL）	事例を読み，対象者に必要な支援を立案すること．また，発表用資料およびポートフォリオの作成を行うこと．	60
9,10	急性期の作業療法（支援）グループ発表	演習（PBL）	発表用資料およびポートフォリオの作成を行うこと． 他グループ発表を聞き，参考になる点を整理しておくこと．	60
11,12	回復期の作業療法（評価）	演習（PBL）	事例を読み，対象者に必要な評価を立案すること．また，発表用資料およびポートフォリオの作成を行うこと．	60
13,14	回復期の作業療法（評価）	演習（PBL）	発表用資料およびポートフォリオの作成を行うこと．	60
15,16	回復期の作業療法（評価）グループ発表 回復期の作業療法（支援）	演習（PBL）	他グループ発表を聞き，参考になる点を整理しておくこと． 事例を読み，対象者に必要な支援を立案すること．	60

17,18	回復期の作業療法（支援）	演習（PBL）	事例を読み，対象者に必要な支援を立案すること．また，発表用資料およびポートフォリオの作成を行うこと．	60
19,20	回復期の作業療法（支援）グループ発表	演習（PBL）	発表用資料およびポートフォリオの作成を行うこと． 他グループ発表を聞き，参考になる点を整理しておくこと．	60
21,22	生活期の作業療法（評価）	演習（PBL）	事例を読み，対象者に必要な評価を立案すること．また，発表用資料およびポートフォリオの作成を行うこと．	60
23,24	生活期の作業療法（評価）	演習（PBL）	発表用資料およびポートフォリオの作成を行うこと．	60
25,26	生活期の作業療法（評価）グループ発表 生活期の作業療法（支援）	演習（PBL）	他グループ発表を聞き，参考になる点を整理しておくこと． 事例を読み，対象者に必要な支援を立案すること．	60
27,28	生活期の作業療法（支援）	演習（PBL）	発表用資料およびポートフォリオの作成を行うこと．	60
29,30	生活期の作業療法（支援）グループ発表	演習（PBL）	発表用資料およびポートフォリオの作成を行うこと． 他グループ発表を聞き，参考になる点を整理しておくこと．	60

【科目名】 運動器疾患作業療法学		【担当教員】 丁子 雄希
【授業区分】 専門分野(作業療法治療学)	【授業コード】 4-24-0000-1	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	tyouji@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 30	(オフィスアワー) メール問い合わせにて随時対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 障がい等の理由により合理的な配慮が必要な場合は事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 生理学、解剖学、運動学、臨床医学、整形外科学の知識を整理しておくこと。 フィードバック方法：レポートは他に支障のない限り返却します。 生成AIの使用は禁止します。 授業はオンデマンド配信とアクティブラーニングから構成されます。		
【講義概要】 (目的) 整形外科領域の疾患（骨折、変形性関節症、腱損傷、末梢神経損傷など）に対する作業療法の評価やアプローチ方法を習得する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-3 当該科目と学位授与方針等との関連性：0-3 (方法) 教科書と配布資料などに沿って講義・演習を行う。		
【一般教育目標(GI0)】 ・運動器疾患の臨床像とその生活機能障害について理解する。 ・運動器疾患に対する作業療法評価から治療に至る過程を理解する。 【行動目標(SB0)】 ・各種運動器疾患の臨床像とその生活機能障害について説明できる。 ・運動器疾患の作業療法について、その目的と治療、指導、援助内容が説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 ・山口昇・玉垣努・編『身体機能作業療法学』第4版 標準作業療法学 医学書院、2021。		
【参考書】 ・中田真由美・大山峰生・著：作業療法士のためのハンドセラピー入門、三輪書店、2006。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定のGAP制度に従う。 ・評価はポートフォリオと授業中の課題によって総合的に評価する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合							70	30	100
評価指標	取り込む力・知識						40	10	50
	思考・推論・創造の力						20	10	30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢						10	10	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1、2	運動器疾患に対する作業療法総論	講義、演習	予習：次回単元の教科書・資料を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	30
3、4	- 手の機能と役割 - 解剖学と運動学の整理	講義、演習	予習：次回単元の教科書・資料を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	30
5、6	- コーレス骨折に対する作業療法 - 疾患の概要、評価、アプローチ	講義、演習	予習：次回単元の教科書・資料を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	30
7、8	- 手根症候群に対する作業療法 - 疾患の概要、評価、アプローチ	講義、演習	予習：次回単元の教科書・資料を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	30
9、10	- 末梢神経損傷に対する作業療法 - 疾患の概要、評価、アプローチ	講義、演習	予習：次回単元の教科書・資料を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	30
11、12	- 腱断裂に対する作業療法 - 疾患の概要、評価、アプローチ	講義、演習	予習：次回単元の教科書・資料を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	30
13、14	- 肘頭骨折に対する作業療法 - 疾患の概要、評価、アプローチ	講義、演習	予習：次回単元の教科書・資料を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	30
15、16	- 熱傷に対する作業療法 - 疾患の概要、評価、アプローチ	講義、演習	予習：次回単元の教科書・資料を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	30

17、18	・ 腰椎圧迫骨折骨折に対する作業療法 ・ 疾患の概要、評価、アプローチ	講義、演習	予習：次回単元の教科書・資料を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	30
19、20	・ 腰部脊柱管狭窄症に対する作業療法 ・ 疾患の概要、評価、アプローチ	講義、演習	予習：次回単元の教科書・資料を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	30
21、22	・ 大腿骨骨折、変形性関節症に対する作業療法 ・ 疾患の概要、評価、アプローチ	講義、演習	予習：次回単元の教科書・資料を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	30
23、24	・ 関節リウマチに対する作業療法 ・ 疾患の概要、評価、アプローチ	講義、演習	予習：次回単元の教科書・資料を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	30
25、26	・ 拘縮に対する作業療法 ・ 原因、評価、アプローチ方法	講義、演習	予習：次回単元の教科書・資料を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	30
27、28	・ 模擬事例を通した介入の流れ① ・ 情報収集、初期評価、プログラムの立案	講義、演習	予習：次回単元の教科書・資料を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	30
29、30	・ 模擬事例を通した介入の流れ② ・ 情報収集、初期評価、プログラムの立案	講義、演習	予習：次回単元の教科書・資料を読んでおく。 復習：本講義のまとめをする。	30

【科目名】作業療法学内実習Ⅱ		【担当教員】知名 規人
【授業区分】専門分野(作業療法治療学)	【授業コード】4-24-0055-1	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	china@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】30	(オフィスアワー) 月曜日16～17時
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目は、実技演習を中心とした双方向型授業（アクティブラーニング）の科目です。 臨床実習を想定した科目となりますので、実習生としての心構えを持って講義に臨んでください。 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。臨床現場においてさまざまな疾患を有する対象者を支援してきた経験から、身体障がい領域における臨床実践を想定した作業療法評価について講じていきます。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
（受講のルールに関わる情報・予備知識） ・各自、教科書やDVDなどの教材を利用し、事前学習および復習を行ってください。 ・本科目を受講の際は、必ず本学指定の実習着（ケーシーおよび靴）を着用し、装飾品（ピアス、ネックレス等）は外してください。（肌着および靴下は原則白色、カーディガンは黒または紺とします。アンクレットソックスは認めません。） ・試験後のフィードバックは当該教員に予定を聞き、各自で確認してください。 ・生成系AIの利用は、一部の場面を除き許可しています（確認テストや期末試験、再試験での場面は禁止）。		
【講義概要】 （目的） 臨床で必要とされる基本的な作業療法評価に関する知識の理解を深め、技能を修得する。 （当該科目と学位授与方針等との関連性：0-1,0-2,0-3） （方法） 教科書や配布資料、デモンストレーション、視覚的教材（画像、動画）を使用して講義を行います。 学修形態は双方向型授業（アクティブラーニング）とし、それぞれのグループに分かれ、演習を通して技能を修得します。 当該講義の内容理解の確認は、適宜、講義の前または後に確認テストを行います。また、臨床技能の修得状況の確認は客観的臨床能力試験（OSCE）を行います。		
【一般教育目標(GIO)】 臨床実習（評価実習）において、作業療法場面で必要となる評価の原則や理論について理解し、実践することができる。		
【行動目標(SBO)】 ・作業療法評価の目的や意義について説明することができ、臨床に即した手順や方法で安全かつ正確な方法で実施することができる。 ・各種評価の結果を、生活機能障害と関連付けて理解し、述べることができる。 ・グループで協力して学習を進めることができる。 ・グループ演習を通して自己課題について客観的に振り返ることができ、評価技能を高めることができる。		
【教科書・リザーブドブック】 才藤栄一監修「PT・OTのためのOSCEコミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版」金原出版株式会社、2020年。 才藤栄一監修「PT・OTのためのOSCE機能障害・能力低下への介入編 第2版」金原出版株式会社、2022年。		
【参考書】 身体機能作業療法評価学（実習）や作業療法学内実習Ⅰで使用した教科書・配布資料等		
【評価に関わる情報】 （評価の基準・方法） ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・学内試験規定に基づく授業態度、確認テスト、OSCE、筆記試験の結果を総合的に評価する。 ・出席点は評価に含まない。 ・試験：客観的臨床能力試験（OSCE）、筆記試験。確認テスト：講義前または後の小テスト。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		20	10			70			100
評価指標	取り込む力・知識	10	5			25			40
	思考・推論・創造の力	5				25			30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力					10			10
	学修に取り組む姿勢	5	5			10			20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-4	オリエンテーション 脳神経検査	講義 演習	脳神経における解剖学的知識を事前学習しておくこと（小テストあり） ・ 脳神経検査が安全かつ正確に実施できるよう復習しておくこと。	60
5-8	協調性検査 上肢機能検査	講義 演習	協調性の種類，上肢機能について事前学習しておくこと。 協調性検査，上肢機能検査が安全かつ正確に実施できるよう復習しておくこと。	60
9-12	脳卒中片麻痺機能検査	講義 演習	脳卒中の発生機序および症状について事前学習しておくこと。 脳卒中片麻痺機能検査が安全かつ正確に実施できるよう復習しておくこと。	60
13-16	脳卒中片麻痺機能検査	講義 演習	脳卒中片麻痺機能検査が安全かつ正確に実施できるよう復習しておくこと。	60
17-20	事例検討 OSCE前練習	演習	模擬患者にとって必要と想定される評価を事前に考えておくこと。 OSCE実施時，模擬患者にとって必要と想定される評価を安全に実施できるよう準備しておくこと。	60
21-24	OSCE	演習	OSCE実施時，模擬患者にとって必要と想定される評価を安全に実施できるよう準備しておくこと。 OSCE実施後，客観的に自身の技能を振り返ること。	60
25-28	振り返り	演習	多角的なフィードバック（グループ，教員）を通して，臨床実習（評価実習）までに課題解決するための方法を立案すること。	60
29,30	まとめ	講義 演習	これまでに得た知識，技能を客観的に振り返り，整理しておくこと。	60

【科目名】作業療法学内実習Ⅲ		【担当教員】知名 規人
【授業区分】専門分野(作業療法治療学)	【授業コード】4-24-0055-1	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】必修	china@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】30	(オフィスアワー) 火曜日13:30-15:00
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目は、実技演習を中心とした双方向型授業（アクティブラーニング）の科目です。 臨床実習を想定した科目となりますので、実習生としての心構えを持って講義に臨んでください。 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。臨床現場においてさまざまな疾患を有する対象者を支援してきた経験から、身体障がい領域における臨床実践を想定した作業療法支援について講じていきます。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・各自、教科書やDVDなどの教材を利用し、事前学習および復習を行ってください。 ・本科目を受講の際は、必ず本学指定の実習着（ケーシーおよび靴）を着用し、装飾品（ピアス、ネックレス等）は外してください。（肌着および靴下は原則白色、カーディガンは黒または紺とします。アンクレットソックスは認めません。） ・試験後のフィードバックは当該教員に予定を聞き、各自で確認してください。 ・生成系AIの利用は、一部の場面を除き許可しています（確認テストや期末試験、再試験での場面は禁止）。		
【講義概要】 (目的) 臨床で必要とされる基本的な作業療法支援に関する知識の理解を深め、技能を修得する。 （当該科目と学位授与方針等との関連性：0-1,0-2,0-3） (方法) 教科書や配布資料、デモンストレーション、視覚的教材（画像、動画）を使用して講義を行います。 学修形態は双方向型授業（アクティブラーニング）とし、それぞれのグループに分かれ、演習を通して技能を修得します。 当該講義の内容理解の確認は、適宜、講義の前または後に確認テストを行います。また、臨床技能の修得状況の確認は客観的臨床能力試験（OSCE）を行います。		
【一般教育目標(GI0)】 臨床実習において、作業療法場面で必要となる支援の原則や理論について理解し、実践することができる。		
【行動目標(SB0)】 ・作業療法支援の目的や意義について説明することができ、臨床に即した手順や方法で安全かつ正確な方法で実施することができる。 ・各種評価の結果を、生活機能障害と関連付けて理解し、適切な支援方法を選択することができる。 ・グループで協力して学習を進めることができる。 ・グループ演習を通して自己課題について客観的に振り返ることができ、評価技能を高めることができる。		
【教科書・リザーブドブック】 才藤栄一監修「PT・OTのためのOSCEコミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版」金原出版株式会社、2020年。 才藤栄一監修「PT・OTのためのOSCE機能障害・能力低下への介入編 第2版」金原出版株式会社、2022年。		
【参考書】 身体機能作業療法評価学（実習）や作業療法学内実習Ⅰ・Ⅱで使用した教科書・配布資料等		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・学内試験規定に基づく授業態度、確認テスト、OSCE、筆記試験の結果を総合的に評価する。 ・出席点は評価に含まない。 ・試験：客観的臨床能力試験（OSCE）、筆記試験。確認テスト：講義前または後の小テスト。 ・試験結果について、必要に応じて解説を行います。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		20	10			70			100
評価指標	取り込む力・知識	10	5			25			40
	思考・推論・創造の力	5				25			30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力					10			10
	学修に取り組む姿勢	5	5			10			20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-4	オリエンテーション 関節可動域運動	講義 演習	関節可動域運動における基本的知識を事前学習しておくこと(小テストあり)。 関節可動域運動が安全かつ正確に実施できるよう復習しておくこと。	60
5-8	筋力増強運動	講義 演習	筋力増強運動が安全かつ正確に実施できるよう復習しておくこと。	60
9-12	神経・筋再教育	講義 演習	神経・筋再教育が安全かつ正確に実施できるよう復習しておくこと。	60
13-16	基本動作～更衣動作～移乗動作介入	講義 演習	各種介入が安全かつ正確に実施できるよう復習しておくこと。	60
17-20	車椅子駆動、歩行介入	演習	各種介入が安全かつ正確に実施できるよう復習しておくこと。	60
21-24	OSCE前練習	演習	模擬患者にとって必要と想定される評価を事前に考えておくこと。 OSCE実施時、模擬患者にとって必要と想定される評価を安全に実施できるよう準備しておくこと。	60
25-28	OSCE	演習	OSCE実施時、模擬患者にとって必要と想定される評価を安全に実施できるよう準備しておくこと。 OSCE実施後、客観的に自身の技能を振り返ること。	60
29,30	まとめ	講義 演習	これまでに得た知識、技能を客観的に振り返り、整理しておくこと。	60

【科目名】精神疾患作業療法学Ⅰ		【担当教員】森本 千恵
【授業区分】専門分野(作業療法治療学)	【授業コード】4-24-0065-1	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	c.morimoto@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 講義後1時間程度。
【注意事項】		
(受講者に関わる情報・履修条件)		
・2年生までに学習した精神障害に関わる内容を復習すること。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識)		
・講義内容に関連する事項については、各自で学習することが必要である。 ・わからないことがあれば、必ず質問すること。わからないことをそのままにして進まないようにすること。 ・特別な事情を除いて、授業開始後20分以上の入室は遅刻とみなす。 ・この科目は実務経験者対応科目である。 ・生成AIの講義内の利用は禁止する。		
【講義概要】		
(目的)		
精神障害を引き起こすさまざまな疾患について、それぞれの疾患特性と臨床像について理解を深め、説明できる。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2,3,0-1		
(方法)		
・主にスライドとプリント・教科書を使用して講義を実施する。 ・試験結果は、必要に応じて適宜、文書あるいは口頭でフィードバックする。		
【一般教育目標(GI0)】		
・精神障害を引き起こすさまざまな疾患について知識を獲得するために、それぞれの疾患の特性と臨床像について理解する。		
【行動目標(SB0)】		
・精神障害を引き起こすさまざまな疾患について、それらの疾患特性と臨床像について説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】		
編集上野武治．標準理学療法学・作業療法学精神医学第4版増補版．医学書院，2022．		
【参考書】		
・随時紹介する。		
【評価に関わる情報】		
(評価の基準・方法)		
・3分の2以上の出席を満たした受講者に対して成績評価を行う。 ・受講態度、期末試験により総合的に判断する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80						20	100
評価指標	取り込む力・知識	50						10	60
	思考・推論・創造の力	30							30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習・教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	・コースイントロダクション ・精神障害とは	講義		
3・4	・統合失調症 ・作業療法からみる統合失調症	講義	予習：該当部分について、教科書を使用して予習する。 復習：授業内容を振り返るとともに、関連事項について調べる	60～120
5・6	・気分（感情）障害 ・作業療法からみる気分（感情）障害	講義	予習：該当部分について、教科書を使用して予習する。 復習：授業内容を振り返るとともに、関連事項について調べる	60～120
7・8	・神経症性精神障害、パーソナリティ障害 ・作業療法からみる神経症性精神障害/パーソナリティ障害	講義	予習：該当部分について、教科書を使用して予習する。 復習：授業内容を振り返るとともに、関連事項について調べる	60～120
9・10	・器質性精神障害、老年期精神障害 ・作業療法からみる器質性精神障害、老年期精神障害	講義	予習：該当部分について、教科書を使用して予習する。 復習：授業内容を振り返るとともに、関連事項について調べる	60～120
11・12	・児童・思春期精神障害 ・作業療法からみる児童・思春期精神障害	講義	予習：該当部分について、教科書を使用して予習する。 復習：授業内容を振り返るとともに、関連事項について調べる	60～120
13・14	・社会文化とメンタルヘルス	講義	復習：1～14回目について	180～
15	まとめ	講義		

【科目名】 精神疾患作業療法学Ⅱ		【担当教員】 森本 千恵
【授業区分】 専門分野(作業療法治療学)	【授業コード】 4-24-0070-1	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	c.morimoto@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 講義後1時間程度。
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・精神障害作業療法治療学Ⅰの学習内容について復習しておくこと。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・講義内容に関連する事項については、各自で学習することが必要である ・わからないことがあれば、必ず質問すること。わからないことをそのままにして進まないようにすること。 ・特別な事情を除いて、授業開始後20分以上の入室は遅刻とみなす。 ・この科目は実務経験者対応科目である。 ・生成AIの講義内の利用は禁止する。		
【講義概要】 (目的) ・さまざまな精神障害について、各臨床病期や回復段階に応じた治療について理解を深め、説明することができるようになること。 ・精神障害作業療法における治療構造と治療的要因について理解を深め、説明することができるようになること。 ・精神障害作業療法において特に必要となるコミュニケーションスキルを獲得すること。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,2,3、O-2,3 (方法) ・主にスライドとプリント・教科書を使用して講義を実施する。 ・適宜、講義内容に関わる演習を実施する。 ・試験結果は、必要に応じて適宜、文書あるいは口頭でフィードバックする。		
【一般教育目標(GI0)】 ・精神障害作業療法における治療の基礎知識を獲得するために、それぞれの疾患の各臨床病期や回復段階に応じた治療について理解する。 ・精神障害作業療法における治療の基礎知識を獲得するために、精神科作業療法における治療構造と治療的要因について理解する。 ・治療実践に関わる技術を獲得するために、必要となるコミュニケーションスキルを学ぶ。 【行動目標(SB0)】 ・それぞれの精神疾患の各臨床病期や回復段階に応じた治療について説明できる。 ・精神障害作業療法における治療構造と治療的要因について説明できる。 ・精神障害作業療法における必要となるコミュニケーションスキルを実践できる。		
【教科書・リザーブドブック】 岩根達郎．主観的生きづらさに寄り添う～精神科作業療法士が伝えたい臨床思考ケースブック～．メジカルビュー社，2021． 山根寛．精神障害と作業療法 新版．三輪書店、2017．		
【参考書】 適宜紹介する。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・3分の2以上の出席を満たした受講者に対して成績評価を行う。 ・受講態度、レポート、期末試験により総合的に判断する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				40			40	20	100
評価指標	取り込む力・知識			20			20		40
	思考・推論・創造の力			20			20		40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	・コースイントロダクション	講義		
3・4	・精神科における作業療法士の役割 ・精神科作業療法におけるコミュニケーションスキル	講義・演習	・予習：講義内容に関する資料・教科書を確認する。 ・復習：講義内容を振り返るとともに、関連事項について調べる	60～120
5・6	疾患特性と臨床病期に応じた作業療法（１）	講義・演習	・予習：講義内容に関する資料・教科書を確認する。 ・復習：レポート	60～120
7・8	疾患特性と臨床病期に応じた作業療法（２）	講義・演習	・予習：講義内容に関する資料・教科書を確認する。 ・復習：講義内容を振り返るとともに、関連事項について調べる	60～120
9・10	疾患特性と臨床病期に応じた作業療法（３）	講義・演習	・予習：講義内容に関する資料・教科書を確認する。 ・復習：講義内容を振り返るとともに、関連事項について調べる	60～120
11・12	疾患特性と臨床病期に応じた作業療法（４）	講義・演習	・予習：講義内容に関する資料・教科書を確認する。 ・復習：レポート	60～120
13・14	疾患特性と臨床病期に応じた作業療法（５）	講義・演習	・予習：講義内容に関する小テスト（オンライン） ・復習：１-12回の内容について	180～
15	まとめ	講義		

【科目名】 精神疾患作業療法学演習		【担当教員】 森本 千恵
【授業区分】 専門分野(作業療法治療学)	【授業コード】 4-24-0075-1	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	c.morimoto@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 30	(オフィスアワー) 講義後1時間程度。
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・精神疾患作業療法学Ⅰ・Ⅱの内容をよく復習すること。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) ・講義内容に関連する事項については、各自で学習することが必要である。 ・わからないことがあれば、必ず質問すること。わからないことをそのままにして進まないようにすること。 ・この科目は実務経験者対応科目である。 ・生成AIの講義内の利用は禁止する。		
【講義概要】 (目的) ・事例検討の方法を理解し、実践することができる。 ・精神科作業療法の実施プロセス・マネジメント方法について理解を深め、説明できる。 ・事例検討を通して、精神科作業療法の実施計画立案の一連のプロセスを体験する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：0-1,2 (方法) ・主にグループ学習により事例検討を行う。 ・各グループで事例検討内容をまとめ、発表する。 ・グループ内および全体でのディスカッションを行う。 ・試験結果等は、必要に応じて適宜、文書あるいは口頭でフィードバックする。		
【一般教育目標(GIO)】 ・精神障害作業療法を実践する知識と技術を獲得するために、精神科作業療法の実施プロセス・マネジメント方法について理解する ・精神障害作業療法を実践する知識と技術を獲得するために、精神科作業療法の実施計画立案の一連のプロセスを習得する 【行動目標(SBO)】 ・精神障害作業療法の実施プロセス・マネジメント方法について説明できる。 ・精神障害作業療法の実施計画立案の一連のプロセスを実施することができる。		
【教科書・リザーブドブック】 岩根達郎．主観的生きづらさに寄り添う～精神科作業療法士が伝えたい臨床思考ケースブック～．メジカルビュー社，2021． 山根寛．精神障害と作業療法 新版．三輪書店、2017．		
【参考書】 適宜紹介する。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・3分の2以上の出席を満たした受講者に対して成績評価を行う。 ・特別な事情を除いて、授業開始後20分以上の入室は遅刻とみなす。 ・受講態度、グループワークへの取り組み、プレゼンテーション、質疑応答への参加について総合的に評価する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合					70			30	100
評価指標	取り込む力・知識				10				10
	思考・推論・創造の力				20				20
	コラボレーションとリーダーシップ				20				20
	発表力				20				20
	学修に取り組む姿勢							30	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	・コースイントロダクション ・事例検討の意義と方法 ・精神障害作業療法実施プロセスとマネジメント方法(1)	講義	講義内容の復習	60～120
3・4	・精神障害作業療法実施プロセスとマネジメント方法(2)	講義	講義内容の復習	60～120
5・6	・事例紹介 ・事例検討 ・発表準備	講義・演習 グループワーク	・グループワークの準備	60～120
7・20	・事例検討 ・発表準備	グループワーク	・グループワークの準備	60～120
21～24	・学生プレゼンテーション ・質疑応答	グループワーク	・発表準備	60～120
26～29	・フィードバック ・ディスカッション	グループワーク		60～120
30	まとめ			60～120

リハビリテーション学科

【科目名】精神障害構造論Ⅰ		【担当教員】長谷川 裕
【授業区分】専門分野(作業療法治療学)	【授業コード】4-24-0045-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	長谷川裕 hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】30	(オフィスアワー) 月曜～木曜、13:00～13:20
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・精神医学、精神障害に関する科目を履修していること。 (※本科目は、精神科作業療法、リハビリテーションの実務経験のある教員による授業科目です。精神領域の障害構造、治療構造について講じていきます。) ・障害等があって配慮が必要な学生は事前に相談することを推奨します。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・演習時に出された課題を、個人で行った後、グループで討議し発表を行います。・個人で行った課題は時間内での提出となります。欠席により課題を行えなかった場合には、その課題の評価点は与えられません。・遅刻は授業開始後10分まで、早退は終了10分前までそれ以上の遅刻、早退はすべて欠席扱いとなります。・生成AI 使用ルール：提出課題、発表用資料での直接的な使用（生成AIの文章等の複写等）は禁止します。アイデアを得るための使用は認めます。生成Aiから得た情報は必ず、文献、書籍等他の資料で確認すること。		
【講義概要】 (目的) 精神に障害のある人の環境も含めた障害構造を理解すること。 対象者の外観、行動を観察する視点を理解すること。 当該科目と学位授与方針等との関連性；0-1 (方法) 配布資料の事例を通し、ICF(国際生活機能分類)を用いて、症例についての評価・まとめ方を修得する。 配布資料の事例を通し、対象者の観察、評価を行う。 この授業はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GI0)】 ・精神障害作業療法における臨床能力を高めるために、障害構造や治療構造を理解し、それをもとに対象者への治療・指導・支援について考えられるようになる。		
【行動目標(SB0)】 ・ICFを用いて、事例の生活機能と障害を分類し説明できる。 ・事例の外観、行動を評価項目に沿って記述できる。 ・事例について障害構造を基に、評価結果を整理し課題の焦点化、全体像を考えることができる。		
【教科書・リザーブドブック】 ・「ICF 国際生活機能分類」-国際障害分類改訂版-, 中央法規, 2002年, ¥3,500 (税別)		
【参考書】 ・小林夏子編集『標準作業療法学専門分野 精神機能作業療法学』第2版, 医学書院, 2014年, ¥3,800(税別) ・朝田隆、中島直、堀田英樹『精神疾患の理解と精神科作業療法』第2版, 中央法規, 2012年, ¥3,800(税別) ・山根寛著『精神障害と作業療法』新版, 三輪書店, 2017年, ¥4,000(税別)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含みません。 提出されたレポート課題が評価の対象となります。 レポート課題は他に支障のない限り返却します。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				60				40	100
評価指標	取り込む力・知識			20				10	30
	思考・推論・創造の力			30					30
	コラボレーションとリーダーシップ							10	10
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			10				20	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1,2	オリエンテーション、ICFについて、事例検討（評価のまとめ方）	講義、演習	疾患について（統合失調症）についての復習	
3,4	事例検討（評価のまとめ方）	演習	疾患について（統合失調症）についての復習	
5,6	事例検討（評価のまとめ方）	演習	疾患について（統合失調症）についての復習	
7,8	事例検討（評価のまとめ方）	演習	疾患について（統合失調症）についての復習	
9,10	事例検討（評価のまとめ方）	演習	疾患について（統合失調症）についての復習	
11,12	事例検討（評価のまとめ方）	演習	疾患について（統合失調症）についての復習	
13,14	事例検討（評価のまとめ方）	演習	疾患について（統合失調症）についての復習	
15,16	事例検討（評価のまとめ方）	演習	疾患について（統合失調症）についての復習	

17,18	事例検討（評価のまとめ方）	演習	疾患について（気分障害）についての復習	
19,20	事例検討（評価のまとめ方）	演習	疾患について（気分障害）についての復習	
21,22	事例検討（評価のまとめ方）	演習	疾患について（気分障害）についての復習	
23,24	事例検討（評価のまとめ方）	演習	疾患について（気分障害）についての復習	
25,26	事例検討（評価のまとめ方）	演習	疾患について（気分障害）についての復習	
27,28	事例検討（評価のまとめ方）	演習	疾患について（気分障害）についての復習	
29,30	事例検討（評価のまとめ方）	演習	疾患について（気分障害）についての復習	

【科目名】精神障害構造論Ⅱ		【担当教員】長谷川 裕
【授業区分】専門分野(作業療法治療学)	【授業コード】4-24-0050-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】必修	長谷川裕 ;hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.
【単位数】1	【コマ数】30 (45分)	(オフィスアワー) 月曜～木曜、13:00～13:20
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・精神医学、精神障害に関する科目を履修していること。 (※本科目は、精神科作業療法、リハビリテーションの実務経験のある教員による授業科目です。精神領域の障害構造、治療構造について講じていきます。) ・障害等があって配慮が必要な学生は事前に相談することを推奨します。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・演習時に出された課題を、個人で行った後、グループで討議し発表を行います。・個人で行った課題は時間内での提出となります。欠席により課題を行えなかった場合には、その課題の評価点は与えられません。・遅刻は授業開始後10分まで、早退は終了10分前までそれ以上の遅刻、早退はすべて欠席扱いとなります。・生成AI 使用ルール：提出課題、発表用資料での直接的な使用（生成AIの文章等の複写等）は禁止します。アイデアを得るための使用は認めます。生成Aiから得た情報は必ず、文献、書籍等の資料で確認してください。		
【講義概要】 (目的) 統合失調症や気分（感情）障害といった精神障害に対する作業療法評価と治療・指導・支援内容への理解を深める。 当該科目と学位授与方針等との関連性；0-1 (方法) 配付資料の事例を通し、ICF(国際生活機能分類)等を用いてまとめた症例について障害構造を基に、治療・指導・支援内容を具体的に考察し、まとめる。個人での課題作成とグループでの討議を行う。 この授業はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GIO)】 ・精神障害作業療法における臨床能力を高めるために、障害構造や治療構造を理解し、それをもとに対象者への治療・指導・支援について考えられるようになる。 【行動目標(SBO)】 ・ICFを用いて、提示された事例についての生活機能と障害を分類し説明することができる。 ・事例の個人因子を考慮しながら、作業療法の目標を設定することができる。 ・設定した目標について障害構造を基に、治療・指導・支援内容を具体的に考えることができる。 ・生活行為向上マネジメント(MTDLP)を用いて、事例検討を行うことができる。		
【教科書・リザーブドブック】 ・「ICF 国際生活機能分類」-国際障害分類改訂版-, 中央法規, 2002年, ¥3,500 (税別)		
【参考書】 ・朝田隆、中島直、堀田英樹『精神疾患の理解と精神科作業療法』第2版, 中央法規, 2012年, ¥3,800(税別) ・山根寛著『精神障害と作業療法』新版, 三輪書店, 2017年, ¥4,000(税別) ・日本作業療法士協会編著『事例で学ぶ生活行為向上マネジメント』第2版, 2021年, ¥4,000(税別)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含みません。 提出されたレポート課題が評価の対象となります。 レポート課題は他に支障のない限り返却します。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				60				40	100
評価指標	取り込む力・知識			20				10	30
	思考・推論・創造の力			30					30
	コラボレーションとリーダーシップ							10	10
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			10				20	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1,2	生活行為向上マネジメントについて、事例検討（評価結果のまとめ）	講義	疾患について（統合失調症、気分障害）についての復習	60
3,4	事例検討（プログラム立案、治療経過のまとめ方）	演習	疾患について（統合失調症、気分障害）についての復習	60
5,6	事例検討（プログラム立案、治療経過のまとめ方）	演習	疾患について（統合失調症、気分障害）についての復習	60
7,8	事例検討（プログラム立案、治療経過のまとめ方）	演習	疾患について（統合失調症、気分障害）についての復習	60
9,10	事例検討（プログラム立案、治療経過のまとめ方）	演習	疾患について（統合失調症、気分障害）についての復習	60
11,12	事例検討（プログラム立案、治療経過のまとめ方）	演習	疾患について（統合失調症、気分障害）についての復習	60
13,14	事例検討（プログラム立案、治療経過のまとめ方）	演習	疾患について（統合失調症、気分障害）についての復習	60
15,16	事例検討（プログラム立案、治療経過のまとめ方）	演習	疾患について（統合失調症、気分障害）についての復習	60

17,18	事例検討（プログラム立案、治療経過のまとめ方）	演習	疾患について（統合失調症、気分障害他）についての復習	60
19,20	事例検討（プログラム立案、治療経過のまとめ方）	演習	疾患について（統合失調症、気分障害他）についての復習	60
21,22	事例検討（プログラム立案、治療経過のまとめ方）	演習	疾患について（統合失調症、気分障害他）についての復習	60
23,24	事例検討（プログラム立案、治療経過のまとめ方）	演習	疾患について（統合失調症、気分障害他）についての復習	60
25,26	事例検討（プログラム立案、治療経過のまとめ方）	演習	疾患について（統合失調症、気分障害他）についての復習	60
27,28	事例検討（プログラム立案、治療経過のまとめ方）	演習	疾患について（統合失調症、気分障害他）についての復習	60
29,30	事例検討（プログラム立案、治療経過のまとめ方）	演習	疾患について（統合失調症、気分障害他）についての復習	60

【科目名】 発達過程作業療法学Ⅰ		【担当教員】 森本 千恵
【授業区分】 専門分野(作業療法治療学)	【授業コード】 4-24-0090-1	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	c.morimoto@nur05.onmicrosoft.com, nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 講義後1時間程度
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・発達障害に関わる内容を復習すること。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) ・講義内容に関連する事項については、各自で学習することが必要である。 ・わからないことがあれば、必ず質問すること。わからないことをそのままにして進まないようにすること。 ・特別な事情を除いて、授業開始後20分以上の入室は遅刻とみなす。 ・この科目は実務経験者対応科目である。 ・生成AIの講義内の利用は禁止する。		
【講義概要】 (目的) 発達障害作業療法における治療の基礎知識を獲得するために、肢体不自由児についての概念と臨床像を理解し、作業療法評価と介入を実施できるようになる。 当該科目と学位授与方針等との関連性：0-1,2 (方法) ・主にスライドとプリント・教科書を使用して講義を実施する。適宜、授業内容に関わる演習・実技を実施する。 ・試験結果等は、必要に応じて適宜、文書あるいは口頭でフィードバックする。		
【一般教育目標(GI0)】 発達障害作業療法における治療の基礎知識を獲得するために、肢体不自由児についての概念と臨床像、作業療法評価と介入について理解する。		
【行動目標(SB0)】 肢体不自由児についての概念と臨床像を説明し、作業療法評価と介入を実施することができる。		
【教科書・リザーブドブック】 上杉雅之 辛島千恵子 「イラストでわかる発達障害の作業療法」医歯薬出版株式会社 岩崎清隆 岸本光夫 鴨下賢一「発達障害の作業療法 実践編 第3版」三輪書店		
【参考書】 ・適宜提示、紹介、配布をする。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・3分の2以上の出席を満たした受講者に対して成績評価を行う。 ・小テスト、期末試験、受講態度により評価を行う。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60	20					20	100
評価指標	取り込む力・知識	30	10						40
	思考・推論・創造の力	30	10						40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	・発達障害に対する作業療法の概要	講義		60～120
3・4	・運動障害の原因となる疾患 ・運動障害と発達（１） ・定型発達の復習（１）	講義		60～120
5・6	・運動障害と発達（２） ・定型発達の復習（２）	講義・演習		60～120
7・8	・脳性まひの概念と臨床像 ・脳性まひに対する作業療法の考え方	講義・演習		60～120
9・10	・脳性まひと定型発達児における運動・認知機能の発達の違い ・重症心身障害における二次障害	講義・演習	授業内容を振り返るとともに、関連事項について調べる	60～120
10・11	・脳性まひに対する姿勢運動の分析（１） ・脳性まひに対する日常生活活動評価（１） ・脳性まひに対する作業療法介入（１）	講義・演習・実技	授業内容を振り返るとともに、関連事項について調べる	60～120
12・13	・脳性まひに対する姿勢運動の分析（２） ・脳性まひに対する日常生活活動評価（２） ・脳性まひに対する作業療法介入（２）	講義・演習・実技	授業内容を振り返るとともに、関連事項について調べる	60～120
14・15	・脳性まひに対する姿勢運動の分析（３） ・脳性まひに対する日常生活活動評価（３） ・脳性まひに対する作業療法介入（３）	講義・演習・実技	授業内容を振り返るとともに、関連事項について調べる	60～120

【科目名】		発達過程作業療法学Ⅱ		【担当教員】 長谷川 裕、丁子 雄希、知名 規人 (メールアドレス) c.morimoto@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 講義後1時間程度
【授業区分】	専門分野(作業療法治療学)	【授業コード】	4-24-0095-1	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	
【単位数】	1	【コマ数】	15	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 発達領域に関わる講義内容を復習する。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・講義内容に関連する事項については、各自で学習することが必要である。 ・わからないことがあれば、必ず質問すること。わからないことをそのままにして進まないようにすること。 ・特別な事情を除いて、授業開始後20分以上の入室は遅刻とみなす。 ・この科目は実務経験者対応科目である。 ・生成AIの講義内の利用は禁止する。				
【講義概要】 (目的) 定型発達児の発達と対照し、発達障害によりもたらされる作業の課題を抽出し、作業療法治療計画を立案することができるようになる。 当該科目と学位授与方針等との関連性：0-1 (方法) ・主にスライドとプリント・教科書を使用して講義を実施する。 ・グループワークを通して、事例検討を実施し、講義で得た知識を実用的に活用できるようにする。 ・試験結果は、必要に応じて適宜、文書あるいは口頭でフィードバックする。				
【一般教育目標(GI0)】 ・定型発達と対照し、発達障害（自閉症スペクトラム障害、注意欠陥・多動性障害、学習障害）によりもたらされる作業の課題を評価することができるようになる。 ・評価内容に基づいて、作業療法治療計画を立案することができるようになる。 【行動目標(SB0)】 ・発達障害（自閉症スペクトラム障害、注意欠陥・多動性障害、学習障害）の臨床像について説明できる。 ・発達障害（自閉症スペクトラム障害、注意欠陥・多動性障害、学習障害）に対して評価することができる。 ・発達障害（自閉症スペクトラム障害、注意欠陥・多動性障害、学習障害）に対する介入方法を説明することができる。				
【教科書・リザーブドブック】 上杉雅之 辛島千恵子 「イラストでわかる発達障害の作業療法」医歯薬出版株式会社 岩崎清隆 岸本光夫 鴨下賢一「発達障害の作業療法 実践編 第3版」三輪書店				
【参考書】 適宜紹介する。				
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法)				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50			50				100
評価指標	取り込む力・知識	30			20				50
	思考・推論・創造の力	20			20				40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	・オリエンテーション ・発達障害における作業療法	講義	復習：授業内容を振り返るとともに、関連事項について調べる	120分
3・4	・自閉症スペクトラム障害の臨床像 ・注意欠陥・多動性障害の臨床像 ・学習障害の臨床像	講義	予習：該当部分について、教科書を使用して予習する。 復習：授業内容を振り返るとともに、関連事項について調べる	120分
5・6	発達障害における評価・介入の概要①	講義・演習	予習：該当部分について、教科書を使用して予習する。 復習：授業内容を振り返るとともに、関連事項について調べる	120分
7・8	発達障害における評価・介入の概要②	講義・演習	予習：該当部分について、教科書を使用して予習する。 復習：授業内容を振り返るとともに、関連事項について調べる	120分
9・10	・事例検討	グループワーク	予習：該当部分について、教科書を使用して予習する。 復習：グループワーク準備	120分
11・12	・事例検討	グループワーク	グループワーク準備	120分
13・14	・学生プレゼンテーション	発表	グループワーク準備	120分
15	まとめ			120分

【科目名】高次脳機能作業療法学Ⅰ		【担当教員】丁子 雄希
【授業区分】専門分野(作業療法治療学)	【授業コード】4-24-0000-1	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	tyouji@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) メール問い合わせにて随時対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 障がい等の理由により合理的な配慮が必要な場合は事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) フィードバック方法：試験結果は返却しませんが、試験対策は十分に行います。また、適宜相談に応じます。 生成AIの使用は禁止します。 授業はオンデマンド配信とアクティブラーニングから構成されます。		
【講義概要】 (目的) 認知・高次脳機能障害に対する理解を深め、作業療法評価と治療技術を習得する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-3 当該科目と学位授与方針等との関連性：O-3 (方法) 教科書と配布資料などによる高次脳機能障害治療の講義・演習が中心となる。		
【一般教育目標(GIO)】 高次脳機能作業療法評価学の知識を土台に高次脳機能障害（知能、注意、記憶、半側空間無視、失語、失行）に対してエビデンスに基づく治療プログラムが立案できる。 【行動目標(SBO)】 ・ 認知・高次脳機能障害の症状を列挙できる。 ・ 障害の種類によって適切な評価を選定できる。 ・ 治療原則および治療理論を述べることができる。 ・ 認知・高次脳機能障害の生活上の困難さ、介入原則を述べることができる。		
【教科書・リザーブブック】 石合純夫・『高次脳機能障害学 第3版』 医歯薬出版株式会社、2022		
【参考書】 能登真一（編集）・『高次脳機能障害作業療法学』標準作業療法学 専門分野 医学書院、2012		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・ 成績評価基準は本学学則規定のGAP制度に従う。 ・ 評定は多肢選択式による期末試験と授業中の課題によって行う。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70						30	100
評価指標	取り込む力・知識	50						10	60
	思考・推論・創造の力	10						10	20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10						10	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1、2	・高次脳機能の概要を理解できる。 ・認知機能と高次脳機能の各種	講義、演習	教科書 1 - 9 p を読んでおく。	30
3、4	・注意障害の臨床症状を把握する。 ・注意障害の評価法・治療法を理解する。 ・模擬患者（注意障害）に対する治療計画の立案	講義、演習	教科書 193 - 197 p を読んでおく。	30
5、6	・半側空間無視の臨床症状を把握する。 ・半側空間無視の評価法・治療法を理解する。 ・模擬患者（半側空間無視）に対する治療計画の立案	講義、演習	教科書 151 - 173 p を読んでおく。	30
7、8	・失語症の臨床症状を把握する。 ・失語症の評価法・治療法を理解する。 ・模擬患者（失語症）に対する治療計画の立案	講義、演習	教科書 23 - 49 p を読んでおく	30
9、10	・失行の臨床症状を把握する。 ・失行の評価法と治療法を理解する。 ・模擬患者（失行症）に対する治療計画の立案	講義、演習	教科書 61 - 81 p を読んでおく。	30
11、12	・記憶障害の臨床症状を把握する。 ・記憶障害の評価法・治療法を理解する。 ・模擬患者（記憶障害）に対する治療計画の立案	講義、演習	教科書 197 - 219 p を読んでおく。	30
13、14	・意識・知能・人格等の臨床症状を把握する。 ・意識・知能・人格等の評価・治療を理解する。 ・模擬患者（知能低下，意識低下）に対する治療計画の立案	講義、演習	配布資料を読んでおく。	30
15	総括	講義	配布資料を読んでおく。	15

【科目名】高次脳機能作業療法学Ⅱ		【担当教員】丁子 雄希
【授業区分】専門分野(作業療法治療学)	【授業コード】4-24-0000-1	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	tyouji@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) メール問い合わせにて随時対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 障がい等の理由により合理的な配慮が必要な場合は事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) フィードバック方法：試験結果は返却しませんが、試験対策は十分に行います。また、適宜相談に応じます。 生成AIの使用は禁止します。 授業はオンデマンド配信とアクティブラーニングから構成されます。		
【講義概要】 (目的) 高次脳機能障害作業療法治療学Ⅰにおいて学修した評価や治療技術をもとに、実際場面を想定し評価および介入の方法について習得する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-3 当該科目と学位授与方針等との関連性：0-3 (方法) 教科書と配布資料などによる高次脳機能障害治療の講義・演習が中心となる。		
【一般教育目標(G10)】 高次脳機能作業療法評価学の知識を土台に高次脳機能障害（遂行機能障害、認知、社会的行動障害、認知症、せん妄、頭部外傷）に対してエビデンスに基づく治療プログラムが立案できる。 【行動目標(SB0)】 ・認知・高次脳機能障害の症状を列挙できる。 ・障害の種類によって適切な評価を選定できる。 ・治療原則および治療理論を述べることができる。 ・認知・高次脳機能障害の生活上の困難さ、介入原則を述べることができる。		
【教科書・リザーブドブック】 石合純夫・『高次脳機能障害学 第3版』 医歯薬出版株式会社、2022		
【参考書】 能登真一（編集）・『高次脳機能障害作業療法学』標準作業療法学 第2版 専門分野 医学書院、2019		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定のGAP制度に従う。 ・評定は多肢選択式による期末試験と授業中の課題によって行う。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70						30	100
評価指標	取り込む力・知識	50						10	60
	思考・推論・創造の力	10						10	20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10						10	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1、2	・遂行機能障害の臨床症状を把握する。 ・遂行機能障害の評価法・治療法を理解する。 ・模擬患者（遂行機能障害）に対する治療計画の立案	講義、演習	教科書 220-231 p を読んでおく。	30
3、4	・認知障害の臨床症状を把握する。 ・認知障害の評価法・治療法を理解する。 ・模擬患者（認知障害）に対する治療計画の立案	講義、演習	教科書 109-145 p を読んでおく。	30
5、6	・社会的行動障害の臨床症状を理解する。 ・社会的行動障害の評価法・治療法を理解する。 ・模擬患者（社会的行動障害）に対する治療計画の立案	講義、演習	配布資料にて各種症状を捉えておく。	30
7、8	・脳地図を理解する。 ・CTとMRIの読み方を理解する。	講義	教科書 10-21 p を読んでおく。	30
9、10	・認知症のタイプを整理し、臨床症状を把握する。 ・認知症の評価法・治療法を理解する。 ・模擬患者（認知症）に対する治療計画の立案	講義、演習	教科書 237-252 p を読んでおく。	30
11、12	・認知症とせん妄の違いを把握する。 ・模擬患者（せん妄）に対する治療計画の立案	講義、演習	教科書 257-260 p を読んでおく。	15
13、14	・頭部外傷の臨床症状を把握する。 ・頭部外傷の評価法・治療法を理解する。 ・模擬患者（頭部外傷）に対する治療計画の立案	講義、演習	教科書 262-270 p を読んでおく。	30
15	総括	講義	教科書 5-19 p を読んでおく。	30

リハビリテーション学科

【科目名】義肢・装具学（実習）		【担当教員】伊藤 渉
【授業区分】専門分野(作業療法治療学)	【授業コード】4-24-0110-1	(メールアドレス)
【開講時期】通年(前期)	【選択必修】必修	w.ito@nur05.onmicrosoft.com ※Teamsチャットより連絡してください
【単位数】1	【コマ数】30	(オフィスアワー) 火・水・木 14:00～16:00
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 3学年通年の必修科目です。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 生成系 AI の利用を全面的に許可します。授業内、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してください。 ・使用した場合にその旨をレポート等に記載してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) この授業はアクティブラーニングを用います。 この授業はクリッカーを用いた、双方向授業をおこないます。 この科目は実務経験を有する教員が担当します。 生成系AIによる情報の捏造（ねつそう）、改ざん、盗用、剽窃（ひょうせつ）は生成系AI使用者（学生）の責任となり、学内規定による措置の対象となるため注意して利用してください。		
【講義概要】 (目的) 理学療法士、作業療法士として義肢・装具についての専門的知識、技術を修得する。 理学療法、作業療法の基礎および疾病の種類に関係なく共通する装具の基本的な知識・技術を修得する。 各疾病の特性を考慮した装具についての知識・技術の修得を図る。 当該科目と学位授与方針等との関連性：P-1, P-2, O-1, O-2 (方法) 主として教科書を使用して授業をおこないます。 各講義で国家試験過去問題の小テストをおこないます。		
【一般教育目標(GIO)】 効果的な理学療法、作業療法が提供できるように、義肢・装具の基本的な知識と技術について修得すると共に、実施できるようにする。 【行動目標(SBO)】 装具の種類、適応、適合性の確認について説明できる 装具のアライメント調整ができる 福祉用具の種類、適用について説明できる 車いすの種類、適用、調整について説明できる リフトの使用について説明できる		
【教科書・リザーブドブック】 義肢装具学（標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻），医学書院，佐伯 覚		
【参考書】 なし		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従います。 出席点は評価に含みません。ただし、単位取得には授業の3分の2以上の出席が必要です。 小テストと試験の結果を総合的に評価します。試験の解答の返却はおこないません。試験問題は授業内の課題から出題されます。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		40	60						100
評価指標	取り込む力・知識	40	60						100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	義肢装具療法 義肢装具にかかわる各専門職種の役割と基本的な流れ 義肢装具の支給システム	講義	予習：教科書の該当ページを読む 復習：授業の振り返り	60
3・4	装具療法 装具療法の目的 装具の基本構造，材質	講義	予習：教科書の該当ページを読む 復習：授業の振り返り	60
5・6	下肢装具 適合判定（チェックアウト）と適応 PTB式免荷装具 靴型装具	講義	予習：教科書の該当ページを読む 復習：授業の振り返り	60
7・8	上肢装具 概要 適応	講義	予習：教科書の該当ページを読む 復習：授業の振り返り	60
9・10	体幹装具	講義	予習：教科書の該当ページを読む 復習：授業の振り返り	60
11・12	車椅子 基本構造 適合判定 疾患別の適応 座位保持装置	講義	予習：教科書の該当ページを読む 復習：授業の振り返り	60
13・14	歩行補助具，移乗用具，自立生活支援用具，環境制御装置	講義	予習：教科書の該当ページを読む 復習：授業の振り返り	60
15	まとめ	講義	予習：教科書の該当ページを読む 復習：授業の振り返り	120

リハビリテーション学科

【科目名】義肢・装具学（実習）		【担当教員】伊藤 渉
【授業区分】専門分野(作業療法治療学)	【授業コード】4-24-0110-1	(メールアドレス)
【開講時期】通年(後期)	【選択必修】必修	w.ito@nur05.onmicrosoft.com ※Teamsチャットより連絡してください
【単位数】1	【コマ数】30	(オフィスアワー) 火・水・木 14:00～16:00
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 3学年通年の必修科目です。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 生成系 AI の利用を全面的に許可します。授業内、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してください。 使用した場合にその旨をレポート等に記載してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) この授業はアクティブラーニングを用います。この授業はクリッカーを用いた、双方向授業をおこないます。 生成系AIによる情報の捏造（ねつぞう）、改ざん、盗用、剽窃（ひょうせつ）は生成系AI使用者（学生）の責任となり、学内規定による措置の対象となるため注意して利用してください。 この科目は実務経験を有する教員が担当します。		
【講義概要】 (目的) 理学療法士，作業療法士として義肢・装具についての専門的知識，技術を修得する。 理学療法，作業療法の基礎および疾病の種類に関係なく共通する義肢の基本的な知識・技術を修得する。 各疾病の特性を考慮した義肢についての知識・技術の修得を図る。 当該科目と学位授与方針等との関連性：P-1，P-2，O-1，O-2 (方法) 主として教科書を使用して授業をおこないます。 各講義で国家試験過去問題の小テストをおこないます。		
【一般教育目標(GIO)】 効果的な理学療法，作業療法が提供できるように，義肢・装具の基本的な知識と技術について修得すると共に，実施できるようにする。 【行動目標(SBO)】 義肢の種類，適応，適合性の確認について説明できる 義肢のアライメント調整ができる		
【教科書・リザーブドブック】 義肢装具学（標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻），医学書院，佐伯 覚		
【参考書】 なし		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は，本学学則規定のGPA制度に従います。 出席点は評価に含みません。ただし，単位取得には授業の3分の2以上の出席が必要です。 小テストと試験の結果を総合的に評価します。 試験の解答の返却はおこないません。試験問題は授業内の課題から出題されます。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		40	60						100
評価指標	取り込む力・知識	40	60						100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
16・17	義肢の総論，基本構造，適合判定	講義	予習：教科書の該当ページを読む 復習：授業の振り返り	60
18・19	義足1 使用する部品とその特徴 膝継手	講義	予習：教科書の該当ページを読む 復習：授業の振り返り	60
20・21	義足2 大腿義足の異常歩行 下腿義足の静的アライメントと異常歩行	講義	予習：教科書の該当ページを読む 復習：授業の振り返り	60
22・23	義足3 動作の練習	講義	予習：教科書の該当ページを読む 復習：授業の振り返り	60
24・25	義手1 切断と断端管理	講義	予習：教科書の該当ページを読む 復習：授業の振り返り	60
26・27	義手2 上腕義手の設定，適合判定，不適合の原因	講義	予習：教科書の該当ページを読む 復習：授業の振り返り	60
28・29	義手3 前腕義手の設定と適合判定，ADL動作	講義	予習：教科書の該当ページを読む 復習：授業の振り返り	60
30	筋電義手	講義	予習：教科書の該当ページを読む 復習：授業の振り返り	120

【科目名】 内部障害作業療法学（実習）		【担当教員】 丁子 雄希
【授業区分】 専門分野(作業療法治療学)	【授業コード】 4-24-0115-1	(メールアドレス)
【開講時期】 通年(前期)	【選択必修】 必修	tyouji@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 30	(オフィスアワー) メール問い合わせにて随時対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・解剖学、運動学、生理学の復習をしておくことが望ましい。 ・この科目は実務経験者対応科目です。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 課題は、他に支障のない限り返却します。 生成AIの使用は禁止します。 授業はアクティブラーニングが含まれます。		
【講義概要】 (目的) 内部障害（心身機能障害、呼吸器機能障害、がん、腎機能障害を中心）に関する作業療法について学ぶ。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-3 当該科目と学位授与方針等との関連性：0-3 (方法) 教科書と必要に応じて資料配付により講義、演習、実技を交えて行う。 また、適宜、解剖学、運動学、生理学の知識を整理しながら講義を進める。		
【一般教育目標(GI0)】 ・内部障害に関わる作業療法士の現状について理解する。 ・内部障害（心身機能障害、呼吸器機能障害、がん、腎機能障害など）のリスク管理について理解する。 ・内部障害に対する作業療法の支援方法について理解する。 【行動目標(SB0)】 ・内部障害に関わる作業療法士の現状について説明できる。 ・内部障害（心身機能障害、呼吸器機能障害、がん、腎機能障害など）のリスク管理について説明できる。 ・内部障害に対する作業療法の支援方法（生活指導・運動療法）について説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 上杉雅之：PT・OT入門イラストでわかる内部障害、医歯薬出版、2020		
【参考書】		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 ・成績評価は、ポートフォリオ・授業中の課題などにより総合的に評価する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合							60	40	100
評価指標	取り込む力・知識						30	20	50
	思考・推論・創造の力						30		30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1,2	内部障害の作業療法 概論 循環	講義・演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
3,4	吸痰（順番を変更することがあります）	講義・演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
5,6	吸引（順番を変更することがあります）	講義・演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
7,8	酸素吸入（順番を変更することがあります）	講義・演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
9,10	代謝・内分泌 インスリンの作用について	講義・演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
11,12	血液 リンパ液について	講義・演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
13,14	心臓リハビリテーションの概要 心電図の読み方	講義・演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
15,16	呼吸のしくみ 呼吸器リハビリテーションの概要	講義・演習	該当箇所の復習を行うこと。	30

17,18	呼吸と呼吸不全	講義・演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
19,20	各種排痰方法 聴診器の基礎	講義・演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
21,22	作業療法と呼吸器リハビリテーション エビデンス（COPDを中心に）	講義・演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
23,24	排泄のしくみ 腎臓の役割	講義・演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
25,26	腎臓病の作業療法 血液透析と腹膜透析	講義・演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
27,28	糖尿病の作業療法 運動処方	講義・演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
29,30	がんの作業療法 エビデンス	講義・演習	該当箇所の復習を行うこと。	30

【科目名】 内部障害作業療法学（実習）		【担当教員】 丁子 雄希
【授業区分】 専門分野(作業療法治療学)	【授業コード】 4-24-0115-1	(メールアドレス)
【開講時期】 通年(後期)	【選択必修】 必修	tyouji@nur05.onmicrosoft.com.
【単位数】 1	【コマ数】 30	(オフィスアワー) メール問い合わせにて随時対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・解剖学、運動学、生理学の復習をしておくことが望ましい。 ・この科目は実務経験者対応科目です。 ・障がい等の理由により合理的な配慮が必要な場合は事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 課題は、他に支障のない限り返却します。 生成AIの使用は禁止します。 授業ではアクティブラーニングを導入します。		
【講義概要】 (目的) 内部障害（心身機能障害、呼吸器機能障害、がん、腎機能障害を中心）に関する作業療法について学ぶ。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-3 当該科目と学位授与方針等との関連性：0-3 (方法) 教科書と必要に応じて資料配付により講義、演習、実技を交えて行う。 また、適宜、解剖学、運動学、生理学の知識を整理しながら講義を進める。		
【一般教育目標(GI0)】 ・内部障害に関わる作業療法士の現状について理解する。 ・内部障害（心身機能障害、呼吸器機能障害、がん、腎機能障害など）のリスク管理について理解する。 ・内部障害に対する作業療法の支援方法について理解する。 【行動目標(SB0)】 ・内部障害に関わる作業療法士の現状について説明できる。 ・内部障害（心身機能障害、呼吸器機能障害、がん、腎機能障害など）のリスク管理について説明できる。 ・内部障害に対する作業療法の支援方法（生活指導・運動療法）について説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 上杉雅之：PT・OT入門イラストでわかる内部障害、医歯薬出版、2020		
【参考書】		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 ・成績評価は、ポートフォリオ・授業中の課題などにより総合的に評価する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合							60	40	100
評価指標	取り込む力・知識						30	20	50
	思考・推論・創造の力						30		30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	内部障害の作業療法 概論 循環	講義・演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
3,4	吸痰（順番を変更することがあります）	講義・演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
5,6	吸引（順番を変更することがあります）	講義・演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
7,8	酸素吸入（順番を変更することがあります）	講義・演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
9,10	代謝・内分泌 インスリンの作用について	講義・演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
11,12	血液 リンパ液について	講義・演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
13,14	心臓リハビリテーションの概要 心電図の読み方	講義・演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
15,16	呼吸のしくみ 呼吸器リハビリテーションの概要	講義・演習	該当箇所の復習を行うこと。	30

17,18	呼吸と呼吸不全	講義・演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
19,20	各種排痰方法 聴診器の基礎	講義・演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
21,22	作業療法と呼吸器リハビリテーション エビデンス（COPDを中心に）	講義・演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
23,24	排泄のしくみ 腎臓の役割	講義・演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
25,26	腎臓病の作業療法 血液透析と腹膜透析	講義・演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
27,28	糖尿病の作業療法 運動処方	講義・演習	該当箇所の復習を行うこと。	30
29,30	がんの作業療法 エビデンス	講義・演習	該当箇所の復習を行うこと。	30

リハビリテーション学科

【科目名】 就労支援作業療法学		【担当教員】 柳澤 博
【授業区分】 専門分野(地域作業療法学)	【授業コード】 4-25-0015-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 必修	h.yanagisawa@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15コマ	(オフィスアワー) 月-木,13:00～13:20
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 1年次、2年次の作業療法専門科目を履修していること。 この科目は、実務経験者対応科目である。 障害等があって配慮が必要な学生は事前に相談することを推奨します。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・遅刻は授業開始後10分まで、早退は終了10分前までそれ以上の遅刻、早退はすべて欠席扱いとなります。 ・生成AI 使用ルール：提出課題、発表用資料での直接的な使用（生成AIの文章等の複写等）は禁止します。アイデアを得るための使用は認めます。生成Aiから得た情報は必ず、文献、書籍等他の資料で確認してください。		
【講義概要】 (目的) 障害者の就労支援に関して社会資源の内容をそれぞれ解説し、心身機能障害者における就労に関して、作業療法士の役割を具体的な事例をもとに理解することを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：0-1,0-2 (方法) 講義およびグループディスカッションによって実施する。 この授業はアクティブラーニングを用います。個人が所有するノートPCやタブレット端末を持参して受講する双方向型授業です。		
【一般教育目標(GI0)】 「働くこと」について具体的に理解することができる。就労、雇用の継続に対する支援のサービス、作業療法の役割について理解することができる。 【行動目標(SB0)】 職業の意義と職業的発達について説明できる 障害者の就労について状況と問題点が述べることができる 職業に関して生活機能と障害、背景因子について整理し作業療法との関連を述べることができる モデル的な症例を通して作業療法のアプローチを検討する		
【教科書・リザーブドブック】 中村俊彦・建木健・藤田さより編著,「就労支援の作業療法 基礎から臨床実践まで」, 医歯薬出版, 2022, 3,000円(税抜)		
【参考書】 「職業リハビリテーション学」改訂第2版 協同医書出版		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含みません。 レポート他提出課題にて評価を行います。レポートの返却,フィードバックは必要に応じて行います。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			50					50
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	オリエンテーション（講義概要・方法・スケジュール） 職業について考える	講義	オリエンテーションで提示	30分
3,4	職業支援に関する理論について	講義	復習	30分
5,6	障害者の就労制度について	講義	復習	30分
7,8	就労支援における作業療法の役割について	講義	復習	30分
9,10	就労支援における作業療法評価について	講義	復習	30分
11,12	就労支援の実際について①	講義・演習	復習	30分
13,14	就労支援の実際について②	講義・演習	復習	30分
15	まとめ	講義	復習	30分

【科目名】		評価実習	【担当教員】	知名 規人
【授業区分】	専門分野(臨床実習)	【授業コード】	4-26-0005-1	(メールアドレス)
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	必修	china@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	5	【コマ数】	225	(オフィスアワー) 火曜日13:30-15:00
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目の履修は、臨床実習規程第3条(2)に準ずる者のみとします。 本科目は、学外実習を中心とした双方向型授業(アクティブラーニング)の科目で、実務経験のある教員が担当します。 実習の手引きを熟読しておいてください。また、事前に実習施設に関わる情報を収集し、必要な資料等を準備しておいてください。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 実習施設へ行く前に身だしなみを整えること。不適切な身だしなみと判断された学生については実習を認めないことがある。 評価実習終了後は、学内にて症例発表を行うため、症例報告要約の準備を行うこと。 実習中に事故・事件その他の問題が起きた場合は、直ぐに実習先のスタッフ及び本学へ連絡すること。 生成系AIの利用は、自己学習に用いる場面にのみ許可します(報告要約作成時は禁止)。				
【講義概要】 (目的) 評価実習は、学生毎に1施設に赴き、臨床実習指導者のもと、症例に即した検査・測定方法を選択できること、さらに様々な症例を数多く実践することにより、各症例における問題点の抽出や対象者の障害像とニーズなどとの結びつけを臨床実習指導者の指導を受けながら適切に把握することを目的とする。 (当該科目と学位授与方針等との関連性; A-1,A-2,A-3. 0-1,0-2,0-3) (方法) 4週間、学外の施設に赴き、臨床実習指導者のもとで実習を行う。学外実習に加えて、実習の前後併せて1週間を学内実習期間とする。学内実習では、実習前の試験の実施(実技、基礎知識の確認)、実習後の実習報告、症例発表および学外で身につけた技術、知識を試験にて確認し、評価を行う。				
【一般教育目標(GI0)】 作業療法士としての①倫理観や基本的態度を身につける、②許容される臨床技能を実践できる、③臨床実習指導者の作業療法の臨床思考過程を説明し、作業療法の計画立案ができる 【行動目標(SB0)】 ・基本的態度を身につけることができる。 ・適切な検査・測定を行うことができる。 ・対象者が生活行為で抱える問題点を把握し、作業療法の計画立案ができる。				
【教科書・リザーブドブック】 臨床評価実習の手引き				
【参考書】 齋藤佑樹, 上江洲聖: 作業療法の曖昧さを引き受けるということ, 医学書院, 2023年。 齋藤佑樹: 作業で語る事例報告 第2版: 作業療法レジメの書きかた・考えかた, 医学書院, 2022年。 市川和子: 作業療法臨床実習とケーススタディ 第2版, 医学書院, 2011年。				
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・臨床評価実習の学外達成度評価、提出物評価、報告会評価、OSCE、学習到達度確認試験の結果から総合的に評価を行う。 ・評価基準の詳細内容は「実習の手引き」に記載する。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		20		20	20	20		20	100
評価指標	取り込む力・知識	10		10	5	10		5	40
	思考・推論・創造の力	5		5	5			5	20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力				5			5	10
	学修に取り組む姿勢	5		5	5	10		5	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習・教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-4	学内実習 オリエンテーション(学内) 評価実習での注意事項, 課題確認	講義	作業療法評価についての知識, 技術の整理・まとめ	60
5-16	学内実習 OSCE, 学習到達度確認試験	講義・演習・試験	作業療法評価についての知識, 技術の整理・まとめ	60
学外1週目	学外実習 (医療施設, 老人保健施設等) 作業療法見学, 情報収集, 作業療法評価の実施と修正	実習	行動記録, 実習記録の作成 ケースノートの作成 等	60
学外2週目	学外実習 (医療施設, 老人保健施設等) 作業療法見学, 情報収集, 作業療法評価の実施と修正	実習	行動記録, 実習記録の作成 ケースノートの作成 等	60
学外3週目	学外実習 (医療施設, 老人保健施設等) 作業療法見学, 情報収集, 作業療法評価の実施と修正	実習	行動記録, 実習記録の作成 ケースノートの作成 等	60
学外4週目	学外実習 (医療施設, 老人保健施設等) 作業療法見学, 情報収集, 作業療法評価の実施と修正、振り返り	実習	行動記録, 実習記録の作成 ケースノートの作成 等	60
17-45	学内実習 実習の振り返り, 症例報告会, OSCE, 学習到達度確認試験	講義・演習・試験	実習の振り返り, 発表用資料作成, 作業療法評価についての知識, 技術の整理・まとめ	60

【科目名】		評価実習	【担当教員】	知名 規人
【授業区分】	専門分野(臨床実習)	【授業コード】	4-26-0005-1	(メールアドレス)
【開講時期】	通年(後期)	【選択必修】	必修	china@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	5	【コマ数】	225	(オフィスアワー) 火曜日13:30-15:00
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目の履修は、臨床実習規程第3条(2)に準ずる者のみとします。 本科目は、学外実習を中心とした双方向型授業(アクティブラーニング)の科目で、実務経験のある教員が担当します。 実習の手引きを熟読しておいてください。また、事前に実習施設に関わる情報を収集し、必要な資料等を準備しておいてください。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 実習施設へ行く前に身だしなみを整えること。不適切な身だしなみと判断された学生については実習を認めないことがある。 評価実習終了後は、学内にて症例発表を行うため、症例報告要約の準備を行うこと。 実習中に事故・事件その他の問題が起きた場合は、直ぐに実習先のスタッフ及び本学へ連絡すること。 生成系AIの利用は、自己学習に用いる場面にのみ許可します(報告要約作成時は禁止)。				
【講義概要】 (目的) 評価実習は、学生毎に1施設に赴き、臨床実習指導者のもと、症例に即した検査・測定方法を選択できること、さらに様々な症例を数多く実践することにより、各症例における問題点の抽出や対象者の障害像とニーズなどとの結びつけを臨床実習指導者の指導を受けながら適切に把握することを目的とする。 (当該科目と学位授与方針等との関連性; A-1,A-2,A-3. 0-1,0-2,0-3) (方法) 4週間、学外の施設に赴き、臨床実習指導者のもとの実習を行う。学外実習に加えて、実習の前後併せて1週間を学内実習期間とする。学内実習では、実習前の試験の実施(実技、基礎知識の確認)、実習後の実習報告、症例発表および学外で身につけた技術、知識を試験にて確認し、評価を行う。				
【一般教育目標(GIO)】 作業療法士としての①倫理観や基本的態度を身につける、②許容される臨床技能を実践できる、③臨床実習指導者の作業療法の臨床思考過程を説明し、作業療法の計画立案ができる 【行動目標(SB0)】 ・基本的態度を身につけることができる。 ・適切な検査・測定を行うことができる。 ・対象者が生活行為で抱える問題点を把握し、作業療法の計画立案ができる。				
【教科書・リザーブドブック】 臨床評価実習の手引き				
【参考書】 齋藤佑樹, 上江洲聖: 作業療法の曖昧さを引き受けるということ, 医学書院, 2023年。 齋藤佑樹: 作業で語る事例報告 第2版: 作業療法レジメの書きかた・考えかた, 医学書院, 2022年。 市川和子: 作業療法臨床実習とケーススタディ 第2版, 医学書院, 2011年。				
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・臨床評価実習の学外達成度評価、提出物評価、報告会評価、OSCE、学習到達度確認試験の結果から総合的に評価を行う。 ・評価基準の詳細内容は「実習の手引き」に記載する。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		20		20	20	20		20	100
評価指標	取り込む力・知識	10		10	5	10		5	40
	思考・推論・創造の力	5		5	5			5	20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力				5			5	10
	学修に取り組む姿勢	5		5	5	10		5	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習・教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-4	学内実習 オリエンテーション(学内) 評価実習での注意事項，課題確認	講義	作業療法評価についての知識，技術の整理・まとめ	60
5-16	学内実習 OSCE，学習到達度確認試験	講義・演習・試験	作業療法評価についての知識，技術の整理・まとめ	60
学外1週目	学外実習 (医療施設，老人保健施設等) 作業療法見学，情報収集，作業療法評価の実施と修正	実習	行動記録，実習記録の作成 ケースノートの作成 等	60
学外2週目	学外実習 (医療施設，老人保健施設等) 作業療法見学，情報収集，作業療法評価の実施と修正	実習	行動記録，実習記録の作成 ケースノートの作成 等	60
学外3週目	学外実習 (医療施設，老人保健施設等) 作業療法見学，情報収集，作業療法評価の実施と修正	実習	行動記録，実習記録の作成 ケースノートの作成 等	60
学外4週目	学外実習 (医療施設，老人保健施設等) 作業療法見学，情報収集，作業療法評価の実施と修正、振り返り	実習	行動記録，実習記録の作成 ケースノートの作成 等	60
17-45	学内実習 実習の振り返り，症例報告会，OSCE，学習到達度確認試験	講義・演習・試験	実習の振り返り，発表用資料作成，作業療法評価についての知識，技術の整理・まとめ	60

リハビリテーション学科

【科目名】	地域実習		【担当教員】	長谷川 裕
【授業区分】	専門分野(臨床実習)	【授業コード】	4-26-0015-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	必修	hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	2	【コマ数】	90コマ	(オフィスアワー) 月曜～金曜、13：00～13：20
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
・この科目の履修は、本学の臨床実習における規程によります。・作業療法学専攻3年次の学生であること。 ・事前に実習施設に関わる情報を収集し、必要な資料等を準備しておくこと。 ・学内実習及び学外実習に関してのスケジュールは、適宜お知らせをする。（※この科目は実務経験者対応科目である。） ・「この科目の履修条件は臨床実習規定第3条（2）に準ずる者のみとする」 ・障害等があって配慮が必要な学生は事前に相談することを推奨します。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
実習の手引きを熟読しておくこと。事前に実習施設に関わる情報を収集し、必要な資料等を準備しておくこと。実習施設へ行く前に、身だしなみを整えること。不適切な身だしなみと判断された学生については実習を認めないことがある。実習中に事故・事件その他の問題が起きた場合は、直ぐに実習先のスタッフ及び本学へ連絡すること。地域実習終了後は、学内にて実習で学んだことに関する発表を行うため、発表の準備を行うこと。提出課題、発表用資料での生成AIの直接的な使用（文章等の複写等）は禁止する。アイデアを得るための使用は認める。生成Aiから得た情報は必ず、文献、書籍等の資料で確認。				
【講義概要】				
(目的)				
評価実習の後に地域実習を実施する。地域実習の目的は（１）地域リハビリテーションにおける作業療法士の業務・役割を学ぶ。（２）病院・施設から地域に移行する際の課題を学ぶ。（３）課題を解決し、地域を支えるソフト・ハードを含めたマネジメントを学ぶ。 （当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2,3,0-1,2)				
(方法)				
地域実習は3年次に行う。8日間は通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション施設に赴き、臨床実習指導者のもとで実習を行う。学外実習前後に学内実習としてセミナー、報告会等を行う。 この授業はアクティブラーニングを用います。				
【一般教育目標(GIO)】				
作業療法士として必要な、地域リハビリテーションの対象者の障害に応じた評価と治療について修得する。 地域リハビリテーション分野で臨床を行う実習指導者の実践の目的、方法について理解することができる。 地域リハビリテーション分野における作業療法の業務について把握し、専門職としての態度や行動を身につける。				
【行動目標(SBO)】				
地域リハビリテーションの対象者の評価と治療の概要を述べることができる。 臨床実習指導者の行う実践の目的、方法について理解し、述べることができる。 地域リハビリテーションに携わる作業療法士として、適切な態度、行動をとることができる。 臨床実習指導者の業務について把握し、その業務を補助し、その一部を実施することができる。				
【教科書・リザーブドブック】				
実習の手引き（配付）				
【参考書】				
編集・市川和子、作業療法臨床実習とケーススタディ（第2版）、医学書院、2011年、¥4,200（税別） 作業療法に関わる参考書すべて				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のG P A制度に従う。 レポート、実習の成果発表、学外実習時の評価により総合的に判断して成績評価を行う。 出席点は評価に含みません。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				10	10	80			100
評価指標	取り込む力・知識			5		20			25
	思考・推論・創造の力			5		20			25
	コラボレーションとリーダーシップ				5				5
	発表力				5				5
	学修に取り組む姿勢					40			40

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	オリエンテーション(学内) 地域実習の目的、注意事項、提出書類の確認、実習要項の読み合わせ、課題確認等	講義	施設調査 自己課題の確認	60
3,4	地域実習(学内) 学生紹介用紙作成、	演習	配付資料を読んでおく。	60
5,6	地域リハビリテーション資源について(学内)	個人演習、グループ学習、発表、ディスカッション	配付資料を読んでおく。	90
7,8	臨床実習における注意事項(学内)	講義	配付資料を読んでおく。	90
学外1週目	地域実習(学外)	実習	臨床見学・体験 デイリーノート、その他	60
学外2週目	地域実習(学外)	実習	臨床見学・体験 デイリーノート、その他	60
9~18	地域実習(学内セミナー) 専任教員からの指導、学内実習、レポート発表	資料作成、発表、ディスカッション	課題作成、課題提出、学習課題報告	60

リハビリテーション学科

【科目名】		地域実習	【担当教員】	長谷川 裕
【授業区分】	専門分野(臨床実習)	【授業コード】	4-26-0015-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	通年(後期)	【選択必修】	必修	hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	2	【コマ数】	90コマ	(オフィスアワー) 月曜～金曜、13:00～13:20
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・この科目の履修は、本学の臨床実習における規程によります。・作業療法学専攻3年次の学生であること。 ・事前に実習施設に関わる情報を収集し、必要な資料等を準備しておくこと。 ・学内実習及び学外実習に関してのスケジュールは、適宜お知らせをする。(※この科目は実務経験者対応科目である。) ・「この科目の履修条件は臨床実習規定第3条(2)に準ずる者のみとする」 ・障害等があって配慮が必要な学生は事前に相談することを推奨します。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 実習の手引きを熟読しておくこと。事前に実習施設に関わる情報を収集し、必要な資料等を準備しておくこと。実習施設へ行く前に、身だしなみを整えること。不適切な身だしなみと判断された学生については実習を認めないことがある。実習中に事故・事件その他の問題が起きた場合は、直ぐに実習先のスタッフ及び本学へ連絡すること。地域実習終了後は、学内にて実習で学んだことに関する発表を行うため、発表の準備を行うこと。提出課題、発表用資料での生成AIの直接的な使用(文章等の複写等)は禁止する。アイデアを得るための使用は認める。生成AIから得た情報は必ず、文献、書籍等他の資料で確認。				
【講義概要】 (目的) 評価実習の後に地域実習を実施する。地域実習の目的は(1)地域リハビリテーションにおける作業療法士の業務・役割を学ぶ。(2)病院・施設から地域に移行する際の課題を学ぶ。(3)課題を解決し、地域を支えるソフト・ハードを含めたマネジメントを学ぶ。 (当該科目と学位授与方針等との関連性; A-1,2,3,0-1,2) (方法) 地域実習は3年次に行う。8日間は通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション施設に赴き、臨床実習指導者のもとで実習を行う。学外実習前後に学内実習としてセミナー、報告会等を行う。 この授業はアクティブラーニングを用います。				
【一般教育目標(G10)】 作業療法士として必要な、地域リハビリテーションの対象者の障害に応じた評価と治療について修得する。 地域リハビリテーション分野で臨床を行う実習指導者の実践の目的、方法について理解することができる。 地域リハビリテーション分野における作業療法の業務について把握し、専門職としての態度や行動を身につける。				
【行動目標(SB0)】 地域リハビリテーションの対象者の評価と治療の概要を述べることができる。 臨床実習指導者の行う実践の目的、方法について理解し、述べることができる。 地域リハビリテーションに携わる作業療法士として、適切な態度、行動をとることができる。 臨床実習指導者の業務について把握し、その業務を補助し、その一部を実施することができる。				
【教科書・リザーブドブック】 実習の手引き(配付)				
【参考書】 編集・市川和子、作業療法臨床実習とケーススタディ(第2版)、医学書院、2011年、¥4,200(税別) 作業療法に関わる参考書すべて				
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 レポート、実習の成果発表、学外実習時の評価により総合的に判断して成績評価を行う。 出席点は評価に含みません。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				10	10	80			100
評価指標	取り込む力・知識			5		20			25
	思考・推論・創造の力			5		20			25
	コラボレーションとリーダーシップ				5				5
	発表力				5				5
	学修に取り組む姿勢					40			40

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	オリエンテーション(学内) 地域実習の目的、注意事項、提出書類の確認、実習要項の読み合わせ、課題確認等	講義	施設調査 自己課題の確認	60
3,4	地域実習(学内) 学生紹介用紙作成、	演習	配付資料を読んでおく。	60
5,6	地域リハビリテーション資源について(学内)	個人演習、グループ学習、発表、ディスカッション	配付資料を読んでおく。	90
7,8	臨床実習における注意事項(学内)	講義	配付資料を読んでおく。	90
学外1週目	地域実習(学外)	実習	臨床見学・体験 デイリーノート、その他	60
学外2週目	地域実習(学外)	実習	臨床見学・体験 デイリーノート、その他	60
9~18	地域実習(学内セミナー) 専任教員からの指導、学内実習、レポート発表	資料作成、発表、ディスカッション	課題作成、課題提出、学習課題報告	60

【科目名】作業療法技術学Ⅰ（アートセラピー）		【担当教員】長谷川 千種
【授業区分】専門分野(特論)	【授業コード】4-26-0000-2	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	c_hasegawa@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15コマ	(オフィスアワー) 月～金 10:00～17:00
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・この科目は、個人を尊重し共感的に相手を理解する力を養う科目です。 ・この講義はアクティブラーニングを用います。 ・体験による気づきを重視しますので、演習に参加することが必須の科目です。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・この科目では10分以上の遅れで遅刻となります。 ・小テストの結果は返却します。 ・生成系AIの利用は禁止しています。		
【講義概要】 (目的) アートセラピーの中でも特に、人間性心理学の理論を基礎としてクライアントに対峙する「パーソン・センタード表現アートセラピー」と、高齢者の介護予防や認知症の予防などの効果が期待できる「臨床美術」を学ぶことによって、自分と他者をより深く理解し、対人援助者としての在り方や対象者への関わり方を学ぶことができる。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性；0-1 (方法) ・パーソン・センタード表現アートセラピーの技法と理論を理解できるよう、実際のセッション体験を取り入れた講義を行います。 ・「臨床美術」の独自のアートプログラムを用いた創作活動を取り入れた講義を行います。 ・作品を鑑賞する力を養う「対話型アート鑑賞」を取り入れた講義を行います。 ・状況に応じて配信講義を行います。		
【一般教育目標(GI0)】 対人援助者として必要な態度、感覚、技術を習得するために、パーソン・センタード表現アートセラピーと臨床美術の理論と実際に体験して理解する。 【行動目標(SB0)】 パーソン・センタード表現アートセラピーと臨床美術を将来の対人援助もしくは実生活の中で、どのように応用することができるか考察できる。		
【教科書・リザーブドブック】 教科書は使用しません。		
【参考書】 ・小野京子/著「癒しと成長の表現アートセラピー」岩崎学術出版社,2011,¥2,750（税込） ・関則雄/著「臨床アートセラピー- 理論と実践- 」日本評論社,2016,¥3,080（税込） ・金子健二/編「改訂新版 臨床美術-認知症治療としてのアートセラピー」日本地域社会研究所,2007,¥2,750（税込）		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規程のGPA制度に従います。 ・成績評価は下記の評価基準により100点満点で60点以上を合格とします。 ・出席点は評価に含まれません。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		0	30	60	0	0	0	10	100
評価指標	取り込む力・知識		30						30
	思考・推論・創造の力			60					60
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	PCA表現アートセラピーセッション体験 (1) ・絵を中心として ・対話型アート鑑賞	講義 一部演習	講義内容の復習	45分
3・4	・芸術療法とは何か ・アートセラピーにおける素材	講義 (配信)	講義内容の復習	45分
5・6	PCA表現アートセラピーセッション体験 (2) ・粘土を中心として ・対話型アート鑑賞	講義 一部演習	講義内容の復習	45分
7・8	PCA表現アートセラピーの適用 (1) ・精神科クリニックと高齢者施設	講義 (配信)	講義内容の復習	45分
9・10	PCA表現アートセラピーの適用 (2) ・高齢者へのセッション	講義 一部演習	講義内容の復習	45分
11・12	・ダンスムーブメントセラピーとは ・ドラマセラピーとは	講義 (配信)	講義内容の復習	45分
13・14	PCA表現アートセラピーセッション体験 (3) ・ダンスムーブメント、ドラマを中心として ・対話型アート鑑賞	講義 一部演習	講義内容の復習	45分
15	臨床美術体験 ・りんごの量感画	講義 一部演習	講義内容の復習	45分

【科目名】作業療法技術学Ⅱ（音楽療法）		【担当教員】大竹 孔三
【授業区分】専門分野(特論)	【授業コード】5-31-0075-2	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	soundingjoyjp@gmail.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 授業終了後、メールにて応じます。
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 配布された資料の復習を行ってください。		
【講義概要】 (目的) 精神障害者・発達障害児（者）・高齢者に共通して有効な「音楽療法」を神経学や心理学、音楽理論の観点から検証し、各疾患への技術の習熟を目的とする。また、音楽療法セッションプログラム立案を通し、現場で音楽療法の要素を応用できる力を養う。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,0-2,R-1 (方法) 音楽療法の理論と実技を交えた講義を中心とする。終盤には、グループに分かれてセッション計画を立案し、発表する。		
【一般教育目標(GIO)】 ・ 各種の音もしくは音楽が人にもたらす利点と欠点を知る。 ・ その利点と欠点を神経学や心理学、音楽理論の観点から検証し、各疾患へのより良い音楽の提供方法を知る。		
【行動目標(SB0)】 ・ 理論について学ぶと共に、実際にいくつかの種類の音楽を体感し、音楽療法について説明できる。 ・ 実際に音楽療法が使われている病院や施設の症例を見て、その有用性を理解できる。音楽療法セッションのプログラムを立案し、プログラムが有効かどうか様々な角度から考えることができる。		
【教科書・リザーブドブック】 講義の内容に合わせて配布します。		
【参考書】 必要に応じて指示します。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・ 成績評価基準は、本学学則規程の GPA 制度に従う。出席点は評価に含まない。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				40	60				100
評価指標	取り込む力・知識			20					20
	思考・推論・創造の力			20	20				40
	コラボレーションとリーダーシップ				20				20
	発表力				20				20
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	・オリエンテーション ・音楽療法について 楽器体験・定義・歴史	講義・演習	配布された資料の復習	30分
3-4	・子どもの音楽療法 ・高齢者の音楽療法	講義・演習	配布された資料の復習	30分
5-6	・音楽療法の特性・対象者と目標等・リハビリテーション・精神科・心療内科の音楽療法 ・緩和ケア・NICU・その他の音楽療法	講義	配布された資料の復習	30分
7-10	音楽療法プログラム立案及び音楽療法プログラム発表の予行演習	講義・演習	配布された資料の復習	30分
11-12	音楽療法プログラム予行演習	演習	配布された資料の復習	30分
13-14	・グループ発表	演習	配布された資料の復習	30分
15	レポート課題	試験		

【科目名】 作業療法技術学Ⅲ（特別支援教育）		【担当教員】 森本 千恵
【授業区分】 専門分野(特論)	【授業コード】 4-26-0010-2	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	c.morimoto@nur.ac.jp
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 講義後1時間程度
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 発達心理学および発達障害に関わる講義等について復習しておくこと。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) ・講義内容に関連する事項については、各自で学習することが必要である。 ・わからないことがあれば、必ず質問すること。わからないことをそのままにして進まないようにすること。 ・特別な事情を除いて、授業開始後20分以上の入室は遅刻とみなす。 ・生成AIの利活用は認めない。 ・この科目は実務経験者対応科目である。		
【講義概要】 (目的) 作業療法の新しい分野「特別支援教育」における作業療法について学ぶ。特別支援教育分野での作業療法士としての介入の方法について事例を通して学修することを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2;0-2 (方法) ・まず特別支援教育についての理解を深めた後に、各教育分野での障害特性について考え、生活実態や年齢に即した学校での作業療法士としての支援のあり方について、ディスカッションをまじえながら、導き出すことができるようにする。 ・試験結果は、必要に応じて適宜、文書あるいは口頭でフィードバックする。		
【一般教育目標(GI0)】 特別支援教育の概要を知り、特別支援教育分野での作業療法士の役割について理解を深める。		
【行動目標(SB0)】 ・特別支援教育の概要を説明できる。 ・特別支援教育における作業療法士の意義と役割を検討/考察できる。 ・児童生徒の実態に即した支援について検討/考察できる。 ・教職員と連携した支援について検討/考察できる。		
【教科書・リザーブドブック】 ・適宜紹介する。		
【参考書】 ・適宜紹介する。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・受講態度、グループワークへの取り組み、プレゼンテーションについて総合的に評価する		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合					80			20	100
評価指標	取り込む力・知識				20				20
	思考・推論・創造の力				20				20
	コラボレーションとリーダーシップ				20				20
	発表力				20				20
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	・コースイントロダクション ・特別支援教育と作業療法	講義		
3・4	・特別支援教育について ・学齢期の子どもの発達について（復習）	講義	復習：授業内容を振り返るとともに、関連事項について調べる	120
5・6	障害をもつ児童への支援について（小学部）	講義・グループワーク	復習：授業内容を振り返るとともに、関連事項について調べる	120
7・8	障害をもつ生徒への支援について（中学部）	講義・グループワーク	復習：授業内容を振り返るとともに、関連事項について調べる	120
9・10	障害をもつ生徒への支援について（高等部）	講義・グループワーク	復習：授業内容を振り返るとともに、関連事項について調べる	120
11・12	事例検討	グループワーク・発表	復習：授業内容を振り返るとともに、関連事項について調べる	120
13・14	事例検討	グループワーク・発表	復習：授業内容を振り返るとともに、関連事項について調べる	120
15	まとめ	講義・グループワーク・発表	復習：授業内容を振り返るとともに、関連事項について調べる	120

【科目名】作業療法研究ゼミⅠ		【担当教員】ゼミ担当教員、長谷川 裕
【授業区分】専門分野(特論)	【授業コード】4-27-0030-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】通年(前期)	【選択必修】選択	hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15コマ	(オフィスアワー) 月曜日～木曜日 13:00～13:20
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・この科目は作業療法研究法を修得していることが履修条件となる。 ・この科目は、医療機関等で作業療法に関する実務経験者対応科目である。 ・障害等があって配慮が必要な学生は事前に相談することを推奨します。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ゼミ指導教員の元で、研究の実施、論文の作成、発表を行うこと。 生成AI 使用ルール：提出課題、発表用資料での直接的な使用（生成AIの文章等の複写等）は禁止します。アイデアを得るための使用は認めます。生成AIから得た情報は必ず、文献、書籍等他の資料で確認してください。詳細は、ゼミ指導教員と確認すること。		
【講義概要】 (目的) 修学期間の大成として、これまでに修得した演習・実習・学習の中で生じた疑問点や問題点に対して、科学的に検討し、疑問の答えを導くことを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2,3 0-1,2,3 (方法) 専攻の専任教員の指導を受け、研究という形で、学生自身の作業療法に関する疑問を明確にし、疑問を解決する。具体的には、科目「作業療法研究法」の中で、自らが作成した研究計画書に沿って文献検索・調査・実験等を行い、導き出された結果を、要旨作成および学内発表をもって公にする。 この授業はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GI0)】 研究とは何かを理解する。 研究の進め方について修得する。 研究論文概要者の作成について修得する。 得られた結果をまとめ考察することを修得する。 【行動目標(SB0)】 指導教員の元で、研究計画書に基づいて、研究の実施を行うことができる。		
【教科書・リザーブドブック】 指導教員から適宜示される。		
【参考書】 指導教員から適宜示される。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含みません。 レポート、成果発表にて評価を行います。 レポートの返却は行いません。フィードバックは必要に応じて行います。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				40	40			20	100
評価指標	取り込む力・知識			20					20
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				30				30
	学修に取り組む姿勢				10			20	30

[illegible]

【科目名】作業療法研究ゼミⅠ		【担当教員】ゼミ担当教員、長谷川 裕
【授業区分】専門分野(特論)	【授業コード】4-27-0030-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】通年(後期)	【選択必修】選択	hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15コマ	(オフィスアワー) 月曜日～木曜日 13:00～13:20
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・この科目は作業療法研究法を修得していることが履修条件となる。 ・この科目は、医療機関等で作業療法に関する実務経験者対応科目である。 ・障害等があって配慮が必要な学生は事前に相談することを推奨します。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ゼミ指導教員の元で、研究の実施、論文の作成、発表を行うこと。 生成AI 使用ルール：提出課題、発表用資料での直接的な使用（生成AIの文章等の複写等）は禁止します。アイデアを得るための使用は認めます。生成AIから得た情報は必ず、文献、書籍等他の資料で確認してください。詳細は、ゼミ指導教員と確認すること。		
【講義概要】 (目的) 修学期間の大成として、これまでに修得した演習・実習・学習の中で生じた疑問点や問題点に対して、科学的に検討し、疑問の答えを導くことを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2,3 0-1,2,3 (方法) 専攻の専任教員の指導を受け、研究という形で、学生自身の作業療法に関する疑問を明確にし、疑問を解決する。具体的には、科目「作業療法研究法」の中で、自らが作成した研究計画書に沿って文献検索・調査・実験等を行い、導き出された結果を、要旨作成および学内発表をもって公にする。 この授業はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GI0)】 研究とは何かを理解する。 研究の進め方について修得する。 研究論文概要者の作成について修得する。 得られた結果をまとめ考察することを修得する。 【行動目標(SB0)】 指導教員の元で、研究計画書に基づいて、研究の実施を行うことができる。		
【教科書・リザーブドブック】 指導教員から適宜示される。		
【参考書】 指導教員から適宜示される。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含みません。 レポート、成果発表にて評価を行います。 レポートの返却は行いません。フィードバックは必要に応じて行います。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				40	40			20	100
評価指標	取り込む力・知識			20					20
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				30				30
	学修に取り組む姿勢				10			20	30

[illegible]

【科目名】作業療法総合演習Ⅰ		【担当教員】藤本 聡
【授業区分】専門分野(特論)	【授業コード】4-26-0025-1	(メールアドレス)
【開講時期】通年(前期)	【選択必修】必修	fujimoto.s@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】30コマ	(オフィスアワー) 月～木：13:00～13:25
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・この科目は実務経験者対応科目である。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) ・指定教科書（特に共通問題）解剖・生理・運動学について、理解できない用語や問題等を調べて書き込み、国試対策の参考書となるように作成する。 ・遅刻は授業開始後20分まで、早退は終了20分前まで、それ以上の遅刻、早退はすべて欠席扱いとなる。 ・生成系AIの利用は禁止しています。授業内での利用は厳禁となっており、このルールに違反した場合は、学内の規程に則って、適切な措置を取ります。		
【講義概要】 (目的) ・国家試験対策として、作業療法の基礎知識を学び、専門職業人としての基本的臨床実践能力の向上させることを目的に実施する。 ・当該科目と学位授与方針との関連性：A-2,3 ・当該科目と学位授与方針との関連性；0-1,2 (方法) ・作業療法士の国家試験（理学・作業療法士国家試験共通問題）の過去問題（解剖・生理・運動学中心）を理解するために、資料を作成する演習が中心である。 ・この授業はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GI0)】 4年次に受験する国家試験に合格できるように、国試問題（共通問題）解剖・生理・運動学の理解を深める。		
【行動目標(SB0)】 「クエスチョン・バンク理学療法士・作業療法士国家試験問題解説2025共通問題」の指定教科書を利用して、解剖・生理・運動学を理解できるような資料を作成する。		
【教科書・リザーブドブック】 ○クエスチョン・バンク理学療法士・作業療法士国家試験問題解説2025共通問題 発行所 株式会社メディックメディア		
【参考書】		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・試験とレポート、ポートフォリオで成績を算出する。 ・出席点は評価に含みません。 ・試験・レポートの解答の返却はおこないません。フィードバックは必要に応じ補講等にておこないます。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60		20			20		100
評価指標	取り込む力・知識	30		10					40
	思考・推論・創造の力	30							30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			10			20		30

[illegible]

【科目名】作業療法総合演習Ⅰ		【担当教員】柳澤 博
【授業区分】専門分野(特論)	【授業コード】4-26-0025-1	(メールアドレス)
【開講時期】通年(後期)	【選択必修】必修	h.yanagisawa@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】30コマ	(オフィスアワー) 月～木：13:00～13:25
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・この科目は実務経験者対応科目である。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・指定教科書（解剖・生理・運動学）について、理解できない用語や問題等を調べて書き込み、国試対策の参考書となるように作成する。 ・この科目は自身が所有するノートパソコンかタブレットPCを持参して学ぶBYOD (Bring Your Own Device) で実施します。 ・イヤホンないしヘッドホンを持参・充電機器持参（パソコン・イヤホン） ・遅刻は授業開始後20分まで、早退は終了20分前まで、それ以上の遅刻、早退はすべて欠席扱いとなる。 ・生成系AIの利用は禁止しています。授業内での利用は厳禁となっており、このルールに違反した場合は、学内の規程に則って、適切な措置を取ります。		
【講義概要】 (目的) ・国家試験対策として、作業療法の基礎知識を学び、専門職業人としての基本的臨床実践能力の向上させることを目的に実施する。 ・当該科目と学位授与方針との関連性：A-2,3 ・当該科目と学位授与方針との関連性：0-1,2 (方法) ・作業療法士の国家試験（理学・作業療法士国家試験共通問題）の過去問題（解剖・生理・運動学中心）を理解するために、資料を作成する演習が中心である。 ・この授業はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GI0)】 4年次に受験する国家試験に合格できるように、国試問題（共通問題）解剖・生理・運動学の理解を深める。 【行動目標(SB0)】 指定教科書を利用して、解剖・生理・運動学を理解できるような資料を作成する。		
【教科書・リザーブドブック】 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 専門基礎分野 基礎医学 2025（医歯薬出版）		
【参考書】 過去に使用した解剖学・生理学・運動学の教科書や資料を適宜持参し参照すること		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・試験とレポートで成績を算出する。 ・出席点は評価に含みません。 ・試験・レポートの解答の返却はおこないません。フィードバックは必要に応じ補講等にておこないます。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60		40					100
評価指標	取り込む力・知識	30		20					50
	思考・推論・創造の力	30		20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

[illegible]

【科目名】基礎ゼミⅥ		【担当教員】星野 浩通
【授業区分】 教養分野(高年次教養教育)	【授業コード】1-07-0000-2	(メールアドレス)
【開講時期】通年(前期)	【選択必修】選択	hoshino@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 月～金 8:30-18:00
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) この科目は選択科目ですが、将来就職に繋げる上で重要となってくる科目ですので、できるだけ受講してください。 ＊障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員と事前に相談してください。 この科目は、アクティブラーニングを中心としてグループワークやディスカッションを行います。 生成系 AIの利用を全面的に許可しています。授業内、および、予復習、成果物(レポート等含む)作成において自由に利用してください。使用した場合にその旨をレポート等に記載してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・この科目は、キャリアセンター教員、外部講師も招いて就職に関連する内容について教授いただきます。面接の仕方や履歴書の書き方などについては、受講生の方に実際に行ってもらいます。 ・専攻により、授業日程・内容の順番が入れ替わることがあります。 ・受講した際にレポート課題を行ってもらいますが、レポート(感想文含む)については返却します。 ・クリッカーを用いた双方向授業を行う場合もある。		
【講義概要】 (目的) 3年次は、卒業後の就職に向け自己を認識し、就職活動への意識を高めることを目的とする。また3年次後期からは、専攻によっては就職活動が開始可能となるような力を養成することをも目的とする。 当該科目と学位授与方針との関連性：A-1.2 (方法) 就職に関しての個別相談や指導を行う他、これからの就職活動に向けた自己理解セミナーを実施する。就職ガイダンスや各種キャリア講座、履歴書作成や面接マナーなどを実施する。		
【一般教育目標(GI0)】 就職に繋げるための活動のポイントを理解する 【行動目標(SB0)】 ・自己分析を通して、自分を知り、自分の強みをアピールすることができる ・自分の目標とする職業・分野、やりたいことを見出し、就職活動に繋げることができる ・就職活動のスケジュールリングができる ・スケジュール管理ができる		
【教科書・リザーブドブック】 なし		
【参考書】 新潟リハビリテーション大学Placement Book		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う ・ポートフォリオ課題の評価、レポート(感想文含む)課題、その他を総合的に判断し成績評価とする ・出席点は評価に含まれない。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				40			40	20	100
評価指標	取り込む力・知識			20			20		40
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			20			20	20	60

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	イントロダクション、就職活動の流れの説明	講義 大矢薫 指定教室	配布資料	30
3.4	キャリアポートフォリオ作成を通して自己理解①	講義 大矢薫 指定教室	配布資料	30
5.6	キャリアポートフォリオ作成を通して自己理解②	講義 大矢薫 指定教室	配布資料	30
7.8	外部講師（マイナビ）による自己理解セミナー	講義・演習 (外部講師) 指定教室	配布資料	30
9.10	専攻別を実施 (PTOT専攻は就職活動準備) (RP専攻はインターシップ講座) ＊専攻別で時間場所が違います。	講義・演習。アクティブラーニング (PTOT専攻：星野) (RP教員：大矢)	配布資料	30
11.12	専攻別を実施 (PTOT専攻は就職活動準備) (RP専攻はインターンシップ・マナー講座) ＊専攻別で時間場所が違います。	講義・演習。アクティブラーニング (PTOT専攻：星野) (RP教員：大矢)	配布資料	30
13.14	外部講師（マイナビ）による履歴書・面接対策セミナー	講義・演習 (外部講師)	配布資料	30
15	専攻別を実施 (PTOT専攻はポートフォリオまとめ) (RP専攻はSPI対策講座) ＊専攻別で時間場所が違います。	講義・演習。アクティブラーニング (PTOT専攻：星野) (RP教員：大矢)	配布資料	30

【科目名】基礎ゼミⅥ		【担当教員】星野 浩通
【授業区分】 教養分野(高年次教養教育)	【授業コード】1-07-0000-2	(メールアドレス)
【開講時期】通年(後期)	【選択必修】選択	hoshino@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 月～金 8:30-18:00
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) この科目は選択科目ですが、将来就職に繋げる上で重要となってくる科目ですので、できるだけ受講してください。 ＊障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員と事前に相談してください。 この科目は、アクティブラーニングを中心としてグループワークやディスカッションを行います。 生成系 AIの利用を全面的に許可しています。授業内、および、予復習、成果物(レポート等含む)作成において自由に利用してください。使用した場合にその旨をレポート等に記載してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・この科目は、キャリアセンター教員、外部講師も招いて就職に関連する内容について教授いただきます。面接の仕方や履歴書の書き方などについては、受講生の方に実際に行ってもらいます。 ・専攻により、授業日程・内容の順番が入れ替わることがあります。 ・受講した際にレポート課題を行ってもらいますが、レポート(感想文含む)については返却します。 ・クリッカーを用いた双方向授業を行う場合もある。		
【講義概要】 (目的) 3年次は、卒業後の就職に向け自己を認識し、就職活動への意識を高めることを目的とする。また3年次後期からは、専攻によっては就職活動が開始可能となるような力を養成することをも目的とする。 当該科目と学位授与方針との関連性：A-1.2 (方法) 就職に関しての個別相談や指導を行う他、これからの就職活動に向けた自己理解セミナーを実施する。就職ガイダンスや各種キャリア講座、履歴書作成や面接マナーなどを実施する。		
【一般教育目標(GIO)】 就職に繋げるための活動のポイントを理解する 【行動目標(SB0)】 ・自己分析を通して、自己を知り、自分の強みをアピールすることができる ・自分の目標とする職業・分野、やりたいことを見出し、就職活動に繋げることができる ・就職活動のスケジュールリングができる ・スケジュール管理ができる		
【教科書・リザーブドブック】 なし		
【参考書】 新潟リハビリテーション大学Placement Book		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う ・ポートフォリオ課題の評価、レポート(感想文含む)課題、その他を総合的に判断し成績評価とする ・出席点は評価に含まれない。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				40			40	20	100
評価指標	取り込む力・知識			20			20		40
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			20			20	20	60

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	イントロダクション、就職活動の流れの説明	講義 大矢薫 指定教室	配布資料	30
3.4	キャリアポートフォリオ作成を通して自己理解①	講義 大矢薫 指定教室	配布資料	30
5.6	キャリアポートフォリオ作成を通して自己理解②	講義 大矢薫 指定教室	配布資料	30
7.8	外部講師（マイナビ）による自己理解セミナー	講義・演習 (外部講師) 指定教室	配布資料	30
9.10	専攻別を実施 (PTOT専攻は就職活動準備) (RP専攻はインターシップ講座) ＊専攻別で時間場所が違います。	講義・演習。アクティブラーニング (PTOT専攻：星野) (RP教員：大矢)	配布資料	30
11.12	専攻別を実施 (PTOT専攻は就職活動準備) (RP専攻はインターンシップ・マナー講座) ＊専攻別で時間場所が違います。	講義・演習。アクティブラーニング (PTOT専攻：星野) (RP教員：大矢)	配布資料	30
13.14	外部講師（マイナビ）による履歴書・面接対策セミナー	講義・演習 (外部講師)	配布資料	30
15	専攻別を実施 (PTOT専攻はポートフォリオまとめ) (RP専攻はSPI対策講座) ＊専攻別で時間場所が違います。	講義・演習。アクティブラーニング (PTOT専攻：星野) (RP教員：大矢)	配布資料	30

【科目名】		職場管理学	【担当教員】	柳澤 博
【授業区分】	専門分野(作業療法管理学)	【授業コード】	4-22-0000-1	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	h.yanagisawa@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) メール問い合わせにて随時対応
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
障がい等の理由により合理的な配慮が必要な場合は事前に相談してください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
フィードバック方法：レポートや課題は他に支障のない限り返却します。 生成AIの使用は禁止します。				
【講義概要】				
(目的)				
リハビリテーション医療の組織体において、部門の管理・運営（マネジメント）が円滑に実施されることの必要性について認識し、そのために必要な知識、技術等について学修することを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-3				
(方法)				
資料配付により講義、演習を交えて行う。この授業はアクティブラーニングを用います。 第1回～10回は個人が所有するノートPCやタブレット端末を持参して受講する双方向型授業です。				
【一般教育目標(GI0)】				
より質の高い作業・理学療法療法を提供するため、保健、医療、福祉、に関する制度、組織運営のためのマネジメントについて理解することができる。				
【行動目標(SB0)】				
・療法士にとって必要なマネージメントについて説明することができる。				
【教科書・リザーブドブック】				
なし				
【参考書】				
なし				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
・成績評価基準は本学学則規定のGAP制度に従う。 ・成績評価は、レポートと・授業中の演習課題により総合的に評価する。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				60				40	100
評価指標	取り込む力・知識			30				20	50
	思考・推論・創造の力			30					30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1、2	総論 (柳澤)	講義、演習 (柳澤)	配布資料に関して復習を行う。	30
3、4	組織運営とマネジメント (柳澤)	講義、演習 (柳澤)	配布資料に関して復習を行う。	30
5、6	情報のマネジメント (柳澤)	講義、演習 (柳澤)	配布資料に関して復習を行う。	30
7、8	業務のマネジメント (柳澤)	講義、演習 (柳澤)	配布資料に関して復習を行う。	30
9、10	教育管理とキャリア開発 (柳澤)	講義、演習 (柳澤)	配布資料に関して復習を行う。	30
11、12	診療・介護報酬と収益構造 (高橋)	講義、演習 (高橋)	配布資料に関して復習を行う。	30
13、14	安全管理学 (1) (高橋)	講義、演習 (高橋)	配布資料に関して復習を行う。	30
15	安全管理学 (2) (高橋)	講義 (高橋)	配布資料に関して復習を行う。	30

【科目名】		職業倫理	【担当教員】	高橋 明美、柳澤 博
【授業区分】	専門分野(作業療法管理学)	【授業コード】	4-22-0005-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	yanagisawa@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ (45分)	(オフィスアワー) 月-木,13:00～13:20
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 1、2、3年次の作業療法専門科目を履修していること。 この科目は、実務経験者対応科目である。 障害等があつて配慮が必要な学生は事前に相談することを推奨します。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・遅刻は授業開始後10分まで、早退は終了10分前までそれ以上の遅刻、早退はすべて欠席扱いとなります。 ・生成AI 使用ルール：提出課題、発表用資料での直接的な使用（生成AIの文章等の複写等）は禁止します。アイデアを得るための使用は認めます。生成Aiから得た情報は必ず、文献、書籍等他の資料で確認してください。				
【講義概要】 (目的) 医療技術が進歩し、価値観の多様化が進行する社会の中で、改めて個人の人権の尊重とは何か、人として守るべき秩序とは何かを学ぶ。医療従事者として、作業療法士として社会的な役割や責任を果たすために職業人としての行動を律する基準、規範を理解し、作業療法教育に必要な能力を培うとともに、職業倫理を高める態度を養う。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,0-1 (方法) 配布資料、参考書を用いての講義及びグループワークを交えて行う。 この授業はアクティブラーニングを用います。				
【一般教育目標(GI0)】 作業療法士に必要な職業倫理の基本について学ぶ。 【行動目標(SB0)】 ・医療倫理について理解する ・作業療法士として必要な職業倫理について理解する ・研究倫理について理解する				
【教科書・リザーブドブック】 特になし、適宜資料を配付します。				
【参考書】 ・大庭潤平（編）「作業療法管理学入門 第2版」、医歯薬出版株式会社、2021 ・砂屋敷忠他（編）「改訂増補版 医療・保健専門職の倫理テキスト」医療科学社、2012 ・宮坂道夫「医療倫理学の方法 第3版」医学書院、2016				
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、レポートとその他（演習への取り組む姿勢など）により総合的に評価する。 出席点は評価には含みません。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			50	30	10			10	100
評価指標	取り込む力・知識		30	10					40
	思考・推論・創造の力		20	20					40
	コラボレーションとリーダーシップ				5				5
	発表力				5				5
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習・教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	オリエンテーション(講義概要・方法・スケジュール) 総論：倫理とは何か①(職業倫理、OT, Dr, Nrs各職種の法から見た業務・罰則、国試過去問小テスト)	講義・演習・小テスト (柳澤博)	オリエンテーションで提示	30分
3,4	倫理とは何か②(倫理的課題、倫理的ディレンマ、倫理理論、医療倫理の4原則、国試過去問小テスト)	講義・演習・小テスト (柳澤博)	復習	30分
5,6	生命の倫理・人権の倫理①(ヒポクラテスの誓い、生命倫理：出生)	講義・演習 (柳澤博)	復習	30分
7,8	生命の倫理・人権の倫理②(生命倫理：終末期医療、臓器移植、安楽死と尊厳死、救急医療・災害医療)	講義・演習 (柳澤博)	復習	30分
9,10	研究の倫理、インフォームド・コンセント、個人情報保護	演習 (高橋明美)	復習	30分
11,12	コンフリクトマネジメント、情報保護	演習 (高橋明美)	復習	30分
13,14	ハラスメント	演習 (高橋明美)	復習	30分
15	事例検討	演習 (高橋明美)	復習	30分

リハビリテーション学科

【科目名】総合臨床実習Ⅰ		【担当教員】長谷川 裕
【授業区分】専門分野(臨床実習)	【授業コード】4-26-0015-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com (長谷川 裕)
【単位数】8	【コマ数】360	(オフィスアワー) 月曜～木曜、13:00～13:20
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) この科目の履修は、臨床実習における規程によります。 実習の手引きを熟読しておくこと。事前に実習施設に関わる情報を収集し、必要な資料等を準備しておくこと。 「この科目の履修条件は臨床実習規定第3条 (1) に準ずる者のみとする」 この科目は、実務経験者対応科目である。 障害等があって配慮が必要な学生は事前に相談することを推奨します。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 実習施設へ行く前に、身だしなみを整えること。不適切な身だしなみと判断された学生については実習を認めないことがある。 総合臨床実習終了後は、学内にて症例発表を行うため、症例報告要約の準備を行うこと。 実習中に事故・事件その他の問題が起きた場合は、直ぐに実習先のスタッフ及び本学へ連絡すること。 生成AI 使用ルール：提出課題、発表用資料での直接的な使用（生成AIの文章等の複写等）は禁止します。アイデアを得るための使用は認めます。生成AIから得た情報は必ず、文献、書籍等他の資料で確認してください。		
【講義概要】 (目的) 総合臨床実習Ⅰは、学生毎に1施設に赴き、臨床実習指導者の指導・監督、専任教員の指導のもとに、作業療法対象者の全体像を把握、作業療法計画、治療・指導・援助などを通して、作業療法士（以下、OT）としての知識と技術・技能および態度を身に付け、保健・医療・福祉にかかわる専門職としての認識を高める。 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2,3. 0-1,2,3 (方法) 7週間、学外の施設に赴き、臨床実習指導者のもとで実習を行う。学外実習の前後併せて1週間を学内実習期間とする。学内実習では、実習前後の試験の実施（実技、基礎知識の確認）、実習振り返りのグループワーク、症例報告報告用資料作成、症例発表および多職種連携教育を行う。 この授業はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GI0)】 作業療法士として対象者の障害に応じた評価と治療について修得する。 作業療法士に必要な問題解決能力を身につける。 作業療法士としての業務について把握し、専門職としての態度や行動を身につける。		
【行動目標(SB0)】 障害に応じて適切な評価を実施し、問題点の把握を行う。問題点に対して、治療を立案し実施する。 実施した結果について、効果判定を行う。 作業療法士に必要な業務を把握し遂行する。 感染対策、事故防止を実践する。 作業療法士の社会的役割を認識する。		
【教科書・リザーブドブック】 総合臨床実習Ⅰ・Ⅱの手引き（配付）		
【参考書】 編集・濱口豊太、作業療法臨床実習とケーススタディ（第3版）、医学書院、2020年、¥4,200（税別） 編集・齋藤佑樹、作業で語る事例報告（第2版）、医学書院、2022年、¥3,800（税別）		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含まない。 総合臨床実習Ⅰの学外実習中の評価、レポート課題、実習後の試験、実習の成果発表、多職種連携教育参加時の様子から総合的に評価を行う。 評価基準の詳細な内容は「実習の手引き」に記載する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		20		20	20	20		20	100
評価指標	取り込む力・知識	15		5		5		5	30
	思考・推論・創造の力	5		10	5			5	25
	コラボレーションとリーダーシップ				5				5
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢			5		15		10	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1,2	学内実習 オリエンテーション（学内総合臨床実習の目的、注意事項、提出課題確認、事故防止、感染予防、書類作成など）	講義	作業療法評価についての知識、技術の整理・まとめ	60
3-21	学内実習 OSCE（実技、筆記）多職種連携教育他	講義・演習	作業療法評価についての知識、技術の整理・まとめ	60
学外1週目	学外実習 （医療施設、老人保健施設等） 施設見学、作業療法臨床見学、症例紹介、情報収集、作業療法評価実施、記録・報告	実習	行動記録、実習記録の作成 ケースノートの作成 等	60
学外2週目	学外実習 （医療施設、老人保健施設等） 作業療法臨床見学、情報収集、作業療法評価の実施と修正、記録・報告	実習	行動記録、実習記録の作成 ケースノートの作成 等	60
学外3週目	学外実習 （医療施設、老人保健施設等） 作業療法臨床見学、情報収集、作業療法評価の実施と修正、治療プログラム作成、記録・報告	実習	行動記録、実習記録の作成 ケースノートの作成 等	60
学外4週目	学外実習 （医療施設、老人保健施設等） 作業療法臨床見学、情報収集、作業療法評価の実施と修正、治療プログラム作成、記録・報告	実習	行動記録、実習記録の作成 ケースノートの作成 等	60
学外5週目	学外実習 （医療施設、老人保健施設等） 作業療法臨床見学、治療プログラム作成・実施、記録・報告	実習	行動記録、実習記録の作成 ケースノートの作成 等	60
学外6週目	学外実習 （医療施設、老人保健施設等） 作業療法臨床見学、情報収集、治療プログラム実施、記録・報告	実習	行動記録、実習記録の作成 ケースノートの作成 等	60

[illegible]

【科目名】総合臨床実習Ⅱ		【担当教員】長谷川 裕
【授業区分】専門分野(臨床実習)	【授業コード】4-26-0015-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com (長谷川 裕)
【単位数】8	【コマ数】360	(オフィスアワー) 月曜～木曜、13:00～13:20
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) この科目の履修は、臨床実習における規程によります。 実習の手引きを熟読しておくこと。事前に実習施設に関わる情報を収集し、必要な資料等を準備しておくこと。 「この科目の履修条件は臨床実習規定第3条 (1) に準ずる者のみとする」 この科目は、実務経験者対応科目である。 障害等があって配慮が必要な学生は事前に相談することを推奨します。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 実習施設へ行く前に、身だしなみを整えること。不適切な身だしなみと判断された学生については実習を認めないことがある。 総合臨床実習終了後は、学内にて症例発表を行うため、症例報告要約の準備を行うこと。 実習中に事故・事件その他の問題が起きた場合は、直ぐに実習先のスタッフ及び本学へ連絡すること。 生成AI 使用ルール：提出課題、発表用資料での直接的な使用（生成AIの文章等の複写等）は禁止します。アイデアを得るための使用は認めます。生成AIから得た情報は必ず、文献、書籍等他の資料で確認してください。		
【講義概要】 (目的) 総合臨床実習Ⅱは、学生毎に1施設に赴き、臨床実習指導者の指導・監督、専任教員の指導のもとに、作業療法対象者の全体像を把握、作業療法計画、治療・指導・援助などを通して、作業療法士（以下、OT）としての知識と技術・技能および態度を身に付け、保健・医療・福祉にかかわる専門職としての認識を高める。 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2,3. 0-1,2,3 (方法) 7週間、学外の施設に赴き、臨床実習指導者のもとで実習を行う。学外実習の前後併せて1週間を学内実習期間とする。学内実習では、実習前後の試験の実施（実技、基礎知識の確認）、実習振り返りのグループワーク、症例報告報告用資料作成、症例発表および多職種連携教育を行う。 この授業はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GIO)】 作業療法士として対象者の障害に応じた評価と治療について修得する。 作業療法士に必要な問題解決能力を身につける。 作業療法士としての業務について把握し、専門職としての態度や行動を身につける。		
【行動目標(SB0)】 障害に応じて適切な評価を実施し、問題点の把握を行う。問題点に対して、治療を立案し実施する。 実施した結果について、効果判定を行う。 作業療法士に必要な業務を把握し遂行する。 感染対策、事故防止を実践する。 作業療法士の社会的役割を認識する。		
【教科書・リザーブドブック】 総合臨床実習Ⅰ・Ⅱの手引き（配付）		
【参考書】 編集・濱口豊太、作業療法臨床実習とケーススタディ（第3版）、医学書院、2020年、¥4,200（税別） 編集・齋藤佑樹、作業で語る事例報告（第2版）、医学書院、2022年、¥3,800（税別）		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含まない。 総合臨床実習Ⅱの学外実習中の評価、レポート課題、実習後の試験、実習の成果発表、多職種連携教育参加時の様子から総合的に評価を行う。 評価基準の詳細な内容は「実習の手引き」に記載する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		20		20	20	20		20	100
評価指標	取り込む力・知識	15		5		5		5	30
	思考・推論・創造の力	5		10	5			5	25
	コラボレーションとリーダーシップ				5				5
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢			5		15		10	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1,2	学内実習 オリエンテーション（学内総合臨床実習の目的、注意事項、提出課題確認、事故防止、感染予防、書類作成など）	講義	作業療法評価についての知識、技術の整理・まとめ	60
3-21	学内実習 OSCE（実技、筆記）多職種連携教育他	講義・演習	作業療法評価についての知識、技術の整理・まとめ	60
学外1週目	学外実習 （医療施設、老人保健施設等） 施設見学、作業療法臨床見学、症例紹介、情報収集、作業療法評価実施、記録・報告	実習	行動記録、実習記録の作成 ケースノートの作成 等	60
学外2週目	学外実習 （医療施設、老人保健施設等） 作業療法臨床見学、情報収集、作業療法評価の実施と修正、記録・報告	実習	行動記録、実習記録の作成 ケースノートの作成 等	60
学外3週目	学外実習 （医療施設、老人保健施設等） 作業療法臨床見学、情報収集、作業療法評価の実施と修正、治療プログラム作成、記録・報告	実習	行動記録、実習記録の作成 ケースノートの作成 等	60
学外4週目	学外実習 （医療施設、老人保健施設等） 作業療法臨床見学、情報収集、作業療法評価の実施と修正、治療プログラム作成、記録・報告	実習	行動記録、実習記録の作成 ケースノートの作成 等	60
学外5週目	学外実習 （医療施設、老人保健施設等） 作業療法臨床見学、治療プログラム作成・実施、記録・報告	実習	行動記録、実習記録の作成 ケースノートの作成 等	60
学外6週目	学外実習 （医療施設、老人保健施設等） 作業療法臨床見学、情報収集、治療プログラム実施、記録・報告	実習	行動記録、実習記録の作成 ケースノートの作成 等	60

[illegible]

【科目名】作業療法研究ゼミⅡ		【担当教員】長谷川 裕
【授業区分】専門分野(特論)	【授業コード】4-27-0035-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】通年(前期)	【選択必修】選択	hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15コマ	(オフィスアワー) 月曜日～木曜日 13:00～13:20
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・この科目は作業療法研究法、作業療法研究ゼミⅠを修得していることが履修条件となる。 ・この科目は、医療機関等で作業療法に関する実務経験者対応科目である。 ・障害等があって配慮が必要な学生は事前に相談することを推奨します。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ゼミ指導教員の元で、研究計画書の作成、研究の実施、論文の作成、発表を行うこと。 生成AI 使用ルール：提出課題、発表用資料での直接的な使用（生成AIの文章等の複写等）は禁止します。アイデアを得るための使用は認めます。生成AIから得た情報は必ず、文献、書籍等他の資料で確認してください。詳細は、ゼミ指導教員と確認すること。		
【講義概要】 (目的) 修学期間の大成として、卒業年度に開講する。これまでに修得した演習・実習・学習の中で生じた疑問点や問題点に対して、科学的に検討し、疑問の答えを導くことを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2,3 0-1,2,3 (方法) 専攻の専任教員の指導を受け、研究という形で、学生自身の作業療法に関する疑問を明確にし、疑問を解決する。具体的には、自らが作成した研究計画書に沿って文献検索・調査・実験等を行い、導き出された結果を、要旨作成および学内発表をもって公にする。 この授業はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GI0)】 研究とは何かを理解する。 研究の進め方について修得する。 研究論文概要者の作成について修得する。 得られた結果をまとめ考察することを修得する。 【行動目標(SB0)】 指導教員の元で、研究計画書に基づいて、研究の実施・研究結果の発表を行うことができる。		
【教科書・リザーブドブック】 指導教員から適宜示される。		
【参考書】 指導教員から適宜示される。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含みません。 レポート、成果発表にて評価を行います。 レポートの返却は行いません。フィードバックは必要に応じて行います。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				40	40			20	100
評価指標	取り込む力・知識			20					20
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				30				30
	学修に取り組む姿勢				10			20	30

[illegible]

【科目名】作業療法研究ゼミⅡ		【担当教員】長谷川 裕
【授業区分】専門分野(特論)	【授業コード】4-27-0035-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】通年(後期)	【選択必修】選択	hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15コマ	(オフィスアワー) 月曜日～木曜日 13:00～13:20
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・この科目は作業療法研究法、作業療法研究ゼミⅠを修得していることが履修条件となる。 ・この科目は、医療機関等で作業療法に関する実務経験者対応科目である。 ・障害等があって配慮が必要な学生は事前に相談することを推奨します。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ゼミ指導教員の元で、研究計画書の作成、研究の実施、論文の作成、発表を行うこと。 生成AI 使用ルール：提出課題、発表用資料での直接的な使用（生成AIの文章等の複写等）は禁止します。アイデアを得るための使用は認めます。生成AIから得た情報は必ず、文献、書籍等他の資料で確認してください。詳細は、ゼミ指導教員と確認すること。		
【講義概要】 (目的) 修学期間の大成として、卒業年度に開講する。これまでに修得した演習・実習・学習の中で生じた疑問点や問題点に対して、科学的に検討し、疑問の答えを導くことを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2,3 0-1,2,3 (方法) 専攻の専任教員の指導を受け、研究という形で、学生自身の作業療法に関する疑問を明確にし、疑問を解決する。具体的には、自らが作成した研究計画書に沿って文献検索・調査・実験等を行い、導き出された結果を、要旨作成および学内発表をもって公にする。 この授業はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GI0)】 研究とは何かを理解する。 研究の進め方について修得する。 研究論文概要者の作成について修得する。 得られた結果をまとめ考察することを修得する。 【行動目標(SB0)】 指導教員の元で、研究計画書に基づいて、研究の実施・研究結果の発表を行うことができる。		
【教科書・リザーブドブック】 指導教員から適宜示される。		
【参考書】 指導教員から適宜示される。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含みません。 レポート、成果発表にて評価を行います。 レポートの返却は行いません。フィードバックは必要に応じて行います。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				40	40			20	100
評価指標	取り込む力・知識			20					20
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				30				30
	学修に取り組む姿勢				10			20	30

[illegible]

【科目名】作業療法総合演習Ⅱ		【担当教員】丁子 雄希、長谷川 裕
【授業区分】専門分野(特論)	【授業コード】4-27-0045-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】通年(前期)	【選択必修】必修	tyouji@nur.ac.jp (丁子先生)、hasegawa.y@nur.ac.jp (長谷川)
【単位数】1	【コマ数】30コマ (45分)	(オフィスアワー) 月～木 13:00-13:20
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 3年次後期までの専門必修科目をすべて履修しておくこと。 この科目は、臨床経験10年以上であり、臨床実習指導経験のある作業療法士が担当します。 学内模試および業者模試はやむを得ない事情を除き、必ず出席すること。 予習・復習をおこなうこと。必要に応じて、学習状況の確認をおこない、個別指導を実施します。 障害等があって配慮が必要な学生は事前に相談することを推奨します。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 学内模試および業者模試は必ず受験すること。 業者模試等の費用は、授業料とは別に徴収します。		
【講義概要】 (目的) 1～4年次で履修した主要な教養科目、基礎専門科目、専門科目の復習を行い知識を定着させるとともに、専門職業人としての態度、基本的臨床実践能力を身につける。 当該科目と学位授与方針等との関連性：0-1,2 (方法) 作業療法を実施するにあたって必要な作業療法の知識を領域別に総合的に学ぶ。また、地域・在宅生活に必要な関連法規を学ぶ。 この授業はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GI0)】 作業療法士国家試験に必要な知識を再学習する。 【行動目標(SB0)】 作業療法士として必要な知識を身につけ、臨床実践に応用できる。		
【教科書・リザーブドブック】 「クエスチョン・バンク 理学療法士・作業療法士 国家試験問題解説2024 共通問題」メディックメディア 「クエスチョン・バンク 作業療法士 国家試験問題解説2024 専門問題」メディックメディア		
【参考書】 「クエスチョン・バンク 理学療法士・作業療法士 国家試験問題解説2025 共通問題」メディックメディア 「クエスチョン・バンク 作業療法士 国家試験問題解説2025 専門問題」メディックメディア		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。 出席点は評価に含みません。 試験と小テストの結果を総合して成績評価を行う。 単位の修得には6割以上が必要である。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80	20						100
評価指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	40							40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	オリエンテーション①	講義	国家試験までのスケジュールを確認し、具体的な学習計画を立案する。	45
3,4	オリエンテーション②	講義	国家試験までのスケジュールを確認し、具体的な学習計画を立案する。	45
5-28	自己学習・グループワーク・確認テスト・学内模試・業者模試等	自己学習 グループワーク 模試	自分を知り、自分の弱点を克服するように努めること。	各45
29,30	国家試験説明	講義	必要な手続きについて準備・確認をおこなうこと	45

リハビリテーション学科

【科目名】作業療法総合演習Ⅱ		【担当教員】丁子 雄希、長谷川 裕
【授業区分】専門分野(特論)	【授業コード】4-27-0045-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】通年(後期)	【選択必修】必修	tyouji@nur.ac.jp (丁子先生)、hasegawa.y@nur.ac.jp (長谷川)
【単位数】1	【コマ数】30コマ (45分)	(オフィスアワー) 月～木 13:00-13:20
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 3年次後期までの専門必修科目をすべて履修しておくこと。 この科目は、臨床経験10年以上であり、臨床実習指導経験のある作業療法士が担当します。 学内模試および業者模試はやむを得ない事情を除き、必ず出席すること。 予習・復習をおこなうこと。必要に応じて、学習状況の確認をおこない、個別指導を実施します。 障害等があって配慮が必要な学生は事前に相談することを推奨します。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 学内模試および業者模試は必ず受験すること。 業者模試等の費用は、授業料とは別に徴収します。		
【講義概要】 (目的) 1～4年次で履修した主要な教養科目、基礎専門科目、専門科目の復習を行い知識を定着させるとともに、専門職業人としての態度、基本的臨床実践能力を身につける。 当該科目と学位授与方針等との関連性：0-1,2 (方法) 作業療法を実施するにあたって必要な作業療法の知識を領域別に総合的に学ぶ。また、地域・在宅生活に必要な関連法規を学ぶ。 この授業はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GI0)】 作業療法士国家試験に必要な知識を再学習する。 【行動目標(SB0)】 作業療法士として必要な知識を身につけ、臨床実践に応用できる。		
【教科書・リザーブドブック】 「クエスチョン・バンク 理学療法士・作業療法士 国家試験問題解説2024 共通問題」メディックメディア 「クエスチョン・バンク 作業療法士 国家試験問題解説2024 専門問題」メディックメディア		
【参考書】 「クエスチョン・バンク 理学療法士・作業療法士 国家試験問題解説2025 共通問題」メディックメディア 「クエスチョン・バンク 作業療法士 国家試験問題解説2025 専門問題」メディックメディア		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。 出席点は評価に含みません。 試験と小テストの結果を総合して成績評価を行う。 単位の修得には6割以上が必要である。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80	20						100
評価指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	40							40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	オリエンテーション①	講義	国家試験までのスケジュールを確認し、具体的な学習計画を立案する。	45
3,4	オリエンテーション②	講義	国家試験までのスケジュールを確認し、具体的な学習計画を立案する。	45
5-28	自己学習・グループワーク・確認テスト・学内模試・業者模試等	自己学習 グループワーク 模試	自分を知り、自分の弱点を克服するように努めること。	各45
29,30	国家試験説明	講義	必要な手続きについて準備・確認をおこなうこと	45